
2019年度

シラバス

英語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

◆シラバスをよく読んで計画的な履修登録をしてください◆

【シラバスの見方】

1. 英語学科授業科目について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部 養：国際教養学部 経：経済学部 法：法学部
独：ドイツ語学科 濟：経済学科 律：法律学科
英：英語学科 営：経営学科 国：国際関係法学科
仏：フランス語学科 環：国際環境経済学科 総：総合政策学科
交：交流文化学科 免：2013年度以降入学の教職課程登録者
全：英語学科以外の全学部学科

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤到達目標

⑥事前・事後学修の内容

⑦授業で使用するテキスト

⑧参考文献

⑨評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③		④
春学期		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト	⑦	
参考文献	⑧	
評価方法	⑨	

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③		④
秋学期		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト	⑦	
参考文献	⑧	
評価方法	⑨	

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

科目の中には定員制のものがあります。詳細は「授業時間割表」を参照してください。

③履修登録

オンライン登録、事前抽選、学期ごとに1回目の授業で選考または抽選を行う科目もあるので

必ずシラバス本文および「授業時間割表」で確認してください。

目 次

2013～2018 年度入学者開設科目一覧表

学科基礎科目(再履修科目を含む).....	2
学科共通科目.....	6
学科専門科目 (16 年度以降)	11
学科専門科目 (15 年度以前)	13
交流文化論開設科目一覧表.....	15
外国語学部共通科目開設一覧表.....	16
担当者別シラバス.....	17

【参考資料】(英語レベル表)

2013 年度以降入学者				
レベル	TOEIC®	TOEFL®		実用英語技能 検定
		PBT	iBT	
上級	800 点以上	520 点以上	68 点以上	準 1 級
中級	600 点以上	480 点以上	54 点以上	

履修条件で一定の英語レベルを必要とする科目は、学内で実施した TOEIC®LISTENING AND READING TEST のスコアが履修条件を満たしていれば登録可能です。

学内で実施した TOEIC® LISTENING AND READING TEST 以外のスコアを利用する場合は、既修条件を満たしていることを証明するコピーを教務課外国語学部係に提出してください。

英語学科 授業科目(2013～2019年度入学者用)

学科基礎科目

13～19年度入学者用

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ	
国際関係入門	水本 義彦	春	火5	2	1	全	17	
国際関係入門	金子 芳樹	秋	水2	2	1	全	18	
国際関係入門	水本 義彦	秋	水2	2	1	全	19	
16 年度 以降	メディア・コミュニケーション入門	佐々木 輝美	春	月4	2	1	全	20
	メディア・コミュニケーション入門	板場 良久	春	水2	2	1	全	21
	メディア・コミュニケーション入門	佐々木 輝美	秋	月4	2	1	全	22
	メディア・コミュニケーション入門	板場 良久	秋	水2	2	1	全	23
15 年度 以前	文化コミュニケーション入門	佐々木 輝美	春	月4	2	1	全	20
	文化コミュニケーション入門	板場 良久	春	水2	2	1	全	21
	文化コミュニケーション入門	佐々木 輝美	秋	月4	2	1	全	22
	文化コミュニケーション入門	板場 良久	秋	水2	2	1	全	23
16 年度 以降	英語圏の文学・文化入門	片山 亜紀	春	火2	2	1	全	24
	英語圏の文学・文化入門	上野 直子	春	木4	2	1	全	25
	英語圏の文学・文化入門	上野 直子	秋	木4	2	1	全	26
15 年度 以前	英語圏の文学文化入門	片山 亜紀	春	火2	2	1	全	24
	英語圏の文学文化入門	上野 直子	春	木4	2	1	全	25
	英語圏の文学文化入門	上野 直子	秋	木4	2	1	全	26
英語学入門	安井 美代子	春	木1	2	1	全	27	
英語学入門	小早川 暁	秋	火3	2	1	全	28	
英語学入門	安井 美代子	秋	木1	2	1	全	29	
Lecture Workshop I	各担当教員	春		2	1	全	30	
Lecture Workshop II	各担当教員	秋		2	1	全	30	
Comprehensive English I	D. M. ヴァンヴィーレン	春	火2/木5	2	1	全	31	
Comprehensive English II	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	火2/木5	2	1	全	31	
Comprehensive English I	D. ベイカー	春	火1/木4	2	1	全	32	
Comprehensive English II	D. ベイカー	秋	火1/木4	2	1	全	32	
Comprehensive English I	A. マグズ	春	月2/金3	2	1	全	33	
Comprehensive English II	A. マグズ	秋	月2/金3	2	1	全	33	
Comprehensive English I	J. スネール	春	火2/木1	2	1	全	34	
Comprehensive English II	J. スネール	秋	火2/木1	2	1	全	34	
Comprehensive English I	C. 芦沢	春	水4/金3	2	1	全	35	
Comprehensive English II	C. 芦沢	秋	水4/金3	2	1	全	35	
Comprehensive English I	A. ジョーンズ	春	月4/木5	2	1	全	36	
Comprehensive English II	A. ジョーンズ	秋	月4/木5	2	1	全	36	
Comprehensive English I	K. フォード	春	月2/金3	2	1	全	37	
Comprehensive English II	K. フォード	秋	月2/金3	2	1	全	37	
Comprehensive English I	D. M. ヴァンヴィーレン	春	月4/水3	2	1	全	38	
Comprehensive English II	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	月4/水3	2	1	全	38	
Comprehensive English I	C. 芦沢	春	月4/水3	2	1	全	39	
Comprehensive English II	C. 芦沢	秋	月4/水3	2	1	全	39	
Comprehensive English I	N. A. カナロス	春	火1/木1	2	1	全	40	
Comprehensive English II	N. A. カナロス	秋	火1/木1	2	1	全	40	
Comprehensive English I	D. ベイカー	春	火2/木5	2	1	全	41	
Comprehensive English II	D. ベイカー	秋	火2/木5	2	1	全	41	
Comprehensive English I	A. ジョーンズ	春	月3/木4	2	1	全	42	
Comprehensive English II	A. ジョーンズ	秋	月3/木4	2	1	全	42	
Comprehensive English I 再履修	M. L. ボイル	秋	水5/金1	2	1	全	43	
Comprehensive English II 再履修	M. L. ボイル	春	水5/金1	2	1	全	43	

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

学科基礎科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
Comprehensive English III	E. ホフ	春	金1	1	2	全	44
Comprehensive English IV	E. ホフ	秋	金1	1	2	全	44
Comprehensive English III	J. ハント	春	木5	1	2	全	45
Comprehensive English IV	J. ハント	秋	木5	1	2	全	45
Comprehensive English III	D. グライムズ	春	月3	1	2	全	46
Comprehensive English IV	D. グライムズ	秋	月3	1	2	全	46
Comprehensive English III	A. マグズ	春	月4	1	2	全	47
Comprehensive English IV	A. マグズ	秋	月4	1	2	全	47
Comprehensive English III	R. ジョーンズ	春	水3	1	2	全	48
Comprehensive English IV	R. ジョーンズ	秋	水3	1	2	全	48
Comprehensive English III	E. フランコ	春	水1	1	2	全	49
Comprehensive English IV	E. フランコ	秋	水1	1	2	全	49
Comprehensive English III	R. ウィルコックス	春	火4	1	2	全	50
Comprehensive English IV	R. ウィルコックス	秋	火4	1	2	全	50
Comprehensive English III	D. グライムズ	春	月4	1	2	全	51
Comprehensive English IV	D. グライムズ	秋	月4	1	2	全	51
Comprehensive English III	R. ジョーンズ	春	水1	1	2	全	52
Comprehensive English IV	R. ジョーンズ	秋	水1	1	2	全	52
Comprehensive English III	P. マッケビリー	春	月4	1	2	全	53
Comprehensive English IV	P. マッケビリー	秋	月4	1	2	全	53
Comprehensive English III	B. D. タッチャー	春	火4	1	2	全	54
Comprehensive English IV	B. D. タッチャー	秋	火4	1	2	全	54
Comprehensive English III	R. ダラム	春	木1	1	2	全	55
Comprehensive English IV	R. ダラム	秋	木1	1	2	全	55
Reading Strategies I	J. N. ウェンデル	春	水1	1	1	全	56
Reading Strategies II	J. N. ウェンデル	秋	水1	1	1	全	56
Reading Strategies I	A. ゴーリンジャー	春	水1	1	1	全	57
Reading Strategies II	A. ゴーリンジャー	秋	水1	1	1	全	57
Reading Strategies I	上野 直子	春	水1	1	1	全	58
Reading Strategies II	上野 直子	秋	水1	1	1	全	58
Reading Strategies I	前沢 浩子	春	水1	1	1	全	59
Reading Strategies II	前沢 浩子	秋	水1	1	1	全	59
Reading Strategies I	青柳 真紀子	春	水1	1	1	全	60
Reading Strategies II	青柳 真紀子	秋	水1	1	1	全	60
Reading Strategies I	工藤 和宏	春	水1	1	1	全	61
Reading Strategies II	工藤 和宏	秋	水1	1	1	全	61
Reading Strategies I	佐野 康子	春	水1	1	1	全	62
Reading Strategies II	佐野 康子	秋	水1	1	1	全	62
Reading Strategies I	片山 亜紀	春	水1	1	1	全	63
Reading Strategies II	片山 亜紀	秋	水1	1	1	全	63
Reading Strategies I	船越 健志	春	水1	1	1	全	64
Reading Strategies II	船越 健志	秋	水1	1	1	全	64
Reading Strategies I	佐藤 唯行	春	水1	1	1	全	65
Reading Strategies II	佐藤 唯行	秋	水1	1	1	全	65
Reading Strategies I	水本 義彦	春	水1	1	1	全	66
Reading Strategies II	水本 義彦	秋	水1	1	1	全	66
Reading Strategies I	浅岡 千利世	春	水1	1	1	全	67
Reading Strategies II	浅岡 千利世	秋	水1	1	1	全	67
Reading Strategies I 再履修	河原 宏之	春	土1	1	1	全	68
Reading Strategies I 再履修	河原 宏之	秋	土2	1	1	全	69
Reading Strategies II 再履修	河原 宏之	春	土2	1	1	全	69
Reading Strategies II 再履修	河原 宏之	秋	土1	1	1	全	68

学科基礎科目

13～19年度入学者用

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
Reading Strategies III	J. J. ダゲン	春	水1	1	2	全	70
Reading Strategies IV	J. J. ダゲン	秋	水1	1	2	全	70
Reading Strategies III	E. 本橋	春	水1	1	2	全	71
Reading Strategies IV	E. 本橋	秋	水1	1	2	全	71
Reading Strategies III	J. J. ダゲン	春	水2	1	2	全	72
Reading Strategies IV	J. J. ダゲン	秋	水2	1	2	全	72
Reading Strategies III	D. M. ヴァンヴィーレン	春	水2	1	2	全	73
Reading Strategies IV	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	水2	1	2	全	73
Reading Strategies III	D. M. ヴァンヴィーレン	春	水4	1	2	全	74
Reading Strategies IV	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	水4	1	2	全	74
Reading Strategies III	C. 芦沢	春	火4	1	2	全	75
Reading Strategies IV	C. 芦沢	秋	火4	1	2	全	75
Reading Strategies III	工藤 和宏	春	水2	1	2	全	76
Reading Strategies IV	工藤 和宏	秋	水2	1	2	全	76
Reading Strategies III	J. N. ウェンデル	春	月3	1	2	全	77
Reading Strategies IV	J. N. ウェンデル	秋	月3	1	2	全	77
Reading Strategies III	小早川 暁	春	水2	1	2	全	78
Reading Strategies IV	小早川 暁	秋	水2	1	2	全	78
Reading Strategies III	板場 良久	春	水1	1	2	全	79
Reading Strategies IV	板場 良久	秋	水1	1	2	全	79
Reading Strategies III	杉山 晴信	春	水2	1	2	全	80
Reading Strategies IV	杉山 晴信	秋	水2	1	2	全	80
Reading Strategies III	佐野 康子	春	水2	1	2	全	81
Reading Strategies IV	佐野 康子	秋	水2	1	2	全	81
Writing Skills I	J. スネール	春	火1	1	1	全	82
Writing Skills II	J. スネール	秋	火1	1	1	全	82
Writing Skills I	J. E. マジャー	春	月4	1	1	全	83
Writing Skills II	J. E. マジャー	秋	月4	1	1	全	83
Writing Skills I	S. ペイン	春	木1	1	1	全	84
Writing Skills II	S. ペイン	秋	木1	1	1	全	84
Writing Skills I	J. スネール	春	火3	1	1	全	85
Writing Skills II	J. スネール	秋	火3	1	1	全	85
Writing Skills I	D. マッキー	春	水3	1	1	全	86
Writing Skills II	D. マッキー	秋	水3	1	1	全	86
Writing Skills I	三吉 美加	春	月2	1	1	全	87
Writing Skills II	三吉 美加	秋	月2	1	1	全	87
Writing Skills I	K. ミーハン	春	月2	1	1	全	88
Writing Skills II	K. ミーハン	秋	月2	1	1	全	88
Writing Skills I	D. マッキー	春	木4	1	1	全	89
Writing Skills II	D. マッキー	秋	木4	1	1	全	89
Writing Skills I	E. ホフ	春	金2	1	1	全	90
Writing Skills II	E. ホフ	秋	金2	1	1	全	90
Writing Skills I	K. エラ	春	火2	1	1	全	91
Writing Skills II	K. エラ	秋	火2	1	1	全	91
Writing Skills I	D. マッキー	春	水4	1	1	全	92
Writing Skills II	D. マッキー	秋	水4	1	1	全	92
Writing Skills I	L. K. ハーキンス	春	金2	1	1	全	93
Writing Skills II	L. K. ハーキンス	秋	金2	1	1	全	93
Writing Skills I	J. E. マジャー	春	火2	1	1	全	94
Writing Skills II	J. E. マジャー	秋	火2	1	1	全	94
Writing Skills I	J. E. マジャー	春	月3	1	1	全	95
Writing Skills II	J. E. マジャー	秋	月3	1	1	全	95

学科基礎科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
Writing Skills I	金谷 優子	春	火2	1	1	全	96
Writing Skills II	金谷 優子	秋	火2	1	1	全	96
Writing Skills I	A. マグズ	春	月3	1	1	全	97
Writing Skills II	A. マグズ	秋	月3	1	1	全	97
Writing Skills I	山中 章子	春	水3	1	1	全	98
Writing Skills II	山中 章子	秋	水3	1	1	全	98
Writing Skills I	金谷 優子	春	火3	1	1	全	99
Writing Skills II	金谷 優子	秋	火3	1	1	全	99
Writing Skills III	E. J. ナオウミ	春	木1	1	2	全	100
Writing Skills IV	E. J. ナオウミ	秋	木1	1	2	全	100
Writing Skills III	K. エラ	春	木4	1	2	全	101
Writing Skills IV	K. エラ	秋	木4	1	2	全	101
Writing Skills III	K. エラ	春	火4	1	2	全	102
Writing Skills IV	K. エラ	秋	火4	1	2	全	102
Writing Skills III	N. A. カナロス	春	水1	1	2	全	103
Writing Skills IV	N. A. カナロス	秋	水1	1	2	全	103
Writing Skills III	M. L. ボイル	春	水4	1	2	全	104
Writing Skills IV	M. L. ボイル	秋	水4	1	2	全	104
Writing Skills III	M. L. ボイル	春	水3	1	2	全	105
Writing Skills IV	M. L. ボイル	秋	水3	1	2	全	105
Writing Skills III	J. ハント	春	木4	1	2	全	106
Writing Skills IV	J. ハント	秋	木4	1	2	全	106
Writing Skills III	N. A. カナロス	春	水2	1	2	全	107
Writing Skills IV	N. A. カナロス	秋	水2	1	2	全	107
Writing Skills III	T. ダニー	春	木4	1	2	全	108
Writing Skills IV	T. ダニー	秋	木4	1	2	全	108
Writing Skills III	K. ミーハン	春	月4	1	2	全	109
Writing Skills IV	K. ミーハン	秋	月4	1	2	全	109
Writing Skills III	B. D. タッチャー	春	木4	1	2	全	110
Writing Skills IV	B. D. タッチャー	秋	木4	1	2	全	110
Writing Skills III	E. フランコ	春	水2	1	2	全	111
Writing Skills IV	E. フランコ	秋	水2	1	2	全	111
Writing Skills III	P. マッケビリー	春	月3	1	2	全	112
Writing Skills IV	P. マッケビリー	秋	月3	1	2	全	112
Writing Skills III	T. ダニー	春	木1	1	2	全	113
Writing Skills IV	T. ダニー	秋	木1	1	2	全	113
Writing Skills III	R. ジョーンズ	春	水2	1	2	全	114
Writing Skills IV	R. ジョーンズ	秋	水2	1	2	全	114
Writing Skills III	A. G. ミルン	春	水5	1	2	全	115
Writing Skills IV	A. G. ミルン	秋	水5	1	2	全	115
Writing Skills III	A. G. ミルン	春	水4	1	2	全	116
Writing Skills IV	A. G. ミルン	秋	水4	1	2	全	116
Writing Skills III	山中 章子	春	水4	1	2	全	117
Writing Skills IV	山中 章子	秋	水4	1	2	全	117
E-learning I (1年1組～2組)	船越 健志	春	金3	1	1	全	118
E-learning II (1年1組～2組)	船越 健志	秋	金3	1	1	全	118
E-learning I (1年3組～8組)	羽山 恵	春	火1	1	1	全	119
E-learning II (1年3組～8組)	羽山 恵	秋	火1	1	1	全	119
E-learning I (1年9組～12組)	安井 美代子	春	金2	1	1	全	120
E-learning II (1年9組～12組)	安井 美代子	秋	金2	1	1	全	120

学科共通科目「英語専門講読 I・II」

科目名(副題)	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語専門講読 I・II (Cool Japan: 1900-1960/Cool Japan: 1960-2016)	J. E. マジャーラ	春秋	月2	2	2	全	121
英語専門講読 I・II (Videogames in Contemporary Society/Videogames and Interactive Media in Social Science)	J. D. コーリス	春秋	月2	2	2	全	122
英語専門講読 I・II (変形生成文法理論研究の50年/生成文法理論・標準 理論以降の研究50年)	鈴木 英一	春秋	月2	2	2	全	123
英語専門講読 I・II (Exploring Language Teaching)	浅岡 千利世	春秋	月3	2	2	全	124
英語専門講読 I・II (アメリカの食文化を読む)	大木 理恵子	春秋	月4	2	2	全	125
英語専門講読 I・II※ (オセアニアの社会と文化)	玉井 昇	春秋	月4	2	2	全	126
英語専門講読 I・II※ (戦後国際政治史)	永野 隆行	春秋	月4	2	2	全	127
英語専門講読 I・II (Children's Classics)	前沢 浩子	春秋	月4	2	2	全	128
英語専門講読 I・II (シンボルを読み解く/表象文化のシンボルを読み解く)	三吉 美加	春秋	月4	2	2	全	129
英語専門講読 I・II (コリアン・ディアスポラを考える)	大木 理恵子	春秋	月5	2	2	全	130
英語専門講読 I・II※ (現代国際関係)	永野 隆行	春秋	月5	2	2	全	131
英語専門講読 I・II (SLA最前線)	羽山 恵	春秋	火2	2	2	全	132
英語専門講読 I・II (History of the English Language)	J. J. ダゲン	春秋	火3	2	2	全	133
英語専門講読 I・II (言語研究のさまざまな知見を巡る)	青柳 真紀子	春秋	火3	2	2	全	134
英語専門講読 I・II (異文化コミュニケーションの基礎/異文化コミュニケーションの理論)	瀬戸 千尋	春秋	火3	2	2	全	135
英語専門講読 I・II (日系アメリカ人の歴史と文化/日系アメリカ人の文化と文学)	高田 宣子	春秋	火3	2	2	全	136
英語専門講読 I・II※ (文法と文脈の関係)	大澤 舞	春秋	火4	2	2	全	137
英語専門講読 I・II (アメリカ文学:John Steinbeckの文学を読む)	金谷 優子	春秋	火4	2	2	全	138
英語専門講読 II (現代東南アジアの政治・経済・社会)	金子 芳樹	秋	火4	2	2	全	139
英語専門講読 I・II※ (Introduction to Fair Trade)	北野 収	春秋	火4	2	2	全	140
英語専門講読 I・II (世界ブランドとグローバル社会)	竹田 いさみ	春秋	火4	2	2	全	141
英語専門講読 I・II (言語の不思議)	船越 健志	春秋	火4	2	2	全	142
英語専門講読 I・II (視覚コミュニケーション論入門)	柿田 秀樹	春秋	火5	2	2	全	143
英語専門講読 I・II※ (International Development Studies)	北野 収	春秋	火5	2	2	全	144
英語専門講読 II (アジア太平洋地域の国際関係・政治経済)	金子 芳樹	秋	水1	2	2	全	145
英語専門講読 I・II (Languages in a Globalizing World)	J. N. ウェンデル	春秋	水2	2	2	全	146
英語専門講読 I・II (ディズニーと世界情勢)	竹田 いさみ	春秋	水2	2	2	全	147
英語専門講読 I・II (アメリカ現代詩)	原 成吉	春秋	水2	2	2	全	148
英語専門講読 I・II (19世紀アメリカの詩)	関根 路代	春秋	水3	2	2	全	149

※2016年度以前入学対象(2017年度以降入学者は履修不可)

学科共通科目「英語専門講読 I・II」

科目名(副題)	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語専門講読 I・II (実践的な英語の聴解・発音教育)	中田 ひとみ	春秋	水4	2	2	全	150
英語専門講読 I・II (英国ユダヤ人史)	佐藤 唯行	春秋	木1	2	2	全	151
英語専門講読 I・II※ (Readings on Japanese Culture I/Readings on Japanese Culture II)	L. G. ボンド	春秋	木2	2	2	全	152
英語専門講読 I・II※ (Diplomacy and International Relations)	伊藤 兵馬	春秋	木2	2	2	全	153
英語専門講読 I・II (国際関係)	佐野 康子	春秋	木2	2	2	全	154
英語専門講読 I・II※ (「グローバル理解教育」、開発教育論)	玉井 昇	春秋	木2	2	2	全	155
英語専門講読 I・II (日英語の疑問文の比較/日英語の使役文の比較)	安井 美代子	春秋	木2	2	2	全	156
英語専門講読 I・II※ (ハリウッド映画の社会学:初期からWW2まで/ ハリウッド映画の社会学:20世紀後半から現在まで)	山口 誠	春秋	木2	2	2	全	157
英語専門講読 I・II (Multicultural Education & Social Justice)	E. 本橋	春秋	木3	2	2	全	158
英語専門講読 I・II※ (ツーリズムの現状と課題/航空の現状と歴史)	井上 泰日子	春秋	木3	2	2	全	159
英語専門講読 I・II (Global Woman)	上野 直子	春秋	木3	2	2	全	160
英語専門講読 I・II (Allen Ginsberg の詩を精読する)	遠藤 朋之	春秋	木3	2	2	全	161
英語専門講読 I・II (動詞の意味と文法)	小早川 暁	春秋	木3	2	2	全	162
英語専門講読 I・II (コミュニケーションに関する諸モデル/ イノベーションの普及コミュニケーション)	佐々木 輝美	春秋	木3	2	2	全	163
英語専門講読 I・II※ (ツーリズム研究の基礎概念)	鈴木 涼太郎	春秋	木3	2	2	全	164
英語専門講読 I・II※ (Deconstructing “Japaneseness”)	須永 和博	春秋	木3	2	2	全	165
英語専門講読 I・II (21世紀のグローバル・イシューズ)	水本 義彦	春秋	木3	2	2	全	166
英語専門講読 I・II※ (世界の移民・難民について考える)	高橋 雄一郎	春秋	木4	2	2	全	167
英語専門講読 I・II (Research interviewing: Intercultural learning ‘at home’)	工藤 和宏	春秋	金1	2	2	全	168
英語専門講読 I・II (Children’s Literatureを研究する/児童文学を研究する)	片山 亜紀	春秋	金2	2	2	全	169
英語専門講読 I・II (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	杉山 晴信	春秋	金2	2	2	全	170
英語専門講読 I・II (現代イギリス小説)	東郷 公德	春秋	金2	2	2	全	171
英語専門講読 I・II (Schooling Around the World)	M. L. ボイル	春秋	金3	2	2	全	172
英語専門講読 I・II (Conflict and Development)	石川 幸子	春秋	金3	2	2	全	173
英語専門講読 I・II (ディズニー映画の文化研究①/ディズニー映画の文化研究②)	板場 良久	春秋	金3	2	2	全	174
英語専門講読 I・II (シェイクスピア)	東郷 公德	春秋	金3	2	2	全	175

※2016年度以前入学者対象(2017年度以降入学者は履修不可)

学科共通科目

13~19年度入学者用

科目名(副題)	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
Advanced Writing(Creative)	B. D. タッチャー	春	火3	2	3	交	176
Advanced Writing(Business)	D. ブラドリー	春	火3	2	3	交	177
Advanced Writing(Business)	D. ブラドリー	秋	火3	2	3	交	177
Advanced Writing(Creative)	E. 本橋	春	水2	2	3	交	178
Advanced Writing(Creative)	J. J. ダゲン	春	木3	2	3	交	179
Advanced Writing(Research)	K. エラ	春	木3	2	3	交	180
Advanced Writing(Research)	K. エラ	秋	木3	2	3	交	180
Advanced Writing(Research)	M. L. ボイル	春	金2	2	3	交	181
Advanced Writing(Research)	M. L. ボイル	秋	金2	2	3	交	181
Advanced Writing(Research)	A. マグズ	春	金4	2	3	交	182
Advanced Writing(Research)	A. マグズ	秋	金4	2	3	交	182
Advanced Writing(Research)	K. フォード	春	金4	2	3	交	183
Advanced Writing(Research)	K. フォード	秋	金4	2	3	交	183
College Grammar	河原 宏之	春	月3	2	2	交	184
College Grammar	河原 宏之	秋	月3	2	2	交	184
College Grammar	鈴木 英一	春	月3	2	2	交	185
College Grammar	鈴木 英一	秋	月3	2	2	交	185
College Grammar	河原 宏之	春	月5	2	2	交	186
College Grammar	河原 宏之	秋	月5	2	2	交	186
College Grammar	倉林 秀男	春	月5	2	2	交	187
College Grammar	倉林 秀男	秋	月5	2	2	交	187
College Grammar	府川 謹也	春	火3	2	2	交	188
College Grammar	府川 謹也	秋	火3	2	2	交	188
College Grammar	水口 学	春	水3	2	2	交	189
College Grammar	水口 学	秋	水3	2	2	交	189
College Grammar	水口 学	春	水4	2	2	交	190
College Grammar	水口 学	秋	水4	2	2	交	190
College Grammar	田川 憲二郎	春	金3	2	2	交	191
College Grammar	田川 憲二郎	秋	金3	2	2	交	191
Communication Skills	K. フォード	春	月1	2	2	交	192
Communication Skills	K. フォード	秋	月1	2	2	交	192
Communication Skills	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	交	193
Communication Skills	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	交	193
Communication Skills	N. ハミルトン	春	月5	2	2	交	194
Communication Skills	N. ハミルトン	秋	月5	2	2	交	194
Communication Skills	R. ダラム	春	火1	2	2	交	195
Communication Skills	R. ダラム	秋	火1	2	2	交	195
Communication Skills	R. J. バロウズ	春	火2	2	2	交	196
Communication Skills	R. J. バロウズ	秋	火2	2	2	交	196
Communication Skills	B. D. タッチャー	秋	火3	2	2	交	197
Communication Skills	R. ウィルコックス	春	火5	2	2	交	198
Communication Skills	R. ウィルコックス	秋	火5	2	2	交	198
Communication Skills	J. スネール	春	木2	2	2	交	199
Communication Skills	J. スネール	秋	木2	2	2	交	199
Communication Skills	R. ダラム	春	木2	2	2	交	200
Communication Skills	R. ダラム	秋	木2	2	2	交	200
Communication Skills	R. ダラム	春	木3	2	2	交	201
Communication Skills	R. ダラム	秋	木3	2	2	交	201
Communication Skills	P. マッケビリー	春	金1	2	2	交	202
Communication Skills	P. マッケビリー	秋	金1	2	2	交	202

学科共通科目

科目名(副題)	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
Discussion	A. ジェネス	秋	月3	2	2	交	203
Discussion	J. E. マジャー	春	火1	2	2	交	204
Discussion	J. E. マジャー	秋	火1	2	2	交	204
Discussion	N. ハミルトン	春	火3	2	2	交	205
Discussion	N. ハミルトン	秋	火3	2	2	交	205
Discussion	E. フランコ	春	木2	2	2	交	206
Discussion	E. フランコ	秋	木2	2	2	交	206
Discussion	S. ペイン	秋	木2	2	2	交	207
Discussion	B. D. タッチャー	春	木3	2	2	交	208
Discussion	B. D. タッチャー	秋	木3	2	2	交	208
Discussion	L. K. ハーキンス	春	金1	2	2	交	209
Discussion	L. K. ハーキンス	秋	金1	2	2	交	209
Discussion	P. マッケビリー	春	金2	2	2	交	210
Discussion	P. マッケビリー	秋	金2	2	2	交	210
Public Speaking I	S. ペイン	春	木2	2	2	交	211
Public Speaking I	D. マッキー	春	水2	2	2	交	212
Public Speaking I	D. マッキー	秋	水2	2	2	交	212
Public Speaking I	J. N. ウェンデル	春	月4	2	2	交	213
Public Speaking II	J. N. ウェンデル	秋	月4	2	2	交	213
Debate I	N. ハミルトン	春	火4	2	2	交	214
Debate II	N. ハミルトン	秋	火4	2	2	交	214
Academic Lecture	A. ゴーリンジャー	春	火4	2	2	交	215
Academic Lecture	A. ゴーリンジャー	秋	火4	2	2	交	215
Academic Lecture	伊藤 兵馬	春	木4	2	2	交	216
Academic Lecture	伊藤 兵馬	秋	木4	2	2	交	216
Listening and Pronunciation	中田 ひとみ	春	水3	2	2	交	217
Listening and Pronunciation	中田 ひとみ	秋	水3	2	2	交	217
Listening and Pronunciation	中田 ひとみ	春	水5	2	2	交	218
Listening and Pronunciation	中田 ひとみ	秋	水5	2	2	交	218
英語の音声	青柳 真紀子	春	火4	2	2	交	219
英語の音声	青柳 真紀子	秋	火4	2	2	交	219
通訳 I	柴原 早苗	春	月3	2	2	交	220
通訳 I	柴原 早苗	秋	月3	2	2	交	220
通訳 I	柴原 早苗	春	水1	2	2	交	221
通訳 I	柴原 早苗	秋	水1	2	2	交	221
通訳 I	柴原 早苗	春	水2	2	2	交	222
通訳 I	柴原 早苗	秋	水2	2	2	交	222
通訳 II	柴原 早苗	春	月4	2	2	交	223
通訳 II	柴原 早苗	秋	月4	2	2	交	223

学科共通科目

13～19年度入学者用

科目名(副題)	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
翻訳	片山 亜紀	秋	火2	2	2	交	224
翻訳	高田 宣子	春	火4	2	2	交	225
翻訳	高田 宣子	秋	火4	2	2	交	225
翻訳	山中 章子	春	水2	2	2	交	226
翻訳	山中 章子	秋	水2	2	2	交	226
翻訳	柴田 耕太郎	春	木3	2	2	交	227
翻訳	柴田 耕太郎	秋	木3	2	2	交	227
翻訳	柴田 耕太郎	春	木4	2	2	交	228
翻訳	柴田 耕太郎	秋	木4	2	2	交	228
翻訳	P. ネルム	春	水4	2	2	交	229
翻訳	P. ネルム	秋	水2	2	2	交	229
翻訳	白川 貴子	春	水3	2	2	交	230
翻訳	白川 貴子	秋	水3	2	2	交	230
英語ビジネス・コミュニケーション	野村 誠二	春	火1	2	2	交・経	231
英語ビジネス・コミュニケーション	野村 誠二	秋	火1	2	2	交・経	231
英語ビジネス・コミュニケーション	野村 誠二	春	火2	2	2	交・経	232
英語ビジネス・コミュニケーション	野村 誠二	秋	火2	2	2	交・経	232
英語ビジネス・コミュニケーション	土川 孝	春	木1	2	2	交・経	233
英語ビジネス・コミュニケーション	土川 孝	秋	木1	2	2	交・経	233
英語ビジネス・コミュニケーション	土川 孝	春	木2	2	2	交・経	234
英語ビジネス・コミュニケーション	土川 孝	秋	木2	2	2	交・経	234
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	春	木3	2	2	交・経	235
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	秋	木3	2	2	交・経	235
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	春	木4	2	2	交・経	236
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	秋	木4	2	2	交・経	236
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山 晴信	春	金1	2	3	交・経	237
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山 晴信	秋	金1	2	3	交・経	237
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	春	月3	2	2	交	238
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	秋	月3	2	2	交	238
メディア英語 I	関根 路代	春	水2	2	2	交	239
メディア英語 I	A. ジェネス	秋	月4	2	2	交	239
メディア英語 I	土川 孝	春	木3	2	2	交	240
メディア英語 I	土川 孝	秋	木3	2	2	交	240
メディア英語 I	P. ネルム	春	金1	2	2	交	241
メディア英語 I	P. ネルム	秋	金1	2	2	交	241
メディア英語 I	P. ネルム	秋	金2	2	2	交	242
メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	春	月1	2	2	交	243
メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	秋	月1	2	2	交	243
メディア英語 II	P. ネルム	春	金2	2	2	交	244
メディア英語 II	関根 路代	秋	水2	2	2	交	244
メディア英語 II	E. ホフ	春	金3	2	2	交	245
シネマ英語	J. D. コーリス	春	月1	2	2	交	246
シネマ英語	J. D. コーリス	秋	月1	2	2	交	246
シネマ英語	A. ジェネス	秋	月2	2	2	交	247
シネマ英語	高田 宣子	春	火2	2	2	交	248
シネマ英語	高田 宣子	秋	火2	2	2	交	248
シネマ英語	T. ダニー	春	木2	2	2	交	249
シネマ英語	T. ダニー	秋	木2	2	2	交	249

学科専門科目(16年度以降)

コース横断科目

科目名	担当者	開講 学期	曜日	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
国際ツーリズム論	鈴木 涼太郎	春	木4	2	2	全	250
国際ツーリズム各論	増田 由香子	秋	水3	2	2	全	250
世界ブランド論	工藤 和宏	秋	水3	2	2	全	251
ポップカルチャー・スタディーズ	大木 理恵子	春	月1	2	2	全	252
フィルム・スタディーズ	大木 理恵子	秋	月1	2	2	全	252
海外留学と国際理解	工藤 和宏	春	火4	2	2	全	253
Global Studies 1	E. ホフ	秋	金3	2	2	全	253
Global Studies 2	工藤 和宏	秋	火4	2	2	全	254
Global Studies 3	J. D. コーリス	秋	月3	2	2	全	254

グローバル社会

科目名	担当者	開講 学期	曜日	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
グローバル社会論a	竹田 いさみ	春	火3	2	2	交	256
グローバル社会論a	竹田 いさみ	秋	火3	2	2	交	256
グローバル社会論b	水本 義彦	春	火3	2	2	交	257
グローバル社会論b	水本 義彦	秋	火3	2	2	交	257
英語圏の国際関係a	永野 隆行	春	月2	2	2	交・法	258
英語圏の国際関係b	永野 隆行	秋	月2	2	2	交・法	258
グローバル・ヒストリーa	水本 義彦	春	木2	2	2	交	259
グローバル・ヒストリーb	水本 義彦	秋	木2	2	2	交	259
国際開発論(世界のエアライン・ホテル)	竹田 いさみ	春	月3	2	2	交	260
国際協力論	金子 芳樹	秋	金3	2	2	交	260
国際交流論	石川 幸子	春	金2	2	2	交	261
国際NGO・ボランティア論	金子 芳樹	秋	火2	2	2	交	261
国際リスク・海洋論(ディズニー映画)	竹田 いさみ	秋	月3	2	2	交	262
国際関係特殊講義a	永野 隆行	春	火1	2	2	交13以降	263
国際関係特殊講義b	佐野 康子	秋	木3	2	2	交13以降	263
国際関係特殊講義b	石川 幸子	秋	金2	2	2	交13以降	264
国際関係文献セミナーa	佐野 康子	春	木3	2	3		265
国際関係文献セミナーa	石川 幸子	春	金4	2	3		266
国際関係文献セミナーb	石川 幸子	秋	金4	2	3		266

メディア・コミュニケーション

科目名	担当者	開講 学期	曜日	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
異文化コミュニケーション論	佐々木 輝美	春	月5	2	2	養	267
異文化コミュニケーション論	佐々木 輝美	秋	月5	2	2	養	267
メディア文化論	板場 良久	春	月5	2	2	養	268
メディア文化論	板場 良久	秋	月5	2	2	養	268
メディア・スタディーズ	佐々木 輝美	秋	木2	2	2		269
イメージ文化論	板場 良久	春	月4	2	2		270
コミュニケーション論	柿田 秀樹	秋	火4	2	2		271
視覚コミュニケーション論	柿田 秀樹	春	火4	2	2		271
マス・コミュニケーション論	佐々木 輝美	春	木2	2	2		269
スピーチ・コミュニケーション論	板場 良久	秋	月4	2	2		270
コミュニケーション論特殊講義a	柿田 秀樹	春	木3	2	2		272
コミュニケーション論特殊講義a	松本 健太郎	春	金3	2	2		273
コミュニケーション論特殊講義b	柿田 秀樹	秋	木3	2	2		272
コミュニケーション論特殊講義b	松本 健太郎	秋	金3	2	2		273
コミュニケーション論文献セミナーa	柿田 秀樹	春	水2	2	3		274
コミュニケーション論文献セミナーa	松本 健太郎	春	金4	2	3		275
コミュニケーション論文献セミナーb	柿田 秀樹	秋	水2	2	3		274
コミュニケーション論文献セミナーb	松本 健太郎	秋	金4	2	3		275

学科専門科目(16年度以降)

文学・文化・歴史

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語圏の文学・文化a	前沢 浩子	春	火1	2	2		276
英語圏の文学・文化b	原 成吉	秋	火1	2	2		276
英語圏の文学・文化・批評a	高橋 雄一郎	春	火3	2	2		277
英語圏の文学・文化・批評b	前沢 浩子	秋	月2	2	2		277
英語圏の文学・文化・批評b	片山 亜紀	秋	火4	2	2		278
英語圏の社会・思想・歴史a	上野 直子	春	水2	2	2		279
英語圏の社会・思想・歴史a	原 成吉	春	木4	2	2		280
英語圏の社会・思想・歴史b	佐藤 唯行	秋	火2	2	2		279
英語圏のエリア・スタディーズ a	佐藤 唯行	春	火2	2	2	交	281
英語圏のエリア・スタディーズ b	P. ネルム	秋	水4	2	2	交	281
英語圏の文学・文化特殊講義 a	前沢 浩子	春	月2	2	2		282
英語圏の文学・文化特殊講義 a	片山 亜紀	春	火4	2	2		283
英語圏の文学・文化特殊講義 b	上野 直子	秋	水2	2	2		282
英語圏の文学・文化特殊講義 b	原 成吉	秋	木4	2	2		283
英語圏の文学・文化文献セミナーa	原 成吉	春	火1	2	3		284
英語圏の文学・文化文献セミナーb	前沢 浩子	秋	火3	2	3		284

言語・教育

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
言語学の世界	小早川 暁	春	火1	2	2	交	285
言語学の世界	小早川 暁	秋	火1	2	2	交	285
コーパス言語学a	羽山 恵	春	木2	2	2	独・仏・交	286
コーパス言語学b	羽山 恵	秋	木2	2	2	独・仏・交	286
英語教育研究	浅岡 千利世	春	火1	2	2		287
英語教育教材論	J. J. ダゲン	秋	木3	2	2		287
音声・音韻論a	青柳 真紀子	春	木3	2	2		288
音声・音韻論b	青柳 真紀子	秋	木3	2	2		288
シンタクスa	安井 美代子	春	金3	2	2		289
シンタクスb	安井 美代子	秋	金3	2	2		289
意味論a	小早川 暁	春	木4	2	2		290
意味論b	小早川 暁	秋	木4	2	2		290
言語・教育特殊講義a	安井 美代子	春	水2	2	2		291
言語・教育特殊講義a	船越 健志	春	金4	2	2		292
言語・教育特殊講義b	船越 健志	秋	金4	2	2		292
言語・教育文献セミナーa	船越 健志	春	火3	2	3		293
言語・教育文献セミナーa	小早川 暁	春	火3	2	3		294
言語・教育文献セミナーb	船越 健志	秋	火3	2	3		293
言語・教育文献セミナーb	安井 美代子	秋	水2	2	3		294

学科専門科目(15年度以前)

言語

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語学の世界	小早川 暁	春	火1	2	2	交	285
英語学の世界	小早川 暁	秋	火1	2	2	交	285
言語情報処理 I a	羽山 恵	春	木2	2	2	独・仏・交	286
言語情報処理 I b	羽山 恵	秋	木2	2	2	独・仏・交	286
音声・音韻論a	青柳 真紀子	春	木3	2	2		288
音声・音韻論b	青柳 真紀子	秋	木3	2	2		288
シンタクスa	安井 美代子	春	金3	2	2		289
シンタクスb	安井 美代子	秋	金3	2	2		289
意味論a	小早川 暁	春	木4	2	2		290
意味論b	小早川 暁	秋	木4	2	2		290
英語学特殊講義a	安井 美代子	春	水2	2	2		291
英語学特殊講義a	船越 健志	春	金4	2	2		292
英語学特殊講義b	船越 健志	秋	金4	2	2		292
英語学文献セミナーa	船越 健志	春	火3	2	3		293
英語学文献セミナーa	小早川 暁	春	火3	2	3		294
英語学文献セミナーb	船越 健志	秋	火3	2	3		293
英語学文献セミナーb	安井 美代子	秋	水2	2	3		294

文学文化

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語圏の文学・文化a	前沢 浩子	春	火1	2	2		276
英語圏の文学・文化b	原 成吉	秋	火1	2	2		276
英語圏の文学・文化・批評a	高橋 雄一郎	春	火3	2	2		277
英語圏の文学・文化・批評b	前沢 浩子	秋	月2	2	2		277
英語圏の文学・文化・批評b	片山 亜紀	秋	火4	2	2		278
英語圏の社会・思想・歴史a	上野 直子	春	水2	2	2		279
英語圏の社会・思想・歴史a	原 成吉	春	木4	2	2		280
英語圏の社会・思想・歴史b	佐藤 唯行	秋	火2	2	2		279
英語圏のエリア・スタディーズ a	佐藤 唯行	春	火2	2	2	交	281
英語圏のエリア・スタディーズ b	P. ネルム	秋	水4	2	2	交	281
英語圏の文学・文化特殊講義 a	前沢 浩子	春	月2	2	2		282
英語圏の文学・文化特殊講義 a	片山 亜紀	春	火4	2	2		283
英語圏の文学・文化特殊講義 b	上野 直子	秋	水2	2	2		282
英語圏の文学・文化特殊講義 b	原 成吉	秋	木4	2	2		283
英語圏の文学・文化文献セミナーa	原 成吉	春	火1	2	3		284
英語圏の文学・文化文献セミナーb	前沢 浩子	秋	火3	2	3		284

学科専門科目(15年度以前)

文化コミュニケーション

科目名	担当者	開講 学期	曜日	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
異文化間コミュニケーション論a	佐々木 輝美	春	月5	2	2	養	267
異文化間コミュニケーション論a	佐々木 輝美	秋	月5	2	2	養	267
異文化間コミュニケーション論b	板場 良久	春	月5	2	2	養	268
異文化間コミュニケーション論b	板場 良久	秋	月5	2	2	養	268
メディア・コミュニケーション論a	佐々木 輝美	春	木2	2	2		269
メディア・コミュニケーション論b	佐々木 輝美	秋	木2	2	2		269
スピーチ・コミュニケーション論a	板場 良久	春	月4	2	2		270
スピーチ・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	春	火4	2	2		271
スピーチ・コミュニケーション論b	板場 良久	秋	月4	2	2		270
スピーチ・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	秋	火4	2	2		271
コミュニケーション論特殊講義a	柿田 秀樹	春	木3	2	2		272
コミュニケーション論特殊講義a	松本 健太郎	春	金3	2	2		273
コミュニケーション論特殊講義b	柿田 秀樹	秋	木3	2	2		272
コミュニケーション論特殊講義b	松本 健太郎	秋	金3	2	2		273
コミュニケーション論文献セミナーa	柿田 秀樹	春	水2	2	3		274
コミュニケーション論文献セミナーa	松本 健太郎	春	金4	2	3		275
コミュニケーション論文献セミナーb	柿田 秀樹	秋	水2	2	3		274
コミュニケーション論文献セミナーb	松本 健太郎	秋	金4	2	3		275

国際関係

科目名	担当者	開講 学期	曜日	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
グローバル社会論a	竹田 いさみ	春	火3	2	2	交	256
グローバル社会論a	竹田 いさみ	秋	火3	2	2	交	256
グローバル社会論b	水本 義彦	春	火3	2	2	交	257
グローバル社会論b	水本 義彦	秋	火3	2	2	交	257
英語圏の国際関係a	永野 隆行	春	月2	2	2	交・法	258
英語圏の国際関係b	永野 隆行	秋	月2	2	2	交・法	258
グローバル・ヒストリーa	水本 義彦	春	木2	2	2	交	259
グローバル・ヒストリーb	水本 義彦	秋	木2	2	2	交	259
国際開発論(世界のエアライン・ホテル)	竹田 いさみ	春	月3	2	2	交	260
国際協力論	金子 芳樹	秋	金3	2	2	交	260
国際交流論	石川 幸子	春	金2	2	2	交	261
国際ツーリズム論	鈴木 涼太郎	春	木4	2	2	交	250
国際NGO・ボランティア論	金子 芳樹	秋	火2	2	2	交	261
国際リスク・海洋論(ディズニー映画)	竹田 いさみ	秋	月3	2	2	交	262
国際関係特殊講義a	永野 隆行	春	火1	2	2	交13以降	263
国際関係特殊講義b	佐野 康子	秋	木3	2	2	交13以降	263
国際関係特殊講義b	石川 幸子	秋	金2	2	2	交13以降	264
国際関係文献セミナーa	佐野 康子	春	木3	2	3		265
国際関係文献セミナーa	石川 幸子	春	金4	2	3		266
国際関係文献セミナーb	石川 幸子	秋	金4	2	3		266

交流文化論

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修不可	ページ
交流文化論(航空産業論)	井上 泰日子	春	月3	2	2	交・養・経・法	295
交流文化論(ツーリズム特殊講義 (紛争事例から学ぶ旅行契約法入門))	花本 広志	春	月3	2	2	交・養・経・法	296
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	鈴木 涼太郎	春	火3	2	2	交・養・経・法	297
交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	春	火4	2	2	交・養・経・法	298
交流文化論(開発文化論)	北野 収	春	水1	2	2	交・養・経・法	299
交流文化論(食の文化論)	北野 収	春	水2	2	2	交・養・経・法	300
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバル化と子ども))	堀 芳枝	春	水2	2	2	交・養・経・法	301
交流文化論(フィールドワーク論)	須永 和博	春	水2	2	2	独・仏・交・養・経・法	302
交流文化論(トランスナショナル・メディア論)	山口 誠	春	木1	2	2	交・養・経・法	303
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	木4	2	2	交・養・経・法	304
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (東南アジアのナショナリズム、民主主義と平和))	堀 芳枝	春	金1	2	2	交・養・経・法	305
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	井上 泰日子	秋	月1	2	2	交・養・経・法	306
交流文化論(ツーリズム政策論)	井上 泰日子	秋	月3	2	2	交・養・経・法	307
交流文化論(ツーリズム文化論)	鈴木 涼太郎	秋	火3	2	2	交・養・経・法	308
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (移民・難民と日本社会))	高橋 雄一郎	秋	火4	2	2	独・仏・交・養・経・法	309
交流文化論(地域開発論)	北野 収	秋	水1	2	2	交・養・経・法	310
交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	秋	水2	2	2	交・養・経・法	311
交流文化論(ツーリズム特殊講義 (ツーリズム地誌論))	須永 和博	秋	水2	2	2	独・仏・交・養・経・法	312
交流文化論(ツーリズム特殊講義 (交流文化の思想を読み解く))	山口 誠	秋	水2	2	2	独・仏・交・養・経・法	313
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバル経済とジェンダー))	堀 芳枝	秋	水2	2	2	交・養・経・法	314
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (「観る」ことの文化史))	山口 誠	秋	木1	2	2	交・養・経・法	315
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (パフォーマンス研究))	高橋 雄一郎	秋	木3	2	2	独・仏・交・養・経・法	316
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (シティズンシップ教育論))	花本 広志	秋	木3	2	2	交・養・経・法	317
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	井上 泰日子	秋	木4	2	2	交・養・経・法	318
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	木4	2	2	交・養・経・法	319
交流文化論(ツーリズム特殊講義 (ツーリズム・メディア論))	山口 誠	秋	金1	2	2	交・養・経・法	320

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜日	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	山口 誠	春	水3	2	1	養・経・法	321
総合講座	堀 芳枝	秋	水3	2	1	養・経・法	321
総合講座	永本 哲也	春	月3	2	1	養・経・法	322
総合講座	有信 真美菜	秋	木2	2	1	養・経・法	322
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	323
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	324
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	324
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	春	木3	2	1	養・経・法	324
(情報処理演習)[英語]	黄 海湘	春	水5	2	1	養・経・法	325
(情報処理演習)[英語]	黄 海湘	秋	水5	2	1	養・経・法	325
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	2	1	養・経・法	326
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金2	2	1	養・経・法	326
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金3	2	1	養・経・法	326
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	火2	2	1	養・経・法	326
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金2	2	1	養・経・法	326
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金3	2	1	養・経・法	326
(応用)情報科学各論	各担当教員						
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	月2	2	1	養・経・法	327
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	327
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	328
(Word中級)	松山 恵美子	春	月1	2	1	養・経・法	329
(Word中級)	松山 恵美子	秋	月1	2	1	養・経・法	329
(Word中級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	329
(Word中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	329
(Office中級)	松山 恵美子	春	月2	2	1	養・経・法	330
(Office中級)	休講						
(HTML)情報科学各論	各担当教員						
(HTML初級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	331
(HTML初級)	金子 憲一	春	木4	2	1	養・経・法	332
(HTML中級)	金子 憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	332
経済原論a	休講						
経済原論b	休講						
社会心理学a	休講						
社会心理学b	休講						

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。
 ※「情報科学各論(情報処理演習)」は言語が異なる場合でも重複履修はできません。

英語学科シラバス

13年度以降	国際関係入門 (春) 火 5	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、入門科目として国際関係の基礎的な概念、分析枠組み（国際関係の見方）を習得し、現代の国際社会がどのように成り立ち、どのような問題を抱え、対処しているかを理解することを目的とする。2年次以降の国際関係関連科目を理解する上で必須の基礎的知識の習得に努める。講義では、毎回要点をまとめたレジュメを配布し、それに沿って講義を進めていく。学期の前半では、概念について講義し、国際関係の3つの代表的な分析枠組み（リアリズム、リベラリズム、マルキシズム）を解説する。後半では、今日世界が直面するグローバル・イシューズ（地球規模の問題群）と呼ばれる諸問題をいくつか取り上げ、その歴史的背景や現状、将来的な課題を特にアメリカ、イギリスの政府、民間団体（NGO）、国際機関の活動に注目しながら具体的に検討していく。その際、グローバル・イシューズの現状をより実感、体験できるように、英語圏の英字新聞（アメリカ：The New York Times, Washington Post、イギリス：Financial Times）や、米英の公共放送（CNN、BBC）などの国際英語放送、ドキュメンタリー番組などを教材として積極的に活用する。また、毎回の講義の導入として「今週の国際ニュース」と題して時事問題を紹介し、分析枠組みと現実の国際問題との関連を意識しながら講義を進める。教員免許状取得の必修科目のため、中学校・高等学校における外国語科の授業に資する考え方も身に付けさせる。</p>		<p>第1部 国際関係の分析枠組み</p> <p>第1回：はじめに 国際関係を学ぶ意義</p> <p>第2回：国際関係の代表的な三つの見方（国際関係を読み解く分析枠組みと歴史的背景）</p> <p>第3回：リアリズム（1）：国益、権力闘争、戦争（第一次・第二次世界大戦の歴史）</p> <p>第4回：リアリズム（2）：「無政府社会」としての国際社会、勢力均衡、同盟、「安全保障のジレンマ」</p> <p>第5回：リベラリズム（1）：利益の共有、協調</p> <p>第6回：リベラリズム（2）：国際的相互依存、国際レジーム論、国際機構（国際連盟、国際連合）の歴史的発展過程、民主的平和論、国際NGO、多国籍企業</p> <p>第7回：マルキシズム（1）：支配と従属、脱植民地化の歴史、経済的格差</p> <p>第8回：マルキシズム（2）：従属論、世界システム論、国際機構・民間団体による開発支援</p> <p>第9回：中間のまとめ：三つの枠組みの比較</p> <p>第2部 グローバル・イシューズの考察（グローバル・イシューズの分析・検討を通して、社会及び文化の多様性について考察する）</p> <p>第10回：グローバル・イシューズ（1）テロ、大量破壊兵器</p> <p>第11回：グローバル・イシューズ（2）地球環境問題（地球温暖化問題とその対策を中心に）：京都議定書、パリ協定、環境NGO（GREEN PEACE）</p> <p>第12回：グローバル・イシューズ（3）紛争（民族・宗教対立、内戦）、平和構築（国連平和維持活動）、開発支援（政府開発援助、国際NGOの支援 {イギリス：OXFAM}）、人権（アメリカ：Human Rights Watch）</p> <p>第13回：グローバル・イシューズ（4）難民、国内避難民、無国籍者、国連高等難民弁務官事務所（UNHCR）の活動</p> <p>第14回：グローバル・イシューズ（5）異文化交流、国際文化交流、文化摩擦：パブリック・ディプロマシー（アメリカ：American Center、イギリス：British Council）、グローバル市民社会での交流活動）：総括 英語圏の国・地域の歴史、社会、文化とグローバリゼーション（英語圏出身者との議論・意見交換・交流）</p>	
到達目標	グローバル化し、ますます多様化する世界と異文化への理解向上を目指す。英語圏諸国（特にイギリス、アメリカ）の歴史、社会、文化ならびに英語を公式言語とする国際機関（国際連合など）などの活動についての基本的な理解に基づき、今日の国際社会で生じている問題とその解決に向けた取り組みを考察するための基礎力を養う。		
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるなので、日ごろから新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。		
テキスト	指定しない		
参考文献	現代の国際政治[第3版]（長谷川雄一・金子芳樹編、ミネルヴァ書房） グローバル社会の国際関係論[新版]（山田高敬・大矢根聡編、有斐閣） 国際政治経済学・入門[第3版]（野林健・大芝亮・納家政嗣・山田敦・長尾悟著、有斐閣）		
評価方法	平常点（コメント点）（20%）、定期試験（80%）		

13年度以降	国際関係入門 (秋) 水2	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、入門科目として国際関係の基礎的な概念、分析枠組み（国際関係の見方）を習得し、現代の国際社会がどのように成り立ち、どのような問題を抱え、対処しているかを理解することを目的とする。2年次以降の国際関係関連科目を理解する上で必須の基礎的知識の習得に努める。講義では、毎回要点をまとめたレジュメを配布し、それに沿って講義を進めていく。学期の前半では、概念について講義し、国際関係の3つの代表的な分析枠組み（リアリズム、リベラリズム、マルキシズム）を解説する。後半では、今日世界が直面するグローバル・イシューズ（地球規模の問題群）と呼ばれる諸問題をいくつか取り上げ、その歴史的背景や現状、将来的な課題を特にアメリカ、イギリスの政府、民間団体（NGO）、国際機関の活動に注目しながら具体的に検討していく。その際、グローバル・イシューズの現状をより実感、体験できるように、英語圏の英字新聞（アメリカ：The New York Times, Washington Post、イギリス：Financial Times）や、米英の公共放送（CNN、BBC）などの国際英語放送、ドキュメンタリー番組などを教材として積極的に活用する。また、毎回の講義の導入として「今週の国際ニュース」と題して時事問題を紹介し、分析枠組みと現実の国際問題との関連を意識しながら講義を進める。教員免許状取得の必修科目のため、中学校・高等学校における外国語科の授業に資する考え方も身に付けさせる。</p>		<p>第1部 国際関係の分析枠組み</p> <p>第1回：はじめに 国際関係を学ぶ意義</p> <p>第2回：国際関係の代表的な三つの見方（国際関係を読み解く分析枠組みと歴史的背景）</p> <p>第3回：リアリズム（1）：国益、権力闘争、戦争（第一次・第二次世界大戦の歴史）</p> <p>第4回：リアリズム（2）：「無政府社会」としての国際社会、勢力均衡、同盟、「安全保障のジレンマ」</p> <p>第5回：リベラリズム（1）：利益の共有、協調</p> <p>第6回：リベラリズム（2）：国際的相互依存、国際レジーム論、国際機構（国際連盟、国際連合）の歴史的発展過程、民主的平和論、国際NGO、多国籍企業</p> <p>第7回：マルキシズム（1）：支配と従属、脱植民地化の歴史、経済的格差</p> <p>第8回：マルキシズム（2）：従属論、世界システム論、国際機構・民間団体による開発支援</p> <p>第9回：中間のまとめ：三つの枠組みの比較</p> <p>第2部 グローバル・イシューズの考察（グローバル・イシューズの分析・検討を通して、社会及び文化の多様性について考察する）</p> <p>第10回：グローバル・イシューズ（1）テロ、大量破壊兵器</p> <p>第11回：グローバル・イシューズ（2）地球環境問題（地球温暖化問題とその対策を中心に）：京都議定書、パリ協定、環境NGO（GREENPEACE）</p> <p>第12回：グローバル・イシューズ（3）紛争（民族・宗教対立、内戦）、平和構築（国連平和維持活動）、開発支援（政府開発援助、国際NGOの支援〔イギリス：OXFAM〕）、人権（アメリカ：Human Rights Watch）</p> <p>第13回：グローバル・イシューズ（4）難民、国内避難民、無国籍者、国連高等難民弁務官事務所（UNHCR）の活動</p> <p>第14回：グローバル・イシューズ（5）異文化交流、国際文化交流、文化摩擦：パブリック・ディプロマシー（アメリカ：American Center、イギリス：British Council）、グローバル市民社会での交流活動）：総括 英語圏の国・地域の歴史、社会、文化とグローバリゼーション（英語圏出身者との議論・意見交換・交流）</p>	
到達目標	グローバル化し、ますます多様化する世界と異文化への理解向上を目指す。英語圏諸国（特にイギリス、アメリカ）の歴史、社会、文化ならびに英語を公式言語とする国際機関（国際連合など）などの活動についての基本的な理解に基づき、今日の国際社会で生じている問題とその解決に向けた取り組みを考察するための基礎力を養う。		
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるため、日ごろから新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。		
テキスト	指定しない		
参考文献	現代の国際政治[第3版]（長谷川雄一・金子芳樹編、ミネルヴァ書房） グローバル社会の国際関係論[新版]（山田高敬・大矢根聡編、有斐閣） 国際政治経済学・入門[第3版]（野林健・大芝亮・納家政嗣・山田敦・長尾悟著、有斐閣）		
評価方法	平常点（コメント点）（20%）、定期試験（80%）		

13年度以降	国際関係入門 (秋) 水2	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、入門科目として国際関係の基礎的な概念、分析枠組み（国際関係の見方）を習得し、現代の国際社会がどのように成り立ち、どのような問題を抱え、対処しているかを理解することを目的とする。2年次以降の国際関係関連科目を理解する上で必須の基礎的知識の習得に努める。講義では、毎回要点をまとめたレジュメを配布し、それに沿って講義を進めていく。学期の前半では、概念について講義し、国際関係の3つの代表的な分析枠組み（リアリズム、リベラリズム、マルキシズム）を解説する。後半では、今日世界が直面するグローバル・イシューズ（地球規模の問題群）と呼ばれる諸問題をいくつか取り上げ、その歴史的背景や現状、将来的な課題を特にアメリカ、イギリスの政府、民間団体（NGO）、国際機関の活動に注目しながら具体的に検討していく。その際、グローバル・イシューズの現状をより実感、体験できるように、英語圏の英字新聞（アメリカ：The New York Times, Washington Post、イギリス：Financial Times）や、米英の公共放送（CNN、BBC）などの国際英語放送、ドキュメンタリー番組などを教材として積極的に活用する。また、毎回の講義の導入として「今週の国際ニュース」と題して時事問題を紹介し、分析枠組みと現実の国際問題との関連を意識しながら講義を進める。教員免許状取得の必修科目のため、中学校・高等学校における外国語科の授業に資する考え方も身に付けさせる。</p>		<p>第1部 国際関係の分析枠組み</p> <p>第1回：はじめに 国際関係を学ぶ意義</p> <p>第2回：国際関係の代表的な三つの見方（国際関係を読み解く分析枠組みと歴史的背景）</p> <p>第3回：リアリズム（1）：国益、権力闘争、戦争（第一次・第二次世界大戦の歴史）</p> <p>第4回：リアリズム（2）：「無政府社会」としての国際社会、勢力均衡、同盟、「安全保障のジレンマ」</p> <p>第5回：リベラリズム（1）：利益の共有、協調</p> <p>第6回：リベラリズム（2）：国際的相互依存、国際レジーム論、国際機構（国際連盟、国際連合）の歴史的発展過程、民主的平和論、国際NGO、多国籍企業</p> <p>第7回：マルキシズム（1）：支配と従属、脱植民地化の歴史、経済的格差</p> <p>第8回：マルキシズム（2）：従属論、世界システム論、国際機構・民間団体による開発支援</p> <p>第9回：中間のまとめ：三つの枠組みの比較</p> <p>第2部 グローバル・イシューズの考察（グローバル・イシューズの分析・検討を通して、社会及び文化の多様性について考察する）</p> <p>第10回：グローバル・イシューズ（1）テロ、大量破壊兵器</p> <p>第11回：グローバル・イシューズ（2）地球環境問題（地球温暖化問題とその対策を中心に）：京都議定書、パリ協定、環境NGO（GREENPEACE）</p> <p>第12回：グローバル・イシューズ（3）紛争（民族・宗教対立、内戦）、平和構築（国連平和維持活動）、開発支援（政府開発援助、国際NGOの支援〔イギリス：OXFAM〕）、人権（アメリカ：Human Rights Watch）</p> <p>第13回：グローバル・イシューズ（4）難民、国内避難民、無国籍者、国連高等難民弁務官事務所（UNHCR）の活動</p> <p>第14回：グローバル・イシューズ（5）異文化交流、国際文化交流、文化摩擦：パブリック・ディプロマシー（アメリカ：American Center、イギリス：British Council）、グローバル市民社会での交流活動）：総括 英語圏の国・地域の歴史、社会、文化とグローバリゼーション（英語圏出身者との議論・意見交換・交流）</p>	
到達目標	グローバル化し、ますます多様化する世界と異文化への理解向上を目指す。英語圏諸国（特にイギリス、アメリカ）の歴史、社会、文化ならびに英語を公式言語とする国際機関（国際連合など）などの活動についての基本的な理解に基づき、今日の国際社会で生じている問題とその解決に向けた取り組みを考察するための基礎力を養う。		
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるなので、日ごろから新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。		
テキスト	指定しない		
参考文献	現代の国際政治[第3版]（長谷川雄一・金子芳樹編、ミネルヴァ書房） グローバル社会の国際関係論[新版]（山田高敬・大矢根聡編、有斐閣） 国際政治経済学・入門[第3版]（野林健・大芝亮・納家政嗣・山田敦・長尾悟著、有斐閣）		
評価方法	平常点（コメント点）（20%）、定期試験（80%）		

16年度以降 15年度以前	メディア・コミュニケーション入門 (春) 月 4 文化コミュニケーション入門	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、最初にコミュニケーションのダイナミック性について学ぶ。その後、コミュニケーション、および文化の要素や、文化的多様性を受け入れることの意義とそれを阻害する要因について学びつつ、実際に多様な文化的背景を持った人々との交流を通して異文化における適切なコミュニケーションを体験的に学ぶ。さらに、本講義の後半では、コミュニケーションによって行動が変わるということはどういうことか、メディアにはどのような影響力があるか、イノベーション(技術革新)が文化を超えてどのように人々に伝わるのかについて学び、最後にコミュニケーションの研究方法について学ぶ。</p> <p>教員免許状取得のための必修科目のため、中学校・高等学校における外国語科の授業に資する考え方も身に付けさせる。</p>		<p>第1回：授業の概要とねらいについて説明後、グループ分けを行う</p> <p>第2回：英語圏文化におけるコミュニケーション・プロセスの考え方</p> <p>第3回：コミュニケーションの要素：多様な文化的背景を持った人々と実際に交流しながら送り手と受け手の相互作用を体験する</p> <p>第4回：コミュニケーションの要素：英語圏文化におけるメッセージ構成を体験的に学ぶ</p> <p>第5回：文化相対主義と異文化の受容について、多様な文化的背景を持った人々と実際に交流しながら学ぶ</p> <p>第6回：コミュニケーションと文化：カルチャーショックを超えた異文化交流の意義</p> <p>第7回：英語圏の表現文化と日本の表現文化の違いについて、英語圏出身者を交えて体験的に学ぶ【小レポート①】</p> <p>第8回：態度変容研究：英語圏出身者と交流しながら、価値観の相違に対応する方法を体験的に学ぶ</p> <p>第9回：メディアの影響力：態度変容と認知・情意・行動領域</p> <p>第10回：メディアの影響力：メディアが影響力を発揮する諸条件</p> <p>第11回：文化としての宗教について、多様な文化背景を持つ人々を交えながら体験的に学ぶ【小レポート②】</p> <p>第12回：イノベーションの普及コミュニケーション：文化的多様性の要因</p> <p>第13回：イノベーションの普及コミュニケーション：普及戦略と異文化を超えるオピニオンリーダー</p> <p>第14回：コミュニケーション研究の方法論について 定期試験は実施しない。</p>	
到達目標	<p>メッセージを運ぶものとしてメディアを位置づけることで、人間メディアからマスメディアまでを学習テーマに含めながら以下の2点を目標とする。</p> <p>【目標1】 コミュニケーション、および文化に関する用語や概念を説明することができる。</p> <p>【目標2】 文化・社会の多様性を体験的に学び、その学びに基づいた適切なコミュニケーションができる。</p>		
事前・事後学修の内容	用語や概念を沢山紹介するのでそれらを使ってミニエッセイが書けるよう事前事後の準備を行うこと。		
テキスト	テキストとして、授業テーマに関連するプリントを毎回配布する。		
参考文献	<p>コミュニケーション・プロセス (バーロー著・布留武郎他訳、協同出版)</p> <p>はじめて学ぶ異文化コミュニケーション (石井敏他著、有斐閣選書)</p> <p>マス・コミュニケーション効果研究の展開(改定新版) (岡田篤郎他著、北樹出版)</p>		
評価方法	<p>学生に対する評価 授業中の学習活動への参加 (20%)、小レポート (20%)、最終レポート (60%)</p>		

16年度以降 15年度以前	メディア・コミュニケーション入門 (春) 水2 文化コミュニケーション入門	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、最初にコミュニケーションのダイナミック性について学ぶ。その後、コミュニケーション、および文化の要素や、文化的多様性を受け入れることの意義とそれを阻害する要因について学びつつ、実際に多様な文化的背景を持った人々との交流を通して異文化における適切なコミュニケーションを体験的に学ぶ。さらに、本講義の後半では、コミュニケーションによって行動が変わるということはどういうことか、メディアにはどのような影響力があるか、イノベーション(技術革新)が文化を超えてどのように人々に伝わるのかについて学び、最後にコミュニケーションの研究方法について学ぶ。</p> <p>教員免許状取得のための必修科目のため、中学校・高等学校における外国語科の授業に資する考え方も身に付けさせる。</p>		<p>第1回：授業の概要とねらいについて説明後、グループ分けを行う</p> <p>第2回：英語圏文化におけるコミュニケーション・プロセスの考え方</p> <p>第3回：コミュニケーションの要素：多様な文化的背景を持った人々と実際に交流しながら送り手と受け手の相互作用を体験する</p> <p>第4回：コミュニケーションの要素：英語圏文化におけるメッセージ構成を体験的に学ぶ</p> <p>第5回：文化相対主義と異文化の受容について、多様な文化的背景を持った人々と実際に交流しながら学ぶ</p> <p>第6回：コミュニケーションと文化：カルチャーショックを超えた異文化交流の意義</p> <p>第7回：英語圏の表現文化と日本の表現文化の違いについて、英語圏出身者を交えて体験的に学ぶ【小レポート①】</p> <p>第8回：態度変容研究：英語圏出身者と交流しながら、価値観の相違に対応する方法を体験的に学ぶ</p> <p>第9回：メディアの影響力：態度変容と認知・情意・行動領域</p> <p>第10回：メディアの影響力：メディアが影響力を発揮する諸条件</p> <p>第11回：文化としての宗教について、多様な文化背景を持つ人々を交えながら体験的に学ぶ【小レポート②】</p> <p>第12回：イノベーションの普及コミュニケーション：文化的多様性の要因</p> <p>第13回：イノベーションの普及コミュニケーション：普及戦略と異文化を超えるオピニオンリーダー</p> <p>第14回：コミュニケーション研究の方法論について 定期試験は実施しない。</p>	
到達目標	<p>メッセージを運ぶものとしてメディアを位置づけることで、人間メディアからマスメディアまでを学習テーマに含めながら以下の2点を目標とする。</p> <p>【目標1】 コミュニケーション、および文化に関する用語や概念を説明することができる。</p> <p>【目標2】 文化・社会の多様性を体験的に学び、その学びに基づいた適切なコミュニケーションができる。</p>		
事前・事後学修の内容	用語や概念を沢山紹介するのでそれらを使ってミニエッセイが書けるよう事前事後の準備を行うこと。		
テキスト	テキストとして、授業テーマに関連するプリントを毎回配布する。		
参考文献	<p>コミュニケーション・プロセス (バーロー著・布留武郎他訳、協同出版)</p> <p>はじめて学ぶ異文化コミュニケーション (石井敏他著、有斐閣選書)</p> <p>マス・コミュニケーション効果研究の展開(改定新版) (岡田篤郎他著、北樹出版)</p>		
評価方法	<p>学生に対する評価 授業中の学習活動への参加 (20%)、小レポート (20%)、最終レポート (60%)</p>		

16年度以降 15年度以前	メディア・コミュニケーション入門 (秋) 月 4 文化コミュニケーション入門	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、最初にコミュニケーションのダイナミック性について学ぶ。その後、コミュニケーション、および文化の要素や、文化的多様性を受け入れることの意義とそれを阻害する要因について学びつつ、実際に多様な文化的背景を持った人々との交流を通して異文化における適切なコミュニケーションを体験的に学ぶ。さらに、本講義の後半では、コミュニケーションによって行動が変わるということはどういうことか、メディアにはどのような影響力があるか、イノベーション(技術革新)が文化を超えてどのように人々に伝わるのかについて学び、最後にコミュニケーションの研究方法について学ぶ。</p> <p>教員免許状取得のための必修科目のため、中学校・高等学校における外国語科の授業に資する考え方も身に付けさせる。</p>		<p>第1回：授業の概要とねらいについて説明後、グループ分けを行う</p> <p>第2回：英語圏文化におけるコミュニケーション・プロセスの考え方</p> <p>第3回：コミュニケーションの要素：多様な文化的背景を持った人々と実際に交流しながら送り手と受け手の相互作用を体験する</p> <p>第4回：コミュニケーションの要素：英語圏文化におけるメッセージ構成を体験的に学ぶ</p> <p>第5回：文化相対主義と異文化の受容について、多様な文化的背景を持った人々と実際に交流しながら学ぶ</p> <p>第6回：コミュニケーションと文化：カルチャーショックを超えた異文化交流の意義</p> <p>第7回：英語圏の表現文化と日本の表現文化の違いについて、英語圏出身者を交えて体験的に学ぶ【小レポート①】</p> <p>第8回：態度変容研究：英語圏出身者と交流しながら、価値観の相違に対応する方法を体験的に学ぶ</p> <p>第9回：メディアの影響力：態度変容と認知・情意・行動領域</p> <p>第10回：メディアの影響力：メディアが影響力を発揮する諸条件</p> <p>第11回：文化としての宗教について、多様な文化背景を持つ人々を交えながら体験的に学ぶ【小レポート②】</p> <p>第12回：イノベーションの普及コミュニケーション：文化的多様性の要因</p> <p>第13回：イノベーションの普及コミュニケーション：普及戦略と異文化を超えるオピニオンリーダー</p> <p>第14回：コミュニケーション研究の方法論について 定期試験は実施しない。</p>	
到達目標	<p>メッセージを運ぶものとしてメディアを位置づけることで、人間メディアからマスメディアまでを学習テーマに含めながら以下の2点を目標とする。</p> <p>【目標1】 コミュニケーション、および文化に関する用語や概念を説明することができる。</p> <p>【目標2】 文化・社会の多様性を体験的に学び、その学びに基づいた適切なコミュニケーションができる。</p>		
事前・事後学修の内容	用語や概念を沢山紹介するのでそれらを使ってミニエッセイが書けるよう事前事後の準備を行うこと。		
テキスト	テキストとして、授業テーマに関連するプリントを毎回配布する。		
参考文献	<p>コミュニケーション・プロセス (バーロー著・布留武郎他訳、協同出版)</p> <p>はじめて学ぶ異文化コミュニケーション (石井敏他著、有斐閣選書)</p> <p>マス・コミュニケーション効果研究の展開(改定新版) (岡田篤郎他著、北樹出版)</p>		
評価方法	<p>学生に対する評価 授業中の学習活動への参加 (20%)、小レポート (20%)、最終レポート (60%)</p>		

16年度以降 15年度以前	メディア・コミュニケーション入門 (秋) 水2 文化コミュニケーション入門	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、最初にコミュニケーションのダイナミック性について学ぶ。その後、コミュニケーション、および文化の要素や、文化的多様性を受け入れることの意義とそれを阻害する要因について学びつつ、実際に多様な文化的背景を持った人々との交流を通して異文化における適切なコミュニケーションを体験的に学ぶ。さらに、本講義の後半では、コミュニケーションによって行動が変わるということはどういうことか、メディアにはどのような影響力があるか、イノベーション(技術革新)が文化を超えてどのように人々に伝わるのかについて学び、最後にコミュニケーションの研究方法について学ぶ。</p> <p>教員免許状取得のための必修科目のため、中学校・高等学校における外国語科の授業に資する考え方も身に付けさせる。</p>		<p>第1回：授業の概要とねらいについて説明後、グループ分けを行う</p> <p>第2回：英語圏文化におけるコミュニケーション・プロセスの考え方</p> <p>第3回：コミュニケーションの要素：多様な文化的背景を持った人々と実際に交流しながら送り手と受け手の相互作用を体験する</p> <p>第4回：コミュニケーションの要素：英語圏文化におけるメッセージ構成を体験的に学ぶ</p> <p>第5回：文化相対主義と異文化の受容について、多様な文化的背景を持った人々と実際に交流しながら学ぶ</p> <p>第6回：コミュニケーションと文化：カルチャーショックを超えた異文化交流の意義</p> <p>第7回：英語圏の表現文化と日本の表現文化の違いについて、英語圏出身者を交えて体験的に学ぶ【小レポート①】</p> <p>第8回：態度変容研究：英語圏出身者と交流しながら、価値観の相違に対応する方法を体験的に学ぶ</p> <p>第9回：メディアの影響力：態度変容と認知・情意・行動領域</p> <p>第10回：メディアの影響力：メディアが影響力を発揮する諸条件</p> <p>第11回：文化としての宗教について、多様な文化背景を持つ人々を交えながら体験的に学ぶ【小レポート②】</p> <p>第12回：イノベーションの普及コミュニケーション：文化的多様性の要因</p> <p>第13回：イノベーションの普及コミュニケーション：普及戦略と異文化を超えるオピニオンリーダー</p> <p>第14回：コミュニケーション研究の方法論について 定期試験は実施しない。</p>	
到達目標	<p>メッセージを運ぶものとしてメディアを位置づけることで、人間メディアからマスメディアまでを学習テーマに含めながら以下の2点を目標とする。</p> <p>【目標1】 コミュニケーション、および文化に関する用語や概念を説明することができる。</p> <p>【目標2】 文化・社会の多様性を体験的に学び、その学びに基づいた適切なコミュニケーションができる。</p>		
事前・事後学修の内容	用語や概念を沢山紹介するのでそれらを使ってミニエッセイが書けるよう事前事後の準備を行うこと。		
テキスト	テキストとして、授業テーマに関連するプリントを毎回配布する。		
参考文献	<p>コミュニケーション・プロセス (バーロー著・布留武郎他訳、協同出版)</p> <p>はじめて学ぶ異文化コミュニケーション (石井敏他著、有斐閣選書)</p> <p>マス・コミュニケーション効果研究の展開(改定新版) (岡田篤郎他著、北樹出版)</p>		
評価方法	<p>学生に対する評価 授業中の学習活動への参加 (20%)、小レポート (20%)、最終レポート (60%)</p>		

16年度以降 15年度以前	英語圏の文学・文化入門 (春) 火2 英語圏の文学文化入門	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>おもに近代以降のイギリス・アメリカ文学について、代表的な文学作品を逐一紹介しつつ、その背後にある社会や文化のダイナミズムについて解説します。</p> <p>具体的な授業の進め方については、講義内での各担当者の説明を受けてください。</p> <p>教員免許状取得の必修科目のため、教職課程の一環として履修する人に対しては、中学校・高等学校における外国語科の授業に資する考え方も身につけていただきます。</p>		<p>第1回：英語の長い旅</p> <p>第2回：地球語としての英語</p> <p>第3回：語り、聞く文学（1）：時代・文学・社会</p> <p>第4回：語り、聞く文学（2）：演劇の黄金期と大西洋世界へのデビュー</p> <p>第5回：読む文学へ（1）：世界の拡大と小説の誕生</p> <p>第6回：読む文学へ（2）：帝国と小説</p> <p>第7回：歴史の海へ（1）：アメリカ独立とアメリカ文学の誕生</p> <p>第8回：歴史の海へ（2）：アメリカ内戦（南北戦争）期の自由・矛盾・文学</p> <p>第9回：女から眺めてみれば（1）：第一波フェミニズムと書く女たち</p> <p>第10回：女から眺めてみれば（2）：参政権運動とモダニズム期の女たち</p> <p>第11回：女から眺めてみれば（3）：第二波フェミニズムと彼女たちの文学</p> <p>第12回：「英文学」の誕生</p> <p>第13回：「英米」文学から「英語」文学へ</p> <p>第14回：英語文学のいま</p>	
到達目標	イギリスとアメリカを中心に、歴史の中でどのように文学作品が成立してきたかを踏まえながら、代表的な文学作品の言葉と表現を理解することができる。		
事前・事後学修の内容	プリントを見返し、英文抜粋を再読すること。また興味に応じて、文学作品原作を読み、その作品・作家・時代についてさらに調べてみてください。		
テキスト	なし。授業ではプリントを配布する。		
参考文献	イギリス文学入門（石塚久郎編、三修社）		
評価方法	授業内提出物（30%）、学期末試験（70%）		

16年度以降 15年度以前	英語圏の文学・文化入門 (春) 木4 英語圏の文学文化入門	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>おもに近代以降のイギリス・アメリカ文学について、代表的な文学作品を逐一紹介しつつ、その背後にある社会や文化のダイナミズムについて解説します。</p> <p>具体的な授業の進め方については、講義内での各担当者の説明を受けてください。</p> <p>教員免許状取得の必修科目のため、教職課程の一環として履修する人に対しては、中学校・高等学校における外国語科の授業に資する考え方も身につけていただきます。</p>		<p>第1回：英語の長い旅</p> <p>第2回：地球語としての英語</p> <p>第3回：語り、聞く文学（1）：時代・文学・社会</p> <p>第4回：語り、聞く文学（2）：演劇の黄金期と大西洋世界へのデビュー</p> <p>第5回：読む文学へ（1）：世界の拡大と小説の誕生</p> <p>第6回：読む文学へ（2）：帝国と小説</p> <p>第7回：歴史の海へ（1）：アメリカ独立とアメリカ文学の誕生</p> <p>第8回：歴史の海へ（2）：アメリカ内戦（南北戦争）期の自由・矛盾・文学</p> <p>第9回：女から眺めてみれば（1）：第一波フェミニズムと書く女たち</p> <p>第10回：女から眺めてみれば（2）：参政権運動とモダニズム期の女たち</p> <p>第11回：女から眺めてみれば（3）：第二波フェミニズムと彼女たちの文学</p> <p>第12回：「英文学」の誕生</p> <p>第13回：「英米」文学から「英語」文学へ</p> <p>第14回：英語文学のいま</p>	
到達目標	イギリスとアメリカを中心に、歴史の中でどのように文学作品が成立してきたかを踏まえながら、代表的な文学作品の言葉と表現を理解することができる。		
事前・事後学修の内容	プリントを見返し、英文抜粋を再読すること。また興味に応じて、文学作品原作を読み、その作品・作家・時代についてさらに調べてみてください。		
テキスト	なし。授業ではプリントを配布する。		
参考文献	イギリス文学入門（石塚久郎編、三修社）		
評価方法	授業内提出物（30%）、学期末試験（70%）		

16年度以降 15年度以前	英語圏の文学・文化入門 (秋) 木4 英語圏の文学文化入門	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>おもに近代以降のイギリス・アメリカ文学について、代表的な文学作品を逐一紹介しつつ、その背後にある社会や文化のダイナミズムについて解説します。</p> <p>具体的な授業の進め方については、講義内での各担当者の説明を受けてください。</p> <p>教員免許状取得の必修科目のため、教職課程の一環として履修する人に対しては、中学校・高等学校における外国語科の授業に資する考え方も身につけていただきます。</p>		<p>第1回：英語の長い旅</p> <p>第2回：地球語としての英語</p> <p>第3回：語り、聞く文学（1）：時代・文学・社会</p> <p>第4回：語り、聞く文学（2）：演劇の黄金期と大西洋世界へのデビュー</p> <p>第5回：読む文学へ（1）：世界の拡大と小説の誕生</p> <p>第6回：読む文学へ（2）：帝国と小説</p> <p>第7回：歴史の海へ（1）：アメリカ独立とアメリカ文学の誕生</p> <p>第8回：歴史の海へ（2）：アメリカ内戦（南北戦争）期の自由・矛盾・文学</p> <p>第9回：女から眺めてみれば（1）：第一波フェミニズムと書く女たち</p> <p>第10回：女から眺めてみれば（2）：参政権運動とモダニズム期の女たち</p> <p>第11回：女から眺めてみれば（3）：第二波フェミニズムと彼女たちの文学</p> <p>第12回：「英文学」の誕生</p> <p>第13回：「英米」文学から「英語」文学へ</p> <p>第14回：英語文学のいま</p>	
到達目標	イギリスとアメリカを中心に、歴史の中でどのように文学作品が成立してきたかを踏まえながら、代表的な文学作品の言葉と表現を理解することができる。		
事前・事後学修の内容	プリントを見返し、英文抜粋を再読すること。また興味に応じて、文学作品原作を読み、その作品・作家・時代についてさらに調べてみてください。		
テキスト	なし。授業ではプリントを配布する。		
参考文献	イギリス文学入門（石塚久郎編、三修社）		
評価方法	授業内提出物（30%）、学期末試験（70%）		

13年度以降	英語学入門 (春) 木1	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の子音・母音の仕組み、アクセント位置と音節構造の関係、大母音推移などの英語の歴史的变化、派生語・合成語などの成り立ち、文の必須要素と付加的要素の区別、等位接続構造、倒置文などの文法事項、文の意味、発話の意図などを言語学的に分析することによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていく。扱うデータは英語が中心だが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げていく。さらに、実際的な英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことも実感してもらう。</p>		<p>第1回：無意識の言語知識について 第2回：英語の音声の仕組み 第3回：英語の歴史の変遷 第4回：英語の派生語 第5回：英語の合成語 第6回：英語の音節構造とアクセント 第7回：音声・語彙に関するまとめ 第8回：英語の文構造：連用修飾と連体修飾 第9回：英語の文構造：動詞句の必須要素と付加要素 第10回：英語の文構造：等位接続構造 第11回：英語の文構造：不連続な依存関係 第12回：文の意味 第13回：発話の意味 第14回：子供の言語獲得と国際共通語としての英語</p>	
到達目標	英語の音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論といった英語学の基礎理論を学び、分析・論証できる能力を身につける。英語の歴史の変遷及び国際共通語としての英語の実態について理解する。		
事前・事後学修の内容	講義の予習に1時間以上、復習に1時間以上の授業時間外学修を必要とする。		
テキスト	プリントを配布		
参考文献	英語言語学の第一歩 (First Steps in English Linguistics) (2版) (影山太郎他著、くろしお出版) ファンダメンタル英語学 (改訂版) (中島平三著、ひつじ書房)		
評価方法	平常点 (20%) 及び試験 (80%)		

13年度以降	英語学入門 (秋) 火3	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の子音・母音の仕組み、アクセント位置と音節構造の関係、大母音推移などの英語の歴史的变化、派生語・合成語などの成り立ち、文の必須要素と付加的要素の区別、等位接続構造、倒置文などの文法事項、文の意味、発話の意図などを言語学的に分析することによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていく。扱うデータは英語が中心だが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げていく。さらに、実際的な英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことも実感してもらう。</p>		<p>第1回：無意識の言語知識について 第2回：英語の音声の仕組み 第3回：英語の歴史の変遷 第4回：英語の派生語 第5回：英語の合成語 第6回：英語の音節構造とアクセント 第7回：音声・語彙に関するまとめ 第8回：英語の文構造：連用修飾と連体修飾 第9回：英語の文構造：動詞句の必須要素と付加要素 第10回：英語の文構造：等位接続構造 第11回：英語の文構造：不連続な依存関係 第12回：文の意味 第13回：発話の意味 第14回：子供の言語獲得と国際共通語としての英語</p>	
到達目標	英語の音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論といった英語学の基礎理論を学び、分析・論証できる能力を身につける。英語の歴史の変遷及び国際共通語としての英語の実態について理解する。		
事前・事後学修の内容	講義の予習に1時間以上、復習に1時間以上の授業時間外学修を必要とする。		
テキスト	プリントを配布		
参考文献	英語言語学の第一歩 (First Steps in English Linguistics) (2版) (影山太郎他著、くろしお出版) ファンダメンタル英語学 (改訂版) (中島平三著、ひつじ書房)		
評価方法	平常点 (20%) 及び試験 (80%)		

13 年度以降	英語学入門 (秋) 木 1	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の子音・母音の仕組み、アクセント位置と音節構造の関係、大母音推移などの英語の歴史的变化、派生語・合成語などの成り立ち、文の必須要素と付加的要素の区別、等位接続構造、倒置文などの文法事項、文の意味、発話の意図などを言語学的に分析することによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていく。扱うデータは英語が中心だが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げていく。さらに、実際的な英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことも実感してもらう。</p>		<p>第 1 回：無意識の言語知識について 第 2 回：英語の音声の仕組み 第 3 回：英語の歴史の変遷 第 4 回：英語の派生語 第 5 回：英語の合成語 第 6 回：英語の音節構造とアクセント 第 7 回：音声・語彙に関するまとめ 第 8 回：英語の文構造：連用修飾と連体修飾 第 9 回：英語の文構造：動詞句の必須要素と付加要素 第 10 回：英語の文構造：等位接続構造 第 11 回：英語の文構造：不連続な依存関係 第 12 回：文の意味 第 13 回：発話の意味 第 14 回：子供の言語獲得と国際共通語としての英語</p>	
到達目標	英語の音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論といった英語学の基礎理論を学び、分析・論証できる能力を身につける。英語の歴史の変遷及び国際共通語としての英語の実態について理解する。		
事前・事後学修の内容	講義の予習に 1 時間以上、復習に 1 時間以上の授業時間外学修を必要とする。		
テキスト	プリントを配布		
参考文献	英語言語学の第一歩 (First Steps in English Linguistics) (2 版) (影山太郎他著、くろしお出版) ファンダメンタル英語学 (改訂版) (中島平三著、ひつじ書房)		
評価方法	平常点 (20%) 及び試験 (80%)		

13年度以降	Lecture Workshop I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one-semester-long required course for 1st-year students (I: spring semester, II: fall semester).</p> <p>Overall Objectives: In this course, students are expected to develop their overall English language skills while learning about specific topics. The course is called “workshop” because it is a combination of lectures by instructors and activities in which students are actively engaged in interaction with classmates and the material.</p> <p>Topics: The topic of each unit is decided by the individual instructor. Topic examples include “The Science of Habits,” “Art of the Renaissance,” “English through Drama,” “History of English: Contact, Conflict & Change,” “Introduction to Africa,” “Bioethics,” “Inventions,” and “Japanese Myths and Legends.”</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction to Unit 1 2 Lecture 1 and associated exercises 3 Lecture 2 and associated exercises 4 Lecture 3 and associated exercises 5 Lecture 4 and associated exercises 6 Lecture 5 and associated exercises 7 Review and assessment 8 Introduction to Unit 2 9 Lecture 1 and associated exercises 10 Lecture 2 and associated exercises 11 Lecture 3 and associated exercises 12 Lecture 4 and associated exercises 13 Lecture 5 and associated exercises 14 Review and assessment 	
到達目標	講義とワークを組み合わせさせた総合的な英語授業を通じて、積極的な英語学習ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will prepare for classes through review and revision of in-class lecture notes, study of vocabulary, and other associated homework assignments.		
テキスト	Instructors will mostly use handouts, booklets, or prints to be distributed in class.		
参考文献	A reading list may or may not be provided, depending on the individual instructor.		
評価方法	Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.		

13年度以降	Lecture Workshop II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one-semester-long required course for 1st-year students (I: spring semester, II: fall semester).</p> <p>Overall Objectives: In this course, students are expected to develop their overall English language skills while learning about specific topics. The course is called “workshop” because it is a combination of lectures by instructors and activities in which students are actively engaged in interaction with classmates and the material.</p> <p>Topics: The topic of each unit is decided by the individual instructor. Topic examples include “The Science of Habits,” “Art of the Renaissance,” “English through Drama,” “History of English: Contact, Conflict & Change,” “Introduction to Africa,” “Bioethics,” “Inventions,” and “Japanese Myths and Legends.”</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to Unit 3 2. Lecture 1 and associated exercises 3. Lecture 2 and associated exercises 4. Lecture 3 and associated exercises 5. Lecture 4 and associated exercises 6. Lecture 5 and associated exercises 7. Review and assessment 8. Introduction to Unit 4 9. Lecture 1 and associated exercises 10. Lecture 2 and associated exercises 11. Lecture 3 and associated exercises 12. Lecture 4 and associated exercises 13. Lecture 5 and associated exercises 14. Review and assessment 	
到達目標	講義とワークを組み合わせさせた総合的な英語授業を通じて、積極的な英語学習ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will prepare for classes through review and revision of in-class lecture notes, study of vocabulary, and other associated homework assignments.		
テキスト	Instructors will mostly use handouts, booklets, or prints to be distributed in class.		
参考文献	A reading list may or may not be provided, depending on the individual instructor.		
評価方法	Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.		

13年度以降	Comprehensive English I (1年1組)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a more competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students to develop a basic knowledge of the skills required for organizing a speech and developing speech writing skills To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and speech writing skills To build student confidence in speech communication in small and larger group contexts 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Orientation; Topic 1: Pair practice & accuracy demonstration 2: Topic 2: Pair practice & accuracy assessment (Introductions) 3: Topic 3: Pair practice & accuracy assessment (Asking questions) 4: Topic 4: Pair practice & accuracy assessment (Answering questions) 5: Topic 5: Pair practice & accuracy assessment (Echo) 6: Topic 6: Pair practice & accuracy assessment (Confirmation) 7: Topic 7: Pair practice & accuracy assessment (Justify) 8: Topic 8: Pair practice & accuracy assessment (Reason) 9: Topic 9: Pair practice & accuracy assessment (Invite) 10: Topic 10: Pair practice & accuracy assessment (Accept) 11: Topic 11: Pair practice & accuracy assessment (Reject) 12: Topic 12: Pair practice & accuracy assessment (Correct) 13: Topic 13: Pair practice & accuracy assessment (Describe) 14: Topic 14: Pair practice & accuracy assessment (Review) 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト	None		
参考文献	None		
評価方法	Participation & in-class performance 34%; Task 13%; Accuracy 39%; Homework 14%		

13年度以降	Comprehensive English II (1年1組)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a more competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students to develop a basic knowledge of the skills required for organizing a speech and developing speech writing skills To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and speech writing skills To build student confidence in speech communication in small and larger group contexts 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Orientation; Impromptu speech skill & practice 2: Impromptu speech skill & practice 3: Impromptu speech assessment 4: Speeches VS Presentations (Difference) 5: Speeches VS Presentations (Examples) 6: Historical speeches; Speech 1 skill & practice (Topic) 7: Historical speeches; Speech 1 skill & practice (Research basics) 8: Historical speeches; Speech 1 skill & practice (Drafting manuscript basics) 9: Speech 1 assessment (Evaluation of Speech 1) 10: Speech 1 assessment (Review of Speech 1) 11: Historical speeches; Speech 2 skill & practice (New Topic) 12: Historical speeches; Speech 2 skill & practice (Research & drafting manuscript) 13: Speech 2 assessment (Evaluation of Speech 2) 14: Speech 2 assessment (Review of Speech 2) 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト	None		
参考文献	None		
評価方法	Participation & in-class performance 40%; Homework 10%; Impromptu speech 10%; Speech 1 20%; Speech 2 20%.		

13年度以降	Comprehensive English I (1年2組)	担当者	D. ベイカー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class for first-year students develops a range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in highschool.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To give students maximum opportunities to communicate To build student confidence in interpersonal communication To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<ol style="list-style-type: none"> Course orientation & overview First impressions Cultural & communicative awareness Ice-breakers Wh & Y/N questions Food & drink Active listening Music & feelings Communication skills review Books & films Study skills Group project preparation Group project practice Group presentations 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before - extensive writing for short speeches (20 mins) After - review previous week's classes (20 mins)		
テキスト	No set text		
参考文献	特になし		
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: (1)in-class attentiveness & attitude 50% (2)assignments 25% (3)review quizzes 25%		

13年度以降	Comprehensive English II (1年2組)	担当者	D. ベイカー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a more competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students to develop a basic knowledge of the skills required for organizing a speech and developing speech writing skills To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and speech writing skills To build student confidence in speech communication in small and larger group contexts 		<ol style="list-style-type: none"> Overview of the creative process Choosing your topic & researching Rule of three : Number five Outlining & drafting Editing & practicing Presentation week 1 Presentation feedback V for Vendetta 1: V's speech Vendetta 2: Valerie's letter Vendetta 3: Rookwood's story Presentation week 2 Presentation feedback Love Actually Presentation week 3 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before - presentation preparation & practice (30-60mins) After - editing (20 mins)		
テキスト	No set text		
参考文献	特になし		
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: (1)in-class attendance, attentiveness & attitude 50% (2)3 presentations 50%		

13年度以降	Comprehensive English I (1年3組)	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class for first-year students develops a range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in highschool.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To give students maximum opportunities to communicate To build student confidence in interpersonal communication To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<ol style="list-style-type: none"> Course introductions / foreign countries City ranking Foreign countries 2 Bhutan Education 1 Elite schools Education 2 Literacy Health 1 Obesity Health 2 Smoking Technology 1 Internet Technology 2 Microchips Intelligence & Talents 1 Pedigies Poster presentation Intelligence & Talents 2 Awards Arts 1 TV Arts 2 : acting ; Test explained Test & review 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post lesson review will be explained when necessary		
テキスト	No textbook / teacher materials provided		
参考文献	Electronic dictionary is OK		
評価方法	30% class effort 30% presentation 40% end of semester test		

13年度以降	Comprehensive English II (1年3組)	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a more competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students to develop a basic knowledge of the skills required for organizing a speech and developing speech writing skills To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and speech writing skills To build student confidence in speech communication in small and larger group contexts 		<ol style="list-style-type: none"> Tourism 1 Middle East Tourism 2 Caribbean Japanese social issues 1 neet & freeter Japanese social issues 2 marriage Work & money 1 saving Work & money 2 google Media issues 1 being famous Media issues 2 death of newspapers Global living trends 1 Brazil Global living trends 2 urbanization Poster presentation Crime 1 identity issues Crime 2 nice prisons ;Test explained Test & review 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post lesson review will be explained when necessary		
テキスト	No textbook / teacher materials provided		
参考文献	Electronic dictionary is OK		
評価方法	30% class effort 30% presentation 40% end of semester test		

13年度以降	Comprehensive English I (1年4組)	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class for first-year students develops a range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in highschool.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<p>Week 1: Class orientation, introductions</p> <p>Week 2: Introduction to presentation skills</p> <p>Week 3: Listening for gist, information speech</p> <p>Week 4: Class survey and report</p> <p>Week 5: Listening skill: inferring, demonstration speech</p> <p>Week 6: Small group presentations</p> <p>Week 7: Comprehensive reading</p> <p>Week 8: Review, reading and listening tests</p> <p>Week 9: Grammar workshop, reported speech</p> <p>Week 10: Research and report writing</p> <p>Week 11: Investigative reporting</p> <p>Week 12: Introduction to topic research</p> <p>Week 13: Topic research reporting, review</p> <p>Week 14: Speaking test, consultations</p>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Chapter readings, speech preparation, review for tests		
テキスト	NorthStar Listening and Speaking Level 3, 4th Edition (Pearson Longman)		
参考文献	To be introduced in class		
評価方法	20% Participation, 20% Small Group Discussion Task, 20% Investigative Written Report, 20% Reading and Listening Tests, 20% Speech		

13年度以降	Comprehensive English II (1年4組)	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a more competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To help students to develop a basic knowledge of the skills required for organizing a speech and developing speech writing skills 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and speech writing skills 3. To build student confidence in speech communication in small and larger group contexts 		<p>Week 1: Class orientation, giving opinions</p> <p>Week 2: Active listening, expressing doubt</p> <p>Week 3: Informal and formal speech</p> <p>Week 4: Reading skills: summarizing</p> <p>Week 5: Review, reading and listening tests</p> <p>Week 6: Grammar review</p> <p>Week 7: Topic selection and making outlines</p> <p>Week 8: Speech delivery skills: using visual aids</p> <p>Week 9: Class speeches</p> <p>Week 10: Pronunciation workshop,</p> <p>Week 11: Investigative reporting II</p> <p>Week 12: Writing persuasive speeches</p> <p>Week 13: Review, using multimedia in speeches</p> <p>Week 14: Persuasive speech presentations</p>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Chapter readings, speech preparation, review for tests		
テキスト	NorthStar Listening and Speaking Level 3, 4th Edition (Pearson Longman)		
参考文献	To be introduced in class		
評価方法	20% Participation, 20% Small Group Discussion Task, 20% Investigative Written Report, 20% Reading and Listening Tests, 20% Speech		

13年度以降	Comprehensive English I (1年5組)	担当者	C. 芦沢
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class for first-year students develops a range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in highschool.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To give students maximum opportunities to communicate To build student confidence in interpersonal communication To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<p>Week 1: Class Introduction</p> <p>Week 2: Classroom English</p> <p>Week 3: Identity Map (Introduction and Reading)</p> <p>Week 4: Identity Map (Model and Creation)</p> <p>Week 5: Assessment 1 (Identity Map Presentations)</p> <p>Week 6: Conversation Skills (Conversation Starters)</p> <p>Week 7: Conversation Skills (Control a Conversation)</p> <p>Week 8: Conversation Skills (Active Listening)</p> <p>Week 9: Assessment 2 (Conversation Role-Play)</p> <p>Week 10: Discussion (Giving an Opinion and Reasons)</p> <p>Week 11: Discussion (Agreeing/Disagreeing)</p> <p>Week 12: Discussion (Leading a Discussion)</p> <p>Week 13: Discussion (Reporting a Discussion)</p> <p>Week 14: Assessment 3 (Small-Group Discussion)</p>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Most of the activities will be conducted within the 100-minute class period. When homework is assigned, students are expected to complete it fully by the deadline.		
テキスト	Materials will be provided by the instructor.		
参考文献	Bring course materials and a pen/pencil to every class.		
評価方法	Active Participation/HW = 40%, Assessments (3 x 20% each) = 60%		

13年度以降	Comprehensive English II (1年5組)	担当者	C. 芦沢
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a more competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students to develop a basic knowledge of the skills required for organizing a speech and developing speech writing skills To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and speech writing skills To build student confidence in speech communication in small and larger group contexts 		<p>Week 1: Welcome Back/Summer Share</p> <p>Week 2: Physical Message (Posture and Eye Contact)</p> <p>Week 3: Physical Message (Gestures and Voice)</p> <p>Week 4: Mini-Speech 1 (Informative Speech)</p> <p>Week 5: Visual Message (Effective Visuals)</p> <p>Week 6: Visual Message (Explaining Visuals)</p> <p>Week 7: Visual Message (Creating Visuals)</p> <p>Week 8: Mini-Speech 2 (Country Comparison Speech)</p> <p>Week 9: Story Message (Introduction)</p> <p>Week 10: Story Message (Body and Evidence)</p> <p>Week 11: Story Message (Body and Transitions)</p> <p>Week 12: Story Message (Conclusion)</p> <p>Week 13: Final Speech (Persuasive Speech)</p> <p>Week 14: Final Speech (Persuasive Speech / Wrap Up)</p>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Most of the activities will be conducted within the 100-minute class period. When homework is assigned, students are expected to complete it fully by the deadline.		
テキスト	Harrington, D. & LeBeau, C. (2008). <i>Speaking of Speech: Basic Presentation Skills for Beginners</i> . MacMillan.		
参考文献	Bring the textbook and a pen/pencil to every class.		
評価方法	Active Participation/HW = 30%, Mini-Speeches = 20%, Persuasive Speech = 50%		

09年度以降	Comprehensive English I (1年6組)	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class for first-year students develops a range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in highschool.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To give students maximum opportunities to communicate To build student confidence in interpersonal communication To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<ol style="list-style-type: none"> Course information and personal introductions Manners and politeness Stereotypes and multiculturalism Comparative and superlative adjectives Skills and preferences Jobs and employment Past simple and present perfect Requests and responses Agreeing and disagreeing Movies and emotions Things that cause feelings and how you feel Rules and suggestions Real and imaginary situations Test and course review 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework is an important aspect of this course and students will be given homework at the end of most lessons.		
テキスト	No text is required for this course. Handouts will be provided.		
参考文献	特になし		
評価方法	Tests: 40%, Participation: 40%, Homework: 20%		

09年度以降	Comprehensive English II (1年6組)	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a more competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students to develop a basic knowledge of the skills required for organizing a speech and developing speech writing skills To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and speech writing skills To build student confidence in speech communication in small and larger group contexts 		<ol style="list-style-type: none"> Course information Practise good posture, eye contact, body language Write scripts and prepare for first presentations First presentations Practise gesturing and emphasising key words Write scripts and prepare for second presentations Second presentations (first half of the class) Second presentations (second half of the class) Learn to create effective visuals Write scripts and prepare for third presentations Third presentations Third presentations Write scripts and prepare for final presentations Final presentations 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	This class will be demanding in terms of time spent on individual out-of-class assignments. Preparing for presentations at home will be vital.		
テキスト	David Harrington & Charles LeBeau, <i>Speaking of Speech</i> , MacMillan		
参考文献	特になし		
評価方法	Presentations: 80%, Class participation: 20%		

13年度以降	Comprehensive English I (1年7組)	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class for first-year students develops a range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in highschool.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to course and class 2. Personalized topics: Family and Hometown 3. Personalized topics: School experiences/education 4. Personalized topics: Lifestyle/Healthy living 5. Me, My Life posters 6. Personalized topics: travel experiences 7. Reading and discussion assignments 8. Reading and discussion assignments 9. The language of reasoning and critical thinking 10. Choosing social issues for reading/research 11. Class survey/Collation of survey result 12. Oral reports and discussions of chosen issues 13. Oral reports and discussions of chosen issues 14. Course review and self-reflection 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials, and vocabulary /reading preparation for next class		
テキスト	No textbook is required		
参考文献	No reference book		
評価方法	Active class participation (60%), oral reports/presentations, book reports (30%), speaking tests (10%)		

13年度以降	Comprehensive English II (1年7組)	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a more competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To help students to develop a basic knowledge of the skills required for organizing a speech and developing speech writing skills 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and speech writing skills 3. To build student confidence in speech communication in small and larger group contexts 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to course and class 2. Great Lives poster reports 3. The language of reasoning and critical thinking 4. Internet news assignments reports and discussion 5. Internet news assignments reports and discussion 6. Internet news assignments reports and discussion 7. Internet news assignments reports and discussion 8. Graded reader book reports 9. World Heritage and the Environment 10. Fluency speech topics 11. Issues (cause, effect, solution chain) presentations 12. Issues (cause, effect, solution chain) presentations 13. Mind-map reports on New Year traditions 14. Course review and self-reflection 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials, and vocabulary /reading preparation for next class		
テキスト	No textbook is required		
参考文献	No reference book		
評価方法	Active class participation (60%), oral reports/presentations, book reports (30%), speaking tests (10%)		

13年度以降	Comprehensive English I (1年8組)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class for first-year students develops a range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To give students maximum opportunities to communicate To build student confidence in interpersonal communication To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<ol style="list-style-type: none"> Orientation; Topic 1: Pair practice & accuracy demonstration Topic 2: Pair practice & accuracy assessment (Introductions) Topic 3: Pair practice & accuracy assessment (Asking questions) Topic 4: Pair practice & accuracy assessment (Answering questions) Topic 5: Pair practice & accuracy assessment (Echo) Topic 6: Pair practice & accuracy assessment (Confirmation) Topic 7: Pair practice & accuracy assessment (Justify) Topic 8: Pair practice & accuracy assessment (Reason) Topic 9: Pair practice & accuracy assessment (Invite) Topic 10: Pair practice & accuracy assessment (Accept) Topic 11: Pair practice & accuracy assessment (Reject) Topic 12: Pair practice & accuracy assessment (Correct) Topic 13: Pair practice & accuracy assessment (Describe) Topic 14: Pair practice & accuracy assessment (Review) 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits		
テキスト	None		
参考文献	None		
評価方法	Participation & in-class performance 34%; Task 13%; Accuracy 39%; Homework 14%.		

13年度以降	Comprehensive English II (1年8組)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a more competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students to develop a basic knowledge of the skills required for organizing a speech and developing speech writing skills To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and speech writing skills To build student confidence in speech communication in small and larger group contexts 		<ol style="list-style-type: none"> Orientation; Impromptu speech skill & practice Impromptu speech skill & practice Impromptu speech assessment Speeches VS Presentations (Difference) Speeches VS Presentations (Examples) Historical speeches; Speech 1 skill & practice (Topic) Historical speeches; Speech 1 skill & practice (Research basics) Historical speeches; Speech 1 skill & practice (Drafting manuscript basics) Speech 1 assessment (Evaluation of Speech 1) Speech 1 assessment (Review of Speech 1) Historical speeches; Speech 2 skill & practice (New Topic) Historical speeches; Speech 2 skill & practice (Research & drafting manuscript) Speech 2 assessment (Evaluation of Speech 2) Speech 2 assessment (Review of Speech 2) 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト	None		
参考文献	None		
評価方法	Participation & in-class performance 40%; Homework 10%; Impromptu speech 10%; Speech 1 20%; Speech 2 20%.		

13年度以降	Comprehensive English I (1年9組)	担当者	C. 芦沢
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class for first-year students develops a range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in highschool.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<p>Week 1: Class Introduction</p> <p>Week 2: Classroom English</p> <p>Week 3: Identity Map (Introduction and Reading)</p> <p>Week 4: Identity Map (Model and Creation)</p> <p>Week 5: Assessment 1 (Identity Map Presentations)</p> <p>Week 6: Conversation Skills (Conversation Starters)</p> <p>Week 7: Conversation Skills (Control a Conversation)</p> <p>Week 8: Conversation Skills (Active Listening)</p> <p>Week 9: Assessment 2 (Conversation Role-Play)</p> <p>Week 10: Discussion (Giving an Opinion and Reasons)</p> <p>Week 11: Discussion (Agreeing/Disagreeing)</p> <p>Week 12: Discussion (Leading a Discussion)</p> <p>Week 13: Discussion (Reporting a Discussion)</p> <p>Week 14: Assessment 3 (Small-Group Discussion)</p>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Most of the activities will be conducted within the 100-minute class period. When homework is assigned, students are expected to complete it fully by the deadline.		
テキスト	Materials will be provided by the instructor.		
参考文献	Bring course materials and a pen/pencil to every class.		
評価方法	Active Participation/HW = 40%, Assessments (3 x 20% each) = 60%		

13年度以降	Comprehensive English II (1年9組)	担当者	C. 芦沢
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a more competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To help students to develop a basic knowledge of the skills required for organizing a speech and developing speech writing skills 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and speech writing skills 3. To build student confidence in speech communication in small and larger group contexts 		<p>Week 1: Welcome Back/Summer Share</p> <p>Week 2: Physical Message (Posture and Eye Contact)</p> <p>Week 3: Physical Message (Gestures and Voice)</p> <p>Week 4: Mini-Speech 1 (Informative Speech)</p> <p>Week 5: Visual Message (Effective Visuals)</p> <p>Week 6: Visual Message (Explaining Visuals)</p> <p>Week 7: Visual Message (Creating Visuals)</p> <p>Week 8: Mini-Speech 2 (Country Comparison Speech)</p> <p>Week 9: Story Message (Introduction)</p> <p>Week 10: Story Message (Body and Evidence)</p> <p>Week 11: Story Message (Body and Transitions)</p> <p>Week 12: Story Message (Conclusion)</p> <p>Week 13: Final Speech (Persuasive Speech)</p> <p>Week 14: Final Speech (Persuasive Speech / Wrap Up)</p>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Most of the activities will be conducted within the 100-minute class period. When homework is assigned, students are expected to complete it fully by the deadline.		
テキスト	Harrington, D. & LeBeau, C. (2008). <i>Speaking of Speech: Basic Presentation Skills for Beginners</i> . MacMillan.		
参考文献	Bring the textbook and a pen/pencil to every class.		
評価方法	Active Participation/HW = 30%, Mini-Speeches = 20%, Persuasive Speech = 50%		

13年度以降	Comprehensive English I (1年10組)	担当者	N. A. カナロス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class for first-year students develops a range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in highschool.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To give students maximum opportunities to communicate To build student confidence in interpersonal communication To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<ol style="list-style-type: none"> Course introduction Small group discussion skills Small group presentation skills Small group discussion and presentation Large group discussion skills Large group presentation skills Large group discussion and presentation Speaking evaluation 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be given each week. Students are expected to preview the readings before class.		
テキスト	No textbook is required for this class. Materials and readings will be provided by the instructor.		
参考文献	none		
評価方法	Grades will be based on classroom participation 40%, homework assignments 20%, presentations 20%, speaking test 20%		

13年度以降	Comprehensive English II (1年10組)	担当者	N. A. カナロス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a more competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students to develop a basic knowledge of the skills required for organizing a speech and developing speech writing skills To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and speech writing skills To build student confidence in speech communication in small and larger group contexts 		<ol style="list-style-type: none"> Course introduction Narrative listening and speaking skills Communication through narrative Communication through narrative Narrative writing Narrative presentations Narrative presentations Active viewing skills Video viewing and discussion Communication evaluation 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be given each week. Students are expected to preview the readings before class.		
テキスト	Oxford University Press, Pride and Prejudice.		
参考文献	none		
評価方法	Grades will be based on classroom participation 40%, homework assignments 20%, presentations 20%, speaking test 20%		

13年度以降	Comprehensive English I (1年11組)	担当者	D. ベイカー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class for first-year students develops a range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in highschool.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To give students maximum opportunities to communicate To build student confidence in interpersonal communication To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<ol style="list-style-type: none"> Course orientation & overview First impressions Cultural & communicative awareness Ice-breakers Wh & Y/N questions Food & drink Active listening Music & feelings Communication skills review Books & films Study skills Group project preparation Group project practice Group presentations 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before - extensive writing for short speeches (20 mins) After - review previous week's classes (20 mins)		
テキスト	No set text		
参考文献	特になし		
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: (1)in-class attentiveness & attitude 50% (2)assignments 25% (3)review quizzes 25%		

13年度以降	Comprehensive English II (1年11組)	担当者	D. ベイカー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a more competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students to develop a basic knowledge of the skills required for organizing a speech and developing speech writing skills To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and speech writing skills To build student confidence in speech communication in small and larger group contexts 		<ol style="list-style-type: none"> Overview of the creative process Choosing your topic & researching Rule of three : Number five Outlining & drafting Editing & practicing Presentation week 1 Presentation feedback V for Vendetta 1: V's speech Vendetta 2: Valerie's letter Vendetta 3: Rookwood's story Presentation week 2 Presentation feedback Love Actually Presentation week 3 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before - presentation preparation & practice (30-60mins) After - editing (20 mins)		
テキスト	No set text		
参考文献	特になし		
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: (1)in-class attendance, attentiveness & attitude 50% (2)3 presentations 50%		

13年度以降	Comprehensive English I (1年12組)	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class for first-year students develops a range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in highschool.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To give students maximum opportunities to communicate To build student confidence in interpersonal communication To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<ol style="list-style-type: none"> Course information and personal introductions Manners and politeness Stereotypes and multiculturalism Comparative and superlative adjectives Skills and preferences Jobs and employment Past simple and present perfect Requests and responses Agreeing and disagreeing Movies and emotions Things that cause feelings and how you feel Rules and suggestions Real and imaginary situations Test and course review 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework is an important aspect of this course and students will be given homework at the end of most lessons.		
テキスト	No text is required for this course. Handouts will be provided.		
参考文献	特になし		
評価方法	Tests: 40%, Participation: 40%, Homework: 20%		

13年度以降	Comprehensive English II (1年12組)	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a more competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students to develop a basic knowledge of the skills required for organizing a speech and developing speech writing skills To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and speech writing skills To build student confidence in speech communication in small and larger group contexts 		<ol style="list-style-type: none"> Course information Practise good posture, eye contact, body language Write scripts and prepare for first presentations First presentations Practise gesturing and emphasising key words Write scripts and prepare for second presentations Second presentations (first half of the class) Second presentations (second half of the class) Learn to create effective visuals Write scripts and prepare for third presentations Third presentations Third presentations Write scripts and prepare for final presentations Final presentations 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	This class will be demanding in terms of time spent on individual out-of-class assignments. Preparing for presentations at home will be vital.		
テキスト	David Harrington & Charles LeBeau, <i>Speaking of Speech</i> , MacMillan		
参考文献	特になし		
評価方法	Presentations: 80%, Class participation: 20%		

13年度以降	Comprehensive English II (再履修)	担当者	M. L. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a more competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To help students to develop a basic knowledge of the skills required for organizing a speech and developing speech writing skills 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and speech writing skills 3. To build student confidence in speech communication in small and larger group contexts 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Course Intro – 2: Small group discussion – work, rest and play 3: Small group activity – going places 4: All about food – Writing task 1 5: Group activity – Fashion 6: Pair presentation prep – Sports 7: Paired Presentations 8: Discussion – Music 9: Group activity – Health 10: Opinion – lifestyle - Writing task 2 11: Group activity – Achievements 12: Group activity – Consequences 13: Group presentations preparation 14: Group presentations and course review 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lessons, complete homework and hand-in work promptly		
テキスト	All materials will be handed out by the instructor. Bring a notebook, pen and paper to class.		
参考文献	特になし		
評価方法	Class involvement 40%; general homework 20%; set writing tasks 20%; presentations 20%		

13年度以降	Comprehensive English I (再履修)	担当者	M. L. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term, twice-a-week required class for first-year students develops a range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in highschool.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction & Self Introductions. 2. Sports – Theme 1 3. Music – Theme 2 4. Food – Theme 3 5. Pair presentations 6. Crafts – Theme 4 7. Holidays – Theme 5 8. Games – Theme 6. Information exchange assignment due. 9. Cities and Places – Theme 7 10. Relaxation – Theme 8 11. Famous People – Theme 9. Reading review assignment due. 12. Superstitions – Theme 10 13. Anime – Theme 11 14. Group presentations Course review 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lessons, complete homework and hand-in work promptly		
テキスト	Long, R. (2015), <i>Explain it! Discussing Japanese culture in English</i> , Perceptia Press		
参考文献	特になし		
評価方法	Class involvement 40%; general homework 20%; set writing tasks 20%; presentations 20%		

13年度以降	Comprehensive English III (2年①)	担当者	E. ホフ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches second-year students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussions while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate their thoughts related to the topics and readings provided 		<p>Week 1: Course introduction and objectives</p> <p>Week 2: Unit 1 - Staying Healthy, Lesson A</p> <p>Week 3: Unit 1 - Staying Healthy, Lesson B</p> <p>Week 4: Unit 2 - Energy and Our Planet, Lesson A</p> <p>Week 5: Unit 2 - Energy and Our Planet, Lesson B</p> <p>Week 6: Unit 3 - Culture and Tradition, Lesson A</p> <p>Week 7: Unit 3 - Culture and Tradition, Lesson B</p> <p>Week 8: Midterm Evaluations</p> <p>Week 9: Midterm Evaluations</p> <p>Week 10: Unit 4 - A Thirsty World, Lesson A</p> <p>Week 11: Unit 4 - A Thirsty World, Lesson B</p> <p>Week 12: Unit 5 - Inside the Brain, Lesson A</p> <p>Week 13: Unit 5 - Inside the Brain, Lesson B</p> <p>Week 14: Final Evaluations</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Set aside 30 minutes for homework and class preparation, more time may be needed for evaluations		
テキスト	Pathways 2: Listening, Speaking, & Critical Thinking		
参考文献	特になし		
評価方法	In-class quizzes 30%, Homework 20%, Midterm evaluation 20%, Final evaluation 30%		

13年度以降	Comprehensive English IV (2年①)	担当者	E. ホフ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows second-year students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as the learning of their classmates, by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare presentations 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<p>Week 1: Preparation for autumn semester</p> <p>Week 2: Unit 6 - What to Eat, Lesson A</p> <p>Week 3: Unit 6 - What to Eat, Lesson B</p> <p>Week 4: Unit 7 - Our Active Earth, Lesson A</p> <p>Week 5: Unit 7 - Our Active Earth, Lesson B</p> <p>Week 6: Unit 8 - Ancient People and Places, Lesson A</p> <p>Week 7: Unit 8 - Ancient People and Places, Lesson B</p> <p>Week 8: Midterm Evaluations</p> <p>Week 9: Midterm Evaluations</p> <p>Week 10: Unit 9 - Species Survival, Lesson A</p> <p>Week 11: Unit 9 - Species Survival, Lesson B</p> <p>Week 12: Unit 10 - Entrepreneurs, Lesson A</p> <p>Week 13: Unit 10 - Entrepreneurs, Lesson B</p> <p>Week 14: Final Evaluations</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Set aside 30 minutes for homework and class preparation, more time may be needed for evaluations		
テキスト	Pathways 2: Listening, Speaking, & Critical Thinking		
参考文献	特になし		
評価方法	In-class quizzes 30%, Homework 20%, Midterm evaluation 20%, Final evaluation 30%		

13年度以降	Comprehensive English III (2年②)	担当者	J. ハント
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches second-year students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussions while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To teach students the skills involved in effective group discussion To improve reading comprehension skills using topical reading material To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate their thoughts related to the topics and readings provided 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction and course orientation Research Skills and Critical Thinking Building and Presenting an Argument Active Listening and Note Taking Discussion preparation : Internet Addiction Discussion 1: Internet Addiction Discussion preparation: Gun Control Discussion 2: Gun Control Discussion preparation: Death Penalty Discussion 3: Death Penalty Discussion preparation: Animal Rights Discussion 4: Animal Rights Discussion preparation: Artificial Intelligence Discussion 5: Artificial Intelligence <p>(Topics may change depending on abilities and interests)</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Reading, discussion preparation, further research, summary writing. Approx. 90 minutes/week.		
テキスト	Materials (prints and links) will be provided.		
参考文献	To be provided.		
評価方法	Classroom discussions 50%; Portfolio 50%		

13年度以降	Comprehensive English IV (2年②)	担当者	J. ハント
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows second-year students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as the learning of their classmates, by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process To teach students the how to prepare presentations To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction and course orientation Social Issues and Selecting a Topic Research Skills Presentation Skills and Slide Design Group 1 Presentation Group 2 Presentation Group 3 Presentation Group 4 Presentation Group 5 Presentation Group 6 Presentation Group 7 Presentation Group 8 Presentation Group 9 Presentation Group 10 Presentation <p>(Topics of presentations are selected by the students)</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Presentation skills, research, discussion preparation, summary writing. Approx. 90 minutes/week.		
テキスト	Materials (prints and links) will be provided.		
参考文献	To be provided.		
評価方法	Presentations 50%; Portfolio 50%		

13年度以降	Comprehensive English III (2年③)	担当者	D. グライムズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches second-year students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussions while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To teach students the skills involved in effective group discussion To improve reading comprehension skills using topical reading material To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate their thoughts related to the topics and readings provided 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction – Discussion Procedure Career Choice: Ranking Factors / Identifying Factors Choosing a Topic / Discussion Steps Practice Presentations and Peer Feedback Discussion Presentations Cosmetic Surgery: Opinion / Discussion Steps Agreeing and Disagreeing with Opinions Practice Presentations and Peer Feedback Discussion Presentations Environment: Problem Solving / Discussion Steps Identifying Causes and Solutions Practice Discussions and Peer Feedback Discussion Presentations Review and Wrap-up / Make-up Presentations 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)		
テキスト	No text: The material will be provided by the teacher.		
参考文献	特になし		
評価方法	Quizzes – 10% Discussions – 60% In-class Participation – 30%		

13年度以降	Comprehensive English IV (2年③)	担当者	D. グライムズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows second-year students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as the learning of their classmates, by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process To teach students the how to prepare presentations To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction / Presenting an Interview Open-ended Questions for Interviews Conducting an Interview Individual In-class Presentation Informative Presentation / Choosing a Topic Organizing a Presentation Using PowerPoint / Presentation Workshop In-class Presentation Policy Debate / Choosing a Topic Constructive speech and Open Debate Rebuttals Model Debate In-class Debates Review and Wrap-up / Make-up Presentations 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)		
テキスト	No text: The material will be provided by the teacher.		
参考文献	特になし		
評価方法	Presentations and Discussions – 70% In-class Participation – 30%		

13年度以降	Comprehensive English III (2年④)	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches second-year students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussions while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate their thoughts related to the topics and readings provided 		<ol style="list-style-type: none"> 1. introductions + foreign countries 1 Latin America 2. Foreign countries 2--Africa 3. Education 1 - Europe 4. Education 2- Homeschooling 5. Health -1+ ethics 6. Health 2 = technology 7. Arts -1- movies 8. Arts 2 Design 9. Poster presentation 10. Technology f1 ; or crime fighting 11. Technology 2 : for privacy 12. Intelligence & Talents 1-- Nobel Prize 13. Intelligence & Talents 2: genius ; test explained 14. Test & Review 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post lesson review will be explained when necessary		
テキスト	No textbook / teacher materials provided		
参考文献	Electronic dictionary is OK		
評価方法	30% class effort 30% presentation 40% end of semester test		

13年度以降	Comprehensive English IV (2年④)	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows second-year students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as the learning of their classmates, by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare presentations 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Tourism 1 Hotels 2. Tourism 2 Envirnment 3. money : tax havens 1 4. Work : Nike 5. Media issues 1 Paparazzi 6. Media issues 2 Celebrity 7. Rights 1 Chikdren 8. Rights 2 Marriage 9. Global living trends 1 Mega cities 10. Global living trends 2 Gated communities 11. Poster presentation 12. Crime 1 Brazil 13. Crime 2 ; UK Test explained 14. Test & review 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post lesson review will be explained when necessary		
テキスト	No textbook / teacher materials provided		
参考文献	Electronic dictionary is OK		
評価方法	30% class effort 30% presentation 40% end of semester test		

13年度以降	Comprehensive English III (2年⑤)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches second-year students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussions while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate their thoughts related to the topics and readings provided 		<p>Below is the potential list of topics that will be covered. This may change according to the pace and interests of the students.</p> <p>First Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the teacher. 2. Introduction of the course of studies. 3. Impromptu speeches. 4. Introduction to the use of the internet for studies. 5. How the class will be run. 6. Recall and note taking. 7. How to improve your English skills. 8. How to make great speeches. 9. Discussion topics in groups. 10. What makes for a great speech. 11. The qualities of a famous people. 12. Great teacher qualities. 13. You as a language learner. 14. Revision of semester's work 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.		
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.		
参考文献	Students will be expected to use the internet and other sources for research purposes.		
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%		

13年度以降	Comprehensive English IV (2年⑤)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows second-year students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as the learning of their classmates, by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare presentations 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<p>Below is the potential list of topics that will be covered. This may change according to the pace and interests of the students.</p> <p>Second Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Welcome back to Class. 2. Experiences over summer break. 3. Use of internet in learning. 4. Keys to giving good speeches. 5. Introduction to Japanese work ethics. 6. Careers discussion. 7. Internet research on working in Japan. 8. Analysis of a case study on working for a Japanese company. 9. Class survey on job options. 10. Cultural practices with woman and work. 11. Social activities and work. 12. Other cultural practices. 13. Discrimination at the work place. 14. Summary of semester's study. 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.		
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.		
参考文献	Students will be expected to use the internet and other sources for research purposes.		
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%		

13年度以降	Comprehensive English III (2年⑥)	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches second-year students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussions while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To teach students the skills involved in effective group discussion To improve reading comprehension skills using topical reading material To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate their thoughts related to the topics and readings provided 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions, course outline, evaluation, course requirements, discussions, start individual e-journal (to be completed weekly, using Microsoft word and email at the end of the semester). Choose a research topic for the semester and start research, data collection and PowerPoint presentation. 2. Mexico: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 3. Denmark: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 4. London: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 5. India: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 6. Saudi Arabia: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 7. Mid-term quiz - 15% - Reading, listening & comprehension questions. 8. Egypt: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 9. Brazil: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 10. Peru: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 11. Australia: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 12. Finland: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 13. New York: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 14. End-of-term quiz - 15% - Reading, listening & comprehension questions. E-journal 20%, email final submission in Microsoft Word format. Research topic presentation report 20%, email final submission in Microsoft PowerPoint format. 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Individual topic and country research, weekly e-journal and final presentation preparation		
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week		
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week		
評価方法	1. Class presentations = 20%, 2. Class activities, e-journal & library research tasks = 50% , 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%		

13年度以降	Comprehensive English IV (2年⑥)	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows second-year students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as the learning of their classmates, by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process To teach students the how to prepare presentations To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions, course outline, evaluation, course requirements, discussions, , start individual e-journal (to be completed weekly, using Microsoft word and email at the end of the semester). Choose a research topic for the semester and start research, data collection and PowerPoint presentation. 2. Greece: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 3. Italy: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 4. France: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 5. Los Angeles: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 6. Canada: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 7. Mid-term quiz - 15% - Reading, listening & comprehension questions. 8. Israel: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 9. Taiwan: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 10. Singapore: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 11. Turkey: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 12. China: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 13. Sweden: The history, culture, world heritage, tourist locations, cuisine, famous people & attractions 14. End-of-term quiz - 15% - Reading, listening & comprehension questions. E-journal 20%, email final submission in Microsoft Word format. Research topic presentation report 20%, email final submission in Microsoft PowerPoint format. 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Individual topic and country research, weekly e-journal and final presentation preparation		
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week		
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week		
評価方法	1. Class presentations = 20%, 2. Class activities, e-journal & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%		

13年度以降	Comprehensive English III (2年⑦)	担当者	R. ウィルコックス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches second-year students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussions while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To teach students the skills involved in effective group discussion To improve reading comprehension skills using topical reading material To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate their thoughts related to the topics and readings provided 		<ol style="list-style-type: none"> Chapter 1: Answering 6 Common Interview Questions Chapter 2: Young Women Changing The World Chapter 3: Student Learning Teams Chapter 4: Learning to Speak Mid Term Debate Preparation Mid Term Debate Tests Chapter 5: The Man in the Moon Has Company Chapter 6: Culture Shock Chapter 7: Private Lives Chapter 8: A Young Blind Wizard Poster Presentation Preparation Poster Presentations Chapter 9: How To Make A Speech Final Written Test 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments		
テキスト	Textbook: Select Readings: Intermediate, 2nd Edition, Lee and Gundersen, Oxford, 2011, ISBN: 9780194332125		
参考文献	Google Scholar		
評価方法	Debate Test 30%, Poster Presentation 35%, Final Written Test 35%		

13年度以降	Comprehensive English IV (2年⑦)	担当者	R. ウィルコックス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows second-year students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as the learning of their classmates, by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process To teach students the how to prepare presentations To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<ol style="list-style-type: none"> Unit 1: Self Introduction Unit 2: Hometown Unit 3: Family Unit 4: Interests Unit 5: Education Mid Term Written Test Unit 6: Culture Shock Unit 7: Stereotypes Unit 8: Population Poster Presentation Preparation Poster Presentations Powerpoint Presentation Preparation Powerpoint Presentations Powerpoint Presentations 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments		
テキスト	Textbook: Successful Presentations, Stafford, Cengage, 2012, ISBN: 9784863122123		
参考文献	Google Scholar		
評価方法	Midterm Written Test 30%, Poster Presentation 35%, Final Powerpoint Presentation 35%		

13年度以降	Comprehensive English III (2年⑧)	担当者	D. グライムズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches second-year students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussions while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To teach students the skills involved in effective group discussion To improve reading comprehension skills using topical reading material To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate their thoughts related to the topics and readings provided 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction – Discussion Procedure Career Choice: Ranking Factors / Identifying Factors Choosing a Topic / Discussion Steps Practice Presentations and Peer Feedback Discussion Presentations Cosmetic Surgery: Opinion / Discussion Steps Agreeing and Disagreeing with Opinions Practice Presentations and Peer Feedback Discussion Presentations Environment: Problem Solving / Discussion Steps Identifying Causes and Solutions Practice Discussions and Peer Feedback Discussion Presentations Review and Wrap-up / Make-up Presentations 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)		
テキスト	No text: The material will be provided by the teacher.		
参考文献	特になし		
評価方法	Quizzes – 10% Discussions – 60% In-class Participation – 30%		

13年度以降	Comprehensive English IV (2年⑧)	担当者	D. グライムズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows second-year students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as the learning of their classmates, by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process To teach students the how to prepare presentations To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction / Presenting an Interview Open-ended Questions for Interviews Conducting an Interview Individual In-class Presentation Informative Presentation / Choosing a Topic Organizing a Presentation Using PowerPoint / Presentation Workshop In-class Presentation Policy Debate / Choosing a Topic Constructive speech and Open Debate Rebuttals Model Debate In-class Debates Review and Wrap-up / Make-up Presentations 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)		
テキスト	No text: The material will be provided by the teacher.		
参考文献	特になし		
評価方法	Presentations and Discussions – 70% In-class Participation – 30%		

13年度以降	Comprehensive English III (2年⑨)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches second-year students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussions while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate their thoughts related to the topics and readings provided 		<p>Below is the potential list of topics that will be covered. This may change according to the pace and interests of the students.</p> <p>First Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the teacher. 2. Introduction of the course of studies. 3. Impromptu speeches. 4. Introduction to the use of the internet for studies. 5. How the class will be run. 6. Recall and note taking. 7. How to improve your English skills. 8. How to make great speeches. 9. Discussion topics in groups. 10. What makes for a great speech. 11. The qualities of a famous people. 12. Great teacher qualities. 13. You as a language learner. 14. Revision of semester's work. 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.		
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.		
参考文献	Students will be expected to use the internet and other sources for research purposes.		
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%		

13年度以降	Comprehensive English IV (2年⑨)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows second-year students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as the learning of their classmates, by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare presentations 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<p>Below is the potential list of topics that will be covered. This may change according to the pace and interests of the students.</p> <p>Second Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Welcome back to Class. 2. Experiences over summer break. 3. Use of internet in learning. 4. Keys to giving good speeches. 5. Introduction to Japanese work ethics. 6. Careers discussion. 7. Internet research on working in Japan. 8. Analysis of a case study on working for a Japanese company. 9. Class survey on job options. 10. Cultural practices with woman and work. 11. Social activities and work. 12. Other cultural practices. 13. Discrimination at the work place. 14. Summary of semester's study. 	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.		
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.		
参考文献	Students will be expected to use the internet and other sources for research purposes.		
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%		

13年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑩)	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches second-year students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussions while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate their thoughts related to the topics and readings provided 		<p>Week 1 – Course Introduction</p> <p>Week 2 – Hidden Miracles Reading and TED Talk</p> <p>Week 3 – Sleep Matters and TED Talk</p> <p>Week 4 – Cyborg Tech and TED Talk</p> <p>Week 5 – Happy Planet and TED Talk</p> <p>Week 6 – Career Paths and TED Talk</p> <p>Week 7 – Review,</p> <p>Week 8 – Text Generation and TED Talk</p> <p>Week 9 – Barriers and Bridges and TED Talk</p> <p>Week 10 – Personality Types and TED Talk</p> <p>Week 11 – Smart Thinking and TED Talk</p> <p>Week 12 – Facing Fear and TED Talk</p> <p>Week 13 – Topical Reading and Group Discussion</p> <p>Week 14 – Topical Reading and Group Discussion</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	When reading material is assigned in advance, students should read it before class. If an assignment such as preparing a discussion topic is given, students are expected to do it.		
テキスト	21 st Century Reading – Creative Thinking and Reading with TED Talks by Laurie Blass, Mari Vargo, and Ingrid Wisniewska Publisher – National Geographic Learning and CENGAGE Learnings		
参考文献	特になし		
評価方法	Class participation – 40%, Reading comprehension activities – 30%, Discussion activities – 30%		

13年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑩)	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows second-year students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as the learning of their classmates, by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare presentations 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<p>Week 1 – Introduction and Choosing Appropriate Topics</p> <p>Week 2 – Self-Introduction</p> <p>Week 3 – An Important Person or Thing</p> <p>Week 4 – Places</p> <p>Week 5 – Opinions</p> <p>Week 6 – A Guide to Writing a Better Presentation</p> <p>Week 7 – Biography</p> <p>Week 8 – Stories</p> <p>Week 9 – Solving Problems</p> <p>Week 10 – A Guide to Using Notes</p> <p>Week 11 – Individual Presentations</p> <p>Week 12 – Individual Presentations</p> <p>Week 13 – Group Discussion</p> <p>Week 14 – Group Presentations</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	When reading material is assigned in advance, students should read it before class. If an assignment such as preparing a discussion topic is given, students are expected to do it.		
テキスト	Ready to Present – A Guide to Better Presentations by Herman Bartelen and Malcolm Kostiuik, Publisher: National Geographic Learning, CENGAGE Learning		
参考文献	特になし		
評価方法	Class participation – 40%, Discussion activities – 30%, Presentation activities – 30%		

13年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑩)	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches second-year students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussions while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach students the skills involved in effective group discussion 2. To improve reading comprehension skills using topical reading material 3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate their thoughts related to the topics and readings provided 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Welcome - introductions and course outline. 2. Getting to know you - conversation activities. 3. My articles - reading and discussion, teacher's materials. 4. Your articles - reading and discussion, student's materials. 5. Reading skills - reading exercises. 6. Breaking news - student research. 7. New presentations - student present topics. 8. Further articles articles - further discussion activities. 9. Students' articles - further student topic discussions. 10. Discussion research - student activity 11. Discussion presentations - topic research 12. Group research - student-led class discussions research 13. Group presentations - student-led class discussions 14. Speaking test - oral assessment. 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparing articles, questions, discussion related materials before each class and critical review after each class		
テキスト	None		
参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (50%), and class presentations (50%)		

13年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑪)	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows second-year students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning, as well as the learning of their classmates, by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process 2. To teach students the how to prepare presentations 3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Welcome back - conversation activities. 2. Speaking - effective presentation skills. 3. Group work - mini presentations from teacher's materials. 4. Questions time - activities for discussion. 5. Halloween - fear themed discussion topics 6. Group work research - mini presentations. 7. Group work - discussion activities. 8. Further group work - mini presentations in groups. 9. Games - student designed speaking activities. 10. Presentation planning - topic selection. 11. Presentation preparation - research. 12. Class presentations - preparation. 13. Class work - presentations 14. Looking back - course review activities. 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸ばし、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparing articles, questions, discussion related materials before each class and critical review after each class.		
テキスト	None		
参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (50%), and class presentations (50%)		

13 年度以降	Comprehensive English III (2 年 ⑫)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To teach students the skills involved in effective group discussion To improve reading comprehension skills using topical reading material To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings 		<p>(* Note: This is a tentative weekly schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Introductions, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. International News article and/or International video exercises & discussion.</p> <p>Week 2: Review/ practice of Introductions. Asking student suggestions for INTERNATIONAL topics/themes which they would like to learn & study.</p> <p>Week 3: 'What are your plans for Golden Week?': explaining Future activities, in Modern English. Assignment of a Presentation Topic; and selection of Presentation partner(s). Continuous assessment.</p> <p>Week 4: Focusing your Presentation: How to summarize, prepare, and make [present] for your Presentation. Video and/or Audio Cloze-listening exercise, with discussion thereof.</p> <p>Week 5: Student hobbies, and explaining thereof, in Modern English. Pair practice thereof. Continuous assessment. Mother's Day song and/or discussion.</p> <p>Week 6: Discussion of recent International News articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.) Ongoing student assessment.</p> <p>Week 7: Preparations for making presentations & discussions. International vs. Domestic etiquette and manners ('EQ').</p> <p>Week 8: International News stories, with discussion. Continuous assessment. Presentation practice, with peer-assessment.</p> <p>Week 9: Peer-assessment of 'intro' presentations. Preparations for final class presentations. 'What kind of ... do you like?': explaining preferences, in Modern English.</p> <p>Week 10: Final Student presentations begin. Video and/or Audio Cloze listening exercise.</p> <p>Week 11: Discussion of recent International News articles, and/or News Videos. Presentations.</p> <p>Week 12: Further student presentations & class discussion. Video and/or song listening & discussion exercise.</p> <p>Week 13: Final presentations. 'What do you think of ...?': Giving your opinions about various topics.</p> <p>Week 14: Giving opinions, part two: elaborating. Final presentations. Ongoing assessment.</p>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト	We will mostly be using research materials: newspaper/magazine articles; library books; reliable Internet sources; and so on. Some International newspaper articles may be used to stimulate discussion. IF a textbook is necessary, one will be chosen.		
参考文献	特になし N/A		
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often "the 'ongoing assessment technique'". Your assessment will be based on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you summarize & present your topic; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be <i>tentatively</i> & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The actual percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason.		

13 年度以降	Comprehensive English IV (2 年 ⑫)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion 		<p>* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, elaborating on, and discussing your Summer Break, using modern English.</p> <p>Week 2: "Used to": four different usages of 'used to'; with pair practice. Continuous assessments.</p> <p>Week 3: Researching Christmas (and/or another Presentation topic). Discussion of News/Documentary Video.</p> <p>Week 4: Preparation time for pair presentations. How to invite someone to an event, in English, by telephone. Ongoing assessments.</p> <p>Week 5: Practice with telephone invitations. Hallowe'en discussion, and/or video.</p> <p>Week 6: Restaurant ordering in English, at sit-down restaurants. Ongoing assessments. Continuation of TV documentary listening & discussion.</p> <p>Week 7: Pair practice of restaurant ordering. Start of short "demo" presentations. Peer-assessment (& recommendations) of those short presentation 'intros'.</p> <p>Week 8: Thanksgiving: history; and usual Thanksgiving customs & dates. 'What are you thankful for?' Further short 'demo' presentations; peer-assessment & recommendations, re: those 'demo' presentations.</p> <p>Week 9: Pair practice of 'thankful' activity. Finalizing preparations and practice for presentations.</p> <p>Week 10: Asking for, and giving, street directions and/or train directions in English. Pair practice of that. Student presentations begin.</p> <p>Week 11: Class presentations & discussions. Christmas song-listening activity, and/or Christmas video.</p> <p>Week 12: Discussion of Christmas and New Year's plans. Christmas song activity, continued. Further class presentations.</p> <p>Week 13: How was your New Year's/ Christmas? Pair-practice thereof. Class presentations.</p> <p>Week 14: Discussing & pair-practicing New Year's Resolutions. Last opportunity for class presentations.</p>	
到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト	We will mostly be using research materials: newspaper/magazine articles; library books; reliable Internet sources; and so on. Some International newspaper articles may be used to stimulate discussion. IF a textbook is necessary, one will be chosen.		
参考文献	特になし N/A		
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often "the 'ongoing assessment technique'". Your assessment will be based on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you summarize & present your topic; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be <i>tentatively</i> & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The actual percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason.		

13年度以降	Reading Strategies I (1年1組)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar and cohesive devices To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> Orientation The millennial generation—vocabulary The millennial generation—discussion Chinese face—vocabulary Chinese face—discussion The Paris syndrome—vocabulary The Paris syndrome—discussion Culture shock—vocabulary Culture shock—discussion Identity and gender—vocabulary Identity and gender—discussion The environment—vocabulary The environment—discussion Summary and evaluation 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	You should complete all homework before coming to class. You should read all materials and answer all questions in your notebooks after each class. (About 4 hours each week of homework)		
テキスト	Texts to be distributed in class.		
参考文献	References to be distributed in class.		
評価方法	Essays = 20%, Notebooks = 40%, Participation = 20%, Quizzes = 20%		

13年度以降	Reading Strategies II (1年1組)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> Orientation Omelas – a short story—vocabulary Omelas – a short story—structure Omelas – a short story—discourse Omelas – a short story—discussion Hawaii – genes and generations—vocabulary Hawaii – genes and generations—structure Hawaii – genes and generations—discourse Hawaii – genes and generations—discussion Wonder bread – consumer reports—vocabulary Wonder bread – consumer reports—discussion Globalization and language—vocabulary Globalization and language—discussion Summary and evaluation 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	You should complete all homework before coming to class. You should read all materials and answer all questions in your notebooks after each class. (About 4 hours each week of homework)		
テキスト	Texts to be distributed in class		
参考文献	References to be distributed in class.		
評価方法	Essays = 20%, Notebooks = 40%, Participation = 20%, Quizzes = 20%		

13年度以降	Reading Strategies I (1年2組)	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar and cohesive devices To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> Course Introduction Reading 1: Introduction to author and theme / First read Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises Reading 1: Group discussion / Final read and review Reading 2: Introduction to author and theme / First read Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises Reading 2: Group discussion / Final read and review Reading 3: Introduction to author and theme / First read Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises Reading 3: Group discussion / Final read and review Reading 4: Introduction to author and theme / First read Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises Reading 4: Group discussion / Final read and review Final Assessment 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト	Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		
参考文献	A comprehensive reading list will be distributed in class.		
評価方法	Evaluations will be based on participation in classroom discussions (30%), the completion of in-class and homework assignments (35%), and achievement on a final essay (35%).		

13年度以降	Reading Strategies II (1年2組)	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> Course Introduction Reading 1: Introduction to author and theme / First read Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises Reading 1: Group discussion / Final read and review Reading 2: Introduction to author and theme / First read Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises Reading 2: Group discussion / Final read and review Reading 3: Introduction to author and theme / First read Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises Reading 3: Group discussion / Final read and review Reading 4: Introduction to author and theme / First read Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises Reading 4: Group discussion / Final read and review Final Assessment 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト	Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		
参考文献	A comprehensive reading list will be distributed in class.		
評価方法	Evaluations will be based on participation in classroom discussions (30%), the completion of in-class and homework assignments (35%), and achievement on a final essay (35%).		

13年度以降	Reading Strategies I (1年3組)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar and cohesive devices To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction & Assessment Rapid Reading Introduction Graded Reading Introduction Library Seminar TOEFL reading – Spatial order TOEFL reading – Chronological order TOEFL reading – Scientific article TOEFL reading – Pros and Cons Historical Document Famous Speech Skimming & Scanning Collecting Information Write up an Itinerary Wrap up 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教材は事前に授業で配布するかポータルにアップするので、必ず事前学習を行うこと。授業内に理解できなかったことは、事後学習で解決すること。		
テキスト	ハンドアウトを用意する。		
参考文献	必要に応じて、授業内で紹介する。		
評価方法	授業内活動参加 40% 授業内小テスト 20% 試験 40% (パーセンテージは暫定のものである)		

13年度以降	Reading Strategies II (1年3組)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> Reading for Structure and Organization –Introduction Review of TOEFL reading The Danger of A Single Story’ –Overall Structure Importance of Background knowledge Understanding of Themes Strategies for Persuasion ‘Coffee and Globalization& –Overall Structure Importance of Background knowledge Understanding of Themes Strategies for Persuasion This is my England’ – Overall Structure Importance of Background knowledge Understanding of Themes Strategies for Persuasion 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教材は事前に授業で配布するかポータルにアップするので、必ず事前学習を行うこと。授業内に理解できなかったことは、事後学習で解決すること。		
テキスト	ハンドアウトを用意する。		
参考文献	必要に応じて、授業内で紹介する。		
評価方法	授業内活動参加 40% 授業内小テスト 20% 試験 40% (パーセンテージは暫定のものである)		

13年度以降	Reading Strategies I (1年4組)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar and cohesive devices To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> イントロダクション The United Kingdom Multicultural Britain The UK and the EU Tea Social class Schools and education University students and higher education Women in society Science, inventions, and business Politics and government Food Music and fashion Fantasy and castles 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の指定された章を事前に精読する。		
テキスト	Knight, Tim (2018) <i>Welcome to Britain</i> . 音羽書房鶴見書店、その他はプリントを配布する。		
参考文献	授業中に知らせる。		
評価方法	毎回行う小テストの結果で評価する。		

13年度以降	Reading Strategies II (1年4組)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> Language The arts Homes, gardens and the countryside Art Biology History Sociology Chemistry Psychology Architecture Ecology Anthropology Art History まとめ 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業で行う TOEFL Practice Test の問題を、事後に精読する。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献	授業中に知らせる。		
評価方法	毎回行う小テストの結果で評価する		

13年度以降	Reading Strategies I (1年5組)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar and cohesive devices To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction, Reading for fun Preview, Reading academic topics (1) Library Seminar, Citations Structure (1) Introduction, Thesis statement Structure (2) Topic sentence, Reading topics (2) Structure (3) Supporting sentences Structure (4) Paragraph relations, Reading topics (3) Selecting materials, Citations Paraphrasing (1) Reading topics (4) Paraphrasing (2), Outlining (1), Reading topics (5) Outlining (2) Reading topics (6) Review 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to come to class, having completed their weekly assignments including reading, doing exercises, and researching on relevant topics.		
テキスト	Reading materials will be provided and/or specified in class.		
参考文献	特になし		
評価方法	Participation (Preps, In-class performance): 30%; Quizzes/Assignments: 30%; and Final assignment/Exam: 40%. Minimum attendance rate of approx. 70% is required for credit/grade evaluation.		

13年度以降	Reading Strategies II (1年5組)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction, Reading for research Reading charts and graphs, Reading topics (1) Summarizing (1) Summarizing (2), Reading topics (2) Finding and selecting Rd materials Comparing materials Review Making inferences (1), Reading topics (3) Making inferences (2) Research reading Using materials to support your paper, Reading topics (4) Scanning Skimming Review 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to come to class, having completed their weekly assignments including reading, doing exercises, and researching on relevant topics.		
テキスト	Reading materials will be provided and/or specified in class.		
参考文献	特になし		
評価方法	Participation (Preps, In-class performance): 30%; Quizzes/Assignments: 30%; and Final assignment/Exam: 40%. Minimum attendance rate of approx. 70% is required for credit/grade evaluation.		

13年度以降	Reading Strategies I (1年6組)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar and cohesive devices To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction: RS in the 21st century Should this course be taught all in English? When do you read softly, loudly or silently? Diagnosing your reading strategies Using the library Pre-reading strategies 1: <i>Who moved my cheese?</i> Pre-reading strategies 2: <i>I moved your cheese</i> Poster session Recognising patterns in paragraphs Recognising patterns in essays Tutorial Group presentation Tips for writing up Wrap-up 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials as well as two assigned books, and to work closely with other students to complete tasks and assignments.		
テキスト	(1) Johnson, S. (2006). <i>Who moved my cheese?</i> (2) Malhotra, D. (2011). <i>I moved your cheese.</i>		
参考文献	To be introduced by the instructor		
評価方法	Short essay 20%, poster and group presentations 50%, and final report 30%		

13年度以降	Reading Strategies II (1年6組)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> Review of RS I How useful are academic papers? Fast reading strategies Reading academic papers: Benefits and challenges Reading more efficiently 1: Being an active reader Reading more efficiently 2: Recognising parts of words Reading critically 1: Understanding knowledge claims Reading critically 2: Critical thinking Taking notes Outlining Tutorial Group presentation Tips for writing up Wrap-up 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the reading and course materials, and to work closely with other students to complete tasks and assignments.		
テキスト	Electronic copies, prints and handouts to be provided by the instructor		
参考文献	To be introduced by the instructor		
評価方法	Short essay 20%, group research presentations 40%, and final report 40%		

13年度以降	Reading Strategies I (1年7組)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar and cohesive devices To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<p>世界的に人気のTED Talk に基づくテキストを用いる。</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション Why explore?: The urge to explore Why explore?: Why we need the explorers. Success and failure: A school in the clouds Success and failure: How to learn from Mistakes Exploring more: Famous failures in history Power shifts: Why we have too few women leaders Exploring more: Women that reached the top Creative sparks: Sparking wonder and Possibility Creative sparks: The Mystery Box Hope and inequality: Living on a dollar a day Hope and inequality: The good news on poverty Exploring more: Creating an infographic 授業総括 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に予習した上で授業に臨むこと。		
テキスト	Laurie Blass and Jessica Williams. <i>21 Century Reading 4</i> . Cengage Learning. 2016.		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	単語テスト 10%、課題 15%、授業参加度 15%、学期末試験 60%		

13年度以降	Reading Strategies II (1年7組)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<p>世界的に人気のTED Talk に基づくテキストを用いる。</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション Backing up history: Laser preservation Backing up history: Ancient wonders captured in 3-D Food for all: Feeding nine billion Food for all: How food shapes our societies Exploring more: How can we create a Sitopia? Future jobs: Recipes for innovation Future jobs: What will future jobs look like? Exploring more: How can jobs become automated? How we learn: The linguistic genius of babies A brighter tomorrow: Paths to the future A brighter tomorrow: Innovating to Zero Exploring more: How can we save energy? 授業総括 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に予習した上で授業に臨むこと。		
テキスト	Laurie Blass and Jessica Williams. <i>21 Century Reading 4</i> . Cengage Learning. 2016.		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	単語テスト 10%、課題 15%、授業参加度 15%、学期末試験 60%		

13年度以降	Reading Strategies I (1年8組)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar and cohesive devices To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> 語彙を増やす：単語の意味を推測する 語彙を増やす：prefix & suffix 語彙を増やす：word families 文法を点検する 図書館セミナー 音読と朗読 読み進める前にやれること パラグラフの構成 パラグラフのパターン、文章のパターン 学術書を読んでもみる：動物の性別について 学術書を読んでもみる：アメリカのLGBT 小説を読んでもみる：出だしの約束事 短編小説を読んでもみる：物語の構成 まとめ <p>*図書館セミナーの回は変更になる可能性があります。</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中のプリントを見返しておくこと。宿題をやってくること。		
テキスト	プリントを配布。		
参考文献	授業中に提示します。		
評価方法	授業内外の課題 40%, 学期末試験 60% (ただし5回以上欠席は成績評価対象にしません。遅刻は1/2欠席扱いにします。)		

13年度以降	Reading Strategies II (1年8組)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> 春学期の復習 アウトラインを作る 学術書のアウトラインを作る：動物の性別 学術書のアウトラインを作る：アメリカのLGBT スピーチのアウトライン：女性とジェンダー スピーチを読んでアウトラインを作る スピーチのアウトライン：男性とジェンダー スピーチを読んでアウトラインを作る 行間を読む (making inferences) 詩の行間を読む 小説の行間を読む 推理小説の行間を読む ノンフィクションの行間を読む まとめ 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中のプリントを見返しておくこと。宿題をやってくること。		
テキスト	プリントを配布。		
参考文献	授業中に提示します。		
評価方法	授業内外の課題 40%, 学期末試験 60% (ただし5回以上欠席は成績評価対象にしません。遅刻は1/2欠席扱いにします。)		

13年度以降	Reading Strategies I (1年9組)	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar and cohesive devices To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション City Spaces (From a distance ~ in a studio apartment) City Spaces (Amazed by ~ had imagined) City SpacesとIdiom学習 Animal Conservation (One evening ~ foundation) Animal Conservation (Rabinowitz ~ will be saved) Animal ConservationとIdiom学習 Virus Writers and Hackers (When we ~ set in motion) Virus Writers and Hackers (And the part ~ isn't cool) Virus Writers and Hackersと映画英語 Natural Disasters (Solar storms ~ destroyed) Natural Disasters (However ~ forecast in system) Natural Disastersと映画英語 まとめ 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	隔週で実施する小テストに備えて、授業内容の復習を行うこと。		
テキスト	配布プリントを使用する。		
参考文献	なし		
評価方法	期末テスト 40% + 小テスト 30% + 授業への貢献度 30%		

13年度以降	Reading Strategies II (1年9組)	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション Art Detectives (There is a ~ their authenticity) Art Detectives (Nonetheless ~ not real) Art DetectivesとIdiom学習 Survival Skills (A person's ~ doesn't worry) Survival Skills (Long was ~ anytime soon) Survival SkillsとIdiom学習 Nature's Medicine (Suddenly ~ estimates that) Nature's Medicine (More than ~ to octopuses) Nature's Medicineと映画英語 Lost at Sea (By a twist ~ everything away) Lost at Sea (There were ~ a son-in-law) Lost at Seaと映画英語 まとめ 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	隔週で実施する小テストに備えて、授業内容の復習を行うこと。		
テキスト	配布プリントを使用する。		
参考文献	なし		
評価方法	期末テスト 40% + 小テスト 30% + 授業への貢献度 30%		

13年度以降	Reading Strategies I (1年10組)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar and cohesive devices To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> <i>N.H.Finkelstein, Friends Indeed</i> 1～5ページを講読 同上 6～10ページを講読 同上 11～15ページを講読 同上 16～20ページを講読 同上 21～25ページを講読 同上 26～30ページを講読 同上 31～35ページを講読 同上 36～40ページを講読 同上 41～45ページを講読 同上 46～50ページを講読 同上 51～55ページを講読 同上 56～60ページを講読 同上 61～65ページを講読 同上 66～70ページを講読 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。 また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
テキスト	英米史に関するテキストをコピーして、その都度配布します。		
参考文献	特になし		
評価方法	筆記試験をします。筆記試験は評価全体の60%です。平常点も40%ほど考慮します。 欠席が授業回数の1/3を超えた場合、単位を与えません。遅刻は3回で欠席1回分にカウントします。		

13年度以降	Reading Strategies II (1年10組)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> <i>N.H.Finkelstein, Friends Indeed</i> 71～75ページを講読 同上 76～80ページを講読 同上 81～85ページを講読 同上 86～90ページを講読 同上 91～95ページを講読 同上 96～100ページを講読 同上 101～105ページを講読 同上 106～110ページを講読 同上 111～115ページを講読 同上 116～120ページを講読 同上 121～125ページを講読 同上 126～130ページを講読 同上 131～135ページを講読 同上 136～140ページを講読 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期と同じ		
テキスト	春学期と同じ		
参考文献	特になし		
評価方法	春学期と同じ		

13年度以降	Reading Strategies I (1年11組)	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar and cohesive devices 3. To develop basic reading skills 4. To understand reading materials without translating into Japanese 5. To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction 2 Extensive reading: new vocabulary 3 Extensive reading: fiction and nonfiction 4 Extensive reading: books 5 Supplementary reading materials① 6 Vocabulary building: making use of the dictionary 7 Vocabulary building: guessing meaning 8 Vocabulary building: word parts 9 Vocabulary building: collocations 10 Vocabulary building: structure and reference 11 Supplementary reading materials② 12 Comprehensive reading: scanning 13 Comprehensive reading: making inference (pp.131-6) 14 Comprehensive reading: making inference (pp.137-145) 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	assignments		
テキスト	Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky, <i>More Reading Power 3</i> (Pearson Longman, 2012).		
参考文献	Other reading materials will be provided.		
評価方法	Participation (30%) , Assignments (30%), Exam(40%)		

13年度以降	Reading Strategies II (1年11組)	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To increase their vocabulary 2. To review grammar 3. To develop basic reading skills 4. To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Comprehensive reading: paragraphs (pp.147-155) 2 Comprehensive reading: paragraphs (pp.156-165) 3 Supplementary reading materials③ 4 Comprehensive reading: pattern (pp.172-180) 5 Comprehensive reading: pattern (pp.181-188) 6 Comprehensive reading: longer passages (pp.194-199) 7 Comprehensive reading: longer passages (pp.200-204) 8 Supplementary reading materials④ 9 Summarizing: short passages 10 Summarizing: long passages 11 Summarizing: newspaper articles 12 Supplementary reading materials⑤ 13 Reading faster: newspaper articles 14 Reading faster: journal articles 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	assignments		
テキスト	Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky, <i>More Reading Power 3</i> (Pearson Longman, 2012).		
参考文献	Other reading materials will be provided		
評価方法	Participation (30%) , Assignments (30%), Exam(40%)		

13 年度以降	Reading Strategies I (1 年 12 組)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar and cohesive devices To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction Unit 1: Why We Need Explorers Unit 1: Discussion Unit 2: How to Learn from Mistakes Unit 2: Discussion Library Workshop Unit 3: Why We Have Too Few Women Leaders Unit 3: Discussion Unit 4: The Mystery Box Unit 4: Discussion Unit 5: The Good News on Poverty Unit 5: Discussion Preparation for presentations Group presentations 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定箇所の事前精読、課題、プレゼンテーション準備、リーディングジャーナル		
テキスト	<i>21st Century Reading 4: Creative Thinking and Reading with TEDTalks</i> , Blass & Williams, Cengage Learning		
参考文献	特になし		
評価方法	クイズ 30%、リーディングジャーナル 30%、授業貢献度 20%、プレゼンテーション 20%		

13 年度以降	Reading Strategies II (1 年 12 組)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction Unit 6: Ancient Wonders Captured in 3-D Unit 6: Discussion Unit 7: How Food Shape Our Cities Unit 7: Discussion Unit 8: What will Future Jobs Look Like? Unit 8: Discussion Unit 9: The Linguistic Genius of Babies Unit 9: Discussion Unit 10: Innovating to Zero! Unit 10: Discussion Preparation for presentations Group presentations Wrap-up 	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定箇所の事前精読、課題、プレゼンテーション準備、リーディングジャーナル		
テキスト	<i>21st Century Reading 4: Creative Thinking and Reading with TEDTalks</i> , Blass & Williams, Cengage Learning		
参考文献	特になし		
評価方法	クイズ 30%、リーディングジャーナル 30%、授業貢献度 20%、プレゼンテーション 20%		

13年度以降	Reading Strategies I (再履修) (土1)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar and cohesive devices To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> 講義の概要 Earthquakes Telephone Message Consumer Prices At a Hotel Job Hunting Balancing Studies and a Part-Time Job Appointments Giving a Presentation Diet and Health Sensory Branding Negotiating Artificial Intelligence まとめ <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。		
テキスト	テキスト：初回授業にて指示します		
参考文献	特になし		
評価方法	平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

13年度以降	Reading Strategies II (再履修) (土1)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> 講義の概要 Business Performance Cosmetic Surgery Cheating Epidemic Great Inventions Dealing with Complaints Brain Training Market Trends Making Sense of Numbers Innovative Ideas Home Economics Vegetable Consumption Crimes on Minors まとめ <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。		
テキスト	テキスト：初回授業にて指示します		
参考文献	特になし		
評価方法	平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

13年度以降	Reading Strategies II (再履修) (土2)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar To develop basic reading skills To understand how a text is organized 		<ol style="list-style-type: none"> 講義の概要 Earthquakes Telephone Message Consumer Prices At a Hotel Job Hunting Balancing Studies and a Part-Time Job Appointments Giving a Presentation Diet and Health Sensory Branding Negotiating Artificial Intelligence まとめ <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。		
テキスト	テキスト：初回授業にて指示します		
参考文献	特になし		
評価方法	平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

13年度以降	Reading Strategies I (再履修) (土2)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase their vocabulary To review grammar and cohesive devices To develop basic reading skills To understand reading materials without translating into Japanese To clarify the structure of a paragraph or essay 		<ol style="list-style-type: none"> 講義の概要 Business Performance Cosmetic Surgery Cheating Epidemic Great Inventions Dealing with Complaints Brain Training Market Trends Making Sense of Numbers Innovative Ideas Home Economics Vegetable Consumption Crimes on Minors まとめ <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。		
テキスト	テキスト：初回授業にて指示します		
参考文献	特になし		
評価方法	平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

13年度以降	Reading Strategies III (2年①)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<p>Week 1: Introduction.</p> <p>Week 2: Selected reading & assignment (R&A).</p> <p>Week 3: Selected R&A. Focus on vocabulary building.</p> <p>Week 4: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 5: Selected R&A. Focus on intensive reading.</p> <p>Week 6: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 7: Selected R&A. Focus on faster reading.</p> <p>Week 8: Quiz I. Journals due.</p> <p>Week 9: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 10: Selected R&A. Focus on effective reading.</p> <p>Week 11: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 12: Selected R&A. Focus on global comprehension.</p> <p>Week 13: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 14: Quiz II. Journals due.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments (approximately 4 hours) in preparation for class participation.		
テキスト	Online text readings		
参考文献	Online linked sources		
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).		

13年度以降	Reading Strategies IV (2年①)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To automatize more accurate grammatical knowledge To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. To do some book research and make a reference list. 		<p>Week 1: Introduction.</p> <p>Week 2: Focus on presentation & discussion.</p> <p>Week 3: Selected R&A (e.g. news article).</p> <p>Week 4: Selected R&A (e.g. short story).</p> <p>Week 5: Selected R&A (e.g. acting script).</p> <p>Week 6: Selected R&A (e.g. academic article).</p> <p>Week 7: Selected R&A (e.g. biography).</p> <p>Week 8: Quiz I. Journals due.</p> <p>Week 9: Selected R&A (e.g. song lyrics).</p> <p>Week 10: Selected R&A (e.g. poetry verse).</p> <p>Week 11: Selected R&A (e.g. speech text).</p> <p>Week 12: Selected R&A (e.g. nonfiction reading).</p> <p>Week 13: Selected R&A (e.g. blog text).</p> <p>Week 14: Quiz II. Journals due.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments (approximately 4 hours) in preparation for class participation.		
テキスト	Online text readings		
参考文献	Online linked sources		
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).		

13年度以降	Reading Strategies III (2年②)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<p>Week 1 Introduction to Course & Pre-Test</p> <p>Week 2 Reading & Learning-Textbook Reconnaissance</p> <p>Week 3 Discovery Wheel</p> <p>Week 4 Studying Memory</p> <p>Week 5 The Nature of Memory (Psychology)</p> <p>Week 6 The Nature of Memory</p> <p>Week 7 Introduction to Memoir</p> <p>Week 8 La Gringuita (Literature)</p> <p>Week 9 La Gringuita (cont'd)</p> <p>Week 10 Lake Stinko (Environmental Science)</p> <p>Week 11 Lake Stinko</p> <p>Week 12 Education</p> <p>Week 13 History</p> <p>Week 14 Post-Test (TOEFL)</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation		
テキスト	Readings will be provided		
参考文献	Additional materials will be provided		
評価方法	In-class participation & Homework (40%), Reading Responses x 2 (20%), Vocabulary Activity Booklet (20%) Post-Test (20%)		

13年度以降	Reading Strategies IV (2年②)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To automatize more accurate grammatical knowledge To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. To do some book research and make a reference list. 		<p>Week 1 Introduction to Fall Course & Themes & Motifs in Fairy Tales</p> <p>Week 2 More Than One Cinderella?</p> <p>Week 3 Cinderella Variants</p> <p>Week 4 Little Red Riding Hood</p> <p>Week 5 Reader's Theater-Introduction & Prep</p> <p>Week 6 Reader's Theater Live! (Mid-Term Project)</p> <p>Week 7 The Hero's Journey</p> <p>Week 8 Introduction to the Alchemist</p> <p>Week 9 The Alchemist – Pt. I (1st half)</p> <p>Week 10 The Alchemist – Pt. I (2nd half)</p> <p>Week 11 The Alchemist – Pt. II (1st half)</p> <p>Week 12 The Alchemist – Pt. II (2nd half)</p> <p>Week 13 Charting the Hero's Journey</p> <p>Week 14 Epilogue/Wrap Up</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation		
テキスト	There is no text for this course		
参考文献	Materials will be provided by the instructor		
評価方法	In-class participation (20%), Fairy/Folk Tale Packet x 2 (30%), Alchemist Reader's Packet & Reader Response (30%), Final Paper (20%)		

13年度以降	Reading Strategies III (2年③)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To increase academic vocabulary 2. To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices 3. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 4. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 5. To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<p>Week 1: Introduction.</p> <p>Week 2: Selected reading & assignment (R&A).</p> <p>Week 3: Selected R&A. Focus on vocabulary building.</p> <p>Week 4: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 5: Selected R&A. Focus on intensive reading.</p> <p>Week 6: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 7: Selected R&A. Focus on faster reading.</p> <p>Week 8: Quiz I. Journals due.</p> <p>Week 9: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 10: Selected R&A. Focus on effective reading.</p> <p>Week 11: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 12: Selected R&A. Focus on global comprehension.</p> <p>Week 13: Selected reading & assignment.</p> <p>Week 14: Quiz II. Journals due.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments (approximately 4 hours) in preparation for class participation.		
テキスト	Online text readings		
参考文献	Online linked sources		
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).		

13年度以降	Reading Strategies IV (2年③)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To increase academic vocabulary. 2. To automatize more accurate grammatical knowledge 3. To understand reading materials different in styles and contents. 4. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 5. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 6. To do some book research and make a reference list. 		<p>Week 1: Introduction.</p> <p>Week 2: Focus on presentation & discussion.</p> <p>Week 3: Selected R&A (e.g. news article).</p> <p>Week 4: Selected R&A (e.g. short story).</p> <p>Week 5: Selected R&A (e.g. acting script).</p> <p>Week 6: Selected R&A (e.g. academic article).</p> <p>Week 7: Selected R&A (e.g. biography).</p> <p>Week 8: Quiz I. Journals due.</p> <p>Week 9: Selected R&A (e.g. song lyrics).</p> <p>Week 10: Selected R&A (e.g. poetry verse).</p> <p>Week 11: Selected R&A (e.g. speech text).</p> <p>Week 12: Selected R&A (e.g. nonfiction reading).</p> <p>Week 13: Selected R&A (e.g. blog text).</p> <p>Week 14: Quiz II. Journals due.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments (approximately 4 hours) in preparation for class participation.		
テキスト	Online text readings		
参考文献	Online linked sources		
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).		

13年度以降	Reading Strategies III (2年④)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<ol style="list-style-type: none"> Orientation; Reading 1 & reading strategies Reading 2 & reading strategies (Skim beginner) Reading 3 & reading strategies (Gist beginner) Reading 4 & reading strategies (Scan beginner) Reading 5 & reading strategies (Skim intermediate) Reading 6 & reading strategies (Gist intermediate) Reading 7 & reading strategies (Scan intermediate) Reading 8 & reading strategies (Skim advanced) Reading 9 & reading strategies (Gist advanced) Reading 10 & reading strategies (Scan advanced) Reading 11 & reading strategies (Notes preparation) Reading 12 & reading strategies (Notes submission) Reading 13 & reading strategies (Presentation preparation) Reading 14 & reading strategies (Presentation) 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト	None		
参考文献	None		
評価方法	Participation & in-class performance 30%; Homework 10%; Notes 20%; Presentation 40%		

13年度以降	Reading Strategies IV (2年④)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To automatize more accurate grammatical knowledge To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. To do some book research and make a reference list. 		<ol style="list-style-type: none"> Orientation; Reading 1 & reading strategies Reading 2 & reading strategies (Predict beginner) Reading 3 & reading strategies (Skim & Gist extension) Reading 4 & reading strategies (Questions beginner) Reading 5 & reading strategies (Extract language beginner) Reading 6 & reading strategies (Discussion beginner) Reading 7 & reading strategies (Predict intermediate) Reading 8 & reading strategies (Skim & Gist super extension) Reading 9 & reading strategies (Questions intermediate) Reading 10 & reading strategies (Extract language intermediate) Reading 11 & reading strategies (Discussion intermediate) Reading 12 & reading strategies (Notes explanation) Reading 13 & reading strategies (Notes preparation) Reading 14 & reading strategies (Assignment) 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト	None		
参考文献	None		
評価方法	Participation & in-class performance 30%; Homework 5%; Readings & strategies 30% Assignment reading 35%.		

13年度以降	Reading Strategies III (2年⑤)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<ol style="list-style-type: none"> Orientation; Reading 1 & reading strategies Reading 2 & reading strategies (Skim beginner) Reading 3 & reading strategies (Gist beginner) Reading 4 & reading strategies (Scan beginner) Reading 5 & reading strategies (Skim intermediate) Reading 6 & reading strategies (Gist intermediate) Reading 7 & reading strategies (Scan intermediate) Reading 8 & reading strategies (Skim advanced) Reading 9 & reading strategies (Gist advanced) Reading 10 & reading strategies (Scan advanced) Reading 11 & reading strategies (Notes preparation) Reading 12 & reading strategies (Notes submission) Reading 13 & reading strategies (Presentation preparation) Reading 14 & reading strategies (Presentation) 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits.		
テキスト	None		
参考文献	None		
評価方法	Participation & in-class performance 30%; Homework 10%; Notes 20%; Presentation 40%		

13年度以降	Reading Strategies IV (2年⑤)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To automatize more accurate grammatical knowledge To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. To do some book research and make a reference list. 		<ol style="list-style-type: none"> Orientation; Reading 1 & reading strategies Reading 2 & reading strategies (Predict beginner) Reading 3 & reading strategies (Skim & Gist extension) Reading 4 & reading strategies (Questions beginner) Reading 5 & reading strategies (Extract language beginner) Reading 6 & reading strategies (Discussion beginner) Reading 7 & reading strategies (Predict intermediate) Reading 8 & reading strategies (Skim & Gist super extension) Reading 9 & reading strategies (Questions intermediate) Reading 10 & reading strategies (Extract language intermediate) Reading 11 & reading strategies (Discussion intermediate) Reading 12 & reading strategies (Notes explanation) Reading 13 & reading strategies (Notes preparation) Reading 14 & reading strategies (Assignment) 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	All homework & review will be assigned and explained during the course. There is no outside study for credits		
テキスト	None		
参考文献	None		
評価方法	Participation & in-class performance 30%; Homework 5%; Readings & strategies 30% Assignment reading 35%.		

13年度以降	Reading Strategies III (2年 ⑥)	担当者	C. 芦沢
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To increase academic vocabulary 2. To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices 3. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material 4. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) 5. To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<p>Week 1: Introductions / Literary Terms / Timed Reading</p> <p>Week 2: <i>Eleven</i> (Vocab/Reading)</p> <p>Week 3: <i>Eleven</i> (Reading Expansion Discussion)</p> <p>Week 4: <i>The Bracelet</i> (Vocab/Reading)</p> <p>Week 5: <i>The Bracelet</i> (Reading Expansion Video)</p> <p>Week 6: Finish Up and Review</p> <p>Week 7: Test 1 / Timed Reading</p> <p>Week 8: <i>A Secret for Two</i> (Vocab/Reading)</p> <p>Week 9: <i>A Secret for Two</i> (Reading Expansion)</p> <p>Week 10: <i>Charles</i> (Vocab/Reading)</p> <p>Week 11: <i>Charles</i> (Reading Expansion)</p> <p>Week 12: <i>Charles</i> (Reader's Theater Presentations)</p> <p>Week 13: Finish Up and Review</p> <p>Week 14: Test 2 / Timed Reading / Wrap Up</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned on a regular basis. Students should plan on spending an average of 60 minutes each week on their reading, writing, and vocabulary assignments.		
テキスト	Kay, J. & Gelshenen, R. (2013). <i>Discovering Fiction Level 1</i> (2nd Edition). Cambridge University Press.		
参考文献	Bring the textbook, a pen/pencil, a dictionary, and your reading packet to every class.		
評価方法	Active Participation=20%, Reading Packets=40%, Tests=40%		

13年度以降	Reading Strategies IV (2年 ⑥)	担当者	C. 芦沢
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To increase academic vocabulary. 2. To automatize more accurate grammatical knowledge 3. To understand reading materials different in styles and contents. 4. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). 5. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. 6. To do some book research and make a reference list. 		<p>Week 1: Welcome Back / Summer Share/Term 1 Review</p> <p>Week 2: <i>The Tigress and Her Mate</i> (Vocab/Reading)</p> <p>Week 3: <i>The Tigress and Her Mate</i> (Reading Expansion)</p> <p>Week 4: <i>The Tigress and Her Mate</i> (Fable Presentation)</p> <p>Week 5: <i>The Fun They Had</i> (Vocab/Reading)</p> <p>Week 6: <i>The Fun They Had</i> (Reading Expansion)</p> <p>Week 7: Finish Up and Review</p> <p>Week 8: Test 1 / Timed Reading</p> <p>Week 9: <i>Two Thanksgiving Day Gentlemen</i> (Vocab/Reading)</p> <p>Week 10: <i>Two Thanksgiving Day Gentlemen</i> (Expansion)</p> <p>Week 11: <i>The Mirror</i> (Vocab/Reading)</p> <p>Week 12: <i>The Mirror</i> (Reading Expansion)</p> <p>Week 13: Finish Up and Review</p> <p>Week 14: Test 2 / Timed Reading / Wrap Up</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned on a regular basis. Students should plan on spending an average of 60 minutes each week on their reading, writing and vocabulary assignments.		
テキスト	Kay, J. & Gelshenen, R. (2013). <i>Discovering Fiction Level 1</i> (2nd Edition). Cambridge University Press.		
参考文献	Bring the textbook, a pen/pencil, a dictionary, and a notebook to every class.		
評価方法	Active Participation=20%, Reading Packets=40%, Tests=40%		

13年度以降	Reading Strategies III (2年⑦)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction to the course How useful are academic papers? Fast reading strategies Reading academic papers: Benefits and challenges Reading more efficiently 1: Being an active reader Reading more efficiently 2: Recognising parts of words Reading critically 1: Critical thinking Reading critically 2: Creative thinking Taking notes Outlining Tutorial Group presentation Tips for writing up Wrap-up 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the reading and course materials and to work closely with other students to complete tasks and assignments.		
テキスト	Electronic copies, prints and handouts to be provided by the instructor		
参考文献	To be introduced by the instructor		
評価方法	Short essay 20%, group research presentations 40%, final report 40%		

13年度以降	Reading Strategies IV (2年⑦)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To automatize more accurate grammatical knowledge To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. To do some book research and make a reference list. 		<ol style="list-style-type: none"> Review of RS III How to find good articles How to read non-academic articles Deciding sampling criteria Collecting articles Surveying the articles Analysing the articles Poster session How to make a pecha kucha presentation Tutorial Pecha kucha presentation rehearsal Group presentation Tips for writing up Wrap-up 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the reading and course materials, and to work closely with other students to complete tasks and assignments.		
テキスト	Electronic copies, prints and handouts to be provided by the instructor		
参考文献	To be introduced by the instructor		
評価方法	Short essay 20%, group research presentations 40%, final report 40%		

13年度以降	Reading Strategies III (2年 ⑧)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<ol style="list-style-type: none"> Language and communication—vocabulary Language and communication—discussion Language and globalization—vocabulary Language and globalization—discussion Omelas – A short story—vocabulary Omelas – A short story—structure Omelas – A short story—reading strategies Omelas – A short story—discussion The environment—vocabulary The environment—reading strategies The environment—discussion Hawaii – genes and generations—vocabulary Hawaii – genes and generations—discussion Summary and evaluation 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	You should complete all homework before coming to class. You should read all materials and answer all questions in your notebooks after each class. (About 4 hours each week of homework)		
テキスト	Texts to be distributed in class.		
参考文献	References to be distributed in class.		
評価方法	Essays = 20%, Notebooks = 40%, Participation = 20%, Quizzes 20%		

13年度以降	Reading Strategies IV (2年 ⑧)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To automatize more accurate grammatical knowledge To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. To do some book research and make a reference list. 		<ol style="list-style-type: none"> Identity and gender politics—vocabulary Identity and gender politics—reading strategies Identity and gender politics—discussion The Paris syndrome—vocabulary The Paris syndrome—discussion Culture shock—vocabulary Culture shock—discussion Politics and ideologies—vocabulary Politics and ideologies—reading strategies Politics and ideologies—discourse analysis Politics and ideologies—discussion Art and science—vocabulary Art and science—discussion Summary and evaluation 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	You should complete all homework before coming to class. You should read all materials and answer all questions in your notebooks after each class. (About 4 hours each week of homework)		
テキスト	Texts to be distributed in class.		
参考文献	References to be distributed in class.		
評価方法	Essays = 20%, Notebooks = 40%, Participation = 20%, Quizzes 20%		

13年度以降	Reading Strategies III (2年⑨)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<ol style="list-style-type: none"> 講義方針等のガイダンス (出席は必須である) 導入 会話にみられる省略表現—英語の場合 会話にみられる省略表現—日本語の場合 英語の代名詞の働き 日本語の格フレームの働き 状況焦点 人間焦点 英語らしさと日本語らしさ 存在表現 所有表現 所有者をどう表すか—英語の場合 所有者をどう表すか—日本語の場合 春学期のまとめ 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	使用テキストの予習に1時間以上、復習に1時間以上の授業時間外学修を必要とする。		
テキスト	Hinds, John (1986) <i>Situation vs. Person Focus</i> . (『日本語らしさと英語らしさ』) 東京：くろしお出版。		
参考文献	安井稔 (1996) 『英文法総覧』(改訂版) 東京：開拓社。などの頼りとなるものを講義中に紹介する。		
評価方法	評価を受ける資格を有する者について、日本語による記述式の試験にて評価を行う。なお、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることはせず、特別の「救済措置」などは実施しない。		

13年度以降	Reading Strategies IV (2年⑨)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To automatize more accurate grammatical knowledge To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. To do some book research and make a reference list. 		<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス・春学期の復習 (出席は必須である) 動詞のタイプ—Transitives 動詞のタイプ—Intransitives 動詞のタイプ—Inchoatives 状態 行為 主語の特徴—英語の場合 主語の特徴—日本語の場合 責任の概念の日英比較 状況焦点 日本語にみられる省略表現 省略と文脈 省略と状況焦点 秋学期のまとめ 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	使用テキストの予習に1時間以上、復習に1時間以上の授業時間外学修を必要とする。		
テキスト	Hinds, John (1986) <i>Situation vs. Person Focus</i> . (『日本語らしさと英語らしさ』) 東京：くろしお出版。		
参考文献	安井稔 (1996) 『英文法総覧』(改訂版) 東京：開拓社。などの頼りとなるものを講義中に紹介する。		
評価方法	評価を受ける資格を有する者について、日本語による記述式の試験にて評価を行う。なお、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることはせず、特別の「救済措置」などは実施しない。		

13年度以降	Reading Strategies III (2年 ⑩)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<ol style="list-style-type: none"> Course overview (TR* & OI/REC** to be explained) TR 1-3; OI/REC 1 TR 4-6; Quiz 1; OI/REC 2 TR 7-9; Quiz 2; OI/REC 3 TR 10-12; Quiz 3; OI/REC 4 TR 13-15; Quiz 4; OI/REC 5 Mid-term presentations and exam TR 16-18; OI/REC 6 TR 19-21; Quiz 5; OI/REC 7 TR 22-24; Quiz 6; OI/REC 8 TR 25-27; Quiz 7; OI/REC 9 TR 28-30; Quiz 8; OI/REC 10 Presentations Final presentations and exam <p>* TR: timed reading ** OI/REC: oral interpretation/recitation</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should read the assigned readings before class.		
テキスト	Reading assignments will be handed out in class.		
参考文献	References will be notified when and if necessary.		
評価方法	Participation and contribution 15%, Quizzes 20%, Mid-term exam 25%, Final exam 40%		

13年度以降	Reading Strategies IV (2年 ⑩)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To automatize more accurate grammatical knowledge To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. To do some book research and make a reference list. 		<ol style="list-style-type: none"> Course overview (TR* & OI/REC** to be explained) TR 1-3; OI/REC 1 TR 4-6; Quiz 1; OI/REC 2 TR 7-9; Quiz 2; OI/REC 3 TR 10-12; Quiz 3; OI/REC 4 TR 13-15; Quiz 4; OI/REC 5 Mid-term presentations and exam TR 16-18; OI/REC 6 TR 19-21; Quiz 5; OI/REC 7 TR 22-24; Quiz 6; OI/REC 8 TR 25-27; Quiz 7; OI/REC 9 TR 28-30; Quiz 8; OI/REC 10 Presentations Final presentations and exam <p>* TR: timed reading ** OI/REC: oral interpretation/recitation</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should read the assigned readings before class.		
テキスト	Reading assignments will be handed out in class.		
参考文献	References will be notified when and if necessary.		
評価方法	Participation and contribution 15%, Quizzes 20%, Mid-term exam 25%, Final exam 40%		

13年度以降	Reading Strategies III (2年 ⑩)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<ol style="list-style-type: none"> 春学期の授業内容と授業計画の説明 Reading(1): ビジネス・コミュニケーションについての英文 (目的、特徴、メディア等) Reading(2): 貿易についての英文 (比較優位の理論) Reading(3): 貿易についての英文 (貿易業者の役割) Reading(4): 貿易についての英文 (貿易の関係機関) Reading(5): 貿易についての英文 (国民経済と障壁) Reading(6): 国際経済についての英文 (環境と経済) Reading(7): 国際経済についての英文 (開発と経済) Reading(8): 国際経済についての英文 (移民と経済) Reading(9): 国際経済についての英文 (観光と経済) Reading(10): 企業経営についての英文 (企業倫理) Reading(11): 企業経営についての英文 (組織行動) Reading(12): 企業経営についての英文 (市場調査) 春学期の総復習と質疑応答 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定箇所を事前に精読し、割当てられた範囲について、レジュメを作成してプレゼンテーションできるように準備して下さい。授業の後で再読し、予習段階でわからなかった点を確実に解消しておいて下さい。		
テキスト	配布プリントを使用します。		
参考文献	随時紹介します。		
評価方法	期末試験の結果 (概ね 70%の比重) および平常授業におけるプレゼンテーションやレジュメ作成の実績 (概ね 30%の比重) を合計して評価します。		

13年度以降	Reading Strategies IV (2年 ⑪)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To automatize more accurate grammatical knowledge To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. To do some book research and make a reference list. 		<ol style="list-style-type: none"> 秋学期の授業内容と授業計画の説明 Reading(1): 日本の文化についての英文 (和) Reading(2): 日本の文化についての英文 (義理) Reading(3): 日本の文化についての英文 (甘え) Reading(4): 日本の文化についての英文 (建前と本音) Reading(5): 日本の社会についての英文 (タテ社会) Reading(6): 日本の社会についての英文 (集団意識) Reading(7): 日本の社会についての英文 (派閥) Reading(8): 日本の社会についての英文 (仲介者) Reading(9): 日本の歴史についての英文 (戦国時代) Reading(10): 日本の歴史についての英文 (徳川幕府) Reading(11): 日本の歴史についての英文 (明治維新) Reading(12): 日本の歴史についての英文 (戦後) 秋学期の総復習と質疑応答 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定箇所を事前に精読し、割当てられた範囲について、レジュメを作成してプレゼンテーションできるように準備して下さい。授業の後で再読し、予習段階でわからなかった点を確実に解消しておいて下さい。		
テキスト	配布プリントを使用します。		
参考文献	随時紹介します。		
評価方法	期末試験の結果 (概ね 70%の比重) および平常授業におけるプレゼンテーションやレジュメ作成の実績 (概ね 30%の比重) を合計して評価します。		

13 年度以降	Reading Strategies III (2 年 ⑫)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary To automatize more accurate grammatical knowledge and recognize cohesive devices To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.) To read some outside readers which they can read without using a dictionary 		<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション Preservation: Are we living in the digital dark ages? Preservation: Build it up or tear it down? Collaboration: Making an infographic Design: What makes a Successful logo? Design: Rebranding and logos Collaboration: Group presentation on logos Privacy: Cyber harassment Privacy: Combatting cyber harassment Collaboration: Preparing a news interview. Business: Starting out mobile Business: Keeping your customers Collaboration: Teens in the business world 授業総括 	
到達目標	1 年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に予習した上で授業に臨むこと。		
テキスト	Jessica Williams. <i>Prism Reading 4</i> . Cambridge University Press. 2018		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	課題 20%、授業参加度 20%、学期末試験 60%		

13 年度以降	Reading Strategies IV (2 年 ⑫)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To increase academic vocabulary. To automatize more accurate grammatical knowledge To understand reading materials different in styles and contents. To develop effective reading skills & deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical & grammatical cues in academic texts). To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary. To do some book research and make a reference list. 		<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション Psychology: Mental illness and creative genius Psychology: The creative mind Collaboration: Finding obstacles to creativity Careers: The skills gap Careers: What is the value of education Collaboration: Public money for scholarships? Health sciences: Superbugs Health sciences: The globalization of infection Collaboration: Working for the WHO Collaboration: The value of talent Collaboration: The perfect work team Collaboration: Working at a start-up company 授業総括 	
到達目標	1 年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に予習した上で授業に臨むこと。		
テキスト	Jessica Williams. <i>Prism Reading 4</i> . Cambridge University Press. 2018		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	課題 20%、授業参加度 20%、学期末試験 60%		

13年度以降	Writing Skills I (1年 A)	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course for first-year students. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or GoogleDocs to create well-formatted documents. 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Class orientation 2. Paragraph organization, academic style 3. Introduction to Quick Write 4. Planning a paragraph, correction symbols 5. Topics and topic sentences 6. Supporting sentences and examples 7. Introduction to peer editing 8. Cause and effect writing 9. Grammar workshop 10. Persuasive writing 11. Comparison and contrast 12. Survey and report 13. Grammar workshop 2, review 14. Return notebooks and consultation 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly writing assignments and revisions		
テキスト	Introduction to Academic Writing (Pearson Longman)		
参考文献	To be introduced in class		
評価方法	20% class participation 80% writing assignments		

13年度以降	Writing Skills II (1年 A)	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing unified, coherent paragraphs, which are the basic units of composition common to academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Class orientation 2. Elements of good academic writing 3. Introduction to timed free writing 4. Choosing topics 5. Thesis statements 6. Grammar mechanics: common writing errors 7. Types of essay organization 8. Proofreading and proofreading symbols 9. Making good introductory paragraphs 10. Types of concluding paragraphs 11. Quotations and citations 12. Grammar: fragments, dependent clauses 13. Summarizing 14. Return all writings and consultation 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly writing assignments and revisions		
テキスト	Introduction to Academic Writing (Pearson Longman)		
参考文献	To be introduced in class		
評価方法	20% class participation 80% writing assignments		

13年度以降	Writing Skills I (1年 B)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course for first-year students. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or GoogleDocs to create well-formatted documents. 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction 2. Getting ready to write 3. Choosing the hook [Assignment 1] 4. Writing a coherent sentence 5. Linking sentences together [Assignment 2] 6. From sentence to paragraph 7. Midterm exam 8. Formatting skills 9. Academic writing introduction [Assignment 3] 10. Paragraph types 11. From life to paragraph 12. Editing your work [Assignment 4] 13. Peer editing 14. Final exam & Review 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me		
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.		
参考文献	特になし		
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)		

13年度以降	Writing Skills II (1年 B)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing unified, coherent paragraphs, which are the basic units of composition common to academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction 2. Academic topic choices 3. Building body paragraphs [Assignment 1] 4. Useful vocabulary 5. Linking body paragraphs [Assignment 2] 6. Cohesion and logic 7. Midterm exam 8. Using formatting skills 9. Using editing skills [Assignment 3] 10. Using external sources 11. Editing your work [Assignment 4] 12. Peer editing 13. Writing practice 14. Final exam & Review 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me		
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.		
参考文献	特になし		
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)		

13年度以降	Writing Skills I (1年 C)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course for first-year students. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well-formatted documents. 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction/Chapter 1 2. Chapter 2 Writing a Paragraph 3. Chapter 2 Writing a Paragraph 4. Chapter 3 Revising and Editing 5. Chapter 3 Revising and Editing 6. Chapter 4 Writing Essays 7. Chapter 4 Writing Essays 8. Chapter 5 Process Essays 9. Chapter 5 Process Essays 10. References and Citations 11. References and Citations 12. Chapter 6 Division and Classification Essays 13. Chapter 6 Division and Classification Essays 14. Final evaluation & Review 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be an assignment to complete during the week.		
テキスト	Ready to Write 3 From Paragraph to Essay (4th edition) by Blanchard & Root, ISBN 9780134399331		
参考文献	none		
評価方法	Grades will be based on: participation 30%, homework assignments 20%, writing assignments 50%		

13年度以降	Writing Skills II (1年 C)	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing unified, coherent paragraphs, which are the basic units of composition common to academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Review 2. Chapter 7 Cause and Effect Essays 3. Chapter 7 Cause and Effect Essays 4. Chapter 7 Cause and Effect Essays 5. Chapter 8 Comparison Contrast Essays 6. Chapter 8 Comparison Contrast Essays 7. Chapter 8 Comparison Contrast Essays 8. Chapter 9 Problem-Solution Essays 9. Chapter 9 Problem-Solution Essays 10. Chapter 9 Problem-Solution Essays 11. Final Project Introduction 12. Final Project Workshop 13. Final Project Workshop 14. Final evaluation & Review 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be an assignment to complete during the week.		
テキスト	Ready to Write 3 From Paragraph to Essay (4th edition) by Blanchard & Root, ISBN 9780134399331		
参考文献	none		
評価方法	Grades will be based on: participation 30%, homework assignments 20%, writing assignments 50%		

13年度以降	Writing Skills I (1年 D)	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course for first-year students. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or GoogleDocs to create well-formatted documents. 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Class orientation 2. Paragraph organization, academic style 3. Introduction to Quick Write 4. Planning a paragraph, correction symbols 5. Topics and topic sentences 6. Supporting sentences and examples 7. Introduction to peer editing 8. Cause and effect writing 9. Grammar workshop 10. Persuasive writing 11. Comparison and contrast 12. Survey and report 13. Grammar workshop 2, review 14. Return notebooks and consultation 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly writing assignments and revisions		
テキスト	Introduction to Academic Writing (Pearson Longman)		
参考文献	To be introduced in class		
評価方法	20% class participation 80% writing assignments		

13年度以降	Writing Skills II (1年 D)	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing unified, coherent paragraphs, which are the basic units of composition common to academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Class orientation 2. Elements of good academic writing 3. Introduction to timed free writing 4. Choosing topics 5. Thesis statements 6. Grammar mechanics: common writing errors 7. Types of essay organization 8. Proofreading and proofreading symbols 9. Making good introductory paragraphs 10. Types of concluding paragraphs 11. Quotations and citations 12. Grammar: fragments, dependent clauses 13. Summarizing 14. Return all writings and consultation 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly writing assignments and revisions		
テキスト	Introduction to Academic Writing (Pearson Longman)		
参考文献	To be introduced in class		
評価方法	20% class participation 80% writing assignments		

13年度以降	Writing Skills I (1年 E)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course for first-year students. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or GoogleDocs to create well-formatted documents. 		<p>Week1 Course Introduction, Grammar boot-camp</p> <p>Week2 Grammar boot-camp continued.</p> <p>Week3 Ch.1 Model, vocabulary, formatting a page</p> <p>Week4 Sentence structure</p> <p>Week5 Describing a person</p> <p>Week6 writing assignment</p> <p>Week7 Ch.2 Model, list order paragraph, vocabulary</p> <p>Week8 list order transitions</p> <p>Week9 Sentence structure</p> <p>Week10 writing assignment</p> <p>Week11 Ch.3 Model, instruction paragraph, vocabulary</p> <p>Week12 adjectives</p> <p>Week13 Sentence structure/ capitalization</p> <p>Week14 writing assignment</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should review lessons after each class, and complete writing assignments		
テキスト	Longman Academic Writing Series, 3 rd Edn. " Paragraphs" , Ann Hogue		
参考文献	特になし		
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).		

13年度以降	Writing Skills II (1年 E)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students will learn how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills 		<p>Week1 1-4 Ch.4 Model, space-order paragraph, vocabulary</p> <p>Week2 topic sentences</p> <p>Week3 order of adjectives, Sentence structure</p> <p>Week4 writing assignment</p> <p>Week5 Ch.5 Model, reasons and examples, vocabulary</p> <p>Week6 word knowledge / reason and condition clauses</p> <p>Week7 Sentence structure</p> <p>Week8 Writing assignment</p> <p>Week9 Ch. 6 Model, opinion paragraph, vocabulary</p> <p>Week10 facts vs opinions</p> <p>Week11 adjective clauses, Sentence structure</p> <p>Week12 Writing assignment</p> <p>Week13 Essay format : joining paragraphs to make a short essay</p> <p>Week14 Essay Writing assignment</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should review lessons after each class, and complete writing assignments		
テキスト	Longman Academic Writing Series, 3 rd Edn. " Paragraphs" , Ann Hogue		
参考文献	特になし		
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).		

13年度以降	Writing Skills I (1年 F)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course for first-year students. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well-formatted documents. 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Class orientation 2. Organization of Good Paragraph Writing 3. Brainstorming 1: Connecting Your Ideas 4. Brainstorming 2: Shaping Your Ideas 5. Writing About Your Life 1: Subjective Writing 6. Writing About Your Life 2: Pair-Editing 7. Coherence in Writing 1: Conjunction 8. Coherence in Writing 2: Developing Your Ideas 9. Descriptive Essay 10. Logical Thinking 11. Thesis Statement 12. Group Work 13. Review 14. Test & Wrap-Up 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	You need to come to class with a finished product every week.		
テキスト	Academic Writing Skills 1(Cambridge)		
参考文献	授業時にお知らせする。		
評価方法	Grades will be based on in-class performance (40%), assignments (40%), and tests (20%).		

13年度以降	Writing Skills II (1年 F)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing unified, coherent paragraphs, which are the basic units of composition common to academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Class Orientation 2. Brainstorming 3. Gathering Information 4. Organizing Your Sentences 5. Organizing Different Ideas 6. Supporting Your Points 7. Comparison/Contrast 8. Giving a Definition 9. Peer Work 1: Read & Edit 10. Peer Work 2: Pair Work 11. Free Writing 1: Choosing a Proper Topic 12. Free Writing 2: Group Editing 13. Reviewing 14. Test & Wrap-Up 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	You need to come to class with a finished product every week.		
テキスト	Academic Writing Skills 1(Cambridge)		
参考文献	授業時にお知らせする。		
評価方法	Grades will be based on in-class performance (40%), assignments (40%), and tests (20%).		

13年度以降	Writing Skills I (1年 G)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph To learn how to properly format a typed paragraph To help students write about themselves and their experiences To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs To help students analyze s and revise their writing To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well formatted documents. 		<ol style="list-style-type: none"> Course introduction The English paragraph The topic sentence The supporting details Characteristics of a good paragraph Descriptive paragraph Narrative paragraph Personal opinion Writing a second draft Peer evaluation and feedback Classification Cause and effect Comparison Test 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Write weekly journal and do pre-wring exercises.		
テキスト	To be announced.		
参考文献	特になし		
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).		

13年度以降	Writing Skills II (1年 G)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To teach the various patterns of paragraph /short essay organization To help students learn how others organize ideas through peer review To help students write clear, focused, and well organized paragraphs To help students analyze their problems and revise their writing To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> Course introduction Brainstorming and topic selection Thesis statement Essay organization Synthesizing Information Detailed outline Evaluating outlines Descriptive essay Narrative essay Peer evaluation and feedback Writing final draft Comparison and contrast essay Classification essay Test 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Write weekly journal and do pre-wring exercises.		
テキスト	To be announced.		
参考文献	特になし		
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).		

13年度以降	Writing Skills I (1年 H)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course for first-year students. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or GoogleDocs to create well-formatted documents. 		<p>Week1 Course Introduction, Grammar boot-camp</p> <p>Week2 Grammar boot-camp continued.</p> <p>Week3 Ch.1 Model, vocabulary, formatting a page</p> <p>Week4 Sentence structure</p> <p>Week5 Describing a person</p> <p>Week6 writing assignment</p> <p>Week7 Ch.2 Model, list order paragraph, vocabulary</p> <p>Week8 list order transitions</p> <p>Week9 Sentence structure</p> <p>Week10 writing assignment</p> <p>Week11 Ch.3 Model, instruction paragraph, vocabulary</p> <p>Week12 adjectives</p> <p>Week13 Sentence structure/ capitalization</p> <p>Week14 writing assignment</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should review lessons after each class, and complete writing assignments		
テキスト	Longman Academic Writing Series, 3 rd Edn. " Paragraphs" , Ann Hogue		
参考文献	特になし		
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).		

13年度以降	Writing Skills II (1年 H)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students will learn how to write a unified,coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic,business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills 		<p>Week1 1-4 Ch.4 Model, space-order paragraph, vocabulary</p> <p>Week2 topic sentences</p> <p>Week3 order of adjectives, Sentence structure</p> <p>Week4 writing assignment</p> <p>Week5 Ch.5 Model, reasons and examples, vocabulary</p> <p>Week6 word knowledge / reason and condition clauses</p> <p>Week7 Sentence structure</p> <p>Week8 Writing assignment</p> <p>Week9 Ch. 6 Model, opinion paragraph, vocabulary</p> <p>Week10 facts vs opinions</p> <p>Week11 adjective clauses,Sentence structure</p> <p>Week12 Writing assignment</p> <p>Week13 Essay format : joining paragraphs to make a short essay</p> <p>Week14 Essay Writing asignment</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should review lessons after each class, and complete writing assignments		
テキスト	Longman Academic Writing Series, 3 rd Edn. " Paragraphs" , Ann Hogue		
参考文献	特になし		
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).		

13年度以降	Writing Skills I (1年 I)	担当者	E. ホフ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course for first-year students. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or GoogleDocs to create well-formatted documents. 		<p>Week 1: Course introduction and objectives</p> <p>Week 2: Unit 1 - Happiness, Lesson A</p> <p>Week 3: Unit 1 - Happiness, Lesson B</p> <p>Week 4: Unit 2 - Big Ideas, Lesson A</p> <p>Week 5: Unit 2 - Big Ideas, Lesson B</p> <p>Week 6: Unit 3 - Connected Lives, Lesson A</p> <p>Week 7: Unit 3 - Connected Lives, Lesson B</p> <p>Week 8: Midterm Evaluation</p> <p>Week 9: Midterm Evaluation</p> <p>Week 10: Unit 4 - Deep Trouble, Lesson A</p> <p>Week 11: Unit 4 - Deep Trouble, Lesson B</p> <p>Week 12: Unit 5 - Memory and Learning, Lesson A</p> <p>Week 13: Unit 5 - Memory and Learning, Lesson B</p> <p>Week 14: Final Evaluation</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Set aside 30 minutes for homework and class preparation, more time may be needed for evaluations		
テキスト	Pathways 2: Reading, Writing, & Critical Thinking		
参考文献	Students will need to prepare a B5 size notebook		
評価方法	In-class quizzes 30 % , Homework 20%, Midterm evaluation 20 % , Final evaluation 30 %		

13年度以降	Writing Skills II (1年 I)	担当者	E. ホフ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing unified, coherent paragraphs, which are the basic units of composition common to academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<p>Week 1: Preparation for autumn semester</p> <p>Week 2: Unit 6 - Dangerous Cures, Lesson A</p> <p>Week 3: Unit 6 - Dangerous Cures, Lesson B</p> <p>Week 4: Unit 7 - Nature's Fury, Lesson A</p> <p>Week 5: Unit 7 - Nature's Fury, Lesson B</p> <p>Week 6: Unit 8 - Building Wonders, Lesson A</p> <p>Week 7: Unit 8 - Building Wonders, Lesson B</p> <p>Week 8: Midterm Evaluation</p> <p>Week 9: Midterm Evaluation</p> <p>Week 10: Unit 9 - Form and Function, Lesson A</p> <p>Week 11: Unit 9 - Form and Function, Lesson B</p> <p>Week 12: Unit 10 - Mobile Revolution, Lesson A</p> <p>Week 13: Unit 10 - Mobile Revolution, Lesson B</p> <p>Week 14: Final Evaluation</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Set aside 30 minutes for homework and class preparation, more time may be needed for evaluations		
テキスト	Pathways 2: Reading, Writing, & Critical Thinking		
参考文献	Students will need to prepare a B5 size notebook		
評価方法	In-class quizzes 30 % , Homework 20%, Midterm evaluation 20 % , Final evaluation 30 %		

13年度以降	Writing Skills I (1年 J)	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course for first-year students. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or GoogleDocs to create well-formatted documents. 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Chapter 1 – Academic Paragraphs 3. Basic Mechanics of Writing; Paragraph due 4. Academic versus Journal Writing 5. Chapter 2 – Narrative Paragraphs 6. Brainstorming and Prewriting Skills 7. Narrative Draft due; Writing and Revision 8. Chapter 3 – Basic Paragraph Structure 9. Brainstorming/Outlining 10. Analyzing Models; Paragraph due 11. Chapter 4 – Logical Division of Ideas 12. Unity and Coherence, Paragraph due 13. Appendices C and D – Vocabulary and punctuation Rules 14. Final Papers due; Class Wrap-up 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Introduction to Paragraph Writing		
テキスト	Longman Academic Writing, Book 3, Oshima, Alice and Ann Hogue, Longman 2017 (new edition)		
参考文献	特になし		
評価方法	Classwork, Homework, and Paragraphs		

13年度以降	Writing Skills II (1年 J)	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing unified, coherent paragraphs, which are the basic units of composition common to academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Second Term Writing Preview 2. Chapter 6 – Definition Paragraphs 3. Word knowledge; Using a Thesaurus 4. Paragraph due; Peer-editing and Revision 5. Chapter 7 – Cause/Effect Paragraphs 6. Vocabulary and Transition Signals 7. Paragraph due; Peer-editing and Revision; Reviewing Paragraph Organization 8. Chapter 8 – Comparison/Contrast Paragraphs 9. Paragraph due; Analyzing Models 10. Chapter 9 Introduction to the Essay 11. Organization and Transitions in an Essay 12. Developing Supporting Ideas; Essay due 13. Peer Editing and Revision of Essay 14. Final Papers Due; Class Wrap-up 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Continuing Paragraph Writing, plus Introduction to Essay Writing		
テキスト	Longman Academic Writing, Book 3, Oshima, Alice and Ann Hogue, Longman 2017 (new edition)		
参考文献	特になし		
評価方法	Classwork, Homework, and Paragraphs		

13年度以降	Writing Skills I (1年 K)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course for first-year students. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly structured-paragraphs 5. To help students analyze and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or GoogleDocs to create well-formatted documents. 		<p>Week1 Course Introduction, Grammar boot-camp</p> <p>Week2 Grammar boot-camp continued.</p> <p>Week3 Ch.1 Model, vocabulary, formatting a page</p> <p>Week4 Sentence structure</p> <p>Week5 Describing a person</p> <p>Week6 writing assignment</p> <p>Week7 Ch.2 Model, list order paragraph, vocabulary</p> <p>Week8 list order transitions</p> <p>Week9 Sentence structure</p> <p>Week10 writing assignment</p> <p>Week11 Ch.3 Model, instruction paragraph, vocabulary</p> <p>Week12 adjectives</p> <p>Week13 Sentence structure / capitalization</p> <p>Week14 writing assignment</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should review lessons after each class, and complete writing assignments		
テキスト	Longman Academic Writing Series, 3 rd Edn. " Paragraphs" , Ann Hogue		
参考文献	特になし		
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).		

13年度以降	Writing Skills II (1年 K)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students will learn how to write a unified,coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic,business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To help students write about themselves and their experiences 3. To help students write clear and focused structures 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students be familiarized with computer literacy skills 		<p>Week1 1-4 Ch.4 Model, space-order paragraph, vocabulary</p> <p>Week2 topic sentences</p> <p>Week3 order of adjectives, Sentence structure</p> <p>Week4 writing assignment</p> <p>Week5 Ch.5 Model, reasons and examples, vocabulary</p> <p>Week6 word knowledge / reason and condition clauses</p> <p>Week7 Sentence structure</p> <p>Week8 Writing assignment</p> <p>Week9 Ch. 6 Model, opinion paragraph, vocabulary</p> <p>Week10 facts vs opinions</p> <p>Week11 adjective clauses,Sentence structure</p> <p>Week12 Writing assignment</p> <p>Week13 Essay format : joining paragraphs to make a short essay</p> <p>Week14 Essay Writing asignment</p>	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students should review lessons after each class, and complete writing assignments		
テキスト	Longman Academic Writing Series, 3 rd Edn. " Paragraphs" , Ann Hogue		
参考文献	特になし		
評価方法	Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).		

13年度以降	Writing Skills I (1年 L)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course for first-year students. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph To learn how to properly format a typed paragraph To help students write about themselves and their experiences To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs To help students analyze and revise their writing To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or GoogleDocs to create well-formatted documents. 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction Essay 1 Turning Point (Practice) Turning Point (final) Essay 2 Someone I Admire (Practice) Someone I Admire (Final) Essay 3 Challenges Facing Japan (Practice) Challenges Faces Japan (Final) Essay 4 (Movie) Film Review Ted Talks Essay (Practice) Ted Talks (Final) Ted Talks Presentation Day 1 Ted Talks Presentation Day 2 Final Test & review 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned in this class		
テキスト	No textbook will be assigned for this course		
参考文献	特になし		
評価方法	The students will be evaluated on attendance, essays and the final examination.		

13年度以降	Writing Skills II (1年 L)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing unified, coherent paragraphs, which are the basic units of composition common to academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To teach the various patterns of paragraph /short essay organization To help students learn how others organize ideas through peer review To help students write clear, focused, and well organized paragraphs To help students analyze their problems and revise their writing To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction Article (1) Smoking while walking Article (2) The Death Penalty Article (3) Matching Outfits Article (4) Stereotypes Article (5) Ghosts of Fukushima Vocabulary Test Preparation Vocabulary Test Halloween Presentation Preparation Halloween Presentation News Article Presentation Preparation News Article Checking Presentation Day 1 Presentation Day 2 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned for this class		
テキスト	No textbook will be assigned for his course		
参考文献	特になし		
評価方法	The students will be evaluated on attendance, essays, the mid term test and the presentation.		

13年度以降	Writing Skills I (1年 M)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course for first-year students. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well-formatted documents. 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Background to writing + Finding suitable sources 2. Developing critical approaches + Avoiding plagiarism 3. Understanding titles & planning [Assignment 1 Due] 4. Paraphrasing + Summarizing 5. References and quotations [Assignment 2 Due] 6. Organizing paragraphs + Intros and Conclusions 7. Midterm exam 8. Rewriting and proofreading 9. Arguments and discussions [Assignment 3 Due] 10. Cause and effect + Cohesion 11. Comparisons + Definitions 12. Examples + Generalizations [Assignment 4 Due] 13. Writing practice 14. Final exam & Review 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me		
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.		
参考文献	特になし		
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)		

13年度以降	Writing Skills II (1年 M)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing unified, coherent paragraphs, which are the basic units of composition common to academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Style + Visual information 2. Abbreviations + Academic vocabulary + Articles 3. Caution + Conjunctions [Assignment 1] 4. Nouns and adjectives 5. Prefixes and suffixes [Assignment 2] 6. Prepositions + Punctuation 7. Midterm exam 8. Singular or plural 9. Time words + synonyms [Assignment 3] 10. Verbs, passives 11. Verbs of reference [Assignment 4] 12. Verbs, tenses 13. Writing practice 14. Final exam & Review 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me		
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.		
参考文献	特になし		
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)		

13年度以降	Writing Skills I (1年 N)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course for first-year students. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or GoogleDocs to create well-formatted documents. 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction 2. Getting ready to write 3. Choosing the hook [Assignment 1] 4. Writing a coherent sentence 5. Linking sentences together [Assignment 2] 6. From sentence to paragraph 7. Midterm exam 8. Formatting skills 9. Academic writing introduction [Assignment 3] 10. Paragraph types 11. From life to paragraph 12. Editing your work [Assignment 4] 13. Peer editing 14. Final exam & Review 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me		
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.		
参考文献	特になし		
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)		

13年度以降	Writing Skills II (1年 N)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing unified, coherent paragraphs, which are the basic units of composition common to academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction 2. Academic topic choices 3. Building body paragraphs [Assignment 1] 4. Useful vocabulary 5. Linking body paragraphs [Assignment 2] 6. Cohesion and logic 7. Midterm exam 8. Using formatting skills 9. Using editing skills [Assignment 3] 10. Using external sources 11. Editing your work [Assignment 4] 12. Peer editing 13. Writing practice 14. Final exam & Review 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me		
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.		
参考文献	特になし		
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)		

13年度以降	Writing Skills I (1年 O)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course for first-year students. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or GoogleDocs to create well-formatted documents. 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Introduction: 2: Chap.1: Paragraph Format / nouns & articles 3: “ / subject-verb agreement 4: “ / verbs 5: Chap. 2: Narrative Paragraphs / verb tense 6: “ / organization 7: “ / compound sentences 8: Chap. 3: Paragraph Structure / Organization 9: “ / adjectives & Verbs 10: “ / “ 11: Chap. 4: Logical Division of Ideas / Paragraph “ / organization 12: “ / unity 13: “ /run-ons and comma splices / synonyms 14: Review / Test 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習：予習 / 事後学習：授業で学んだことを基に適宜文章作成を行なう		
テキスト	<i>Longman Academic Writing Series 3</i> By Alice Oshima/ Ann Hogue, (Pearson Longman), handout		
参考文献	<i>Essentials of English Grammar</i> by Otto Jespersen (Routledge)		
評価方法	class participation (20%) assignments (20%) unit test (20%) final report (20%) / final test (20%)		

13年度以降	Writing Skills II (1年 O)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing unified, coherent paragraphs, which are the basic units of composition common to academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Introduction: 2: Chap. 5 Process Paragraphs/ Clauses 3: “ / Organization 4: “ / transitional signals 5: “ / complex sentences 6: Chap. 6: Definition Paragraphs/ appositives 7: “ / organization 8: “/ adjective clauses / relative pronouns 9: Chap. 7: Cause / Effect Paragraphs 10: “ / organization 11: “ / cause / effect signals 12: Chapter 8: Comparison/ Contrast Paragraphs 13: “ / Organization / Comparison/ Contrast Signals 14: Review / Test 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習：予習 / 事後学習：授業で学んだことを基に適宜文章作成を行なう		
テキスト	<i>Longman Academic Writing Series 3</i> By Alice Oshima/ Ann Hogue, (Pearson Longman), handout		
参考文献	<i>Essentials of English Grammar</i> by Otto Jespersen (Routledge)		
評価方法	class participation (20%) assignments (20%) unit test (20%) final report (20%) / final test (20%)		

13年度以降	Writing Skills I (1年 P)	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course for first-year students. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or GoogleDocs to create well-formatted documents. 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions ; formatting 2. The introduction 3. The conclusion / the body/ common errors 4. Process essay 5. Division essay 6. Cause and effect essay 7. Editing essay 1 draft 8. Compare contrast essay 9. Problem + solution essay 10. Summarizing 11. Editing essay 2 12. Selecting test questions / planning under time limits 13. Timed essay test 14. Tests back / feedback 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson or post-lesson review will be explained by the instructor		
テキスト	Ready to Write 3 (3 rd edition) Blanchard, k. & Root, C. (2010) Pearson publishers		
参考文献	Electronic dictionary is OK		
評価方法	40% end of semester test / 60% essays		

13年度以降	Writing Skills II (1年 P)	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing unified, coherent paragraphs, which are the basic units of composition common to academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. note-taking 2. Choosing essay 1 topic / brainstorming the body 3. Research skills 4. Outlining 5. Editing essay 1 6. Choosing essay topic 2 7. Research skills 8. Research skills 9. Outlining 10. Research skills 11. Sentence variation / formal vs casual language 12. Editing essay 2 13. Weak points / course review 14. Essay pick-up / mxm review of essay 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson or post-lesson review will be explained by the instructor		
テキスト	No textbook		
参考文献	Electronic dictionary is OK		
評価方法	50% essay 1 / 50% essay 2		

13年度以降	Writing Skills I (1年 Q)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course for first-year students. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well-formatted documents. 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Unit 1-1,2 (Stimulating Ideas) 3. Unit 1-3,4,5 (Unity and Coherence) 4. Unit 2-1 Descriptive Essays (Stimulating Ideas) 5. Unit 2-2 (Brainstorming and Outlining) 6. Unit 2-3 (Developing Your Ideas) 7. Unit 2-4 (Editing Your Writing) 8. Unit 2-5 (Putting It All Together) 9. Unit 3-1 Example Paragraphs (Stimulating Ideas) 10. Unit 3-2 (Brainstorming and Outlining) 11. Unit 3-3 (Developing Your Ideas) 12. Unit 3-4 (Editing Your Writing) 13. Unit 3-5 (Putting It All Together) 14. Summary of the course 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の予習 (1時間)、復習 (1時間)。課題をポータルサイトに掲載し、予習してあることを前提として授業をすすめます。各自取り組んでから授業に臨んでください。		
テキスト	Alice Savage. <i>Effective Academic Writing 1: The Paragraph</i> . Oxford UP (2016) 978-0194323468		
参考文献	<i>Longman Dictionary of Contemporary English</i> . Pearson. (2014) 978-1447954200		
評価方法	Writing assignments (30%), class participation (10%), presentation (10%), final test (50%)		

13年度以降	Writing Skills II (1年 Q)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing unified, coherent paragraphs, which are the basic units of composition common to academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction, review of the spring semester 2. Unit 4-1 Process Paragraphs (Stimulating Ideas) 3. Unit 4-2 (Brainstorming and Outlining) 4. Unit 4-3 (Developing Your Ideas) 5. Unit 4-4 (Editing Your Writing) 6. Unit 4-5 (Putting It All Together) 7. Unit 5-1 Opinion Paragraphs (Stimulating Ideas) 8. Unit 5-2 (Brainstorming and Outlining) 9. Unit 5-3 (Developing Your Ideas) 10. Unit 5-4 (Editing Your Writing) 11. Unit 5-5 (Putting It All Together) 12. Unit 6-1 Narrative Paragraph (Stimulating Ideas) 13. Unit 6-2 (Brainstorming and Outlining) 14. Summary of the course 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の予習 (1時間)、復習 (1時間)。課題をポータルサイトに掲載し、予習してあることを前提として授業をすすめます。各自取り組んでから授業に臨んでください。		
テキスト	Alice Savag. <i>Effective Academic Writing 1: The Paragraph</i> . Oxford UP (2016) 978-0194323468		
参考文献	<i>Longman Dictionary of Contemporary English</i> . Pearson. (2014) 978-1447954200		
評価方法	Writing assignments (30%), class participation (10%), presentation (10%), final test (50%)		

13年度以降	Writing Skills I (1年 R)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course for first-year students. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy and the use of Microsoft Word or Googledocs to create well-formatted documents. 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Introduction: 2: Chap.1: Paragraph Format / nouns & articles 3: “ / subject-verb agreement 4: “ / verbs 5: Chap. 2: Narrative Paragraphs / verb tense 6: “ / organization 7: “ / compound sentences 8: Chap. 3: Paragraph Structure / Organization 9: “ / adjectives & Verbs 10: “ / “ 11: Chap. 4: Logical Division of Ideas / Paragraph “ / organization 12: “ / unity 13: “ /run-ons and comma splices / synonyms 14: Review / Test 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習：予習 / 事後学習：授業で学んだことを基に適宜文章作成を行なう		
テキスト	<i>Longman Academic Writing Series 3</i> By Alice Oshima/ Ann Hogue, (Pearson Longman), handout		
参考文献	<i>Essentials of English Grammar</i> by Otto Jespersen (Routledge)		
評価方法	class participation (20%) assignments (20%) unit test (20%) final report (20%) / final test (20%)		

13年度以降	Writing Skills II (1年 R)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing unified, coherent paragraphs, which are the basic units of composition common to academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy 		<ol style="list-style-type: none"> 1: Introduction: 2: Chap. 5 Process Paragraphs/ Clauses 3: “ / Organization 4: “ / transitional signals 5: “ / complex sentences 6: Chap. 6: Definition Paragraphs/ appositives 7: “ / organization 8: “/ adjective clauses / relative pronouns 9: Chap. 7: Cause / Effect Paragraphs 10: “ / organization 11: “ / cause / effect signals 12: Chapter 8: Comparison/ Contrast Paragraphs 13: “ / Organization / Comparison/ Contrast Signals 14: Review / Test 	
到達目標	高校までの英文法を復習し、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習：予習 / 事後学習：授業で学んだことを基に適宜文章作成を行なう		
テキスト	<i>Longman Academic Writing Series 3</i> By Alice Oshima/ Ann Hogue, (Pearson Longman), handout		
参考文献	<i>Essentials of English Grammar</i> by Otto Jespersen (Routledge)		
評価方法	class participation (20%) assignments (20%) unit test (20%) final report (20%) / final test (20%)		

13年度以降	Writing Skills III (2年 A)	担当者	E. J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' essay To help students understand various patterns of essay organization To help students plan essays To help students revise and edit their essays To help students use a variety of sources To help students develop computer literacy skills To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> Course Introduction What is a 'good' essay? Expository essays 1 – Analyzing the model Expository essays 2 – Narrowing the topic Draft writing and revision Process essays 1 – Analyzing the model Process essays 2 – Writing outlines Draft writing and revision Comparison essays – Analyzing the model Comparison essays – setting the criteria Draft writing and revision Problem Solution essays 1 – cause and effect Problem Solution essays 2 – presenting solutions Draft writing and revision 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Prepare for class, revise and resubmit essays		
テキスト	Longman Academic Writing Series Level 5 Essays to Research Papers		
参考文献	Bailey, S. A Handbook for International Students (available in the library)		
評価方法	In class exercises and participation 50%; Essay assignments 50%		

13年度以降	Writing Skills IV (2年 A)	担当者	E. J. ナオウミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students understand the typical structure of a 'good' essay To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization To help students plan essays To help students use a variety of references and utilize Internet sources To help students revise and edit their essays To help students develop computer literacy skills To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction to the course Research skill development Referencing – summary and paraphrase practice Summary and response essays 1 – model analysis Summary and response essays – outlines Peer evaluation Argumentative essays 1 – analyzing the model Argumentative essays 2 – who is your reader? Writing reviews – Analyzing the model Editing and proof reading Introduction to research paper writing 1 – topics Introduction to research paper writing 2 – outline Introduction to research paper writing 3 – support Revising the final product. 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Prepare for class, revise and resubmit essays		
テキスト	Longman Academic Writing Series Level 5 Essays to Research Papers		
参考文献	Bailey, S. A Handbook for International Students (available in the library)		
評価方法	In class exercises and participation 50%; Essay assignments 50%		

13年度以降	Writing Skills III (2年 B)	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' essay To help students understand various patterns of essay organization To help students plan essays To help students revise and edit their essays To help students use a variety of sources To help students develop computer literacy skills To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> Course Introduction In-class Writing Chapter 1 – Paragraph Structure Academic Writing, Paragraph due Chapter 2 – Unity and Coherence Draft Writing and Revision Chapter 4 – Introduction to Essay Writing Brainstorming, Parts of an Essay – pp. 78-87 Patterns of Organization – pp. 89-90 Essay – Draft due, Peer Editing Chapter 5 – Process Essay Draft due, Grammar Review – Chapter 9 Essay Draft Revision, Peer Editing, Instructor Conferences Term Wrap-up 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Essay Writing and an Introduction to Research Writing		
テキスト	Longman Academic Writing Series, Number 4		
参考文献	Linda Butler, Alice Oshima, Ann Hogue, Alan Myers; Longman		
評価方法	Class Participation, Homework, Paragraphs and Essays		

13年度以降	Writing Skills IV (2年 B)	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students understand the typical structure of a 'good' essay To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization To help students plan essays To help students use a variety of references and utilize Internet sources To help students revise and edit their essays To help students develop computer literacy skills To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> Course Review. Using Sources Chapter 3 – Using Outside Sources Chapter 5 – Cause/Effect Essays Draft Writing and Revision Chapter 3 – Paraphrasing and Summarizing Chapter 3 – Plagiarism, Citations Draft Due, Peer Editing Chapter 7-- Comparison/Contrast Essays Draft Writing and Revision Works Cited Page, Grammar Review 9 Instructor Conferences Chapter 8 – Argumentative Essays Essay Draft Revision, Peer Editing, Instructor Conference Course Wrap-up 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Essay Writing and an Introduction to Research Writing		
テキスト	Longman Academic Writing Series, Number 4		
参考文献	Linda Butler, Alice Oshima, Ann Hogue, Alan Myers; Longman		
評価方法	Class Participation, Homework, Paragraphs and Essays		

13年度以降	Writing Skills III (2年 C)	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. In-class Writing 3. Chapter 1 – Paragraph Structure 4. Academic Writing, Paragraph due 5. Chapter 2 – Unity and Coherence 6. Draft Writing and Revision 7. Chapter 4 – Introduction to Essay Writing 8. Brainstorming, Parts of an Essay – pp. 78-87 9. Patterns of Organization – pp. 89-90 10. Essay – Draft due, Peer Editing 11. Chapter 5 – Process Essay 12. Draft due, Grammar Review – Chapter 9 13. Essay Draft Revision, Peer Editing, Instructor Conferences 14. Term Wrap-up 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Essay Writing and an Introduction to Research Writing		
テキスト	<i>Longman Academic Writing Series</i> , Number 4 Linda Butler, Alice Oshima, Ann Hogue, Alan Myers; Longman		
参考文献	特になし		
評価方法	Class Participation, Homework, Paragraphs and Essays		

13年度以降	Writing Skills IV (2年 C)	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Review. Using Sources 2. Chapter 3 – Using Outside Sources 3. Chapter 5 – Cause/Effect Essays 4. Draft Writing and Revision 5. Chapter 3 – Paraphrasing and Summarizing 6. Chapter 3 – Plagiarism, Citations 7. Draft Due, Peer Editing 8. Chapter 7-- Comparison/Contrast Essays 9. Draft Writing and Revision 10. Works Cited Page, Grammar Review 9 11. Instructor Conferences 12. Chapter 8 – Argumentative Essays 13. Essay Draft Revision, Peer Editing, Instructor Conference 14. Course Wrap-up 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Essay Writing and an Introduction to Research Writing		
テキスト	<i>Longman Academic Writing Series</i> , Number 4 Linda Butler, Alice Oshima, Ann Hogue, Alan Myers; Longman		
参考文献	特になし		
評価方法	Class Participation, Homework, Paragraphs and Essays		

13年度以降	Writing Skills III (2年 D)	担当者	N. A. カナロス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Course introduction 2 Paragraph to Short Essay 3 Paragraph to Short Essay 4 Paragraph to Short Essay 5 Paragraph to Short Essay 6 Descriptive Essays 7 Descriptive Essays 8 Descriptive Essays 9 Descriptive Essays 10 Narrative Essays 11 Narrative Essays 12 Narrative Essays 13 Narrative Essays 14 Final in-class writing 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to write <i>every class</i> . Bring loose leaf paper (B5)		
テキスト	<i>Effective Academic Writing 2</i> , Alice Savage and Patricia Meyer, Oxford University Press		
参考文献	none		
評価方法	classroom participation 35%, short essays 45% (15% each), final writing 20%		

13年度以降	Writing Skills IV (2年 D)	担当者	N. A. カナロス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Term introduction 2 Comparison-Contrast Essay 3 Comparison-Contrast Essay 4 Comparison-Contrast Essay 5 Comparison-Contrast Essay 6 Opinion Essays 7 Opinion Essays 8 Opinion Essays 9 Opinion Essays 10 Cause-and-Effect Essays 11 Cause-and-Effect Essays 12 Cause-and-Effect Essays 13 Cause-and-Effect Essays 14 Final in-class writing 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to write <i>every class</i> . Bring loose leaf paper (B5)		
テキスト	<i>Effective Academic Writing 2</i> , Alice Savage and Patricia Meyer, Oxford University Press		
参考文献	none		
評価方法	classroom participation 35%, short essays 45% (15% each), final writing 20%		

13年度以降	Writing Skills III (2年 E)	担当者	M. L. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' essay To help students understand various patterns of essay organization To help students plan essays To help students revise and edit their essays To help students use a variety of sources To help students develop computer literacy skills To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions 2. Getting ready to write – Chapter 1 3. Writing paragraphs – Chapter 2 4. Revising and editing – Chapter 3 5. Revising and editing – peer critique practice 6. Writing essays – Chapter 4 7. Draft 1 mid-term paper –peer critiques 8. Process Essays – Chapter 5 (Mid-term paper due). 9. Process Essays – transition signals language focus 10. Division and classification essays – Chapter 6 11. Division/classification essays – academic language focus 12. Draft 1 final paper – peer critiques 13. Creative group writing – (Final paper due). 14. Introduction to citations, bibliographies. Review lesson 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト	Blanchard, K., Root, C. (2016), <i>Ready to Write 3. From Paragraph to Essay</i> , Pearson Education Inc.		
参考文献	特になし		
評価方法	Class involvement, 30%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper 30%.		

13年度以降	Writing Skills IV (2年 E)	担当者	M. L. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students understand the typical structure of a 'good' essay To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization To help students plan essays To help students use a variety of references and utilize Internet sources To help students revise and edit their essays To help students develop computer literacy skills To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Refresher lesson - 1st semester syllabus revisited 2. Citations and bibliographies revisited 3. Writing Summaries 4. Comparison and Contrast essays 5. Draft 1 mid-term paper, peer review 6. Cause and Effect essays (Mid-term paper due). 7. Cause and Effect essays - polishing intros and conclusions 8. Problem-Solution essays 9. Problem-Solution essays –subjective vs objective language 10. Opinion Essays – supporting personal views 11. Citations, bibliographies, and academic language check. 12. Draft 1 final paper peer reviews 13. Ready for research writing (Final Paper Due) 14. Summary lesson and course review. 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト	Blanchard, K., Root, C. (2016), <i>Ready to Write 3. From Paragraph to Essay</i> , Pearson Education Inc.		
参考文献	特になし		
評価方法	Class involvement, 30%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper 30%.		

13年度以降	Writing Skills III (2年 F)	担当者	M. L. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' essay To help students understand various patterns of essay organization To help students plan essays To help students revise and edit their essays To help students use a variety of sources To help students develop computer literacy skills To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions 2. Getting ready to write – Chapter 1 3. Writing paragraphs – Chapter 2 4. Revising and editing – Chapter 3 5. Revising and editing – peer critique practice 6. Writing essays – Chapter 4 7. Draft 1 mid-term paper –peer critiques 8. Process Essays – Chapter 5 (Mid-term paper due). 9. Process Essays – transition signals language focus 10. Division and classification essays – Chapter 6 11. Division/classification essays – academic language focus 12. Draft 1 final paper – peer critiques 13. Creative group writing – (Final paper due). 14. Introduction to citations, bibliographies. Review lesson 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト	Blanchard, K., Root, C. (2016), <i>Ready to Write 3. From Paragraph to Essay</i> , Pearson Education Inc.		
参考文献	特になし		
評価方法	Class involvement, 30%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper 30%.		

13年度以降	Writing Skills IV (2年 F)	担当者	M. L. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students understand the typical structure of a 'good' essay To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization To help students plan essays To help students use a variety of references and utilize Internet sources To help students revise and edit their essays To help students develop computer literacy skills To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Refresher lesson - 1st semester syllabus revisited 2. Citations and bibliographies revisited 3. Writing Summaries 4. Comparison and Contrast essays 5. Draft 1 mid-term paper, peer review 6. Cause and Effect essays (Mid-term paper due). 7. Cause and Effect essays - polishing intros and conclusions 8. Problem-Solution essays 9. Problem-Solution essays –subjective vs objective language 10. Opinion Essays – supporting personal views 11. Citations, bibliographies, and academic language check. 12. Draft 1 final paper peer reviews 13. Ready for research writing (Final Paper Due) 14. Summary lesson and course review. 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト	Blanchard, K., Root, C. (2016), <i>Ready to Write 3. From Paragraph to Essay</i> , Pearson Education Inc.		
参考文献	特になし		
評価方法	Class involvement, 30%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper 30%.		

13年度以降	Writing Skills III (2年 G)	担当者	J. ハント
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' essay To help students understand various patterns of essay organization To help students plan essays To help students revise and edit their essays To help students use a variety of sources To help students develop computer literacy skills To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> Intro Thinking about the topic Personalizing the topic Writing about changes Describing differences Understanding text structure Quiz 1 Applying what you have read Showing contrast Summarizing The passive voice Thinking critically Supporting main ideas Quiz 2 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Journal writing, research, reading, essay writing and editing, peer feedback, extension activities. Approx. 90 minutes/week.		
テキスト	"Academic Encounters Reading & Writing 3" by Williams, Brown & Hood. Cambridge.		
参考文献	To be provided.		
評価方法	Quizzes 40%; Writing Portfolio 20%; Class activities 40%		

13年度以降	Writing Skills IV (2年 G)	担当者	J. ハント
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students understand the typical structure of a 'good' essay To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization To help students plan essays To help students use a variety of references and utilize Internet sources To help students revise and edit their essays To help students develop computer literacy skills To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> Intro Linking ideas Summarizing Road map sentences Compound words and phrases Preparing for an essay test Quiz 1 Reading critically The passive voice Signals of chronological order Collocations Verbs of control Writing, review, peer editing and feedback Quiz 2 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Journal writing, research, reading, essay writing and editing, peer feedback, extension activities. Approx. 90 minutes/week.		
テキスト	"Academic Encounters Reading & Writing 3" by Williams, Brown & Hood. Cambridge.		
参考文献	To be provided.		
評価方法	Quizzes 40%; Writing Portfolio 20%; Class activities 40%		

13年度以降	Writing Skills III (2年 H)	担当者	N. A. カナロス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Course introduction 2 Paragraph to Short Essay 3 Paragraph to Short Essay 4 Paragraph to Short Essay 5 Paragraph to Short Essay 6 Descriptive Essays 7 Descriptive Essays 8 Descriptive Essays 9 Descriptive Essays 10 Narrative Essays 11 Narrative Essays 12 Narrative Essays 13 Narrative Essays 14 Final in-class writing 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to write <i>every class</i> . Bring loose leaf paper (B5)		
テキスト	<i>Effective Academic Writing 2</i> , Alice Savage and Patricia Meyer, Oxford University Press		
参考文献	none		
評価方法	classroom participation 35%, short essays 45% (15% each), final writing 20%		

13年度以降	Writing Skills IV (2年 H)	担当者	N. A. カナロス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Term introduction 2 Comparison-Contrast Essay 3 Comparison-Contrast Essay 4 Comparison-Contrast Essay 5 Comparison-Contrast Essay 6 Opinion Essays 7 Opinion Essays 8 Opinion Essays 9 Opinion Essays 10 Cause-and-Effect Essays 11 Cause-and-Effect Essays 12 Cause-and-Effect Essays 13 Cause-and-Effect Essays 14 Final in-class writing 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to write <i>every class</i> . Bring loose leaf paper (B5)		
テキスト	<i>Effective Academic Writing 2</i> , Alice Savage and Patricia Meyer, Oxford University Press		
参考文献	none		
評価方法	classroom participation 35%, short essays 45% (15% each), final writing 20%		

13年度以降	Writing Skills III (2年 I)	担当者	T. ダニー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' essay To help students understand various patterns of essay organization To help students plan essays To help students revise and edit their essays To help students use a variety of sources To help students develop computer literacy skills To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction to the course & Weekly Journal set Unit 1: Paragraphs Paragraphs (continued) Unit 2: Developing Ideas for Writing a Paragraph Developing Ideas for Writing a Paragraph (continued) Unit 3: Topic Sentences Topic Sentences (Continued) Mid-Term Writing Assignment/Activity Unit 4: Supporting and Concluding Sentences Supporting and Concluding Sentences (continued) Unit 5: Paragraph Review Paragraph Review (continued) Final Writing Assignment Preparation Submission of Final Writing Assignment 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができる。		
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other handouts & complete all assignments before beginning of the following class. After class, Students are required to do all homework tasks set. Students can expect to spend about 90 minutes per week in preparation		
テキスト	Great Writing 2, Keith Folse; April Muchmore-Vokoun; Elena Vestri Solomon (Cengage, ISBN 9781285750729)		
参考文献	特になし		
評価方法	Final Grades will be based on: In-class Participation - 30% Mid-Term Writing Activity - 30% Final Assignment - 40%		

13年度以降	Writing Skills IV (2年 I)	担当者	T. ダニー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students understand the typical structure of a 'good' essay To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization To help students plan essays To help students use a variety of references and utilize Internet sources To help students revise and edit their essays To help students develop computer literacy skills To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> Definition Paragraphs Definition Paragraphs (continued) Unit 7: Process Paragraphs Process Paragraphs (continued) Unit 8: Descriptive Paragraphs Descriptive Paragraphs (continued) Unit 9: Opinion Paragraphs Opinion Paragraphs (continued) Mid-Term Assignment/Activity Unit 10: Narrative Paragraphs Narrative Paragraphs (continued) Unit 11: Paragraphs in an Essay Paragraphs in an Essay (continued) Submission of Final Writing Assignment, Weekly Journal 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other handouts & complete all assignments before beginning of the following class. After class, Students are required to do all homework tasks set. Students can expect to spend about 90 minutes per week in preparation		
テキスト	Handouts will be given when necessary		
参考文献	特になし		
評価方法	Final Grades will be based on: In-class Participation - 30% Mid-Term Writing Activity - 30% Final Assignment - 40%		

13年度以降	Writing Skills III (2年 J)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' essay To help students understand various patterns of essay organization To help students plan essays To help students revise and edit their essays To help students use a variety of sources To help students develop computer literacy skills To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> Course introduction Brainstorming and topic selection The thesis statement Synthesizing Information Characteristics of a good paragraph Detailed outline Critical Thinking Personal opinion Writing a second draft Peer evaluation and feedback Reading and Discussion Cohesive paragraphs Introductions and Conclusions Test & Review 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Write weekly journal and do pre-writing exercises.		
テキスト	To be announced.		
参考文献	特になし		
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).		

13年度以降	Writing Skills IV (2年 J)	担当者	K. ミーハン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students understand the typical structure of a 'good' essay To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization To help students plan essays To help students use a variety of references and utilize Internet sources To help students revise and edit their essays To help students develop computer literacy skills To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> Summer Vacation Essay Brainstorming exercises Good Supporting sentences Word Choice Historical Event Essay Describing a World Heritage Site Essay Japanese Culture Essay Peer evaluation and feedback Explaining the Process of Learning Proofreading Exercises Hot Button Topic Comparison and contrast essay Classification essay Test & Review 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Write weekly journal and do pre-writing exercises.		
テキスト	To be announced.		
参考文献	特になし		
評価方法	Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).		

13年度以降	Writing Skills III (2年 K)	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' essay To help students understand various patterns of essay organization To help students plan essays To help students revise and edit their essays To help students use a variety of sources To help students develop computer literacy skills To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> Welcome - introductions and course outline. Getting to know you - conversation activities Exploring essays - the hook and introduction Exploring essays - the body and conclusion Stories - analyzing narrative essays Developing narrative essays - outlining Narrative essay - first draft peer review Narrative essay - second draft peer review Final draft submission - informing and explaining Class work - analyzing comparison essays Developing comparison essays - outlining Comparison essay - first draft peer review Comparison essay - second draft peer review Final draft - submission and course review. 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will research and write at home before classes, as well as reviewing their own and other students' assessments after class		
テキスト	Great Writing 4 - Great essays, Cengage		
参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (20%) and final essays (40% each for two)		

13年度以降	Writing Skills IV (2年 K)	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students understand the typical structure of a 'good' essay To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization To help students plan essays To help students use a variety of references and utilize Internet sources To help students revise and edit their essays To help students develop computer literacy skills To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> Welcome back - conversation activities 50 word stories - short writing activity. Reference - using the internet and other sources. Argument essays - analysis. Developing argument essays - outlining Argument essay - first draft peer review Argument essay - second draft peer review Final draft submission - writing reviews Stories - group narrative compositions Other forms of academic writing - outlining Students' choice - first draft peer review Students' choice - second draft peer review Final editing - teacher review. Final draft - submission and course review 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will research and write at home before classes, as well as reviewing their own and other students' assessments after class		
テキスト	Great Writing 4 - Great essays, Cengage		
参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (20%) and final essays (40% each for two)		

13年度以降	Writing Skills III (2年 L)	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction, outline, evaluation, course requirements. Prepare, plan and hand write short word essay. 2. What's good Writing, good writing techniques. 3. Paragraph planning, preparing techniques part # 1. 4. Paragraph Revision, editing, proof reading techniques Part #1. 5. What's a good paragraph. Evaluating and writing good topics. 6. Paragraph, evaluation and writing good support data, facts, extra information. 7. Mid-term quiz 15% 8. Research Library topic # 1 Personality Types 9. Paragraph planning, preparing techniques part # 2. 10. Paragraph revision, editing, proof reading techniques Part #2 11. Paragraph funnel introductions. 12. Paragraph cohesive writing. 13. Paragraphs unity writing. 14. End-of-term quiz - 15%. Individual final essay report 20%, email submission to be completed in Microsoft Word format. 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができる。		
事前・事後学修の内容	Essay topic research, writing skills research, and computer report preparation.		
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week.		
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week		
評価方法	1. Computer written reports = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%		

13年度以降	Writing Skills IV (2年 L)	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction, outline, evaluation, course requirements. Prepare, plan and write essay based on individual chosen topic. 2. What's a good Essay? Types of essays. 3. Essay planning, preparing techniques part # 1. 4. Essay revision, editing, proof reading techniques Part #1. 5. Essay introductions, organizations & outlines. 6. Essay support, facts, graphs and (data vs information). 7. Mid-term quiz 15% 8. Harvard Reference Style. Research Library topic # 2 9. Reference & Quotations. 10. Planning, preparing techniques part # 2. 11. Revision, editing, proof reading techniques Part #2 12. Essay Thesis, what is a thesis? Thesis techniques. 13. The final essay developing arguments, support. Putting it all together. Review, peer edit & feedback. 14. End-of-term quiz - 15%. Individual final essay report 20%, email submission to be completed in Microsoft Word format. 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができる。		
事前・事後学修の内容	Essay topic research, writing skills research, and computer report preparation		
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week.		
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.		
評価方法	1. Computer written reports = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%		

13年度以降	Writing Skills III (2年 M)	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay 2. To help students understand various patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students revise and edit their essays 5. To help students use a variety of sources 6. To help students develop computer literacy skills 7. To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<p>Week 1- Introduction: Paragraph Writing</p> <p>Week 2- Pre-Writing: Getting Ready to Write</p> <p>Week 3- Editing Ideas</p> <p>Week 4- The Structure of a Paragraph</p> <p>Week 5- Identifying and Writing Topic Sentences</p> <p>Week 6- The Development of a Paragraph</p> <p>Week 7- Peer Editing</p> <p>Week 8- Midterm Exam</p> <p>Week 9- Descriptive and Process Paragraphs</p> <p>Week 10- Process Paragraphs and Reasons for Writing Them</p> <p>Week 11- Opinion Paragraphs</p> <p>Week 12- Using Transition Words</p> <p>Week 13- Comparison/Contrast Paragraphs</p> <p>Week 14- Review & Final Exam</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content and I recommend that they read English newspaper articles and watch BBC or CNN news programs.		
テキスト	Ready to Write – From Paragraph to Essay Book 3, Fourth Edition, by Karen Blanchard & Christine Root, Pearson		
参考文献	特になし		
評価方法	Class participation – 40%, Midterm Exam – 30%, Final Exam – 30%		

13年度以降	Writing Skills IV (2年 M)	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To help students understand the typical structure of a 'good' essay 2. To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization 3. To help students plan essays 4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5. To help students revise and edit their essays 6. To help students develop computer literacy skills 7. To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<p>Week 1- Problem/Solution Paragraphs</p> <p>Week 2- The Structure of an Essay</p> <p>Week 3- Writing a Thesis Statement</p> <p>Week 4- Outlining an Essay</p> <p>Week 5- Writing an Outline</p> <p>Week 6- Introductions and Conclusions</p> <p>Week 7- The Purpose of a Conclusion</p> <p>Week 8- Midterm Exam</p> <p>Week 9- Unity and Coherence</p> <p>Week 10- The Importance of Coherence in Essay Writing</p> <p>Week 11- Essays for Examinations</p> <p>Week 12- Writing Timed Essays and Managing Time</p> <p>Week 13- Writing a Statement of Purpose</p> <p>Week 14- Review & Final Exam</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content and I recommend that they read English newspaper articles and watch BBC or CNN news programs.		
テキスト	Ready to Write – From Paragraph to Essay Book 3, Fourth Edition, by Karen Blanchard & Christine Root, Pearson		
参考文献	特になし		
評価方法	Class participation – 40%, Midterm Exam – 30%, Final Exam – 30%		

13年度以降	Writing Skills III (2年 N)	担当者	T. ダニー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' essay To help students understand various patterns of essay organization To help students plan essays To help students revise and edit their essays To help students use a variety of sources To help students develop computer literacy skills To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction to the course & Weekly Journal set Unit 1: Paragraphs Paragraphs (continued) Unit 2: Developing Ideas for Writing a Paragraph Developing Ideas for Writing a Paragraph (continued) Unit 3: Topic Sentences Topic Sentences (Continued) Mid-Term Writing Assignment/Activity Unit 4: Supporting and Concluding Sentences Supporting and Concluding Sentences (continued) Unit 5: Paragraph Review Paragraph Review (continued) Final Writing Assignment Preparation Submission of Final Writing Assignment 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができる。		
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other handouts & complete all assignments before beginning of the following class. After class, Students are required to do all homework tasks set. Students can expect to spend about 90 minutes per week in preparation		
テキスト	Great Writing 2, Keith Folse; April Muchmore-Vokoun; Elena Vestri Solomon (Cengage, ISBN 9781285750729)		
参考文献	特になし		
評価方法	Final Grades will be based on: In-class Participation - 30% Mid-Term Writing Activity - 30% Final Assignment - 40%		

13年度以降	Writing Skills IV (2年 N)	担当者	T. ダニー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students understand the typical structure of a 'good' essay To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization To help students plan essays To help students use a variety of references and utilize Internet sources To help students revise and edit their essays To help students develop computer literacy skills To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> Definition Paragraphs Definition Paragraphs (continued) Unit 7: Process Paragraphs Process Paragraphs (continued) Unit 8: Descriptive Paragraphs Descriptive Paragraphs (continued) Unit 9: Opinion Paragraphs Opinion Paragraphs (continued) Mid-Term Assignment/Activity Unit 10: Narrative Paragraphs Narrative Paragraphs (continued) Unit 11: Paragraphs in an Essay Paragraphs in an Essay (continued) Submission of Final Writing Assignment, Weekly Journal 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other handouts & complete all assignments before beginning of the following class. After class, Students are required to do all homework tasks set. Students can expect to spend about 90 minutes per week in preparation		
テキスト	Handouts will be given when necessary		
参考文献	特になし		
評価方法	Final Grades will be based on: In-class Participation - 30% Mid-Term Writing Activity - 30% Final Assignment - 40%		

13年度以降	Writing Skills III (2年 O)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' essay To help students understand various patterns of essay organization To help students plan essays To help students revise and edit their essays To help students use a variety of sources To help students develop computer literacy skills To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction to the teacher. Introduction to the course. Journal writing explained. How to write a paragraph. Review of main elements of a paragraph. From paragraph to short essay. Choosing of descriptive essay assignment. Brainstorming and outlining. Elements of an essay introduction. The thesis statement. Hooks and other strategic introductions Main body development. Using direct and indirect quotes. Concluding the essay. 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.		
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.		
参考文献	No reference book. Students should consult the internet and other sources for research connected to class topics		
評価方法	Class work, homework, vocabulary tests: 20%, Essay: 20%, Journal: 20%, Participation and effort: 20%, Final assessment: 20%		

13年度以降	Writing Skills IV (2年 O)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students understand the typical structure of a 'good' essay To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization To help students plan essays To help students use a variety of references and utilize Internet sources To help students revise and edit their essays To help students develop computer literacy skills To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<p>Below is a general outline of the course.</p> <ol style="list-style-type: none"> Welcome back to the class. Review of the grading system and outline of studies. Discussion and journal writing explained. Review of basic paragraph structure. Review of basic 3 paragraph essay structure. Going from the 3 paragraph to 5 paragraph essay. How to write introduction. Thesis statements. Researching and using references. Developing main body arguments. Use of outlining and brainstorming. Judicial use of internet sources. Main body enhancements. A solid conclusion. 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.		
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.		
参考文献	No reference books. Students should consult the internet and other sources for research connected to class topics		
評価方法	Class work, homework, vocabulary tests: 20%, Essay: 20%, Journal: 20%, Participation and effort: 20%, Final assessment: 20%		

13年度以降	Writing Skills III (2年 P)	担当者	A. G. ミルン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' essay To help students understand various patterns of essay organization To help students plan essays To help students revise and edit their essays To help students use a variety of sources To help students develop computer literacy skills To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<p>Week 1: Class overview and initial writing assignment.</p> <p>Week 2: Understanding how to write for an audience.</p> <p>Week 3: An introduction to planning strategies for writing.</p> <p>Week 4: Looking at paragraph construction.</p> <p>Week 5: Essay introductions, transition words and phrases.</p> <p>Week 6: Understanding the Thesis Statement.</p> <p>Week 7: First essay assignment. Planning and group work.</p> <p>Week 8: First essay assignment submission and peer review.</p> <p>Week 9: Essay feedback and review.</p> <p>Week 10: Awareness raising strategies - collocations.</p> <p>Week 11: Final essay topics: Planning and discussion.</p> <p>Week 12: The thesis statement (review).</p> <p>Week 13: Second essay submission and peer review</p> <p>Week 14: Second essay feedback and review.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	This class will focus on basic writing skills for English paragraph construction and essay development.		
テキスト	There are no texts required for this course. Handouts will be provided when necessary.		
参考文献	Any reference grammar of English will be sufficient for reviewing materials covered in class.		
評価方法	Mid-term essay (25%). Final term essay (25%). Active contribution to class activities: 25%. Timely completion of homework tasks: 25%. Students should be prepared to spend at least 90 minutes preparing for/reviewing classes.		

13年度以降	Writing Skills IV (2年 P)	担当者	A. G. ミルン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students understand the typical structure of a 'good' essay To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization To help students plan essays To help students use a variety of references and utilize Internet sources To help students revise and edit their essays To help students develop computer literacy skills To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<p>Week 1: What makes a good essay? (coherence and cohesion).</p> <p>Week 2: Genre and different styles of essay.</p> <p>Week 3: The thesis statement (review).</p> <p>Week 4: Learning new vocabulary through collocations.</p> <p>Week 5: Planning and organizing ideas.</p> <p>Week 6: First essay assignment. Planning and group work.</p> <p>Week 7: First essay assignment submission and peer review.</p> <p>Week 8: Essay feedback and review.</p> <p>Week 9: An introduction to using sources and supporting ideas.</p> <p>Week 10: Remaining objective: The passive voice.</p> <p>Week 11: Final essay topics: Planning and discussion.</p> <p>Week 12: Using sources (review).</p> <p>Week 13: Final essay submission and peer review</p> <p>Week 14: Final essay feedback and review.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする		
事前・事後学修の内容	This class will focus on writing skills for English paragraph construction and essay development.		
テキスト	There are no texts required for this class. Handouts will be provided when necessary.		
参考文献	Any reference grammar of English will be sufficient for reviewing materials covered in class.		
評価方法	Mid-term essay (25%). Final term essay (25%). Active contribution to class activities: 25%. Timely completion of homework tasks: 25%. Students should be prepared to spend at least 90 minutes preparing for/reviewing classes.		

13年度以降	Writing Skills III (2年 Q)	担当者	A. G. ミルン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' essay To help students understand various patterns of essay organization To help students plan essays To help students revise and edit their essays To help students use a variety of sources To help students develop computer literacy skills To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<p>Week 1: Class overview and initial writing assignment.</p> <p>Week 2: Understanding how to write for an audience.</p> <p>Week 3: An introduction to planning strategies for writing.</p> <p>Week 4: Looking at paragraph construction.</p> <p>Week 5: Essay introductions, transition words and phrases.</p> <p>Week 6: Understanding the Thesis Statement.</p> <p>Week 7: First essay assignment. Planning and group work.</p> <p>Week 8: First essay assignment submission and peer review.</p> <p>Week 9: Essay feedback and review.</p> <p>Week 10: Awareness raising strategies - collocations.</p> <p>Week 11: Final essay topics: Planning and discussion.</p> <p>Week 12: The thesis statement (review).</p> <p>Week 13: Second essay submission and peer review</p> <p>Week 14: Second essay feedback and review.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	This class will focus on basic writing skills for English paragraph construction and essay development.		
テキスト	There are no texts required for this course. Handouts will be provided when necessary.		
参考文献	Any reference grammar of English will be sufficient for reviewing materials covered in class.		
評価方法	Mid-term essay (25%). Final term essay (25%). Active contribution to class activities: 25%. Timely completion of homework tasks: 25%. Students should be prepared to spend at least 90 minutes preparing for/reviewing classes.		

13年度以降	Writing Skills IV (2年 Q)	担当者	A. G. ミルン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students understand the typical structure of a 'good' essay To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization To help students plan essays To help students use a variety of references and utilize Internet sources To help students revise and edit their essays To help students develop computer literacy skills To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<p>Week 1: What makes a good essay? (coherence and cohesion).</p> <p>Week 2: Genre and different styles of essay.</p> <p>Week 3: The thesis statement (review).</p> <p>Week 4: Learning new vocabulary through collocations.</p> <p>Week 5: Planning and organizing ideas.</p> <p>Week 6: First essay assignment. Planning and group work.</p> <p>Week 7: First essay assignment submission and peer review.</p> <p>Week 8: Essay feedback and review.</p> <p>Week 9: An introduction to using sources and supporting ideas.</p> <p>Week 10: Remaining objective: The passive voice.</p> <p>Week 11: Final essay topics: Planning and discussion.</p> <p>Week 12: Using sources (review).</p> <p>Week 13: Final essay submission and peer review</p> <p>Week 14: Final essay feedback and review.</p>	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	This class will focus on writing skills for English paragraph construction and essay development.		
テキスト	There are no texts required for this class. Handouts will be provided when necessary.		
参考文献	Any reference grammar of English will be sufficient for reviewing materials covered in class.		
評価方法	Mid-term essay (25%). Final term essay (25%). Active contribution to class activities: 25%. Timely completion of homework tasks: 25%. Students should be prepared to spend at least 90 minutes preparing for/reviewing classes.		

13年度以降	Writing Skills III (2年 R)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' essay To help students understand various patterns of essay organization To help students plan essays To help students revise and edit their essays To help students use a variety of sources To help students develop computer literacy skills To introduce the basics of referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction Unit 1-1,2 Paragraph to Short Essay Unit 1-3,4,5 (From Paragraph to Short Essay) Unit 2-1 Descriptive Essays (Stimulating Ideas) Unit 2-2 (Brainstorming and Outlining) Unit 2-3 (Developing Your Ideas) Unit 2-4 (Editing Your Writing) Unit 2-5 (Putting It All Together) Unit 3-1 Narrative Essays(Stimulating Ideas) Unit 3-2 (Brainstorming and Outlining) Unit 3-3 (Developing Your Ideas) Unit 3-4 (Editing Your Writing) Unit 3-5 (Putting It All Together) Summary of the course 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題をポータルサイトに掲載し、予習してあることを前提として授業をすすめます。各自取り組んでから授業に臨んでください。授業の予習(1時間)、復習(1時間)。		
テキスト	Alice Savage. <i>Effective Academic Writing 2: The Short Essay</i> . Oxford UP (2016) 978-0194323475		
参考文献	<i>Longman Dictionary of Contemporary English</i> . Pearson. (2014) 978-1447954200		
評価方法	Writing assignments (30%), class participation (10%), presentation (10%), final test (50%)		

13年度以降	Writing Skills IV (2年 R)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> To help students understand the typical structure of a 'good' essay To help students understand (genre-specific) patterns of essay organization To help students plan essays To help students use a variety of references and utilize Internet sources To help students revise and edit their essays To help students develop computer literacy skills To help students become more familiar with referencing and creating a bibliography (MLA or APA styles) 		<ol style="list-style-type: none"> Introduction, review of the spring semester Unit 4-1 Comparison-Contrast (Stimulating Ideas) Unit 4-2 (Brainstorming and Outlining) Unit 4-3 (Developing Your Ideas) Unit 4-4 (Editing Your Writing) Unit 4-5 (Putting It All Together) Unit 5-1 Opinion Essays (Stimulating Ideas) Unit 5-2 (Brainstorming and Outlining) Unit 5-3 (Developing Your Ideas) Unit 5-4 (Editing Your Writing) Unit 5-5 (Putting It All Together) Unit 6-1 Cause-and-Effect (Stimulating Ideas) Unit 6-2 (Brainstorming and Outlining) Summary of the course 	
到達目標	1年次の学習成果のうえに、より高度なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題をポータルサイトに掲載し、予習してあることを前提として授業をすすめます。各自取り組んでから授業に臨んでください。授業の予習(1時間)、復習(1時間)。		
テキスト	Alice Savage. <i>Effective Academic Writing 2: The Short Essay</i> . Oxford UP (2016) 978-0194323475		
参考文献	<i>Longman Dictionary of Contemporary English</i> . Pearson. (2014) 978-1447954200		
評価方法	Writing assignments (30%), class participation (10%), presentation (10%), final test (50%)		

13年度以降	E-learning I (1年1~2組)	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、2つのE-learning教材を用い、自主的および継続的に英語学習を進めることによって、英語の自律学習の習慣化を図ることを目的とする。</p> <p>2つの教材(Practical English 7とALC NetAcademy)を用いて、総合的な英語力の強化を行う。受講生は初めにリーディング、リスニング、文法についてPractical English 7のテスト各25分を受験する。学習レベルが診断され、受講生が不得意とするスキルを中心に、学習コースが自動的に作成される。そのため、学習内容は受講者によって部分的に異なる。春学期はリーディング(R)、文法(G)、語彙(PW)に重点を置く。</p> <p>授業では、(1) E-learning教材に関する13のテスト、(2) E-learning学習の進捗状況の報告、(3) 効果的な学習方法の共有などを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (必ず出席のこと) 2. 文法問題解説 & テスト1 (G/PW1~5) 3. リーディング問題解説 & テスト2 (R/PW6~10) 4. 文法問題解説 & テスト3 (G/PW11~15) 5. リーディング問題解説 & テスト4 (R/PW16~20) 6. 学習進捗状況の報告 & テスト5 (R/G/PWの復習) 7. 文法問題解説 & テスト6 (G/PW21~25) 8. リーディング問題解説 & テスト7 (R/PW26~30) 9. 文法問題解説 & テスト8 (G/PW31~35) 10. リーディング問題解説 & テスト9 (R/PW36~40) 11. 学習進捗状況の報告 & テスト10 (R/G/PWの復習) 12. 文法問題解説 & テスト11 (G/PW41~45) 13. リーディング問題解説 & テスト12 (R/PW46~50) 14. 学習進捗状況の報告 & テスト13 (R/G/PWの総復習) 	
到達目標	E-learningシステムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	与えられたID・パスワードを用い、Practical English 7およびALC NetAcademyにアクセスし、テスト計画に従って学習を進める。		
テキスト	Practical English 7 及び ALC NetAcademy の PowerWords		
参考文献	なし		
評価方法	(1)授業内テスト 60%、(2)その他の平常点 (E-learning 教材の理解、授業内課題など) 40%		

13年度以降	E-learning II (1年1~2組)	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に続き、2つのE-learning教材を用い、自主的および継続的に英語学習を進めることによって、英語の自律学習の習慣化を図ることを目的とする。</p> <p>秋学期はリーディング(R)、文法(G)、語彙(PW)に加えて、ライティング(W)及び2年生のクラス分けに適用するTOEFL ITPの問題演習を行う。</p> <p>授業では、(1) E-learning教材に関する13のテスト、(2) E-learning学習の進捗状況の報告、(3) 効果的な学習方法の共有などを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (必ず出席のこと) 2. 文法問題解説 & テスト1 (G/PW1~5) 3. リーディング問題解説 & テスト2 (R/PW6~10) 4. 文法問題解説 & テスト3 (G/PW11~15) 5. リーディング問題解説 & テスト4 (R/PW16~20) 6. 文法問題解説 & テスト5 (G/PW21~25) 7. リーディング問題解説 & テスト6 (R/PW26~30) 8. 学習進捗状況の報告 & テスト7 (G/R/PWの復習) 9. ライティング活動 & テスト8 (PW31~35) 10. TOEFL ITP練習問題 & テスト9 (PW36~40) 11. ライティング活動 & テスト10 (PW41~45) 12. TOEFL ITP練習問題 & テスト11 (PW46~50) 13. ライティング活動 & テスト12 (PWの復習) 14. 学習進捗状況の報告 & テスト13 (R/G/PWの総復習) 	
到達目標	E-learningシステムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	与えられたID・パスワードを用い、Practical English 7およびALC NetAcademyにアクセスし、テスト計画に従って学習を進める。		
テキスト	Practical English 7 及び ALC NetAcademy の PowerWords		
参考文献	なし		
評価方法	(1)授業内テスト 60%、(2)その他の平常点 (E-learning 教材の理解、授業内課題など) 30%、(3)TOEFL ITP 10%		

13年度以降	E-learning I (1年3~8組)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、2つのE-learning教材を用い、自主的および継続的に英語学習を進めることによって、英語の自律学習の習慣化を図ることを目的とする。</p> <p>2つの教材(Practical English 7とALC NetAcademy)を用いて、総合的な英語力の強化を行う。受講生は初めにリーディング、リスニング、文法についてPractical English 7のテスト各25分を受験する。学習レベルが診断され、受講生が不得意とするスキルを中心に、学習コースが自動的に作成される。そのため、学習内容は受講者によって部分的に異なる。春学期はリーディング(R)、文法(G)、語彙(PW)に重点を置く。</p> <p>授業では、(1) E-learning教材に関する13のテスト、(2) E-learning学習の進捗状況の報告、(3) 効果的な学習方法の共有などを行う。</p>		<p>第1回: ガイダンス (必ず出席すること)</p> <p>第2回: 語彙問題解説、ミニテスト (PW Level 5, 1-20)</p> <p>第3回: 文法問題解説、ミニテスト (品詞の区別)</p> <p>第4回: リーディング問題解説、ミニテスト (記述文)</p> <p>第5回: 学習進捗状況の報告、総合テスト (TOEICより)</p> <p>第6回: 語彙問題解説、ミニテスト (PW Level 5, 1-40)</p> <p>第7回: 文法問題解説、ミニテスト (時制)</p> <p>第8回: リーディング問題解説、ミニテスト (論説文)</p> <p>第9回: 学習進捗状況の報告、総合テスト (PEより)</p> <p>第10回: 語彙問題解説、ミニテスト (PW Level 5, 1-50)</p> <p>第11回: 文法問題解説、ミニテスト (複雑な構文)</p> <p>第12回: リーディング問題解説、ミニテスト (物語文)</p> <p>第13回: 学習進捗状況の報告、総合テスト (TOEFLより)</p> <p>第14回: まとめ、復習テスト</p>	
到達目標	E-learningシステムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	与えられたID・パスワードを用い、Practical English 7およびALC NetAcademyにアクセスし、テスト計画に従って学習を進める。		
テキスト	Practical English 7 及び ALC NetAcademy の PowerWords		
参考文献	特になし。		
評価方法	(1)授業内テスト 60%、(2)その他の平常点 (E-learning教材の理解、授業内課題など) 40%。		

13年度以降	E-learning II (1年3~8組)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に続き、2つのE-learning教材を用い、自主的および継続的に英語学習を進めることによって、英語の自律学習の習慣化を図ることを目的とする。</p> <p>秋学期はリスニング(L)、語彙(PW)、ライティング(W)及び2年生のクラス分けに適用するTOEFL ITPの問題演習に重点を置く。</p> <p>授業では、(1) E-learning教材に関する13のテスト、(2) E-learning学習の進捗状況の報告、(3) 効果的な学習方法の共有などを行う。</p>		<p>第1回: ガイダンス (必ず出席すること)</p> <p>第2回: 語彙問題解説、ミニテスト (PW Level 6, 1-20)</p> <p>第3回: リスニング問題解説、ミニテスト (日常生活)</p> <p>第4回: ライティング活動 (紹介文を書く)</p> <p>第5回: TOEFL形式テスト練習 (ミニテスト+解説)</p> <p>第6回: 語彙問題解説、ミニテスト (PW Level 6, 1-40)</p> <p>第7回: リスニング問題解説、ミニテスト (旅行)</p> <p>第8回: ライティング活動 (社会問題について書く)</p> <p>第9回: TOEFL形式テスト練習 (過去問題)</p> <p>第10回: 語彙問題解説、ミニテスト (PW Level 6, 1-50)</p> <p>第11回: リスニング問題解説、ミニテスト (ビジネス)</p> <p>第12回: ライティング活動 (資料に基づき書く)</p> <p>第13回: TOEFL形式テスト練習 (模擬テスト)</p> <p>第14回: まとめ、復習テスト</p>	
到達目標	E-learningシステムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	与えられたID・パスワードを用い、Practical English 7およびALC NetAcademyにアクセスし、テスト計画に従って学習を進める。		
テキスト	Practical English 7 及び ALC NetAcademy の PowerWords		
参考文献	特になし。		
評価方法	(1)授業内テスト 60%、(2)その他の平常点 (E-learning教材の理解、授業内課題など) 30%、(3)TOEFL ITP 10%。		

13年度以降	E-learning I (1年9~12組)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、2つのE-learning教材を用い、自主的および継続的に英語学習を進めることによって、英語の自律学習の習慣化を図ることを目的とする。</p> <p>2つの教材(Practical English 7とALC NetAcademy)を用いて、総合的な英語力の強化を行う。受講生は初めにリーディング、リスニング、文法についてPractical English 7のテスト各25分を受験する。学習レベルが診断され、受講生が不得意とするスキルを中心に、学習コースが自動的に作成される。そのため、学習内容は受講生によって部分的に異なる。春学期はリーディング(R)、文法(G)、語彙(PW)に重点を置く。</p> <p>授業では、(1) E-learning教材に関する13のテスト、(2) E-learning学習の進捗状況の報告、(3) 効果的な学習方法の共有などを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (必ず出席のこと) 2. 文法問題解説 & テスト1 (G 3 units/PW 01-05) 3. リーディング問題解説 & テスト2 (R 3 units/PW 06-10) 4. 文法問題解説 & テスト3 (G 3 units/PW 11-15) 5. リーディング問題解説 & テスト4 (R 3 units/PW 16-20) 6. 学習進捗状況の報告 & テスト5 (R/G/PWの復習) 7. 文法問題解説 & テスト6 (G 3 units/PW 21-25) 8. リーディング問題解説 & テスト7 (R 3 units/PW 26-30) 9. 文法問題解説 & テスト8 (G 3 units & PW 31-35) 10. リーディング問題解説 & テスト9 (R 3 units & PW 36-40) 11. 学習進捗状況の報告 & テスト10 (R/G/PWの復習) 12. 文法問題解説 & テスト11 (G 3 units & PW 41-45) 13. リーディング問題解説 & テスト12 (R 3 units & PW 46-50) 14. 学習進捗状況の報告 & テスト13 (R/G/PWの総復習・応用) 	
到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	与えられた ID・パスワードを用い、Practical English 7 および ALC NetAcademy にアクセスし、テスト計画に従って学習を進める。		
テキスト	Practical English 7 及び ALC NetAcademy の PowerWords (PW) Level 5		
参考文献	特になし		
評価方法	(1)授業内テスト(テスト 5, 10, 14 は 100 点、その他は 50 点満点) 60%、(2)その他の平常点 (E-learning 教材の理解、授業内課題など) 40%		

13年度以降	E-learning II (1年9~12組)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に続き、2つのE-learning教材を用い、自主的および継続的に英語学習を進めることによって、英語の自律学習の習慣化を図ることを目的とする。</p> <p>秋学期はリスニング(L)、語彙(PW)、ライティング(W)及び2年生のクラス分けに適用するTOEFL ITPの問題演習に重点を置く。</p> <p>授業では、(1) E-learning教材に関する13のテスト、(2) E-learning学習の進捗状況の報告、(3) 効果的な学習方法の共有などを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (必ず出席のこと) 2. リスニング問題解説 & テスト1 (L 3 units/PW 01-05) 3. リスニング問題解説 & テスト2 (L 3 units/PW 06-10) 4. リスニング問題解説 & テスト3 (L 3 units/PW 11-15) 5. リスニング問題解説 & テスト4 (L 3 units/PW 16-20) 6. リスニング問題解説 & テスト5 (L 3 units/PW 21-25) 7. リスニング問題解説 & テスト6 (L 3 units/PW 26-30) 8. 学習進捗状況の報告 & テスト7 (L/PWの復習) 9. ライティング活動 & テスト8 (PW 31-40) 10. TOEFL ITP練習問題 & テスト9 (PW 31-40) 11. ライティング活動 & テスト10 (PW 41-50) 12. TOEFL ITP練習問題 & テスト11 (PW 41-50) 13. ライティング活動 & テスト12 (PW 01-50復習・応用) 14. 学習進捗状況の報告 & テスト13 (TOEFL ITP形式) 	
到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	与えられた ID・パスワードを用い、Practical English 7 および ALC NetAcademy にアクセスし、テスト計画に従って学習を進める。		
テキスト	Practical English 7 及び ALC NetAcademy の PowerWords (PW) Level 6		
参考文献	特になし		
評価方法	(1)授業内テスト(テスト 7, 12, 13 は 100 点、その他は 50 点満点) 60%、(2)その他の平常点 (E-learning 教材の理解、授業内課題など) 30%、(3)TOEFL ITP 10%		

13年度以降	英語専門講読 I (Cool Japan: 1900-1960)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>This course aims to:</u></p> <p>(1) build students' confidence in English reading and presentation skills: from reading to integrating knowledge to presenting information</p> <p>(2) improve students' skills in academic reading strategies: from logical comprehension to cohesive summary</p> <p>(3) build students' confidence by contributing to group work</p> <p><u>Attendance Policy:</u></p> <p>1. If you have four unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three times it will count as one absence.</p> <p>2. Turn off your cell phones in class.</p> <p>3. Report your absence in advance whenever possible.</p> <p>4. NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).</p>		<ol style="list-style-type: none"> Course Introduction Japan in the World (Exhibitions) Meiji: to be or not to be (Japanese) Moga Modern Tokaido [Research Paper Topic Due] Issei, Nisei, Sansei [RP Outline Due] Nippon (magazine) Department Store Miracle [RP Introduction Due] Chiune Sugihara [RP Body Paragraph I Due] Shashin Shuho [RP Body Paragraph II Due] Transport: rush to the city [RP Body Paragraph III Due] Made in Japan [RP Conclusion Due] Protest or Compliance [Research Paper Final Due] Final Exam & Review 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1)Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Read the articles thoroughly and look up any unknown words, (3) Go through the content and digest the main points, (4) Reading summaries' dates and contributors will be announced in class, (5) Use MyDOC to receive notices from me		
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.		
参考文献	特になし		
評価方法	In-class participation (20%), Research paper (40%), Final Exam (40%)		

13年度以降	英語専門講読 II (Cool Japan: 1960-2016)	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>This course aims to:</u></p> <p>(1) build students' confidence in English reading and presentation skills: from reading to integrating knowledge to presenting information</p> <p>(2) improve students' skills in academic reading strategies: from logical comprehension to cohesive summary</p> <p>(3) build students' confidence by contributing to group work</p> <p><u>Attendance Policy:</u></p> <p>1. If you have four unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three times it will count as one absence.</p> <p>2. Turn off your cell phones in class.</p> <p>3. Report your absence in advance whenever possible.</p> <p>4. NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).</p>		<ol style="list-style-type: none"> Course introduction Made in Japan and admired The Bubble Western Japan - Eastern Japan Japanese in the world [Research Paper Topic Due] The world in Japan [RP Outline] Images of Japan Manga [RP Introduction Due] J-pop [RP Body Paragraph I Due] 21st century Japonism [RP Body Paragraph II Due] Ryugaku [RP Body Paragraph III Due] Japan First [RP Conclusion Due] Final Exam [Research Paper Final Due] Final & Review 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1)Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Read the articles thoroughly and look up any unknown words, (3) Go through the content and digest the main points, (4) Reading summaries' dates and contributors will be announced in class, (5) Use MyDOC to receive notices from me		
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.		
参考文献	特になし		
評価方法	In-class participation (20%), Research paper (40%), Final Exam (40%)		

13年度以降	英語専門講読 I (Videogames in Contemporary Society)	担当者	J. D. コーリス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Videogames in Contemporary Society: This course will examine contemporary debates about the impact of videogames on society.</p> <p>Whether you play them or not, videogames play a significant role in everyday life throughout the developed world today. They shape our education, legal and healthcare systems. They influence the health and development of our children, not to mention the economic impact of the global videogame industry. This has prompted wide speculation about the potential benefits and harms of videogames on society. Videogames have been labeled “digital heroin” and “virtual murder simulators” on the one hand, and celebrated for unprecedented breakthroughs in learning, communication, and therapeutics on the other.</p> <p>Students will read selections from a range of sources and practice the analysis of the politics, moral panic and scholarly research underlying debates about the impact of videogames on society today. The course will include weekly readings and response papers and a final presentation.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Greeting and Introduction: Games and Everyday Life 2. “Murder Simulators”, Violence, and Desensitization 3. Representation and Recruitment 4. Social Development 5. Literacy and Communication 6. Cognitive Development and Problem-solving 7. “Digital Heroin” and Addiction 8. Physiological Development, Stress and Healthcare 9. Screen-time and Sleep 10. Education and Learning 11. Gender and Diversity on the Screen 12. Gender and Diversity Behind the Scenes 13. Labor: Culture of “Crunch” 14. Student Presentations 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students prepare vocabulary and assigned readings before class. Students research and prepare a final presentation throughout the semester.		
テキスト	All materials will be provided in class.		
参考文献	Provided in class.		
評価方法	Classroom Participation 40%, Response papers 25%, Final Presentation 25%, Quizzes and Homework 10%		

13年度以降	英語専門講読 II (Videogames and Interactive Media in Social Science)	担当者	J. D. コーリス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Videogames and Interactive Media in Social Science: This course will survey the growing body of social science literature on the study of videogames and emerging interactive media.</p> <p>Videogames are now the single largest sector of the global entertainment industry, and this commercial impact is matched by an equally profound cultural impact. Today videogames shape and participate in our learning, sociality, and work, as much as they do in our play. As a result, videogames and videogame research have pushed scholars to rethink some of the dominant models of these spheres of human activity.</p> <p>In this class students will read selections to learn about key areas of videogame scholarship and practice critical analysis and discussion of those topics and readings. The course will include weekly readings and response papers and a final research essay.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Greeting and Introduction: What is a videogame? 2. Narratology and Ludology 3. Interactivity and Emergent Authorship 4. Physicality and Embodiment 5. Empathy and Aggression 6. Discipline: Reward, Punishment, and Agency 7. Midterm Presentations 8. Community and Socialization 9. Learning and Literacy 10. Work and Play: Making Games as Work 11. Work and Play: Playing Games as Work 12. Hacking, Modding and User-generated Content 13. Deviance and Subversion: Cheating and Griefing 14. Course Review 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students prepare vocabulary and assigned readings before class. Students research and prepare a final essay throughout the semester.		
テキスト	All materials will be provided in class.		
参考文献	Provided in class.		
評価方法	Classroom Participation 40%, Homework and Response Papers 30%, Final Research Paper 30%		

13 年度以降	英語専門講読 I (変形生成文法理論研究の50年)	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 近年 変形生成文法理論の研究を回顧する二つのイベントがあった。一つは、MIT 言語学の50周年記念行事(2011年12月9日-11日)であり、もう一つは、Noam Chomskyが変形文法の初期の研究の集大成と今後の展望を明らかにしたChomsky (1965) <i>Aspects of the Theory of Syntax</i> 以降の50年の研究を回顧する論文集の刊行(2015年12月)である。春学期は前者のイベントを中心に生成文法理論の内容を学習するとともに英語の読解能力の向上を目指す。</p> <p>講義概要: まず50周年記念集会への招待状を読む。次に、招待されるMITの修了者への二つの質問への著名な言語学者の返答を数通読む。さらに、<i>Aspects</i>以降の50年の研究回顧論文集に寄せたChomskyの所感(「まえがき」)を読む。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Invitation to the scientific reunion & two questions 2. Ross's reply – on linguistic universals 3. Ross's reply – the start of squibs 4. Ross's reply – on explanations in linguistics 5. Emonds's reply 6. Longobardi's reply - on parametric theories 7. Longobardi's reply - evidence for P & P 8. Rizzi's reply to the questions 〈中間試験〉 9. Chomsky's remarks on his own <i>Aspects</i> (1965) 10. Basic assumptions in <i>Aspects</i> (1965) 11. Goals for linguistic theory 12. On the properties of language 13. Construction of explicit grammars 14. Study of I-language 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために必ず予習し、予習に際しては、参考文献の『統辞構造論』の「【解説】「生成文法の企て」の原典」を適宜参考にされたい。		
テキスト	配布する“50 years of Linguistics at MIT — A scientific reunion”に関する文書・論文		
参考文献	Noam Chomsky(著)、福井直樹・辻子美保子(訳)『統辞構造論』(岩波書店、2014年)		
評価方法	出席は単位認定の前提とし、授業での発表(10%)と中間試験(45%)と期末試験(45%)に基づいて評価する。		

13 年度以降	英語専門講読 II (生成文法理論・標準理論以降の研究50年)	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 変形生成文法理論研究を回顧する二つのイベントのうち、秋学期は、Chomsky (1965) <i>Aspects of the Theory of Syntax</i>. 以降の生成文法理論研究の50年を回顧する論文集 <i>50 Years Later Reflections on Chomsky's Aspects</i> に収録された論文を読み、生成文法理論の研究の経過を学習するとともに英語の読解能力の向上を目指す。</p> <p>講義概要: <i>Aspects</i>以降の50年回顧論文に収録されている論文のうち、<i>Aspects</i>以降の生成文法の研究をよく説明している、Tim Stowell “Mentalism and Universals in <i>Aspects</i>”と Samuel Epstein et al. “From <i>Aspects</i>' Daughterless Mothers' (AKA Delta Nodes) to POP's 'Motherless Sets' (AKA Non-Projection): A Selective History of the Evolution of Simplest Merge”という二つの論文を読む。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Mentalism in <i>Aspects</i> [Stowell] 2. Mentalistic interpretation of linguistic theory 3. Shift to mentalism 4. Universals in <i>Aspects</i> 5. Two types of universals 6. Problems of Projection (POP) [Epstein et al.] 7. Certain aspects of <i>Aspects</i> 8. Properties of phrase structure rules 〈中間試験〉 9. from phrase structure rules to X-bar Theory 10. Properties of \bar{X}-bar Theory 11. Minimalist Program 12. Emergence of bare phrase structure 13. simplest Merge 14. from <i>Aspects</i> to Problems of Projection 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために必ず予習し、予習に際しては、参考文献の『統語理論の諸相』を適宜参考されたい。		
テキスト	配布する論文: Stowell “Mentalism and Universals in <i>Aspects</i> ” と Epstein et al. “From <i>Aspects</i> to POP...”		
参考文献	Noam Chomsky(著)・安井稔(訳)『統語理論の諸相』(研究社、1970年)		
評価方法	出席は単位認定の前提とし、授業での発表(10%)と中間試験(45%)と期末試験(45%)に基づいて評価する。		

13年度以降	英語専門講読 I (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will learn theoretical ideas and practical techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves.</p> <p><i>All the coursework will be conducted in English.</i> You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. What is a bilingual? 3. Characteristics of L2 users 4. What are L2 users like? 5. A best age for learning L2 6. The experience of immigrants 7. The idea of a critical period 8. Acquiring L2 vocabulary 9. The lexical challenge in infancy and later 10. Learning words from context 11. Learning L2 grammar 12. Grammatical morphemes 13. Word order and processing 14. Wrap-up 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	reading assignments, writing summaries, doing research and preparing for presentations		
テキスト	<i>Key Topics in Second Language Acquisition</i> , V. Cook & D. Singleton (Multilingual Matters, 2014)		
参考文献	特になし		
評価方法	In-class participation (20%), presentations (40%), reading assignments and summary (30%), self evaluation (10%)		

13年度以降	英語専門講読 II (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will learn theoretical ideas and practical techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves.</p> <p><i>All the coursework will be conducted in English.</i> You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Learning to write in L2 3. Writing system 4. Reading and writing processes 5. Attitudes and motivation in learning L2 6. Attitudes 7. Motivation 8. Teaching and learning 9. The grammar translation method 10. The audiolingual method 11. The communicative approach 12. The hierarchy of languages 13. Groups of L2 users 14. Native speakers and L2 users 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	reading assignments, writing summaries, doing research and preparing for presentations		
テキスト	<i>Key Topics in Second Language Acquisition</i> , V. Cook & D. Singleton (Multilingual Matters, 2014)		
参考文献	特になし		
評価方法	In-class participation (20%), presentations (40%), reading assignments and summary (30%), self evaluation (10%)		

13年度以降	英語専門講読 I (アメリカの食文化を読む) (月 4)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アジア系アメリカ人社会の食文化に関する学術論文を、精読する。春学期はカリフォルニア大学ロサンゼルス校歴史学科のV. J. マツモト教授の論文を取り上げる。</p> <p>昨今の学生には、なぜか辞書を引かず、内容の概略をスキミングしていき、分からないことがあっても確かめずに推測にまかせ読み進めるといった方法を好む方が多いように思う。資格試験の問題を読んだり、雑誌や軽い読み物を楽しんだりするときにはよいだろう。しかし、単語、熟語、文法等の知識を確認しながら、論文をきちんと読む作業は、全学生に必ず経験していただき、できれば習慣として身につけてほしいことのひとつである。</p> <p>本授業ではそのような訓練を行うと同時に、アカデミックな英語の文章の特徴や、学術論文の構造などに親しんでもらうことで、いざ学生が自分で論文を執筆しようとしたときにも役立つ読み方を心がけていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 論理解の前提となる必要基本知識の確認(時代など) 3. 必要基礎知識の確認(用語など)/導入部分 4. 第二次世界大戦前の日系アメリカ人①pp.256-257 5. 第二次世界大戦前の日系アメリカ人②pp.257-258 6. 第二次世界大戦前の日系アメリカ人③pp.258-259 7. 〈新〉日系アメリカ人料理①pp.259-260 8. 〈新〉日系アメリカ人料理②pp.260-261/食べ物と民族性pp.261-262 9. 〈新しい〉多文化料理 10. 食べ物とジェンダー①pp.264-265 11. 食べ物とジェンダー②pp.265-266 12. 祝祭の食べ物 13. 食べ物と第二次世界大戦 14. まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習として、次回の授業範囲となるテキストの箇所を精読し、辞書を引き、分からないことがあればその箇所を明らかにしておくこと(2時間。人によってはもっとかかるかもしれません)。		
テキスト	Matsumoto. "Apple Pie and Makizushi." (2013)		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業参加度 50%とその他の平常点(提出物、発表など)50%から、総合的に評価する。		

13年度以降	英語専門講読 II (アメリカの食文化を読む) (月 4)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アジア系アメリカ人社会の食文化に関する学術論文を、精読する。秋学期はハワイ大学人類学科のC. R. ヤノ教授の論文を取り上げる。</p> <p>昨今の学生には、なぜか辞書を引かず、内容の概略をスキミングしていき、分からないことがあっても確かめずに推測にまかせ読み進めるといった方法を好む方が多いように思う。資格試験の問題を読んだり、雑誌や軽い読み物を楽しんだりするときにはよいだろう。しかし、単語、熟語、文法等の知識を確認しながら、論文をきちんと読む作業は、全学生に必ず経験していただき、できれば習慣として身につけてほしいことのひとつである。</p> <p>本授業ではそのような訓練を行うと同時に、アカデミックな英語の文章の特徴や、学術論文の構造などに親しんでもらうことで、いざ学生が自分で論文を執筆しようとしたときにも役立つ読み方を心がけていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 論理解の前提となる必要基本知識の確認 3. 導入部分①pp.30-32 4. 導入部分②pp.32-33 5. 今昔給食談義①pp.33-35 6. 今昔給食談義②pp.35-37 7. 今昔給食談義③pp.37-36 8. 今昔給食談義④pp.36-38 9. 給食のおばさん 10. ある給食のおばさんの肖像 11. 給食のレガシー 12. カフェテリアで育まれるアメリカ市民権 13. ハワイの学校給食における人気メニュー 14. まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習として、次回の授業範囲となるテキストの箇所を精読し、辞書を引き、分からないことがあればその箇所を明らかにしておくこと(2時間。人によってはもっとかかるかもしれません)。		
テキスト	Yano. "Tasting America." (2013)		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業参加度 50%とその他の平常点(提出物、発表など)50%から、総合的に評価する。		

13年度以降	英語専門講読 I (オセアニアの社会と文化) (月 4)	担当者	玉井 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的) 主に次の能力の向上を目指します。1) 課題設定力: オセアニア地域の政治、社会や文化を理解し、自らの関心に応じた課題を設定する。2) 情報収集分析力: 各自が設定した課題に関する英語文献を収集し、熟読の上、論点を整理する。3) 発信力/対応力: 自身の分析や論点を他者に発信し、質問やコメントに対応する。</p> <p>(講義概要) オセアニア地域の政治や社会に関する英語文献を通して、地域に関する理解を深めます。また、応用英語学的な観点から、文献をどのように読み、論点や課題を設定するか考え、他者への効果的な伝達手段についても考えます。よって、オセアニア地域に対する関心はもちろんのこと、効果的なプレゼンテーションや英語での教育に関心がある人にも適しています。受講者が主体となって取り組みアクティブラーニング的手法やピア・ティーチングも重視します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Introduction for Oceania Studies 3. Presentation & Discussion: Political issues 4. Presentation & Discussion: Economic situation 5. Presentation & Discussion: Cultural issues 6. Presentation & Discussion: Social trends 7. Presentation & Discussion Education 8. Midterm Review & Introduction for Second half 9. Presentation & Discussion(6) Tourism& Hospitality 10. Presentation & Discussion(7) Specific city of AUS 11. Presentation & Discussion(8) Specific city of NZ 12. Presentation & Discussion(9) Specific city of others 13. Presentation & Discussion(10) Global situation 14. Course Review <p>Note: These plans might be changed if needed.</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。とくにディスカッションリーダーは入念な事前準備が必要です。		
テキスト	主に ABC や RNZ など豪州や NZ のオンラインサイトの情報をテキストとして利用します。		
参考文献	適宜紹介します。		
評価方法	ディスカッションリーダーとしての授業運営 (30%)、通常ディスカッションへの参加と貢献度 (30%)、最終レポート (40%)		

13年度以降	英語専門講読 II (オセアニアの社会と文化) (月 4)	担当者	玉井 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的) 春期と同様に次の3点です。1) 課題設定力: オセアニア地域の政治、社会や文化を理解し、自らの関心に応じた課題を設定する。2) 情報収集分析力: 各自が設定した課題に関する英語文献を収集し、熟読の上、論点を整理する。3) 発信力/対応力: 自身の分析や論点を他者に発信し、質問やコメントに対応する。</p> <p>(講義概要) 春期に続き、オセアニア地域の政治や社会に関する英語文献を通して、地域に関する理解の習熟をめざします。また、応用英語学的な観点から、文献をどのように読み、論点や課題を設定するか考え、他者への効果的な伝達手段についても考えます。よって、オセアニア地域に対する関心はもちろんのこと、効果的なプレゼンテーションや英語での教育に関心がある人にも適しています。受講者が主体となって取り組みアクティブラーニング的手法やピア・ティーチングも重視します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Introduction for Oceania Studies 3. Presentation & Discussion: Political issues 4. Presentation & Discussion: Economic situation 5. Presentation & Discussion: Cultural issues 6. Presentation & Discussion: Social trends 7. Presentation & Discussion Education 8. Midterm Review & Introduction for Second half 9. Presentation & Discussion(6) Tourism& Hospitality 10. Presentation & Discussion(7) Specific city of AUS 11. Presentation & Discussion(8) Specific city of NZ 12. Presentation & Discussion(9) Specific city of others 13. Presentation & Discussion(10) Global situation 14. Course Review <p>Note: These plans might be changed if needed.</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。とくにディスカッションリーダーは入念な事前準備が必要です。		
テキスト	主に ABC や RNZ など豪州や NZ のオンラインサイトの最新記事をテキストとして利用します。		
参考文献	適宜紹介します。		
評価方法	ディスカッションリーダーとしての授業運営 (30%)、通常ディスカッションへの参加と貢献度 (30%)、最終レポート (40%)		

13年度以降	英語専門講読 I (戦後国際政治史) (月4)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠となる。なお毎週、英文和訳や内容確認の小テストを行う。</p> <p>使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ (Kindle版もあるが、授業はペーパーバック版をもとに進める)。テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に2年生は注意して欲しい。この授業と併せて、「グローバル・ヒストリー」などの国際政治史に関する授業を履修することを勧める。</p> <p><u>*なお、第一回目から授業を開始し、小テストを実施するので、少なくとも第9章の5ページ程度は読んでおくこと。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方に関するオリエンテーション 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読① 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読② 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③ 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④ 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤ 7. 前半の総括と質疑応答 8. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥ 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦ 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧ 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨ 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩ 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪ 14. 後半の総括と質疑応答 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。また授業終了後は、授業内容を思い起こし、ポイントを整理しておくこと。疑問点があれば、次週の授業で質問すること。		
テキスト	Antony Best et al. <i>International History of the Twentieth Century and Beyond</i> (Oxford: Oxford University Press, 2014), Chap. 9 – Chap. 23.		
参考文献	第一回目の授業で参考文献リストを配布予定。		
評価方法	評価は次の2点による。①授業の参加度・貢献度(30%)、②小テスト(70%)。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす。なお授業中の教員からの質問に答えられなかった場合は減点する。		

13年度以降	英語専門講読 II (戦後国際政治史) (月4)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠になる。なお毎週、和文英訳や内容確認の小テストを行う。</p> <p>使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ (Kindle版もあるが、授業ではペーパーバック版をもとに進める)。テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に2年生は要注意。この授業と併せて、「グローバル・ヒストリー」などの国際政治史に関する授業を履修することを勧める。</p> <p><u>*なお、第一回目から授業を開始し、小テストを実施するので、少なくとも5ページ程度は読んでおくこと。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方に関するオリエンテーション 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読① 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読② 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③ 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④ 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤ 7. 前半の総括と質疑応答 8. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥ 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦ 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧ 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨ 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩ 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪ 14. 後半の総括と質疑応答 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。また授業終了後は、授業内容を思い起こし、ポイントを整理しておくこと。疑問点があれば、次週の授業で質問すること。		
テキスト	Antony Best et al. <i>International History of the Twentieth Century and Beyond</i> (Oxford: Oxford University Press, 2014), Chap. 9 – Chap. 23.		
参考文献	第一回目の授業で参考文献リストを配布予定。		
評価方法	評価は次の2点による。①授業の参加度・貢献度(30%)、②小テスト(70%)。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす。なお授業中の教員からの質問に答えられなかった場合は減点する。		

13年度以降	英語専門講読 I (Children's Classics)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>《イギリス児童文学》</p> <p>古典とされるイギリス児童文学の中から、いくつかを選んで読みながら、イギリス文化への理解を深めることを目的とする。春学期はA Bear Called Paddingtonのシリーズを読む。きわめて平易な英語で書かれているが、イギリス英語特有の表現、ロンドンの中産階級の生活と価値観、ペルーからの「移民」であるクマへの視線といったものが細部には書き込まれている。そうした面白さは翻訳では、なかなか理解できない。平易な英語を速読しながら、細部の面白さを理解することを目指す。またこのシリーズはStephen Fryの朗読によるAudio Bookもあるので、音声としての英語の面白さへの鑑賞力を高めることも目的のひとつである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. <i>A Bear Called Paddington</i>, Chapter 1 3. <i>A Bear Called Paddington</i>, Chapter 2 4. <i>A Bear Called Paddington</i>, Chapter 3 5. <i>A Bear Called Paddington</i>, Chapter 4 6. <i>A Bear Called Paddington</i>, Chapter 5 7. <i>A Bear Called Paddington</i>, Chapter 6 8. <i>A Bear Called Paddington</i>, Chapter 7 9. <i>More about Paddington</i>, Chapter 1 10. <i>More about Paddington</i>, Chapter 2 11. <i>More about Paddington</i>, Chapter 3 12. <i>More about Paddington</i>, Chapter 4 13. <i>More about Paddington</i>, Chapter 5 14. <i>More about Paddington</i>, Chapter 6 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	1回およそ20～25ページ程度を読む。その指定された箇所について、事前に精読しておくこと。		
テキスト	Bond, Michael. (1958). <i>A Bear Called Paddington</i> . Collins. ISBN: 0007174160、その他1冊		
参考文献	授業中に紹介する。		
評価方法	毎回の授業で行う小テストと授業への参加度によって評価する。		

13年度以降	英語専門講読 II (Children's Classics)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の続き。秋学期はFrances Hodgson Burnettの<i>Little Lord Fauntleroy</i>を読む。<i>Little Lord Fauntleroy</i>は大きな運命の転変を経験する少年の物語であるが、同時にイギリスとアメリカの文化や社会、それに根ざした価値観の差を反映している。英語で丹念に読みながら、筋書きを追うだけでなく、イギリスの階級社会とアメリカの共和制、イギリスのクリケットとアメリカの野球など、英米の文化や制度の差についても理解を深めることを目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. <i>Little Lord Fauntleroy</i>, Chapter 1 2. <i>Little Lord Fauntleroy</i>, Chapter 2 3. <i>Little Lord Fauntleroy</i>, Chapter 3 4. <i>Little Lord Fauntleroy</i>, Chapter 4 5. <i>Little Lord Fauntleroy</i>, Chapter 5 6. <i>Little Lord Fauntleroy</i>, Chapter 6 7. <i>Little Lord Fauntleroy</i>, Chapter 7 8. <i>Little Lord Fauntleroy</i>, Chapter 8 9. <i>Little Lord Fauntleroy</i>, Chapter 9 10. <i>Little Lord Fauntleroy</i>, Chapter 10 11. <i>Little Lord Fauntleroy</i>, Chapter 11 12. <i>Little Lord Fauntleroy</i>, Chapter 12 13. <i>Little Lord Fauntleroy</i>, Chapter 13 14. <i>Little Lord Fauntleroy</i>, Chapter 14 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回指定された章を事前に精読してくる。		
テキスト	Burnett, Frances Hodgson (1886) <i>Little Lord Launtleroy</i> . Puffin Classics. ISBN: 9780141330143		
参考文献	授業中に紹介する。		
評価方法	毎回の授業で行う小テストと授業への参加度 70%、学期末試験 30%		

13年度以降	英語専門講読 I (シンボルを読み解く)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、さまざまな表象文化におけるシンボルを読み解いていく。短編小説、詩、歌のリリックスなどのテキストを用いて、シンボルや暗黙的前提を明らかにしながら、背後にある歴史、社会、宗教、ポピュラーカルチャー、消費主義などについて深く理解していく。</p> <p>春学期はとくに食文化に注目していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 身の周りのシンボル 3. 小説におけるシンボルの解釈 4. 食べものとストーリー 1 甘味 5. 食べものとストーリー 2 主食 6. 食べものとストーリー 3 肉 7. 食べものとストーリー 4 スパイス 8. 食べものとストーリー 5 飲み物 9. 映画/音楽のなかのシンボル 10. 短編小説のなかのシンボル 1 米国 11. 短編小説のなかのシンボル 2 英国 12. プレゼンテーション前半 13. プレゼンテーション 後半・コメント 14. まとめと試験 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定されたところを事前に精読しておいてください。予習は必須です。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献	三吉美加『米国のラティーノ』（大学教育出版、2014年）		
評価方法	授業への参加度 20% プレゼンテーション 20% 試験 60%		

13年度以降	英語専門講読 II (表象文化のシンボルを読み解く)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期も、春学期と同様のトピックを扱うが米国のアフリカ系アメリカ人、ラティーノ、カリブ系の文化について焦点をあてる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 身の周りのシンボル 3. 小説におけるシンボル 4. アメリカ文化におけるシンボル 5. アフリカ系アメリカ文化のシンボル 6. ラティーノ・カリブ系のシンボル 1 アフリカの伝統 7. ラティーノ・カリブ系のシンボル 2 音楽と食 8. 映画/音楽のなかのシンボル 1 「死者の日」 9. 映画/音楽のなかのシンボル 2 「ハロウィーン」 10. お話しのなかのシンボル 1 不思議な話 11. お話しのなかのシンボル 2 ストーリーテリング 12. プレゼンテーション前半 13. プレゼンテーション 後半・コメント 14. まとめと試験 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定されたところを事前に精読しておいてください。予習は必須です。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	三吉美加『米国のラティーノ』（大学教育出版、2014年）		
評価方法	授業への参加度 20% グループプレゼンテーション 20% 試験 60%		

13年度以降	英語専門講読 I (コリアン・ディアスポラを考える) (月5)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ディアスポラ——故国や民族の居住地を離れて越境し、別の土地に定住して、そこで暮らす人々。その言葉の語源となったユダヤ人を始め、世界各地には多くのディアスポラが存在するが、日本に暮らす我々にとって最も近い存在なのは、なんとといっても全国に90万人近く(2013年の時点で)が住んでいるという、在日コリアンであろう。</p> <p>この授業では、在米韓国人作家Min Jin Leeによる在日コリアンを題材とした長編小説で、2017年の全米図書賞のファイナリストにもなったベストセラー『パチンコ』の講読を通じ、コリアン・ディアスポラについて、そして文化の共生について考えていきたい。</p> <p>全体で500頁を超える長編小説だが、英語は平易で読みやすく、ベストセラーになるだけあって、なにより話が面白い。長編小説を英語で読んだことのない学生も楽しめ、また考えさせられることの多い経験となるだろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Book 1: 1章, 2章, 3章, 3. 4章, 5章, 6章, 4. 7章, 8章, 9章, 5. 10章, 11章, 12章, 6. 13章, 14章, 15章, 7. 16章, 17章. Book 1のまとめ 8. Book 2: 1章, 2章, 3章, 9. 4章, 5章, 6章, 10. 7章, 8章, 9章, 11. 10章, 11章, 12章, 12. 13章, 14章, 15章, 13. 16章, 17章, 18章, 14. 19章, 20章. Book 2のまとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	扱われる箇所を必ず読み、各の内容を象徴するような一文を準備すること(提出)。また、登場人物の相関関係や新事実などを整理し、質問に答えられるよう準備しておくこと。所要時間は、3~5時間。		
テキスト	Min Jin Lee. <i>Pachinko</i> . Head of Zeus. 2017.		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業参加度 50%、提出物 50%		

13年度以降	英語専門講読 II (コリアン・ディアスポラを考える) (月5)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、在米韓国人作家Min Jin Leeによる在日コリアンを題材とした長編小説で、2017年の全米図書賞のファイナリストにもなったベストセラー『パチンコ』の講読を通じ、コリアン・ディアスポラについて、そして文化の共生について考えていきたい。</p> <p>授業の進め方は、基本的に春学期と同じだが、第12週と第13週には、受講者による短いプレゼンテーションの機会を設ける。取り上げた作品や授業内容に関連したトピックで、各学生に発表をしていただくことになる(時間は受講生の人数により加減)。</p> <p>なお、秋学期のみ履修の受講生は、夏季休暇の間にBook 1とBook 2を読んでおくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Book 3: 1章, 2章, 3. 3章, 4章, 4. 5章, 6章, 5. 7章, 8章, 6. 9章, 10章, 7. 11章, 12章, 8. 13章, 14章, 9. 15章, 16章, 10. 17章, 18章, 11. 19章, 20章, Book 3のまとめ 12. プレゼンテーション(受講者前半のかた) 13. プレゼンテーション(受講者後半のかた) 14. 総括 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期と同じ。それに加えて、プレゼンテーションの前には、一定の準備が必要である。		
テキスト	Min Jin Lee. <i>Pachinko</i> . Head of Zeus. 2017.		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業参加度(プレゼンテーションを含む) 50%、提出物 50%		

13年度以降	英語専門講読 I (現代国際関係) (月5)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「インド太平洋」地域の国際関係に関する評論を読んでいく。講読の対象となる評論は、国際問題専門誌Diplomatや米経済紙Wall Street Journal、オーストラリアの国際問題に関する2つの研究所ローウィ研究所 (Lowy Institute) とオーストラリア戦略政策研究所 (ASPI) のリサーチペーパーなどから取り上げる。</p> <p>主なトピックは、トランプ政権のアジア政策、中国の「一帯一路」とインド太平洋、サイバー問題を巡る米中対立、日本の「インド太平洋構想」、南シナ海問題、北朝鮮の核問題、オーストラリアの外交政策などである。</p> <p>受講者に対しては毎週、対象英文の全文和訳を宿題として課す。その上で、授業ではパラグラフごとに受講者が交代で日本語訳を発表し、受講者はさらにパラグラフの内容についての教員からの質問に答える義務が課される。質問に答えられなかった場合は、減点する。したがって、予習するにあたっては、単に英語を和訳するのではなく、関連文献を読むなどして、内容の理解を務めることが必要である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読① 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読② 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③ 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④ 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤ 7. 前半の総括と質疑応答 8. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥ 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦ 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧ 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨ 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩ 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪ 14. 後半の総括と質疑応答 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定された英文を事前に読み、内容を理解し、疑問点を明確にしておくこと。授業後は授業内容を復習し、理解できなかった部分を翌週の授業で提示し、疑問点を解消しておくこと。		
テキスト	テキストはポータルサイトを通じて配布する。		
参考文献	第一回目の授業で参考文献リストを配布予定。		
評価方法	①宿題 (60%)、②授業時の和訳担当 (40%)、欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす (欠席した場合には宿題を受理することはできない)。		

13年度以降	英語専門講読 II (現代国際関係) (月5)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「インド太平洋」地域の国際関係に関する評論を読んでいく。講読の対象となる評論は、国際問題専門誌Diplomatや米経済紙Wall Street Journal、オーストラリアの国際問題に関する2つの研究所ローウィ研究所 (Lowy Institute) とオーストラリア戦略政策研究所 (ASPI) のリサーチペーパーなどから取り上げる。</p> <p>主なトピックは、トランプ政権のアジア政策、中国の「一帯一路」とインド太平洋、サイバー問題を巡る米中対立、日本の「インド太平洋構想」、南シナ海問題、北朝鮮の核問題、オーストラリアの外交政策などである。</p> <p>受講者に対しては毎週、対象英文の全文和訳を宿題として課す。その上で、授業ではパラグラフごとに受講者が交代で日本語訳を発表し、受講者はさらにパラグラフの内容についての教員からの質問に答える義務が課される。質問に答えられなかった場合は、減点する。したがって、予習するにあたっては、単に英語を和訳するのではなく、関連文献を読むなどして、内容の理解を務めることが必要である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読① 3. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読② 4. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読③ 5. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読④ 6. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑤ 7. 前半の総括と質疑応答 8. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑥ 9. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑦ 10. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑧ 11. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑨ 12. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑩ 13. 各セクション、各パラグラフの内容確認・輪読⑪ 14. 後半の総括と質疑応答 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定された英文を事前に読み、内容を理解し、疑問点を明確にしておくこと。授業後は授業内容を復習し、理解できなかった部分を翌週の授業で提示し、疑問点を解消しておくこと。		
テキスト	テキストはポータルサイトを通じて配布する。		
参考文献	第一回目の授業で参考文献リストを配布予定。		
評価方法	①宿題 (60%)、②授業時の和訳担当 (40%)、欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす (欠席した場合には宿題を受理することはできない)。		

13年度以降	英語専門講読 I (SLA 最前線)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第2言語（英語）を習得すること（second language acquisition: SLA）は、なぜこんなに難しいのか？どのような学習方法・教授方法が効果的なのか？第2言語習得に長けている人と苦勞する人は、一体何が違うのか？</p> <p>このような疑問に答えるべく、調査や実験を行うのが、「実証研究」である。この授業では、英語で書かれたSLA実証研究論文を講読していく。</p> <p>実証研究論文は「科学的」である。「研究課題」（Research questions）があり、「研究方法」（Research method）があり、得られた「結果」（Results）は図や表と共に数値で表される。多くの受講生の皆さんにとっては、初めて読むタイプの文書だと思われるが、どのように読み解いて行くのかという基本的なことを講義する。その後、読んだ内容を基に、ディスカッションやリサーチデザイン案を立ててみる活動を中心とした、活発な演習を行っていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・練習論文の配布 2. 練習論文 3. 論文1-1. 語彙習得について：Intro, Background 4. 論文1-2. 語彙習得について：Method 5. 論文1-3. 語彙習得について：Results, Discussion 6. 論文1-4. 語彙習得について：議論・デザイン練習 7. 論文2-1. 学習者要因について：Intro, Background 8. 論文2-2. 学習者要因について：Method 9. 論文2-3. 学習者要因について：Results, Discussion 10. 論文2-4. 学習者要因について：議論・デザイン練習 11. 論文3-1. 効果的な学習方法とは：Intro, Background 12. 論文3-2. 効果的な学習方法とは：Method 13. 論文3-3. 効果的な学習方法とは：Results, Discussion 14. 論文3-4. 効果的な学習方法とは：議論・デザイン練習 	
到達目標	分野専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予め配布される質問紙に対する答えを探しながら、当該論文を読んだ上、授業に臨むこと。		
テキスト	日本国内で出版された、日本人英語学習者を対象とした研究論文。		
参考文献	論文のテーマごとに、授業中に紹介する。		
評価方法	毎回の授業中での活動（60%）、学期末レポート（40%）		

13年度以降	英語専門講読 II (SLA 最前線)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期同様、SLA実証研究論文を講読する。秋学期は、日本国外で出版された、日本人英語学習者以外を対象としたSLA研究に触れ、世界で第2言語の学習・教授がどのように行われているのかについて知ることにも目的の1つである。</p> <p>また秋学期は、読んだ論文の要約、議論などの授業内活動を英語で行う。最終レポートも英語で書いて頂く。これらを通じ、研究論文で仕様されている高度でアカデミックな英語表現を身につけることを目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 論文1-1. リスニングプロセス：Intro, Background 3. 論文1-2. リスニングプロセス：Method 4. 論文1-3. リスニングプロセス：Results, Discussion 5. 論文1-4. リスニングプロセス：議論・デザイン練習 6. 論文2-1. 言語テストと評価：Intro, Background 7. 論文2-2. 言語テストと評価：Method 8. 論文2-3. 言語テストと評価：Results, Discussion 9. 論文2-4. 言語テストと評価：議論・デザイン練習 10. 論文3-1. WTC：Intro, Background 11. 論文3-2. WTC：Method 12. 論文3-3. WTC：Results, Discussion 13. 論文3-4. WTC：議論・デザイン練習 14. まとめ 	
到達目標	分野専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予め配布される質問紙に対する答えを探しながら、当該論文を読んだ上、授業に臨むこと。		
テキスト	日本国外で出版された、日本人英語学習者を対象とした研究論文。		
参考文献	論文のテーマごとに、授業中に紹介する。		
評価方法	毎回の授業中での活動（60%）、学期末レポート（40%）		

13年度以降	英語専門講読 I (History of the English Language)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will trace English's journey across the globe in the wake of British imperialism, following it to first to America.</p> <p>By reading and discussing the text material, including pre-reading and post-reading activities to enhance the reader's comprehension, it is hoped that students will come away from this course with a better understanding of the English language today.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text.</p>		<p>Week 1: Introduction</p> <p>Week 2: My America: Vocabulary & Discuss (V&D)</p> <p>Week 3: My America: Video & Reading (V&R)</p> <p>Week 4: Wild West Words: V&D</p> <p>Week 5: Wild West Words: V&R</p> <p>Week 6: Sold Down the River: V&D</p> <p>Week 7: Sold Down the River: V&R</p> <p>Week 8: Quiz I. Mastering the Language: V&D</p> <p>Week 9: Mastering the Language: V&R</p> <p>Week 10: The Proper Way to Talk: V&D</p> <p>Week 11: The Proper Way to Talk: V&R</p> <p>Week 12: Steam, Streets and Slang: V&D</p> <p>Week 13: Steam, Streets and Slang: V&R</p> <p>Week 14: Quiz II. Journals due.</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments (approximately 4 hours) in preparation for class participation.		
テキスト	Bragg, M. <i>The Adventure of English: The Biography of a Language</i> . (Sceptre, 2011)		
参考文献	Presented on a case-by-case basis		
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).		

13年度以降	英語専門講読 II (History of the English Language)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will trace English's journey across the globe in the wake of British imperialism, following it to India, Australia, and elsewhere.</p> <p>By reading and discussing the text material, including pre-reading and post-reading activities to enhance the reader's comprehension, it is hoped that students will come away from this course with a better understanding of the English language today.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text.</p>		<p>Week 1: Introduction</p> <p>Week 2: Indian Takeover: Vocabulary & Discuss (V&D)</p> <p>Week 3: Indian Takeover: Video & Reading (V&R)</p> <p>Week 4: The West Indies: V&D</p> <p>Week 5: The West Indies: V&R</p> <p>Week 6: Advance Australia: V&D</p> <p>Week 7: Advance Australia: V&R</p> <p>Week 8: Quiz I. Warts and All: V&D</p> <p>Week 9: Warts and All: V&R</p> <p>Week 10: All Over the World: V&D</p> <p>Week 11: All Over the World: V&R</p> <p>Week 12: And Now...?: V&D</p> <p>Week 13: And Now...?: V&R</p> <p>Week 14: Quiz II. Journals due.</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments (approximately 4 hours) in preparation for class participation.		
テキスト	Bragg, M. <i>The Adventure of English: The Biography of a Language</i> . (Sceptre, 2011)		
参考文献	Presented on a case-by-case basis		
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).		

13年度以降	英語専門講読 I (言語研究のさまざまな知見を巡る)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年度に続き（題材は異なる）、言語研究のさまざまな知見について読む。</p> <p>本授業では、音声学や音韻論、統語論、意味論等といった中核ではなく、触れる機会がより少ないかもしれない関連領域のトピックを読み、ことばからヒトや世界を学ぶ。トピックは、文字から見る世界・ヒト、対話の中でのことば（語用論）、社会の中でのことば（社会言語学）、音から見る世界、乳児の音から見ることば、などである。</p> <p>テキストは一般向けの平易な英文で読みやすい。毎週、程よい分量を継続して読むことで、英語を読むことへの慣れを促し、また、内容を詳細に読む練習により、正確な読解力と分析的な視点を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Ch 17-1 Writing（形の違いだけでない世界の文字） 3. Ch 17-2 Sounding out words: 3200BC（文字の始まり） 4. Ch 17-3 Writing around the world（世界の文字） 5. Ch 18 Writing changes your brain（文字と脳） 6. Ch 8-1 Pragmatics（語用論：対話の中でのことば） 7. Ch 8-2 Meaning more than you say（言外の意味） 8. Ch 8-3 Saying it makes it so（発話でことを起こす） 9. Ch 8-4 Shaping meaning with context（ことばと文脈） 10. Ch 9-1 Sociolinguistics（社会言語学） 11. Ch 9-2 Language variation（ことばの多様性） 12. Ch 9-3 Language variation (2) 13. Ch 9-4 Projecting your style（発話スタイルと社会） 14. Review and General Discussions 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	学生は毎週の事前の読み課題や事前/事後のまとめ課題等をこなし、論点や疑問点と共に授業に臨むことが求められる。		
テキスト	Burton, Déchaine & Vatikiotis-Bateson. (2011) Linguistics for Dummies. Wiley and Sons Canada, Ltd. (ISBN: 978-1-118-09169-2, ebook ISBN: 978-1-118-10157-5)		
参考文献	その他 配布資料		
評価方法	授業参加（準備・クイズ/課題）：約 30%，発表 30%，まとめ課題/試験：約 40%。 単位認定には約 70%以上の出席が求められる。		

13年度以降	英語専門講読 II (言語研究のさまざまな知見を巡る)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、言語にまつわるさまざまなトピックを読む。主に音声のトピックを取り上げるが、音声の観点から世界の言語の違い・広がりや、ヒトとことばの関係を見てみる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Ch 15-1 World's languages（言語ファミリーと珍しい音） 3. Ch 15-2 Airstreams（肺からの呼気だけでない） 4. Ch 15-3 Voice and Tones（声の質、トーン） 5. Ch 15-4 VOT（君のpは私のb） 6. Ch 16-1 Other places/manners（世界の色々な音） 7. Ch 16-2 Retroflex, Throat（同じ”r”とは思えない） 8. Ch 16-3 Epiglottis（肺の入口までも使う） 9. Ch 16-4 Syllable- vs stress-timed（世界の言語リズム） 10. Ch 17-1 Child's speech development（赤ちゃんのことば） 11. Ch 17-2 Errors or disorders（想定内異変or言語障害） 12. Ch 17-3 Transcription（赤ちゃんの音を文字で表せる?） 13. (Ling) Ch 5-1 Morphology（形態論） 14. (Ling) Ch 5-2 Morphology Maze（語を読み解く） 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	学生は毎週の事前の読み課題や事前/事後のまとめ課題をこなし、論点や疑問点をもって授業に臨むことが求められる。		
テキスト	Katz, William F. (2013) Phonetics for Dummies. John Wiley and Sons, Inc., Ltd. (ISBN: 978-1-118-50508-3, ebook ISBN: 978-1-118-50509-0)		
参考文献	その他 配布資料		
評価方法	授業参加（準備・クイズ/課題）：約 30%，発表 30%，まとめ課題/試験：約 40%。 単位認定には約 70%以上の出席が求められる。		

13年度以降	英語専門講読 I (異文化コミュニケーションの基礎)	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期は、コミュニケーション論分野の基礎的な文献を読み、コミュニケーションの諸概念や仕組みを理解することを目的とする。</p> <p>授業形式は、3～4人のグループによるプレゼンテーションである。学生諸君が日常生活で経験しているコミュニケーション現象を紹介・分析・説明することを通して、文献の内容に関する理解の共有を図る。また、学んだことを教室の内外で実践することも求められる。</p> <p>この授業は、「学生の、学生による、学生のための授業」である。学生諸君の活発な議論を通して、活気ある授業作りや履修者間の人間関係作りをしてもらいたい。そして、日常のコミュニケーション現象に興味を持ったり、新しい発見をしたりしながら、毎週の授業を楽しみにしてもらえれば幸いである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション、英語文献の読み方 2. 文献精読演習（基礎文献） 3. 文献精読演習（学術論文） 4. プレゼンテーションとは何か（準備と方法） 5. グループの決定 6. プレゼンテーション：文化とコミュニケーション 7. プレゼンテーション：コミュニケーションのしくみ 8. プレゼンテーション：言語記号 9. プレゼンテーション：非言語記号 10. プレゼンテーション：コンテキスト 11. プレゼンテーション：コミュニケーションと認知 12. プレゼンテーション：自己認知とは 13. プレゼンテーション：自己認知と自己開示 14. 春学期のまとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で割り当てられた箇所を精読する。プレゼンターは資料等の準備、プレゼンター以外は質問事項などを整理しておく。学習内容に基づき、日常のコミュニケーション現象を観察・分析する。		
テキスト	授業で読む文献はコピーとして配布する。		
参考文献	適宜、コミュニケーション論、心理学、社会学に関する辞典・文献。Reading Assignment（別途指示）		
評価方法	グループワークの評価（30%）、授業への貢献度（10%）、学期末レポート（40%）、ポートフォリオ（20%）により評価する。		

13年度以降	英語専門講読 II (異文化コミュニケーションの理論)	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、春学期の内容を踏まえ、特に「異文化」に焦点を当てながら理論に関する文献を読み、その内容を理解することを目的とする。また、特殊講義として、ムスリムの文化を扱う文献を講読する。</p> <p>授業形式は、3～4人のグループによるプレゼンテーションである。学生諸君が日常生活で経験しているコミュニケーション現象を紹介・分析・説明することを通して、文献の内容に関する理解の共有を図る。また、学んだことを教室の内外で実践することも求められる。</p> <p>この授業は、「学生の、学生による、学生のための授業」である。学生諸君の活発な議論を通して、活気ある授業作りや履修者間の人間関係作りをしてもらいたい。そして、日常のコミュニケーション現象に興味を持ったり、新しい発見をしたりしながら、毎週の授業を楽しみにしてもらえれば幸いである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Reading Assignmentに基づくディスカッション 2. イスラーム・ムスリムとは何か 3. イスラーム文化（歴史） 4. イスラーム文化（習慣） 5. プレゼンテーション：文化アイデンティティ理論（前半） 6. プレゼンテーション：文化アイデンティティ理論（後半） 7. プレゼンテーション：面子交渉理論（前半） 8. プレゼンテーション：面子交渉理論（後半） 9. プレゼンテーション：予想・期待違反理論（定義） 10. プレゼンテーション：予想・期待違反理論（理論） 11. プレゼンテーション：予想・期待違反理論（発展） 12. プレゼンテーション：コミュニケーション能力 13. プレゼンテーション：メタ理論 14. 秋学期のまとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で割り当てられた箇所を精読する。プレゼンターは資料等の準備、プレゼンター以外は質問事項などを整理しておく。学習内容に基づき、日常のコミュニケーション現象を観察・分析する。		
テキスト	授業で読む文献はコピーとして配布する。		
参考文献	適宜、コミュニケーション論、心理学、社会学、統計学に関する辞典・文献。		
評価方法	グループワークの評価（30%）、授業への貢献度（10%）、学期末レポート（40%）、ポートフォリオ（20%）により評価する。		

13年度以降	英語専門講読 I (日系アメリカ人の歴史と文化)	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、アメリカ合衆国の日系移民の歴史と文化（映画や音楽を含む）と文学をたどりながら、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。</p> <p>前期の前半は、初期の移住から第二次世界大戦に至るまでの日系移民の生活と価値観の変遷をたどります。後半は第二次世界大戦が日系アメリカ人にもたらした影響について、日系移民の世代と性別の相違を中心に考察します。</p> <p>履修人数にもよりますが、グループごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってまいります。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してまいります。</p>		<p>第1回 ガイダンス 日系アメリカ人とは？</p> <p>第2回 ハリウッド映画にみられる日本人のイメージについて</p> <p>第3回 Yoshiko Uchida その1</p> <p>第4回 Yoshiko Uchida その2</p> <p>第5回 ハワイの日系アメリカ人</p> <p>第6回 映画Picture Bride分析</p> <p>第7回 まとめと復習テスト 発表テーマ確認</p> <p>第8回 日系アメリカ人の盆踊り</p> <p>第9回 第二次世界大戦と強制収容所 「愛と哀しみの旅路」分析</p> <p>第10回 グループプレゼンテーション準備</p> <p>第11回 グループプレゼンテーションの内容確認</p> <p>第12回 学生によるプレゼンテーションと講評</p> <p>第13回 学生によるプレゼンテーションと講評</p> <p>第14回 まとめと復習テスト</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当作品の分析および発表に向けてのパワーポイントおよび配布資料の作成		
テキスト	プリント配布		
参考文献	特になし		
評価方法	分析コメント30%、ワークシート20%、プレゼンテーション20%、テスト20%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。		

13年度以降	英語専門講読 II (日系アメリカ人の文化と文学)	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、アメリカ合衆国の日系アメリカ人の歴史と文化（映画や音楽を含む）と文学をたどりながら、第二次世界大戦から現在に至るまでの日系移民の価値観の変遷とその多様性に着目します。</p> <p>履修人数にもよりますが、後期の後半はグループ（3～4人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってまいります。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してまいります。</p>		<p>第1回 ガイダンス 第二次世界大戦と日系アメリカ人</p> <p>第2回 Mike ShinodaとKenji</p> <p>第3回 「Mirikitaniの猫」分析</p> <p>第4回 Janice Mirikitani その1</p> <p>第5回 Janice Mirikitani その2</p> <p>第6回 Janice Mirikitani その3</p> <p>第7回 まとめと復習テスト</p> <p>第8回 日本人を演じる日系アメリカ人</p> <p>第9回 発表資料作成と内容チェック</p> <p>第10回 発表資料作成と内容チェック</p> <p>第11回 学生によるプレゼンテーションと講評</p> <p>第12回 学生によるプレゼンテーションと講評</p> <p>第13回 学生によるプレゼンテーションと講評</p> <p>第14回 まとめと復習テスト</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当作品の分析および発表に向けてのパワーポイントおよび配布資料の作成		
テキスト	プリント配布		
参考文献	特になし		
評価方法	分析コメント30%、ワークシート20%、プレゼンテーション20%、テスト20%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。		

13年度以降	英語専門講読 I (文法と文脈の関係)	担当者	大澤 舞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：</p> <p>(1) 言語学の分野における「語用論」に注目し、英語で書かれた文献を読むことを通じて当該分野の基礎的知識を身につける。</p> <p>(2) テキストに書かれている内容を正確に把握することができるようになる。</p> <p>(3) テキストの内容を正確に理解した上で、関連する言語データを収集できるようになる。</p> <p>概要：</p> <p>言語学の「語用論」と呼ばれる分野について書かれた英語文献を講読することを通じて、語用論の基礎的事項を学びます。そして、我々の実際の言語活動において、それらの事項がどのように反映されているかを観察し、ディスカッションしていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 語用論とは 2. 協調の原理と会話の含意 (1)：基礎的概念 3. 協調の原理と会話の含意 (2)：データ分析 4. 有標と無標 (1)：基礎的概念 5. 有標と無標 (2)：データ分析 6. presuppositionとentailment (1)：基礎的概念 7. presuppositionとentailment (2)：データ分析 8. 発話行為 (1)：基礎的概念 9. 発話行為 (2)：データ分析 10. ポライトネス (1)：基礎的概念 11. ポライトネス (2)：データ分析・コミュニケーション論との関連 12. 情報構造 (1)：基礎的概念 13. 情報構造 (2)：データ分析 14. まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習：テキストを読み、理解できなかったところや疑問点をまとめておく。／復習：授業内容を整理し、改めて疑問点がないか確認する。		
テキスト	授業で配付する。		
参考文献	授業で適宜紹介する。		
評価方法	授業内での発表 (20%)、言語データの収集 (20%) と期末レポート (60%)		

13年度以降	英語専門講読 II (文法と文脈の関係)	担当者	大澤 舞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：</p> <p>(1) 英語で書かれた論文を読めるようになる。</p> <p>(2) 論文に書かれている内容を正確に把握し、把握したことを他者に分かりやすく伝えることができるようになる。</p> <p>(3) 英語学的アプローチを習得し、規則や原理などによるメカニズムの解明の仕方を理解できるようになる。</p> <p>概要：</p> <p>「英語専門講読 I」で学んだ基礎的知識を活用し、語用論について英語で書かれた専門文献 (論文) を講読します。そして、実際の語用論研究がどのようなものであるかを理解していきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 文法における語用論の役割 2. let alone構文 (1)：導入 3. let alone構文 (2)：データ観察と事実把握 4. let alone構文 (3)：先行研究 5. let alone構文 (4)：データ分析と考察 6. let alone構文 (5)：クラス内ディスカッション 7. just because構文 (1)：導入 8. just because構文 (2)：データ観察と事実把握 9. just because構文 (3)：先行研究 10. just because構文 (4)：データ分析と考察 11. just because構文 (5)：オリジナルデータの提示と分析 12. just because構文 (6)：クラス内ディスカッション 13. 議論の展開と構成 14. まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習：テキストを読み、理解できなかったところや疑問点をまとめておく。／復習：授業内容を整理し、改めて疑問点がないか確認する。		
テキスト	授業で配付する。		
参考文献	授業で適宜紹介する。		
評価方法	授業内での発表 (20%)、言語データの収集 (20%) と期末レポート (60%)		

13年度以降	英語専門講読 I (アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『怒りの葡萄』(The Grapes of Wrath, 1939)、『エデンの東』(The East of Eden, 1952)の著者であり、1962年にノーベル文学賞を受賞したJohn Steinbeck(1902-1968)は、20世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えよう。彼は上掲の二大作品の他、多様なジャンルにわたる数多くの作品を創作したが、この授業では昨年引き続き、彼の初期の作品『天の牧場』(The Pastures of Heaven, 1932)を読解してゆく。</p> <p>毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取りつつ、多角的な視野を養うことを目指す。特に、作品のテーマや文章表現についてはグループワークを通して意見交換を行なってゆく。</p> <p>*授業には予習をして臨んで下さい。</p>		<p>1: Introduction: 作家John Steinbeckと代表作品を紹介</p> <p>2: 小説を読む楽しみについて/修辞法解説</p> <p>3: Chapter 1 作品読解</p> <p>4: Chapter 1 歴史的背景・文章表現について考察</p> <p>5: Chapter 2 作品読解</p> <p>6: Chapter 2 歴史的背景・文章表現について考察</p> <p>7: Chapter 3 作品読解</p> <p>8: Chapter 3 歴史的背景・文章表現について考察</p> <p>9: Chapter 4 作品読解</p> <p>10: Chapter 4 歴史的背景・文章表現について考察</p> <p>11: Chapter 5 作品読解</p> <p>12: Chapter 5 歴史的背景・文章表現について考察</p> <p>13: グループ発表</p> <p>14: 総復習 / テスト / レポート回収</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習: テキストの予習 / 事後学習: 授業中に読んだ内容に関して、あらすじ、文章表現、技巧、作家の視点、歴史的、文化的事柄について整理してまとめ、Chapter 終了ごとに提出する。		
テキスト	John Steinbeck, The Pastures of Heaven (Penguin Twentieth-Century Classics)		
参考文献	ジョン・スタインベック全集第1巻 『天の牧場』(大阪教育図書)		
評価方法	授業参加度(30%)、提出物(20%)、期末テスト(25%)、期末レポート(25%)を総合的に評価。全体の2/3の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。		

13年度以降	英語専門講読 II (アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き、The Pastures of Heavenを読み、更に作品についての評論も読んでゆく。また、時間が許せば、スタインベックの他の作品も適宜紹介してゆきたい。</p> <p>*授業には予習をして臨んで下さい。</p>		<p>1: Chapter 6 作品読解</p> <p>2: Chapter 6 歴史的背景・文章表現について考察</p> <p>3: Chapter 7 作品読解</p> <p>4: Chapter 7 歴史的背景・文章表現について考察</p> <p>5: Chapter 8 作品読解</p> <p>6: Chapter 8 歴史的背景・文章表現について考察</p> <p>7: Chapter 9 作品読解</p> <p>8: Chapter 9 歴史的背景・文章表現について考察</p> <p>9: Chapter 10 作品読解</p> <p>10: Chapter 10 歴史的背景・文章表現について考察</p> <p>11: Chapter 11 作品読解</p> <p>12: Chapter 11 歴史的背景・文章表現について考察</p> <p>13: Chapter 12 作品読解とグループ発表</p> <p>14: 総復習 / テスト / レポート回収</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学習: テキストの予習 / 事後学習: 授業中に読んだ内容に関して、あらすじ、文章表現、技巧、作家の視点、歴史的、文化的事柄について整理してまとめ、Chapter 終了ごとに提出する。		
テキスト	John Steinbeck, The Pastures of Heaven (Penguin Twentieth-Century Classics)		
参考文献	ジョン・スタインベック全集第1巻 『天の牧場』(大阪教育図書)		
評価方法	授業参加度(30%)、提出物(20%)、期末テスト(25%)、期末レポート(25%)を総合的に評価。全体の2/3の出席が不可欠。		

13年度以降	英語専門講読 II (現代東南アジアの政治・経済・社会) (火 4)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的は以下の3点です。</p> <p>①東南アジア諸国の経済・政治の基本的知識および各国の現状分析に必要な視点や手法を習得する。</p> <p>②東南アジアの地域研究 (area studies) のみならず、広く国際関係や経済・政治を中心とする社会科学を勉強・理解するために不可欠な概念・知識を身につける。</p> <p>③プレゼンテーションとディスカッションのスキルを取得。</p> <p>これら目的のために、テキストに基づき東南アジア各国の経済・政治に関する諸問題を取り上げます。授業では、グループごとに2週分を担当し、(1) プレゼンテーション、(2) 担当箇所の全訳および文献・資料で関連知識を補強したレジユメの提出、(3) 全体での質疑応答、(4) 同グループによる翌週のフォローアップ、関連テーマの討論から構成されます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：授業プランの説明、担当決め 2. <i>Southeast Asian Affairs 2018</i> (The Region : a) 3. The Region : 1 のフォローアップ&ディスカッション 4. <i>Southeast Asian Affairs 2018</i> (The Region : b) 5. The Region : 2 のフォローアップ&ディスカッション 6. <i>Southeast Asian Affairs 2018</i> (The Region : c) 7. The Region : 3 のフォローアップ&ディスカッション 8. <i>Southeast Asian Affairs 2018</i> (The Countries : a) 9. The Countries : 1 のフォローアップ&ディスカッション 10. <i>Southeast Asian Affairs 2018</i> (The Countries : b) 11. The Countries : 2 のフォローアップ&ディスカッション 12. <i>Southeast Asian Affairs 2018</i> (The Countries : c) 13. The Countries : 3 のフォローアップ&ディスカッション 14. 総括、全般的な質疑応答 <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別、国別の分析・解説。その他の資料もサブ・テキストとして適宜使用します。 ・テキストは第1回目授業日までにポータルサイトにアップロードしておくので各自でダウンロードしてください。 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストをポータルサイトからダウンロードした上で事前に読み込んでおく (第1回目の授業で指示)。		
テキスト	Institute of Southeast Asian Studies, <i>Southeast Asian Affairs 2018</i>		
参考文献	第1回目の授業の中で指示する。		
評価方法	プレゼン内容、レジユメ・訳の内容、討論への参加状況を基に評価する。		

13年度以降	英語専門講読 I (Introduction to Fair Trade) (火4)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>先進国と途上国のフェアトレード（公正貿易）というテーマを春秋連続して学習します。フェアトレードとは、途上国の生産者（コーヒー、農産物、工芸品等）と先進国の消費者が、環境や文化に関する一定の理解に基づいて取引する地球版「産直」ともいえる活動です。私達も、ODAなどの援助とは別なやり方で、貧困や地球環境の問題の解決・緩和に参加することができます。大切なのは身の回りのできることから、グローバルな問題について考えていくという「発想」です。そして、英語を活用して、こうした事柄に対する「学び」を深めることの喜びを知っていただきたいと思います。授業の進め方は、事前に配布した文献をもとに担当する学生（班）がレジメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションをします。最後に教員が講評します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方について、グループ分け 2. 教員によるレクチャー（予定） 3. Fair Trade: Why it's not just for coffee farmers anymore? 4. Fish don't know they are wet or how trading influences our lives 5. Why is Fair Trade so popular? 6. Fair Trade principles and practices 7. Fair Trade histories 8. ビデオと討論 9. Yes, but does it work? 10. Ordinary people making Fair Trade extraordinary 11. Will free trade ever be fair? 12. The future of Fair Trade 13. Daily life with Fair Trade 14. 全体のまとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	当番の人はレジメ作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の人は教科書の該当章を熟読。		
テキスト	Jacqueline Decarlo, <i>Fair Trade: A Beginner's Guide</i> (Oneworld Publications)※各自で大学書店で購入して下さい。		
参考文献	フランツ・ヴァンデルホフ『貧しい人々のマニフェスト：フェアトレードの思想』創成社。		
評価方法	レジメとプレゼン（20%）、プレゼン振り返りペーパー（30%）、期末レポート（50%）。以上各1回。		

13年度以降	英語専門講読 II (Introduction to Fair Trade) (火4)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な英語文献の読解と応用学習を行います。取り上げる文献は、今のところ、フェアトレード、途上国開発（特に農業、教育、貧困、環境問題に関する現場の事例を含んだもの）、日本を含む先進国の食料・農業問題に関する社会科学分野の雑誌論文、専門著書の章、報告書等を予定しています。文献読解を反映したレジメ作成をベースとして、各グループが教室内アクティビティを行い、さらなる議論に発展させます。担当する学生（班）が自分で読む英語論文を選定、レジメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、教室内のアクティビティと議論をします。最後に教員が講評とアドバイスをします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. グループ分け 2. 教員によるレクチャー（予定） 3. グループ発表・議論 1班 4. グループ発表・議論 2班 5. グループ発表・議論 3班 6. グループ発表・議論 4班 7. グループ発表・議論 5班 8. ビデオ・議論 9. グループ発表・議論 6班 10. グループ発表・議論 7班 11. グループ発表・議論 8班 12. グループ発表・議論 9班 13. グループ発表・議論 10班 14. まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	当番の人はレジメ作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の人は配布された英語論文を事後に熟読。		
テキスト	毎回、英語論文が配布される。		
参考文献	フランツ・ヴァンデルホフ『貧しい人々のマニフェスト：フェアトレードの思想』創成社。		
評価方法	レジメとプレゼン（20%）、プレゼン振り返りペーパー（30%）、期末レポート（50%）。以上各1回。		

13 年度以降	英語専門講読 I (世界ブランドとグローバル社会) (火 4)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、世界ブランドの研究と共に、グローバル社会の研究を、2つのテーマとして設定しています。</p> <p>ルイ・ヴィトン、ココ・シャネル、ティファニー、ブルガリ、アジアの有名ブランド企業を取り上げ、ブランド企業の誕生、成長、ロゴ・マークの意味などに注目して、プレゼンを行っていきます。グローバル社会については、雑誌記事などを扱う予定です。</p> <p>プレゼンはグループごとに行いません。グループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行いません。</p> <p>担当者の専門講読を既に履修したことのある学生は、登録を遠慮して下さい。新しい学生へ授業機会を提供するためです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 グループの編成、ボイス・トレーニング 2 ティファニー 前編 3 ティファニー 後編 4 シャネル 前編 5 シャネル 後編 6 グローバル社会 前編 7 グローバル社会 後編 8 世界の中のアジア 前編 9 世界の中のアジア 後編 10 高級ホテル・チェーン 前編 11 高級ホテル・チェーン 後編 12 エミレーツ航空 (比較：シンガポール航空) 13 ドバイ 都市ブランド 14 まとめ 討論 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。		
テキスト	E. Baxter-Wright, The Little Book of Chanel(Carlton Books,.,2012); Tea at Fortnum & Mason: Piccadilly since 1707(Ebury Books,2010)など。		
参考文献	テキストの続き : Paul Temporal, Asia's Star Brands(John Wiley & Sons,2006)など。		
評価方法	プレゼン資料+プレゼンテーション 60%、授業参加への貢献度 40%		

13 年度以降	英語専門講読 II (世界ブランドとグローバル社会) (火 4)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、世界ブランドの研究と共に、グローバル社会の研究を、2つのテーマとして設定しています。</p> <p>ルイ・ヴィトン、ココ・シャネル、ティファニー、ブルガリ、アジアの有名ブランド企業を取り上げ、ブランド企業の誕生、成長、ロゴ・マークの意味などに注目して、プレゼンを行っていきます。グローバル社会については、雑誌記事などを扱う予定です。</p> <p>プレゼンはグループごとに行いません。グループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行いません。</p> <p>担当者の専門講読を既に履修したことのある学生は、登録を遠慮して下さい。新しい学生へ授業機会を提供するためです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 グループの編成、ボイス・トレーニング 2 ルイ・ヴィトン 前編 3 ルイ・ヴィトン 後編 4 ブルガリ 前編 5 ブルガリ 後編 6 グローバル社会 前編 7 グローバル社会 後編 8 世界の中のアジア 前編 9 世界の中のアジア 後編 10 フォートナム・アンド・メイソン 前編 11 フォートナム・アンド・メイソン 後編 12 ディオール 前編 13 ディオール 後編 14 まとめ 討論 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。		
テキスト	E. Baxter-Wright, The Little Book of Chanel(Carlton Books,.,2012); Tea at Fortnum & Mason: Piccadilly since 1707(Ebury Books,2010)など。		
参考文献	テキストの続き : Paul Temporal, Asia's Star Brands(John Wiley & Sons,2006)など。		
評価方法	プレゼン資料+プレゼンテーション 60%、授業参加への貢献度 40%		

13年度以降	英語専門講読 I (言語の不思議)	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、言語学一般の入門書であるRoberts (2017)を読みます。教科書の講読を通して、我々が普段何気なく用いている言語を客観化し、それがいかに不思議に満ちた魅力的な研究対象であるかを理解してもらうのが、本授業の第一の目的です。また、毎週まとまった量の専門的な英文を読んでもらうことで、英語読解力の向上も目指します。</p> <p>春学期は、音・語というまとまり・言語の変化に注目して考察します。</p> <p>授業では、教科書の指定箇所を読んできたことを前提に、問題演習に取り組み、グループディスカッションをします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Introduction & How to Make Noises: Phonetics (母音) 3. Phonetics (子音とまとめ) 4. How to Organize Noises: Phonology (音素など) 5. Phonology (音韻規則など) 6. Phonology (まとめ) 7. 前半の復習 8. How to Build a Word: Morphology (形態素など) 9. Morphology (複合語など) 10. Morphology (まとめ) 11. How to Find Lost Languages: Historical Linguistics (失われた言語) 12. Historical Linguistics (言語の再構築) 13. Historical Linguistics (まとめ) 14. 後半の復習 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週、教科書の指定箇所を読んで授業に臨み、授業後は復習課題に取り組む。		
テキスト	Roberts, Ian (2017) <i>The wonders of language: Or how to make noises and influence people</i> . Cambridge University Press.		
参考文献	なし		
評価方法	テスト 50% + 授業への参加度・貢献度 50%		

13年度以降	英語専門講読 II (言語の不思議)	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、Roberts (2017)を講読します。講義目的、講義概要は同一講師の「英語専門講読I(言語の不思議)」(春学期)を参照してください。</p> <p>秋学期は、文というまとまり・言語の獲得・言語の喪失・言語の多様性・言語の普遍性に注目して考察します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Syntax (統語範疇など) 3. Syntax (句構造など) 4. Syntax (まとめ) 5. How to Lose a Language and How to Learn a Language: Psycholinguistics (I-LanguageとE-Languageなど) 6. Psycholinguistics (第一言語獲得など) 7. Psycholinguistics (まとめ) 8. 前半の復習 9. How to Build a Language: Language Typology (言語変異など) 10. Language Typology (言語変異の要因など) 11. Language Universals (言語の普遍性など) 12. Language Universals (含意的普遍性など) 13. How to Build a Language (まとめ) 14. 後半の復習 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週、教科書の指定箇所を読んで授業に臨み、授業後は復習課題に取り組む。		
テキスト	Roberts, Ian (2017) <i>The wonders of language: Or how to make noises and influence people</i> . Cambridge University Press.		
参考文献	なし		
評価方法	テスト 50% + 授業への参加度・貢献度 50%		

13 年度以降	英語専門講読 I (視覚コミュニケーション論入門)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代コミュニケーション研究において主要な分野である視覚文化論で、重要となる基礎的な批判的概念について、理解を得ることを目的とします。</p> <p>絵画や写真、映画など、映像やイメージによるメディアの実践を論じた教科書の重要な箇所を精読し、その内容について学生が批判的に議論していきます。この講義の目的は、映像やイメージから今まできちんと意識してこなかった<読み>を理論的に行うことです。課題として教科書の1節を2週で取り上げ、そこに論じられた視覚メディアの理論的(手法ではない)概念と分析を読みこみ、授業の中で議論しながら理解していきます。</p> <p>授業では、①グループで準備(レジュメ作成)をして発表し、②発表者のファシリテーションによってクラス全体で討論するという手順で行います。履修者は文献をきちんと理解して発表して下さい。また、自分が発表しない回でも、積極的に授業に取り組み、間違った発言をすることを恐れることなく、他の受講生の知的好奇心を刺激する発言をすることを心がけて下さい。</p> <p>これまでの自分を越えた新たな自分になるために、自分自身に向き合い、皆と共に勉強しましょう。</p> <p>第1回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Representation: Ch. 1 発表 3. Representation: Ch. 1 議論 4. Psychoanalysis and the Image Spectator: Ch.3 発表 5. Psychoanalysis and the Image Spectator: Ch.3 議論 6. The Gaze: Ch.3 発表 7. The Gaze: Ch.3 議論 8. Power/Knowledge and Panopticism: Ch. 3 発表 9. Power/Knowledge and Panopticism: Ch. 3 議論 10. Realism and the History of Perspective: Ch. 4 発表 11. Realism and the History of Perspective: Ch. 4 議論 12. Reproduced Images as Politics: Ch. 4 発表 13. Reproduced Images as Politics: Ch. 4 議論 14. まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講生は事前に次の授業で扱う箇所を読み、論点の整理を準備して授業に参加します。輪読による発表の為の準備は必須となります。毎回、授業後には内容の復習もして下さい。		
テキスト	Sturken, M., & Cartwright, L. (2001). <i>Practices of looking: An introduction to visual culture</i> . New York: Oxford UP. (コピーを配布)		
参考文献	必要に応じて授業で紹介します。		
評価方法	毎回の授業での発言(20%)、授業での発表(20%)要約作成(20%)、定期試験又はレポート(40%)、出席状況(4回以上の欠席は不合格)から総合的に評価します。		

13 年度以降	英語専門講読 II (視覚コミュニケーション論入門)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ</p> <p>第1回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Modernism: Ch. 7 発表 3. Modernism: Ch. 7 議論 4. Reflexivity: Ch. 7 発表 5. Reflexivity: Ch. 7 議論 6. Addressing the Postmodern Consumer: Ch. 7 発表 7. Addressing the Postmodern Consumer: Ch. 7 議論 8. Image as Evidence: Ch. 8 発表 9. Image as Evidence: Ch. 8 議論 10. Scientific Looking: Ch. 8 発表 11. Scientific Looking: Ch. 8 議論 12. Scientific Image as Advocacy and Politics: Ch.8 発表 13. Scientific Image as Advocacy and Politics: Ch.8 議論 14. まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講生は事前に次の授業で扱う箇所を読み、論点の整理を準備して授業に参加します。輪読による発表の為の準備は必須となります。毎回、授業後には内容の復習もして下さい。		
テキスト	Sturken, M., & Cartwright, L. (2001). <i>Practices of looking: An introduction to visual culture</i> . New York: Oxford UP. (コピーを配布)		
参考文献	必要に応じて授業で紹介します。		
評価方法	毎回の授業での発言(20%)、授業での発表(20%)要約作成(20%)、定期試験又はレポート(40%)、出席状況(4回以上の欠席は不合格)から総合的に評価します。		

13年度以降	英語専門講読 I (International Development Studies) (火5)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際開発学の入門的知識を英文テキストを用い、輪読、プレゼン、議論をしながら学びます。どうして南北格差が生まれ、富める人々と貧しい人々がいるのでしょうか。国際社会および私たちは、今までどのような開発協力をしてきたのでしょうか。そもそも「開発」とは何でしょうか。こうした事柄について、とりわけ、「グローバル・ポリティカルエコノミー」から、「持続可能な開発」について掘り下げて考えていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方について、 2. 教員レクチャー 3. What is Development? 4. History of Development 5. Globalization 6. Political Economy of Development 7. Politics of Development 8. 教員レクチャーまたはビデオ 9. Religion and Development 10. The Natural Environment 11. Human Rights and Gender 12. Development in the 21 Century: The New Issues and Approaches 13. 持続可能な開発目標 (SDGs) について(予定) 14. 全体まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	当番の人はレジメ作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の方は教科書の該当章を熟読。		
テキスト	Jeffrey Haynes (2008) <i>Development Studies</i> , Polity. ※各自で学内売店で購入して下さい。		
参考文献	北野収『国際協力の誕生』創成社新書。		
評価方法	レジメとプレゼン (20%)、プレゼン振り返りペーパー (30%)、期末レポート (50%)。以上各1回。		

13年度以降	英語専門講読 II (International Development Studies) (火5)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な英語文献の読解と応用学習を行います。取り上げる文献は国際協力、ODA、NGO、ジェンダーと開発、教育開発、BOP、開発と倫理等、国際開発学に関する社会科学分野の雑誌論文、専門著書の章、報告書等を予定しています。文献読解を反映したレジメ作成をベースとして、各グループが教室内アクティビティを行い、さらなる議論に発展させます。</p> <p>担当する学生 (班) が自分で読む英語論文を選定、レジメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、教室内のアクティビティと議論をします。最後に教員が講評とアドバイスをします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. グループ分け 2. 教員によるレクチャー (予定) 3. グループ発表・議論 1班 4. グループ発表・議論 2班 5. グループ発表・議論 3班 6. グループ発表・議論 4班 7. グループ発表・議論 5班 8. ビデオ・議論 9. グループ発表・議論 6班 10. グループ発表・議論 7班 11. グループ発表・議論 8班 12. グループ発表・議論 9班 13. グループ発表・議論 10班 14. まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	当番の人はレジメ作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の方は教科書の該当章を熟読。		
テキスト	毎回、英語論文が配布される。		
参考文献	北野収『国際協力の誕生』創成社新書。		
評価方法	レジメとプレゼン (20%)、プレゼン振り返りペーパー (30%)、期末レポート (50%)。以上各1回。		

13年度以降	英語専門講読 II (アジア太平洋地域の国際関係・政治経済) (水 1)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的は3つあります。第1に、国際関係論や地域研究 (area studies) にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第2に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第3に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。</p> <p>上記の目的に沿って、テキストに基づきアジア太平洋地域の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、グループごとにプレゼンと文献・資料で関連知識を補強したレジュメの提出、全体での質疑応答、討論の形で進めます。また、毎週、受講者全員にテキストの指定されたパートの英文和訳を課題として提出してもらいます。</p> <p>なお、本授業の受講者数には上限があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：授業プランの説明、担当決め 2. <i>ISEAS Perspective</i> (The International Issues : a) 3. <i>ISEAS Perspective</i> (The International Issues : b) 4. <i>ISEAS Perspective</i> (The International Issues : c) 5. The International Issues : 1~3 のフォローアップ 6. <i>ISEAS Perspective</i> (The Regional Issues : a) 7. <i>ISEAS Perspective</i> (The Regional Issues : b) 8. <i>ISEAS Perspective</i> (The Regional Issues : c) 9. The Regional Issues 1~36 についてのフォローアップ 10. <i>ISEAS Perspective</i> (The Country Issues : a) 11. <i>ISEAS Perspective</i> (The Country Issues : b) 12. <i>ISEAS Perspective</i> (The Country Issues : c) 13. The Country Issues 1~3 についてのフォローアップ 14. 総括、全般的な質疑応答 <p>・テキスト <i>ISEAS Perspective Series</i> の内容は、近年におけるアジア太平洋地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事に関するイシュー別の分析・解説。</p> <p>・使用するテキストは第1回授業日までにポータルサイトにアップロードするので各自でダウンロードしておく。</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	取り扱うテキストをダウンロードした上で事前に読み込むとともに、毎授業で出される課題を翌週の授業までに完成させる。		
テキスト	ISEAS, <i>ISEAS Perspective Series</i> (http://www.iseas.edu.sg/) の2019年に発行される9ペーパー)		
参考文献	CIA, <i>The World Factbook</i> (https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/) など。		
評価方法	課題の提出状況、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。		

13年度以降	英語専門講読 I (Languages in a Globalizing World)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
We will examine when, how and why human languages have changed over time. In so doing, we will trace the impact on languages of the first major globalization and subsequent cultural adaptations, and examine how these phenomena have altered the structure (morphology and syntax) of the languages we speak and the ways we communicate. To begin, however, we will survey the languages around the world in their present-day distribution, and then consider how these distributions were achieved. By the end of this semester, we should have a fair idea about what languages looked like in their natural state (that is, before the invention of agriculture and writing) and the ways languages were used in daily interaction.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation to Semester I 2. Survey: Languages around the world 3. Survey: Language families I – Europe, West Asia 4. Survey: Language families II –Africa, Central Asia 5. Survey: Language families III – South & East Asia 6. The first globalization event 7. Language in its natural state I – interaction 8. Language in its natural state II –morphology 9. Language in its natural state III – syntax 10. Case study: northern Vanuatu I – the setting 11. Case study: northern Vanuatu II – the issues 12. Case study: a village in Cameroon I – the setting 13. Case study: a village in Cameroon II – the issues 14. Review, evaluation, reflection 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	You should complete all homework before coming to class. You should read all materials and answer all questions in your notebooks after each class. (About 4 hours each week of homework)		
テキスト	Texts to be distributed in class.		
参考文献	References to be distributed in class.		
評価方法	Essays = 20%, Notebooks = 40%, Participation = 20%, Quizzes 20%		

13年度以降	英語専門講読 II (Languages in a Globalizing World)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
This is a continuation of the first semester. Whereas the first semester took account of the past to the present, the focus this semester will be on the present and the future state of language. We will focus in particular on the emergence of the nation-state and the impact this has had on language ecologies in countries around the world. We will continue to develop our understanding of the processes of language change and the novel ways of contact and connectivity (e.g., open borders, jet travel, Internet, SNS) in the globalizing world. Along the way, we will examine the language histories of India, Indonesia, several countries in Africa. Finally, we will consider English: its present functions and roles, and its possible futures.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation to Semester II 2. The world language ecology – history and definitions 3. The world language ecology II – case studies 4. Nationalism and language 5. India: a brief language history I – the setting 6. India: a brief language history II – the issues 7. Indonesia: a brief language history I – the setting 8. Indonesia: a brief language history II – the issues 9. Africa: a brief language history I – the setting 10. Africa: a brief language history II – the issues 11. A globalizing world – the 21st century up close 12. The role and functions of English today 13. The possible futures of English in the future 14. Review, evaluation, reflection 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	You should complete all homework before coming to class. You should read all materials and answer all questions in your notebooks after each class. (About 4 hours each week of homework)		
テキスト	Words of the World (2001). Abram de Swaan. Polity Press: Cambridge, UK.		
参考文献	References to be distributed in class.		
評価方法	Essays = 20%, Notebooks = 40%, Participation = 20%, Quizzes 20%		

13 年度以降	英語専門講読 I (ディズニーと世界情勢) (水 2)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ディズニー映画やアニメ作品を制作し、魅力的なテーマパーク展開してきたウォルト・ディズニー・カンパニーに注目します。</p> <p>この授業では、ディズニー映画やドキュメンタリーを鑑賞しますが、映画そのものを取り上げるのではなく、企業体としてのディズニーの誕生と発展を扱います</p> <p>映画やアニメが上映された時の社会、ディズニーランドが建設された時の米国と世界、さらに成功し続けるディズニーの企業戦略やマネージメントなどに注目します。</p> <p>担当者の専門講読を既に履修したことのある学生は、登録を遠慮して下さい。新しい学生へ授業機会を提供するためです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 グループの編成 (毎回、ボイストレーニング) 2 Disney Universe 3 Mickey Mouse 4 Walt Disney 5 Animation Factory 6 Wonderlad 7 Disney and the Government 8 Disney Corporate Legacy 9 Disney Empire 10 Evolution of Corporate Disney 11 New Disney 12 Theme Parks and Resorts 13 Disneyland Resort 14 Disney's America 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。		
テキスト	B. Capodagli & L.Jackson, The Disney Way,(2007); J. Wasko, Understanding Disney (2001) など。		
参考文献	授業中にお知らせします。		
評価方法	プレゼン資料+プレゼンテーション 60%、授業参加への貢献度 40%		

13 年度以降	英語専門講読 II (ディズニーと世界情勢) (水 2)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ディズニー映画やアニメ作品を制作し、魅力的なテーマパーク展開してきたウォルト・ディズニー・カンパニーに注目します。</p> <p>この授業では、ディズニー映画やドキュメンタリーを鑑賞しますが、映画そのものを取り上げるのではなく、企業体としてのディズニーの誕生と発展を扱います</p> <p>映画やアニメが上映された時の社会、ディズニーランドが建設された時の米国と世界、さらに成功し続けるディズニーの企業戦略やマネージメントなどに注目します。</p> <p>担当者の専門講読を既に履修したことのある学生は、登録を遠慮して下さい。新しい学生へ授業機会を提供するためです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 グループの編成 (毎回、ボイストレーニング) 2 Analyzing the World According to Disney 3 Approaches to Interpreting Media Content 4 Classic Disney 5 Evolution of Classic Disney 6 Classic Disney Characters 7 Classic Disney Themes and Values 8 Escape, Fantasy, Magic, Imagination 9 Walt Disney and the Artist 10 Remember, this all started with a mouse, Mickey 11 Critique of Disney's Interpretation, Snow White 12 History of Disney's Worlds 13 Classic Disney and Beyond 14 Disney and the World 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。		
テキスト	B. Capodagli & L.Jackson, The Disney Way,(2007); J. Wasko, Understanding Disney (2001) など。		
参考文献	授業中にお知らせします。		
評価方法	プレゼン資料+プレゼンテーション 60%、授業参加への貢献度 40%		

13年度以降	英語専門講読 I (アメリカ現代詩)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲーリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『波について』(Regarding Wave, 1970)は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論のプレゼン形式で行い、学期末にレポートを提出してもらいます。</p> <p>DVD やCDを使って「声としての詩」についても紹介します。</p> <p>最初の授業でプレゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. “Wave” 3. “Seed Pods” 4. “All Over the Dry Grasses” 5. “By the Tama River at the North End of the Plain” 6. “The Wide Mouth” 7. “In the House of the Rising Sun” 8. “White Devils” 9. “Song of the Cloud” 10. “Song of the Tangle” 11. “Song of the Slip” 12. “Song of the View” 13. “Song of the Taste” 14. “Kyoto Born in Spring Song” 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回取りあげる作品を読み、疑問点をまとめ、マーキングリストで知らせる。		
テキスト	Gary Snyder. <i>Regarding Wave</i> . New York: New Directions, 1970. (ISBN 978-0-8112-0196-4) *各自 amazon.co.jp などで購入のこと。		
参考文献	授業で紹介。		
評価方法	作品論のレポート 70%、プレゼンテーション 20%、授業での発言 10%。		

13年度以降	英語専門講読 II (アメリカ現代詩)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲーリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『波について』(Regarding Wave, 1970)は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論のプレゼン形式で行い、学期末にレポートを提出してもらいます。</p> <p>DVD やCDを使って「声としての詩」についても紹介します。</p> <p>最初の授業でプレゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. “Archaic Round and Keyhole Tombs” 2. “Burning Island” 3. “Roots” 4. “Rainbow Body” 5. “Everybody Lying on Their Stomachs,” 6. “Shark Meat” 7. “It Was When” 8. “The Bed in the Sky” 9. “Kai, Today” 10. “Not Leaving the House” 11. “Regarding Wave” 12. “Revolution in the Revolution in the Revolution” 13. “What You Should Know to Be a Poet” 14. “Aged Tamba Temple Plum Tree Song” 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回取りあげる作品を読み、疑問点をまとめ、マーキングリストで知らせる。		
テキスト	Gary Snyder. <i>Regarding Wave</i> . New York: New Directions, 1970. (ISBN 978-0-8112-0196-4)		
参考文献	授業で紹介。		
評価方法	作品論のレポート 70%、プレゼンテーション 20%、授業での発言 10%。		

13年度以降	英語専門講読 I (19世紀アメリカの詩)	担当者	関根 路代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>詩人Walt Whitmanの代表作“Song of Myself”を1年通して精読する。1855年にこの詩を含む詩集<i>Leaves of Grass</i>が出版されて以降、アメリカ現代詩なるものが生まれた。定型詩の韻律とは違う口語のリズム。主題も先駆的だ。民衆のありのままの日常を、その肉体の美しさを、同性愛を、歴史の中に埋もれてゆく死者の声を、この詩人は書いた。</p> <p>“Song of Myself”を読めば、そのような彼の詩の面白みが堪能できる。実験的なこの詩は今なお重要な文学テキストである。発表やディスカッションを通して、現在の文脈からこのテキストを精読・分析することで、新たな解釈を生み出すことがこの授業の目的である。</p> <p>授業はプレゼンテーション形式で進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：詩人紹介, “Song of Myself 1” 2. Section 2 3. Section 3 4. Section 4 5. Section 5 6. Section 6 7. Section 7 8. Section 8, 9 9. Section 10 10. Section 11 11. Section 12, 13 12. Section 14 13. Section 15 14. Section 15, Summary 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	自分の訳を作り、声に出して作品を味わってくる。授業で読んだ作品を読み直し、イメージを膨らませること。		
テキスト	Walt Whitman. <i>Song of Myself: With a Complete Commentary</i> . U of Iowa P, 2016.		
参考文献	酒本雅之訳『草の葉』（岩波書店、1998年）		
評価方法	授業内での発表（30%）、参加度（30%）、レポート（40%） 出席は全体の1/3以上を欠席するとその時点で単位認定不能となります。		

13年度以降	英語専門講読 II (19世紀アメリカの詩)	担当者	関根 路代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き“Song of Myself”を鑑賞し分析する。</p> <p>授業はプレゼンテーション形式で進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Review 2. Section 16 3. Section 17, 18 4. Section 19 5. Section 20 6. Section 21 7. Section 22 8. Section 23 9. Section 24 10. Section 24, 25 11. Section 26 12. Section 27, 28 13. Section 29, 30 14. Section 31, Summary 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	自分の訳を作り、声に出して作品を味わってくる。授業で読んだ作品を読み直し、イメージを膨らませること。		
テキスト	Walt Whitman. <i>Song of Myself: With a Complete Commentary</i> . U of Iowa P, 2016.		
参考文献	酒本雅之訳『草の葉』（岩波書店、1998年）		
評価方法	授業内での発表（30%）、参加度（30%）、レポート（40%） 出席は全体の1/3以上を欠席するとその時点で単位認定不能となります。		

13年度以降	英語専門講読 I (実践的な英語の聴解・発音教育)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 従来の英語「音」の学習では子音や母音などの個別音に焦点を置いたものが多く、学習者そして教育者の側でも音声学の専門用語のイメージから苦手意識を持つ傾向にある。しかし実際は英語の持つリズム、強弱のコントラスト、そしてイントネーションなどの「音楽性」が英語らしさを左右し、コミュニケーションの場で重視されるという現実が研究そして教育の現場から多く報告されている。本講義では、こうした現実を踏まえ、母音や子音を意識しながらもフレーズや文などの「大きな単位で」英語の音をとらえ、聴解力・発音力の向上を目的とする教授法を分析し、体系化を図っていく。</p> <p>概要 春学期は、主に教科書を中心に第二外国語としての英語リスニング・発音指導の問題点や課題、そして提案されている解決策を学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コース概要1：オリエンテーション 2. Introduction (教科書viii-xv) : いわゆる「アクセント」とは何か?等 3. Unit 1：シラブル (音節) とは 4. Unit 2：母音のルール 5. Unit 3：強勢と母音長との関係1 6. Unit 4：強勢と母音長との関係2 7. Unit 1-4のまとめ 8. <中間テスト> 9. Unit 5：語強勢のさまざまなパターン 10. Unit 6：内容語の文における役割 11. Unit 7：機能語の役割 (音としては弱い重要) 12. Unit 5-7のまとめ 13. <期末テスト> 14. Review 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べておく・授業後は配布資料を基に内容の確認。		
テキスト	『Clear Speech – Pronunciation and Listening Comprehension in North American English – Teacher’s Resource and Assessment Book, 4th Edition』(2012) Judy B. Gilbert 著 Cambridge University Press		
参考文献	必要に応じて学習者用テキストからのコピー等を配布する		
評価方法	中間・期末試験の結果 (60%) の他に課題提出 (20%) や授業への積極的な参加 (20%) を加味して総合評価する。		

13年度以降	英語専門講読 II (実践的な英語の聴解・発音教育)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 従来の英語「音」の学習では子音や母音などの個別音に焦点を置いたものが多く、学習者そして教育者の側でも音声学の専門用語のイメージから苦手意識を持つ傾向にある。しかし実際は英語の持つリズム、強弱のコントラスト、そしてイントネーションなどの「音楽性」が英語らしさを左右し、コミュニケーションの場で重視されるという現実が研究そして教育の現場から多く報告されている。本講義では、こうした現実を踏まえ、母音や子音を意識しながらもフレーズや文などの「大きな単位で」英語の音をとらえ、聴解力・発音力の向上を目的とする教授法を分析し、体系化を図っていく。</p> <p>概要 第二外国語としての英語リスニング・発音の研究資料、あるいはウェブ教材なども参考にしながら、実践的な教授法を学習する。後半はグループワークで「英語音を習得するための効果的な教材の作成」に取り組む予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コース概要1：オリエンテーション 2. Unit 8：文のなかで強調される部分 3. Unit 9：機能語をあえて強調する 4. Unit 10：英語の /s/と/t/ 5. Unit 11：英語の /r/と/d/, /l/と/d/ 6. Unit 12：有声音・無声音について 7. Unit 8～12のまとめ 8. <中間テスト> 9. Unit 13：シラブルの長さとの関係 10. Unit 14：‘Sibilants’ 11. 教材作成 (グループワーク) ① 12. 教材作成 (グループワーク) ② 13. <期末テスト> 14. Presentation + Review 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べておく・授業後は配布資料を基に内容の確認。		
テキスト	『Clear Speech – Pronunciation and Listening Comprehension in North American English – Teacher’s Resource and Assessment Book, 4th Edition』(2012) Judy B. Gilbert 著 Cambridge University Press		
参考文献	必要に応じて学習者用テキストからのコピー等を配布する		
評価方法	中間・期末試験の結果 (60%) の他に課題提出 (20%) や授業への積極的な参加 (20%) を加味して総合評価する。		

13年度以降	英語専門講読 I (英国ユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。</p> <p>使用するテキストは英国ユダヤ人史の概説書です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. <i>Jews of Britain</i> 1~5 ページを講読 2. 同上 6~10 ページを講読 3. 同上 11~15 ページを講読 4. 同上 16~20 ページを講読 5. 同上 21~25 ページを講読 6. 同上 26~30 ページを講読 7. 同上 31~35 ページを講読 8. 同上 36~40 ページを講読 9. 同上 41~45 ページを講読 10. 同上 46~50 ページを講読 11. 同上 51~55 ページを講読 12. 同上 56~60 ページを講読 13. 同上 61~65 ページを講読 14. 同上 66~70 ページを講読 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
テキスト	高価なため、コピーを配布します。		
参考文献	特になし		
評価方法	毎回出席をとります。授業日数の 1/3 以上欠席された方は単位をあげません。遅刻 2 回で欠席 1 回にカウント。(筆記試験が 70%、平常点が 30%)		

13年度以降	英語専門講読 II (英国ユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英国ユダヤ人史の概説書を使用します。</p> <p>講義目的、講義概要は春学期と同じです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. <i>Jews of Britain</i> 71~75ページを講読 2. 同上 76~80ページを講読 3. 同上 81~85ページを講読 4. 同上 86~90ページを講読 5. 同上 91~95ページを講読 6. 同上 96~100ページを講読 7. 同上 101~105ページを講読 8. 同上 106~110ページを講読 9. 同上 111~115ページを講読 10. 同上 116~120ページを講読 11. 同上 121~125ページを講読 12. 同上 126~130ページを講読 13. 同上 131~135ページを講読 14. 同上 136~140ページを講読 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期と同じ		
テキスト	春学期と同じ		
参考文献	特になし		
評価方法	春学期と同じ		

13年度以降	英語専門講読 I (Readings on Japanese Culture I)	担当者	L. G. ボンド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this reading course is to examine different threads and ideas prevalent in Japanese culture. Threads originating in historical times that are still present, if even in a hybrid form, will be the main focus. Some such threads will include harmony, respect, mindfulness, concepts of religion as well as others will be discussed.</p> <p>Materials used will come from translations of original works as well as journal and academic writings. This course will be in English and “Learner-centered” in nature. Students will be expected to work in pairs and groups to complete tasks, and active participation in discussions will be essential. Students will be required to write reflection papers and take quizzes intermittently throughout the semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction 2. Reading 1: Overview and Discussion 3. Reading 1: Discussion and Reflection 4. Reading 2: Overview and Discussion 5. Reading 2: Discussion and Reflection 6. Reading 3: Overview and Discussion 7. Reading 3: Discussion and Reflection 8. Reading 4: Overview and Discussion 9. Reading 4: Discussion and Reflection 10. Reading 5: Overview and Discussion 11. Reading 5: Discussion and Reflection 12. Reading 6: Overview and Discussion 13. Reading 6: Discussion and Reflection 14. Final Class: Summary and Consolidation 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read material prior to class, prepare for class discussion, and write reflection paper after each reading.		
テキスト	Materials will be provided.		
参考文献	Reference material and appropriate dictionaries for study will be recommended in class.		
評価方法	Grades are based on the following: in-class participation, 50%; quizzes, 25%; reflection papers, 25%.		

13年度以降	英語専門講読 II (Readings on Japanese Culture II)	担当者	L. G. ボンド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this reading course is to examine different threads and ideas prevalent in Japanese culture. Threads originating in historical times that are still present, if even in a hybrid form, will be the main focus. Some such threads will include harmony, respect, mindfulness, concepts of religion as well as others will be discussed. Materials used will come from translations of original works as well as journal and academic writings. This course will be in English and “Learner-centered” in nature. Students will be expected to work in pairs and groups to complete tasks, and active participation in discussions will be essential. Students will be required to write reflection papers and take quizzes intermittently throughout the semester. Some field work may be required in the fall term.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction, Review of spring term 2. Reading 7: Overview and Discussion 3. Reading 7: Discussion and Reflection 4. Reading 8: Overview and Discussion 5. Reading 8: Discussion and Reflection 6. Reading 9: Overview and Discussion 7. Reading 9: Discussion and Reflection 8. Reading 10: Overview and Discussion 9. Reading 10: Discussion and Reflection 10. Reading 11: Overview and Discussion 11. Reading 11: Discussion and Reflection 12. Reading 12: Overview and Discussion 13. Reading 12: Discussion and Reflection 14. Final Class: Summary and Consolidation 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read material prior to class, prepare for class discussion, and write reflection paper after each reading.		
テキスト	Materials will be provided.		
参考文献	Reference material and appropriate dictionaries for study will be recommended in class.		
評価方法	Grades are based on the following: in-class participation, 25%; quizzes, 25%; reflection papers, 25%, field work presentation/ report, 25%.		

13 年度以降	英語専門講読 I (Diplomacy and International Relations)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Diplomacy is one of the central aspects in the study of international relations. By examining the nature of diplomacy from various historical perspectives, this course attempts to understand diplomacy, which serves as an essential factor in shaping contemporary international politics today. In the spring semester, the focus will be placed on the evolution of diplomacy, along with some historical events.</p> <p>Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments periodically.</p> <p><u>This course is taught in English.</u> It is an ideal course for students who wish to learn the essential aspects of international relations in English. Students are required to purchase the textbook from the university bookstore DUO before the first class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Evolution of Diplomacy/ Overview 3. Evolution of Diplomacy/ General Discussion 4. Evolution of Diplomacy/ Specific Discussion 5. Evolution of Diplomacy/ Review 6. Diplomacy of the American Revolution/ Overview 7. Diplomacy of the American Revolution/ General Discussion 8. Diplomacy of the American Revolution/ Specific Discussion 9. Diplomacy of the American Revolution/ Review 10. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles/ Overview 11. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles/ General Discussion 12. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles/ Specific Discussion 13. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles/ Review 14. Course Review 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.		
テキスト	Siracusa, Joseph M., <i>Diplomacy: A Very Short Introduction</i> (Oxford: Oxford University Press, 2010).		
参考文献	To be announced.		
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (20%), and examinations (60%). Details will be explained by the instructor in the first class.		

13 年度以降	英語専門講読 II (Diplomacy and International Relations)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is as above. In the fall semester, the focus will be placed on more historical events and the changing nature of diplomacy in the age of globalization and beyond.</p> <p>Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments periodically.</p> <p><u>This course is taught in English.</u> It is an ideal course for students who wish to learn the essential aspects of international relations in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. The Night Stalin and Churchill Divided Europe/ Overview 3. The Night Stalin and Churchill Divided Europe/ General Discussion 4. The Night Stalin and Churchill Divided Europe/ Specific Discussion 5. The Night Stalin and Churchill Divided Europe/ Review 6. The ANZUS Treaty/ Overview 7. The ANZUS Treaty/ General Discussion 8. The ANZUS Treaty/ Specific Discussion 9. The ANZUS Treaty/ Review 10. Diplomacy in the Age of Globalization/ Overview 11. Diplomacy in the Age of Globalization/ General Discussion 12. Diplomacy in the Age of Globalization/ Specific Discussion 13. Diplomacy in the Age of Globalization/ Review 14. Course Review 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.		
テキスト	Siracusa, Joseph M., <i>Diplomacy: A Very Short Introduction</i> (Oxford: Oxford University Press, 2010).		
参考文献	To be announced.		
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (20%), and examinations (60%). Details will be explained by the instructor in the first class.		

13年度以降	英語専門講読 I (国際関係)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバリゼーションとはどのような現象であり、私達の生活にどのような影響を及ぼしているのだろうか。</p> <p>一般的にグローバリゼーションとは、ヒト・モノ・カネ・サービスの境界線を越えての移動と説明されるが、果たしてそれだけなのか。グローバリゼーションの進展は文化的な差異性と同質性のどちらをもたらし、経済的な格差を助長するのだろうか。</p> <p>この授業ではグローバリゼーションを文化的、経済的、政治的、生態的、イデオロギー的側面から捉え直す。</p> <p>テキストとしてはオックスフォード大学出版局のShort Introduction Seriesの<i>Globalization</i> (第4版、2017年)を用いる。</p> <p>授業への積極的な貢献を求めるため、テキスト指定箇所への予習を怠らないこと。毎回、課題の提出がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要の説明 (Preface) 2. Chap.1 (概念) : A contested concept 3. Chap.1 (概念) : Towards a definition of globalization 4. Chap.2 (歴史) : The prehistoric period 5. Chap.2 (歴史) : The premodern period 6. Chap.2 (歴史) : The modern period 7. Chap.3 (経済) : Trade and finance 8. Chap.3 (経済) : Global economic volatility 9. Chap.3 (経済) : Transnational corporations 10. Chap.3 (経済) : Role of international economic orgs 11. Chap.4 (政治) : The demise of nation-state? 12. Chap.4 (政治) : Migration 13. Chap.4 (政治) : Global governance 14. 授業総括 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト指定箇所の予習。		
テキスト	Manfred B. Steger. <i>Globalization: A Very Short Introduction</i> . Oxford University Press, 2017.		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	課題 20%、授業への参加度 20%、定期試験 30%、レポート 30%		

13年度以降	英語専門講読 II (国際関係)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバリゼーションとはどのような現象であり、私達の生活にどのような影響を及ぼしているのだろうか。</p> <p>一般的にグローバリゼーションとは、ヒト・モノ・カネ・サービスの境界線を越えての移動と説明されるが、果たしてそれだけなのか。グローバリゼーションの進展は文化的な差異性と同質性のどちらをもたらし、経済的な格差を助長するのだろうか。</p> <p>この授業ではグローバリゼーションを文化的、経済的、政治的、生態的、イデオロギー的側面から捉え直す。</p> <p>テキストとしてはオックスフォード大学出版局のShort Introduction Seriesの<i>Globalization</i> (第4版、2017年)を用いる。</p> <p>授業への積極的な貢献を求めるため、テキスト指定箇所への予習を怠らないこと。毎回、課題の提出がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要の説明 (Preface) 2. Chap.5 (文化) : Sameness of difference? 3. Chap.5 (文化) : The role of media 4. Chap.5 (文化) : The globalization of languages 5. Chap.6 (環境) : Population growth 6. Chap.6 (環境) : Transboundary pollution 7. Chap.6 (環境) : Global Warming 8. Chap.7 (環境) : Blocked negotiations 9. Chap.7 (思想) : Market globalism 10. Chap.7 (思想) : Justice globalism 11. Chap.7 (思想) : Religious globalism 12. Chap.8 (終章) : The past of globalization 13. Chap.8 (終章) : The future of globalization 14. 授業総括 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト指定箇所の予習。		
テキスト	Manfred B. Steger. <i>Globalization: A Very Short Introduction</i> . Oxford University Press, 2017.		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	課題 20%、授業への参加度 20%、定期試験 30%、レポート 30%		

13年度以降	英語専門講読 I （「グローバル理解教育」、開発教育論）（木2）	担当者	玉井 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（講義目的）主に次の能力の向上を目指します。1）課題設定力：「グローバル理解教育」の現状と課題を理解し、自らの関心に応じた課題を設定する。2）情報収集分析力：各自が設定した課題に関する英語文献を収集し、熟読の上プレゼンテーションに備える。3）企画力・ファシリテーション力：自身の授業プランを企画し実践する。</p> <p>（講義概要）Education for sustainable developmentなど関連分野の英語文献を通して、「グローバル理解教育」への理解を深めます。また、教育学的な観点から、文献をどのように読み、論点や課題を設定するか考え、英語による他者への効果的な発信手段についても考えます。グローバル・イシューに対する関心はもちろんのこと、ファシリテーションや教育実践に関心がある人にも適しています。受講者が主体となって取り組みアクティブラーニングの手法やピア・ティーチングも重視します。</p>		<p>1. Course Introduction 2. Introduction for Education for Global Understanding 3. Presentation & Discussion: MDGs 4. Presentation & Discussion: SDGs 5. Presentation & Discussion: Justice 6. Presentation & Discussion: Global South 7. Presentation & Discussion: Human rights 8. Midterm Review & Introduction for Second half 9. Presentation & Discussion: Poverty 10. Presentation & Discussion: Climate changes 11. Presentation & Discussion: political agenda 12. Presentation & Discussion: NGOs and individuals 13. Presentation & Discussion: Action plans 14. Course Review Note: These plans might be changed if needed.</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。とくにディスカッションリーダーは入念な事前準備が必要です。		
テキスト	主に NYCI's Development Education Programme などオンライン英語文献をテキストとして利用		
参考文献	適宜紹介します。		
評価方法	ディスカッションリーダーとしての授業運営（30%）、通常ディスカッションへの参加と貢献度（30%）、最終レポート（40%）		

13年度以降	英語専門講読 II （「グローバル理解教育」、開発教育論）（木2）	担当者	玉井 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（講義目的）春期と同様に次の3点です。1）課題設定力：「グローバル理解教育」の現状と課題を理解し、自らの関心に応じた課題を設定する。2）情報収集分析力：各自が設定した課題に関する英語文献を収集し、熟読の上プレゼンテーションに備える。3）企画力・ファシリテーション力：自身の授業プランを企画し実践する。</p> <p>（講義概要）春期に続き、Development Education など関連分野の英語文献を通して、「グローバル理解教育」への理解を深めます。また、教育学的な観点から、文献をどのように読み、論点や課題を設定するか考え、英語による他者への効果的な発信手段についても考えます。グローバル・イシューに対する関心はもちろんのこと、ファシリテーションや教育実践に関心がある人にも適しています。受講者が主体となって取り組みアクティブラーニングの手法やピア・ティーチングも重視します。</p>		<p>1. Course Introduction 2. Introduction for Education for Global Understanding 3. Presentation & Discussion: SDGs 4. Presentation & Discussion: Conflicts 5. Presentation & Discussion: Hunger 6. Presentation & Discussion: Infectious diseases 7. Presentation & Discussion: Cultural identities 8. Midterm Review & Introduction for Second half 9. Presentation & Discussion: Minority 10. Presentation & Discussion: inter-dependence 11. Presentation & Discussion: Sound environment 12. Presentation & Discussion: Consumer choice 13. Presentation & Discussion: Action plans 14. Course Review Note: These plans might be changed if needed.</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。とくにディスカッションリーダーは入念な事前準備が必要です。		
テキスト	主に NYCI's Development Education Programme などオンライン英語文献をテキストとして利用		
参考文献	適宜紹介します。		
評価方法	ディスカッションリーダーとしての授業運営（30%）、通常ディスカッションへの参加と貢献度（30%）、最終レポート（40%）		

13年度以降	英語専門講読 I (日英語の疑問文の比較)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の wh-疑問文では wh-句を文頭に移動しなければなりません、日本語では移動する必要がありません。</p> <p>(1) <u>Which book did he read?</u></p> <p>(2) <u>彼はどの本を読んだの/どの本を彼は読んだの</u>では、(3) と (4) を日本語ではどのように区別するでしょうか。(3) と (4) の和訳は1文字違いになるはずですが。</p> <p>(3) <u>Which book did John say Mary would read?</u></p> <p>(4) <u>Did John say which book Mary would read?</u></p> <p>その1文字の機能は何でしょうか。また、そもそも英語で wh-句を移動しなければならないのは何故でしょうか。</p> <p>wh-疑問文はどんな言語にも存在し、概ね、英語タイプと日本語タイプに分かれます。2つのタイプは発音上大きく異なりますが、「本質的に同じ」であることを Nishigauchi (1999) に沿って見ていきます。</p> <p>「シンタクスa,b」の既修もしくは平行履修が望ましいですが、学期の初めに必要最低限の基礎は導入します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要とグループ分け 2. 英語のシンタクスに関する基礎：必須要素と修飾要素 3. 英語のシンタクスに関する基礎：節構造と移動規則 4. wh-句が動かない言語 5. wh-句の移動/解釈にみられる局所性 6. wh-island 7. 複雑な名詞句 8. wh-語を含む大きな句の移動 9. その他の islands 10. 英語の多重 wh-疑問文 11. 日本語の wh-語の不定表現用法 12. 補文節のタイプ 13. 「何故」の特殊性 14. 全体のまとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられる論文に関する質問について考え、毎回の授業での議論を踏まえて解答をまとめる。		
テキスト	Nishigauchi, T. (1999) Quantification and Wh-movement. In Tsujimura (ed.) The Handbook of Japanese Linguistics, Ch. 9.		
参考文献	Freiden, R. (2012) <i>Syntax: Basic Concepts and Applications</i> (CUP), 中村捷・他 (1989) 『生成文法の基礎』 (研究社)		
評価方法	毎回の授業での言語分析、論文のまとめなど (40%)、学期末試験 (60%)		

13年度以降	英語専門講読 II (日英語の使役文の比較)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語では、have, make, letのような独立した動詞を使役的意味に表すのに使いますが、日本語の「持つ」や「作る」は使役構文には使われません。代わりに、独立した語ではない (-s) aseを本動詞につけます。</p> <p>(1) John had/let/made Mary come into the room.</p> <p>(2) ジョンはメアリーを部屋に入らせ (hair-ase) た。</p> <p>(2) の「入る (hair)」は自動詞で、対応する他動詞「入れる」があります。どちらも「気合いが入る/を入れる」のように熟語的意味を持ちますが、自動詞+ (-s) aseの「気合いを入らせる」は奇妙です。これは何故でしょうか。</p> <p>日本語は「させ」のような非独立語を動詞につけて色々な構文を作る点が英語と異なりますが、両言語を分析的に見ていくと、「本質的に同じ」であることを Miyagawa (1989) に沿って見ていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要とグループ分け 2. 使役構文における副詞句の曖昧性 3. 使役構文における「自分」の曖昧性 4. 使役構文における述語の代用表現 5. 使役構文における節の代用表現 6. 変形規則による使役構文の分析 7. 語彙的規則による使役構文の分析 8. Blocking 現象 9. 使役「させ」を含むイディオム 10. 使役「させ」を含む派生名詞 11. 不可能な使役表現 12. 使役構文の意味解釈 13. 語彙的な使役動詞 14. 全体のまとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられる論文に関する質問について考え、毎回の授業での議論を踏まえて解答をまとめる。		
テキスト	Miyagawa, S. (1989) Paradigmatic structures and the causatives. In S. Miyagawa, <i>Syntax and Semantics</i> 22, Ch.4.		
参考文献	Freiden, R. (2012) <i>Syntax: Basic Concepts and Applications</i> (CUP), 中村捷・他 (1989) 『生成文法の基礎』 (研究社)		
評価方法	毎回の授業での言語分析、論文のまとめなど (40%)、学期末試験 (60%)		

13年度以降	英語専門講読 I (ハリウッド映画の社会学：初期から WW2 まで)	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ハリウッドは、最初から「ハリウッド」だったわけではありません。この授業では、アメリカ映画の代表格、あるいは大衆娯楽映画の代名詞になった「ハリウッド」が、いつ、どのようにして誕生し、いかなる特徴の映画を世界へ発信するようになったのかについて、社会学の視点から考えます。ハリウッドの歴史と現状を論じた書籍を読解し、また必要に応じて映画作品の一部を観て議論することで、現代社会における映画メディアの魅力と課題を考えます。</p> <p>授業は①指定テキストの担当箇所について個人単位で英文要約レジュメを作成して口頭発表し、②担当箇所について2~3問のクイズを作成して出題し、③全員でクイズに回答した後に討論する、というスタイルを採ります。</p> <p>履修者には、主体的に課題に取り組み、かつ積極的に討論に参加することを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：授業内容の説明、担当箇所の決定 2. 講読準備①：ハリウッドと「ハリウッド」 3. 講読準備②：映画産業の歴史と映画研究の位置付け 4. 講読①：第1章前半 5. 講読②：第1章後半 6. 講読③：第2章前半 7. 講読④：第2章前半 8. ハリウッド映画を分析する①初期サイレント作品 9. 講読⑤：第3章前半 10. 講読⑥：第3章後半 11. 講読⑦：第4章前半 12. 講読⑧：第4章後半 13. ハリウッド映画を分析する②WW2期作品 14. 全体討論、まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を毎回必ず複数回精読し、論点を整理して授業に参加してください。また授業後に1回は指定箇所を読み返してください。詳細は初回と第2回の授業で説明します。		
テキスト	Decherney, P., 2016, <i>Hollywood: A Very Short Introduction</i> , Oxford University Press. ほか		
参考文献	授業で適宜提示します。		
評価方法	授業参加度 50%、発表 40%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。		

13年度以降	英語専門講読 II (ハリウッド映画の社会学：20世紀後半から現在まで)	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、前期の「英語専門講読 I（ハリウッド映画の社会学：初期から WW2 まで）」で取り組んだ方法を応用して、①指定テキストの後半を講読するとともに、②関連する学術論文をあわせて読解し、③「ハリウッド」が映し出す現代社会のメカニズムを考えることを試みます。</p> <p>前期と同様に、英文要約の発表、クイズの出題と回答、全体討論の3部で授業を構成し、必要に応じて有名・無名のハリウッド映画の一部を鑑賞します。出席は毎回確認し、要約発表とクイズ出題に工夫を求めますが、充実した授業を求めるタイプの学生が楽しめるよう、履修者の意見を取り入れて教員も工夫を重ねて改良していきます。</p> <p>映画が好きな方はもちろん、これまで映画をあまり観なかった方やハリウッド映画が嫌いな方を含めて、映画メディアの歴史から我々が生きる現代社会を考える社会学に意欲的な受講生を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：授業内容の説明、担当箇所の決定 2. 講読準備①：「ハリウッド」と日本 3. 講読準備②：「ハリウッド」以外の映画界 4. 講読①：第5章前半 5. 講読②：第5章後半 6. 講読③：第6章前半 7. 講読④：第6章後半 8. ハリウッド映画を分析する③1980年代作品 9. 講読⑤：第7章前半 10. 講読⑥：第7章後半 11. 講読⑦：関連論文（二世部隊とハリウッド） 12. 講読⑧：関連論文（文化、資本、権力） 13. ハリウッド映画を分析する④21世紀作品 14. 全体討論、まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を毎回必ず複数回精読し、論点を整理して授業に参加してください。また授業後に1回は指定箇所を読み返してください。詳細は初回と第2回の授業で説明します。		
テキスト	Decherney, P., 2016, <i>Hollywood: A Very Short Introduction</i> , Oxford University Press. ほか		
参考文献	授業で適宜提示します。		
評価方法	授業参加度 50%、発表 40%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。		

13年度以降	英語専門講読 I (Multicultural Education & Social Justice)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
Multicultural education is not just about exploring various cultures in the classroom. It is also about addressing inequities, stereotypes, and the ways they influence both the way teachers teach and students learn and engage in/with, or resist, their lessons and the school culture. In this course we will examine the ways that various teaching practices and socio-cultural perspectives impact the learning environment. By building awareness of a variety of perspectives, students will better understand how schools both reflect and reproduce social inequities that exist outside of the classroom and school and consider the ways in which a shift toward a social justice oriented education can begin to address these inequities.		Week1 Introduction to Course-What is Social Justice? Week2 John Rawls' Theory of Social Justice Week3 Relating Social Justice to Education Week4 Considering Injustice in the Classroom Week5 What Counts as Knowledge? Who Decides? Who Benefits? Week6 Educational Inequality – Immigrants & Schooling Week7 Educational Inequality – Domestic Minorities & Schooling Week8 Educational Inequality – Racial Inequality & Schooling Week9 Educational Inequality – Gender Inequality Week10 Educational Inequality – Social Class & Inequality Week11 Lost in Translation Week12 Latinos, School & Society Week13 Poster Presentations – Grp. A Week14 Poster Presentations – Grp. B	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation		
テキスト	There is no text for this course		
参考文献	Materials will be provided by the instructor		
評価方法	In-class participation & homework (40%), Reflective Response /Article Summary (20%), Mid-term presentations (20%), Final Poster Presentation (20%)		

13年度以降	英語専門講読 II (Multicultural Education & Social Justice)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
The fall term of the course continues with an exploration of how social inequalities are reflected and reproduced within educational institutions and how a social justice oriented education can address these issues. The main topics of study include social mobility and educational stratification; human & social capital; social & cultural reproduction; the affect of race, ethnicity, gender, class, etc. on the type and quality of education individuals receive.		Week1 Equal Opportunity & Education Week2 Purposes of Public Education – Is it really Equal? Week3 Considering Equality and Equity Week4 Aims & Objectives of a Social Justice Education Week5 Elements of Social Justice Education Week6 Social Justice Case Studies – How Does It Work? Week7 Globalization, Human Capital & Schooling Week8 Colonization, Global Disparity & Education Week9 Schooling the World Week10 Inequality and Schooling: Japan, Economic Difference Week11 Inequality and Schooling: Japan, Racial / Ethnic Difference Week12 Inequality and Schooling: Japan, Linguistic Difference Week13 Final Project – Grp. A Week14 Final Project – Grp. B	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation		
テキスト	There is no text for this course		
参考文献	Materials will be provided by the instructor		
評価方法	In-class participation & homework (40%), Reflective Responses x2 (20%), Mid-term presentations (20%), Final Project (20%)		

13年度以降	英語専門講読 I (ツーリズムの現状と課題)	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 我が国を訪問する外国人旅行者数は大きく伸びているが、我が国のツーリズムはまだまだ発展途上である。本講義は、英語文献を通して、我が国のツーリズムの現状を理解すること、さらに、英語によるプレゼンテーション手法を習得することを目的としている。</p> <p>講義概要： 本講義は、ツーリズム関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語によるプレゼンテーション+ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Tourism in Japan-history 3. Tourism in Japan-future 4. Presentation & Discussion group 1 5. Presentation & Discussion group 2 6. Presentation & Discussion group 3 7. Presentation & Discussion group 4 8. Japan's World Heritage Sites 9. Over tourism 10. Culture of Japan 11. Final Presentation & Discussion group 1 12. Final Presentation & Discussion group 2 13. Final Presentation & Discussion group 3 14. Final Presentation & Discussion group 4 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習。プレゼンテーションの準備。		
テキスト	テキストを適宜配布する。		
参考文献	特に指定無し。		
評価方法	講義での発言、受講姿勢、講義参画 70%、プレゼンテーションとレポート 30%。		

13年度以降	英語専門講読 II (航空の現状と歴史)	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 本講義においては、航空事業の歴史と現状について学習する。航空事業は外から見ると華やかな産業であるが故に、その背景にある様々な重要な出来事や歴史を忘れがちである。よって、航空事業の現状に至る経緯や、現在の航空事業を支える基礎には何があるのかを中心に考えることを目的としている。</p> <p>講義概要： 本講義は、航空産業関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語によるプレゼンテーション+ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. The History of The Airline Business-America 3. The History of The Airline Business-Europe 4. The History of The Airline Business-Japan 5. Presentation & Discussion group 1 6. Presentation & Discussion group 2 7. Presentation & Discussion group 3 8. The Airline Business in Japan 9. The Airport in Japan 10. LCC 11. Final Presentation & Discussion group 1 12. Final Presentation & Discussion group 2 13. Final Presentation & Discussion group 3 14. Final Presentation & Discussion group 4 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習。プレゼンテーションの準備。		
テキスト	適宜配布する。		
参考文献	特に指定無し。		
評価方法	講義での発言、受講姿勢、講義参画 70%、プレゼンテーションとレポート 30%。		

13年度以降	英語専門講読 I (Global Woman)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化した世界のなかでのジェンダー問題、特に女性移民労働者についてのエッセイや論文を読む、テキストのタイトルは<i>Global Woman</i>。「グローバル・ウーマン」という言葉から、あなたは何を連想するだろうか。ある授業で、アンケートをとったところ、次のようなイメージが大半をしめた。たとえば、いわゆる「国際的で」、「高収入」の仕事につき、外国語を操り、国境を越えて活躍する女性。</p> <p>しかし、現在、国境を越えて移動する女性たちの多くは、第三世界から第一世界への低賃金の移民労働者である。彼女たちが担うのは、第一世界の女性たちが好まなくなった「女性の役割」だ。テキストの副題にあるとおり、家事、育児、そしてセックス・ワークが彼女たちの主な仕事なのである。その労働の現場では、どのような問題が起こっているのだろうか。(以下、(秋)の欄に続く)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction (問題提起) 2. Introduction (考えてみよう) 3. Introduction (まとめ) 4. Love and Gold (前半) 5. Love and Gold (後半) 6. Nanny Dilemma 7. The Care Crisis in the Philippines (問題提起) 8. The Care Crisis in the Philippines (考えてみよう) 9. The Care Crisis in the Philippines (まとめ) 10. The Commodification of Domestic Labor (問題提起) 11. The Commodification of Domestic Labor (まとめ) 12. Presentation (First Group) 13. Presentation (Second Group) 14. Presentation (Third Group) 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を必ず事前に読んでおくこと。		
テキスト	<i>Global Woman: Nannies, Maids and Sex Workers in the New Economy</i> (2002)		
参考文献	必要に応じて授業時に紹介する。		
評価方法	授業貢献度 (30%)、小テスト (35%)、プレゼンテーション (35%) (変更の可能性もある)		

13年度以降	英語専門講読 II (Global Woman)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>そもそも、何がこのような状況を生み出しているのか。原因は複合的なものである。グローバリゼーションの問題とジェンダーの問題とが、複雑に絡み合っているのだ。</p> <p>第三世界からの女性移民労働者の問題は、単純に彼女たちだけの問題ではない。彼女たちが後に残してくる家族、また彼女たちを必要とする、第一世界側の男性と女性にも関わってくるのである。つまり、第三世界からの女性移民労働者の問題について考えると、いくつもの異なる社会のジェンダーシステムが抱える課題が見えてくるのである。</p> <p>そしてまた、この問題はいままさに、わたしたちの社会の問題ともなろうとしている。様々な問題を扱ったエッセイや論文を読み、グローバリゼーションとジェンダーについて考えたい。各学期の最後の数回は、受講者によるプレゼンテーションに充てる予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Selling Sex for Visas (問題提起) 2. Selling Sex for Visas (考えてみよう+まとめ) 3. Because She Looks like a Child (問題提起) 4. Because She Looks like a Child (考えてみよう) 5. Because She Looks like a Child (まとめ) 6. Clashing Dreams: Highly Educated Overseas Brides and Low-Wage U.S. Husband (問題提起) 7. Clashing Dreams (考えてみよう) 8. Clashing Dreams (まとめ) 9. 日本の「いま」を考える (問題提起) 10. 日本の「いま」を考える (考えてみよう) 11. 日本の「いま」を考える (まとめ) 12. Presentation (First Group) 13. Presentation (Second Group) 14. Presentation (Third Group) 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を必ず事前に読んでおくこと。		
テキスト	<i>Global Woman: Nannies, Maids and Sex Workers in the New Economy</i> (2002)		
参考文献	必要に応じて授業時に紹介する。		
評価方法	授業貢献度 (30%)、小テスト (35%)、プレゼンテーション (35%) (変更の可能性もある)		

13年度以降	英語専門講読 I (Allen Ginsberg の詩を精読する)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、タイトル通り、アメリカの「ビート派」の中心的詩人、Allen Ginsberg (1926~1997) の詩を精読、そして20世紀初頭の詩の刷新運動 Imagismからの Ginsberg の連続性を確認することを目的とする。なんだか難しいことを語ったが、とにかく Ginsberg の詩をひたすら読むことが目的だ。20世紀初頭の英語詩は、日本の俳句に影響を受けている。それがどのような影響だったかをまずは確認し、その詩学(詩のありよう)が Ginsberg にも引き継がれていることを、実作品に読み込む。「時間」とは、どのようにして生まれるのだろうか? ビート詩人たちを語る時に使われる“Here & Now”という、時間と空間が混交したフレーズをしっかりと Ginsberg の実作品から考えてみたい。そして、そこからどのように Ginsberg が political な方向へと動いていったか、それを確認したい。音楽は J-Pop しか聴かない学生向き。		1) introduction 2) Imagism の詩論の確認。 3) 同上、エッセイ “Vorticism” を読む 4) 同上、Imagism の作品精読 5) “The Green Automobile,” 1 st ~17 th stanzas 6) 18 th ~34 th stanzas 7) “Song” 8) “On Burroughs’ Work,” “A Supermarket in California” 9) “Sunflower Sutra,” l. 1~10 10) 同上、l. 11~22 11) “America,” l. 1~36 12) 同上、l. 37~73 13) “To Aunt Rose” 14) “I Am a Victim of Telephone”	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前にわからない単語を調べる、授業後には再度、詩を読み直す、これ以外にあるだろうか?		
テキスト	<i>Selected Poems: 1945~1995</i> , (Penguin Modern Classics)		
参考文献	多々あるので、学生自身が検索して調べる。もちろん、適宜、紹介する。		
評価方法	学期末レポート、及び、授業への participation。		

13年度以降	英語専門講読 II (Allen Ginsberg の詩を精読する)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じく、Ginsberg の詩を精読する。Imagism からの連続性は保ちつつ、そこから少々離れ、political な方向へと進む。Political な方向へと進むにしたがって、Ginsberg の詩は紙の上では「ユル」く、とはいえ、歌われることによって、より効果を持つようになる。Ginsberg 自身がゲイであったこと、そして反核活動家でもあったこと、それを現在の日本社会にも反映させようとする意識のある学生向き。春学期、秋学期ともに言えることであるが、「メッセージ」は、それはそれで重要。しかし、それだけでは「詩」にはならない。「プロパガンダ」と「詩」の違いを考えてみたい。同性愛の性的な表現も多々出てくるが、それを「キモい」としか受容できない子供の意識しか持ち合わせていない学生には不向き。		1) 春学期のレポートの講評 2) “These States: into L. A.,” “Ayers Rock / Uluru Song” 3) “Mind Breaths” 4) “Stay Away from White House” 5) “Jahweh and Allah Battle” 6) “Father Death Blues” 7) “Nagasaki Days: Everybody’s Fantasy,” “Plutonian Ode I” 8) “Plutonian Ode I” 9) “Plutonian Ode II” 10) “Birdbrain!” 11) “Capitol Air,” 1 st ~12 th stanzas 12) 同上、13 th ~24 th stanzas 13) “Why I meditate,” “Cosmopolitan Greetings” 14) “Hum Bomb!”	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	春学期と同様、予習、復習。		
テキスト	春学期のものを継続して使う。		
参考文献	これも、適宜、紹介するし、学生が自分で検索して読むこと。		
評価方法	学期末レポート、及び、授業への participation		

13年度以降	英語専門講読 I (動詞の意味と文法)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、英語のテンス、アスペクト及びモダリティに関する書籍である。</p> <p>授業は演習形式で実施する。履修登録者は、あらかじめ割り当てられた部分を発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよしというようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義方針等のガイダンス（出席は必須である） 2. Preface 3. Introduction 4. Simple Present 5. Simple Past 6. Progressive Aspect 7. Classes of verb with the Progressive Aspect 8. Special cases 9. Present perfect tense 10. Present Perfect and Simple Past 11. Adverbials in relation to Perfect and Past 12. Past Perfect 13. Perfect Progressive 14. 春学期のまとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの予習に1時間以上、復習に1時間以上の授業時間外学修を必要とする。		
テキスト	Leech, Geoffrey (2011) <i>Meaning and the English Verb</i> (Third Edition). 東京：ひつじ書房.		
参考文献	G. N. リーチ. 國廣哲彌訳注 (1976) 『意味と英語動詞』 東京：大修館書店.		
評価方法	評価を受ける資格を有する者について、日本語による記述式の試験にて評価を行う。なお、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることはせず、特別の「救済措置」などは実施しない。		

13年度以降	英語専門講読 II (動詞の意味と文法)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、英語のテンス、アスペクト及びモダリティに関する書籍である。</p> <p>授業は演習形式で実施する。履修登録者は、あらかじめ割り当てられた部分を発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよしというようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・春学期の復習（出席は必須である） 2. The Expression of Future Time 3. <i>Will</i> 4. <i>Be going to</i> 5. Futurate Present Progressive 6. Simple Present with future meaning 7. <i>Will</i>+ Progressive Infinitive 8. The Primary Modal Auxiliaries 9. <i>Can</i> 10. <i>May</i> 11. <i>Must</i> 12. <i>Have to</i> 13. Root and epistemic modality 14. 秋学期のまとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの予習に1時間以上、復習に1時間以上の授業時間外学修を必要とする。		
テキスト	Leech, Geoffrey (2011) <i>Meaning and the English Verb</i> (Third Edition). 東京：ひつじ書房.		
参考文献	G. N. リーチ. 國廣哲彌訳注 (1976) 『意味と英語動詞』 東京：大修館書店.		
評価方法	評価を受ける資格を有する者について、日本語による記述式の試験にて評価を行う。なお、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることはせず、特別の「救済措置」などは実施しない。		

13年度以降	英語専門講読 I (コミュニケーションに関する諸モデル)	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 コミュニケーション現象を客観的に理解し、分析できるようになる。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入と班分け、コミュニケーションのプロセスの概念 2. コミュニケーション送り手・受け手の要素 3. コミュニケーションのメッセージの要素 4. コミュニケーションのメディアの要素 5. 【第1回個人中間発表】 6. ラスウェルのモデル、オズグッドのモデル、 7. ABCモデル、ヘリカルモデル 8. 議題設定モデル 9. 沈黙の螺旋モデル 10. 【第2回個人中間発表】 11. ABXモデル 12. 利用と満足モデル 13. 遠慮察しモデル 14. 【最終個人発表】 	
講義概要 まずコミュニケーションのダイナミックなプロセス性を学んだ後、具体的なコミュニケーションモデルを10件くらい学び、その学びを定着させるためにそれらのモデルを利用して具体的なコミュニケーション現象を分析し発表してもらいます。			
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、プレゼンに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと。		
テキスト	テキストとして毎回プリントを配布する。		
参考文献	McQuail, D., <i>Communication Models</i> , Longman.		
評価方法	毎回の授業活動への参加点 30%、中間個人発表×2回 40%、最終個人発表 30%。		

13年度以降	英語専門講読 II (イノベーションの普及コミュニケーション)	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 イノベーション(技術革新)が普及していく過程を客観的に理解し、分析できるようになる。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入と班分け、イノベーションとは 2. イノベーションのコミュニケーションと日本の文化的要因 3. イノベーションのコミュニケーションと欧米の文化的要因 4. イノベーションのコミュニケーションとその他の国の文化的要因 5. 【第1回個人中間発表】 6. イノベーションの採用過程 7. イノベーションの特徴としての相対的優位性と適合性 8. イノベーションの特徴としての複雑性と試行可能性と観察可能性 9. 【第2回個人中間発表】 10. イノベーションの採用者類型(革新者、初期採用者) 11. イノベーションの採用者類型(初期追随者、後期追随者、遅滞者) 12. オピニオンリーダーの特徴と役割 13. チェンジエージェントの特徴と役割 14. 【最終個人発表】 	
講義概要 イノベーション(技術革新)が普及していくプロセスはコミュニケーションプロセスの一形態であると捉えることができる。本授業ではイノベーションの定義を行った後、イノベーションが普及・伝達していく上で重要な要因である、1) 文化的要因、2) イノベーションの採用過程、3) イノベーションの特徴、4) イノベーションの採用者類型、5) オピニオンリーダーやチェンジエージェントの特徴と役割などについて学んでいく。そして、授業での学びを定着させるために具体的なイノベーションを取り上げ、その普及戦略について発表してもらう。			
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、プレゼンに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと。		
テキスト	毎回プリントを配布予定。		
参考文献	Rogers, E.M. (2003). <i>Diffusion of Innovations (5th Ed.)</i> , Free press.		
評価方法	毎回の授業活動への参加点 30%、中間個人発表×2回 40%、最終個人発表 30%。		

13年度以降	英語専門講読 I (ツーリズム研究の基礎概念)	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業は、観光研究における主要な概念や理論について、英語文献の読解を通じて、基礎的な理解を得ることを目的とする。春学期は主に観光の経済的・産業的側面にかかわる概念を取り上げる。</p> <p>Sageの<i>key concepts in tourist studies</i>およびRoutledgeの<i>Tourism the key concepts</i>をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。</p> <p>進め方としては、各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を抄訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、必要箇所をコピーして配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 発表方法について（講義） 3. Mass Tourism 4. Mobility 5. Hospitality 6. Experience Economy 7. Economics of Tourism 8. Transportation 9. Tour Operations 10. Accommodation Providers 11. Planning Tourism 12. Carrying Capacity 13. Urban Tourism 14. 総合討論 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当者以外も該当箇所を読了の上授業に参加のこと。		
テキスト	Smith, M., N. Macleod and M. Robertson (2010) <i>key concepts in tourist studies</i> . Sage. Robinson, P. ed. (2012) <i>Tourism the key concepts</i> . Routledge.		
参考文献	授業内で紹介する。		
評価方法	授業内発表 20% 授業内小課題 40% 期末試験 40% ※ただし授業内発表を行わない場合は単位を認めない		

13年度以降	英語専門講読 II (ツーリズム研究の基礎概念)	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業は、観光研究における主要な概念や理論について、英語文献の読解を通じて、基礎的な理解を得ることを目的とする。秋学期は主に観光の社会的・文化的側面にかかわる概念を取り上げる。</p> <p>Sageの<i>key concepts in tourist studies</i>およびRoutledgeの<i>Tourism the key concepts</i>をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。</p> <p>進め方としては、各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を抄訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、必要箇所をコピーして配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 発表方法について（講義） 3. Tourist Gaze 4. Self and Other 5. Authenticity 6. Post Tourism 7. Sustainable Tourism 8. Eco Tourism 9. Heritage Tourism 10. Film and TV Tourism/ Literary Tourism 11. Sex / LGBT Tourism 12. Dark Tourism 13. Ethical Tourism 14. 総合討論 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当者以外も該当箇所を読了の上授業に参加のこと。		
テキスト	Smith, M., N. Macleod and M. Robertson (2010) <i>key concepts in tourist studies</i> . Sage. Robinson, P. ed. (2012) <i>Tourism the key concepts</i> . Routledge.		
参考文献	授業内で紹介する。		
評価方法	授業内発表 20% 授業内小課題 40% 期末レポート 40% ※ただし授業内発表を行わない場合は単位を認めない		

13 年度以降	英語専門講読 I (Deconstructing “Japaneseness”)	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代日本の社会や文化について、エスニシティやジェンダー、地域文化などを題材に考えてみたいと思います。</p> <p>従来、日本社会についての諸研究は「日本人らしさ」や「国民性」などを所与のものとして扱うものが主流でしたが、この授業ではこうした視点を批判的に検討し、マルチカルチュラルな視点から現代日本の現状をとらえることを目指します。</p> <p>テキストとして扱うのは、社会学者によって書かれた日本研究の基本的な（＝海外で日本研究を専攻する大学生向け）文献です。この授業では、同書の中から右記の5つの章を扱います。各自、図書館で必要な箇所をコピーしておいてください。</p> <p>授業の進め方は、受講生数によって適宜調整しますが、基本的にはグループ作業を基本とした演習形式で行ないます。そのため、ディスカッション等に積極的に参加することが履修・単位取得の条件となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 趣旨説明・グループ分け 近代日本のナショナリティ（講義） グローバル・エスノスケイプとしての現代日本（講義） 発表・議論（テキスト第1章前半） 発表・議論（テキスト第1章後半） 発表・議論（テキスト第3章前半） 発表・議論（テキスト第3章後半） 発表・議論（テキスト第6章前半） 発表・議論（テキスト第6章後半） 発表・議論（テキスト第7章前半） 発表・議論（テキスト第7章後半） 発表・議論（テキスト第9章前半） 発表・議論（テキスト第9章後半） まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	一定の社会的素養が求められるので、日本語で書かれた社会学の基本文献等を併せて読むことが望ましい。		
テキスト	Sugimoto, Yoshio 2014. <i>An Introduction to Japanese Society (Forth Edition)</i> . Cambridge University Press.		
参考文献	随時、文献リストを配布する。		
評価方法	授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4回以上の欠席（遅刻は2回で欠席1回に換算）で単位認定の資格を失う。		

13 年度以降	英語専門講読 II (Deconstructing “Japaneseness”)	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>長期間のフィールドワークにもとづいて書かれた民族誌（エスノグラフィ）の読解・議論を通じて、現代日本における多文化共生の可能性や課題について考えます。</p> <p>班ごとにテーマを決め、在日コリアンやムスリム、日系ブラジル人、フィリピン人女性、先住民族アイヌなどについて書かれたテキストの内容紹介をしてもらいます。その上で、首都圏近郊のエスニック・タウンにて、プチ・フィールドワークを行ない、その成果を学期末に報告をもらいます。</p> <p>授業の進め方は、受講者数によって適宜調整しますが、基本的にはグループ作業を基本とした演習形式で行ないます。そのため、ディスカッション等に積極的に参加することが履修・単位取得の条件となります。また、英語文献を教材として扱いますが、英文読解力の向上にとどまらず、グローバル化が加速化している今日的状況を「文化」という視点から考えるための文化人類学的・社会的思考を養うことを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 趣旨説明・グループ分け 多文化共生とは何か 映像資料『となり生きる外国人』 発表・議論（在日コリアンに関する文献・前半） 発表・議論（在日コリアンに関する文献・後半） 発表・議論（在日ムスリムに関する文献・前半） 発表・議論（在日ムスリムに関する文献・後半） 発表・議論（日系ブラジル人に関する文献・前半） 発表・議論（日系ブラジル人に関する文献・後半） 発表・議論（在日フィリピン人に関する文献・前半） 発表・議論（在日フィリピン人に関する文献・後半） 発表・議論（先住民族アイヌに関する文献・前半） 発表・議論（先住民族アイヌに関する文献・後半） まとめ 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	日本の移民や難民を取り巻く状況について、新聞記事等で情報収集をしておくこと。		
テキスト	初回の授業で、論文リストを配布するので、担当グループは各自図書館でコピーすること。		
参考文献	随時、文献リストを配布する。		
評価方法	授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4回以上の欠席（遅刻は2回で欠席1回に換算）で単位認定の資格を失う。		

13 年度以降	英語専門講読 I (21 世紀のグローバル・イシューズ)	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「グローバル・イシューズ」と呼ばれる今日の世界問題を論じた各国政府、国際機関（国連等）、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読する。</p> <p>課題文献のテーマは、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生、領土問題、歴史認識、ジェンダーなど、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。</p> <p>授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこととする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにした。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 文献1 New York Times：地球環境（段落1-15） 2 文献1 New York Times：地球環境（段落16-30） 3 文献1 New York Times：地球環境（段落31-45） 4 文献2 NGO（OXFAM）報告書：人権（段落1-10） 5 文献2 NGO（OXFAM）報告書：人権（段落11-20） 6 文献2 NGO（OXFAM）報告書：人権（段落21-30） 7 文献3 UNHCR報告書：難民（段落1-10） 8 文献3 UNHCR報告書：難民（段落11-20） 9 文献3 UNHCR報告書：難民（段落21-30） 10 文献4 シンクタンク（CSIS）：核問題（段落1-10） 11 文献4 シンクタンク（CSIS）：核問題（段落11-20） 12 文献4 シンクタンク（CSIS）：核問題（段落21-30） 13 文献5 国連報告書：貧困（段落1-10） 14 文献5 国連報告書：貧困（段落11-20） 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題の事前学習（和訳レポートの作成）		
テキスト	課題文献のプリントを配布する。		
参考文献	付属資料を配布する。		
評価方法	平常点・発表点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。 <u>なお、欠席回数が4回に達すると評価対象にならないので、予め承知しておくこと。</u>		

13 年度以降	英語専門講読 II (21 世紀のグローバル・イシューズ)	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「グローバル・イシューズ」と呼ばれる今日の世界問題を論じた各国政府、国際機関（国連等）、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読する。</p> <p>課題文献のテーマは、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生、領土問題、歴史認識、ジェンダーなど、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。</p> <p>授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこととする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにした。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 文献1 Washington Post：民主化（段落1-15） 2 文献1 Washington Post：民主化（段落16-30） 3 文献1 Washington Post：民主化（段落31-45） 4 文献2 NGO（Human Rights Watch）：人権（段落1-10） 5 文献2 NGO（Human Rights Watch）：人権（段落11-20） 6 文献2 NGO（Human Rights Watch）：人権（段落21-30） 7 文献3 トランプ大統領演説：（段落1-10） 8 文献3 トランプ大統領演説：（段落11-20） 9 文献3 トランプ大統領演説：（段落21-30） 10 文献4 シンクタンク（Brookings）：平和構築（段落1-10） 11 文献4 シンクタンク（Brookings）：平和構築（段落11-20） 12 文献4 シンクタンク（Brookings）：平和構築（段落21-30） 13 文献5 Foreign Affairs：歴史問題（段落1-10） 14 文献5 Foreign Affairs：歴史問題（段落11-20） 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題の事前学習（和訳レポートの作成）		
テキスト	課題文献のプリントを配布する。		
参考文献	付属資料を配布する。		
評価方法	平常点・発表点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。 <u>なお、欠席回数が4回に達すると評価対象にならないので、予め承知しておくこと。</u>		

13年度以降	英語専門講読 I (世界の移民・難民について考える)	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）は世界の難民の数が6800万人を超えたと発表しました。難民は遠い国々の出来事のように考える傾向も日本にはありますが、全ての人々の安全と権利を守るため、私たちみんなが取り組むべきイシューです。 *ディスカッション形式なので授業への積極的参加が必要です。</p> <p>春学期は、2016年に連合王国（UK=イギリスのこと）で出版された子ども向けのテキストを中心に、難民だけでなく、故郷を離れて移動する人々について学んでいきます。</p> <p>授業はディスカッション形式なので、積極的な参加が必須です。獨協大学図書館に所蔵されている映画を鑑賞、内容について発表してもらい、クラスで議論するコーナーも設けます。また、学外のシンポジウムやワークショップへの参加も推奨されます。</p> <p>評価では、レポートのほかに、毎週の授業について、何を調べ、何を考えたかを記録したポートフォリオの提出が大切になります。作成方法については授業中に説明します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. Who are refugees and migrants? 3. Michael Rosen 4. Annemarie Young 5. What makes people leave their homes? 6. Muzoon Almellehan 7. How refugees and migrants travel? 8. Omid Djalili 9. Migrants through history 10. What rights do refugees and migrants have? 11. Meltem Avcil 12. Does it matter how we use words? 13. What is culture and how do we share it? 14. まとめのディスカッション 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストを必ず精読して予習し、背景となる歴史や社会状況についても調べ、問題点や質問事項を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、ポートフォリオ作成の準備をする。		
テキスト	<i>Who Are Refugees and Migrants? What Makes People Leave Their Homes? and Other Big Questions</i> ほか		
参考文献	プリント、図書館の指定書など		
評価方法	予習復習の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（40%）、授業での積極的な発言と毎週のクラス・フェイスブックへの投稿（30%）、最終レポート（30%）		

13年度以降	英語専門講読 II (世界の移民・難民について考える)	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、元連合王国（イギリス）外相で、難民支援の国際NGOを率いるDavid Milibandの著作を読み、移民・難民について考えます。授業では彼のTED Talk（2017年6月）の映像、スクリプトと組み合わせて議論していきます。</p> <p>また、海外の新聞記事やドキュメンタリー番組など、テキスト以外の英語教材も多数取り上げます。移民や難民に関心があり、かつ、難しい英語にも挑戦して勉強しようという、意欲の高い学生が対象の授業です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. The Crisis pp.1-10 3. pp.11-23 4. Why We Should Care pp.43-55 5. pp.56-66 6. The Renewal of Rescue pp.67-75 7. pp.76-90 8. Refugees Welcome pp.91-96 9. pp.97-105 10. pp.106-108 11. Conclusion pp.109-115 12. pp.116-125 13. Ted Talks 14. まとめのディスカッション 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストを必ず精読して予習し、背景となる歴史や社会状況についても調べ、問題点や質問事項を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、ポートフォリオ作成の準備をする。		
テキスト	David Miliband, <i>Rescue: Refugees and the Political Crisis of Our Time</i> (TED Books, 2017)		
参考文献	プリント、図書館の指定書など		
評価方法	予習復習の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（40%）、授業での積極的な発言と毎週のクラス・フェイスブックへの投稿（30%）、最終レポート（30%）		

13 年度以降	英語専門講読 I (Research interviewing: Intercultural learning 'at home')	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【本講義は英語で行います。】 This course is designed to help students with advanced English language proficiency to develop both a concrete and conceptual understanding of research interviewing. Drawing on the literature of qualitative research methodology and international higher education, this course provides students with the opportunity to <i>conduct a small research project</i> on intercultural interactions between domestic and international students at Dokkyo University. Topics to be covered in the spring semester include: internationalisation of the student experience 'at home'; paradigms of qualitative and quantitative research; the place of the literature in qualitative research; pros and cons of interviewing; writing a research proposal; and ethics in human research.</p> <p>This course is highly recommended to students who want to learn the basics of qualitative/interview research, to internationalise their daily student life, and most importantly, to discover their unknown self through learning from/with 'the other'.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to course: 'Why can't we become friends?' 2. Internationalisation of the student experience 'at home' 3. Qualitative and quantitative research 4. 'Us' and 'them' separatism in the classroom 5. The use of the literature in qualitative research 6. Friendship networks of university students 7. Research interviewing: Pros and cons 8. Intercultural relationships 1: Critical incidents 9. Writing a research proposal 10. Intercultural relationships 2: A longitudinal approach 11. Ethics in human research 12. Group presentation 13. Tips for writing up 14. Wrap-up <p>【受講生は毎週の課題として、5,000 語程度の英文資料を読み、200 語程度の英文を執筆することが求められます。教室では、この課題を基に学習活動が展開されます。グループワークが活動の核になりますので、単位修得のためには、全ての授業に無遅刻無欠席であることが求められます。】</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 10 or more journal articles, to write weekly essays, and to work closely with other students to complete tasks, including group research.		
テキスト	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)		
参考文献	To be introduced by the instructor		
評価方法	Contribution to the class 10%, weekly essays 30%, group research presentation 30% and final paper 30%		

13 年度以降	英語専門講読 II (Research interviewing: Intercultural learning 'at home')	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【本講義は英語で行います。】 This course is designed to help students with advanced English language proficiency to develop both a concrete and conceptual understanding of research interviewing. Drawing on the literature of qualitative research methodology and international higher education, this course provides students with the opportunity to <i>conduct a small research project</i> on intercultural interactions between domestic and international students at Dokkyo University. Topics to be covered in the fall semester include: keeping a research diary; interview variations; conducting an interview; transcribing an interview; data analysis; and writing up.</p> <p>This course is highly recommended to students who want to learn the basics of qualitative/interview research, to internationalise their daily student life, and most importantly, to discover their unknown self through learning from/with 'the other'.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to course 2. Keeping a research diary 3. Interview variations 4. Conducting an interview 5. Transcribing an interview 6. Using the literature 1: Review paper 7. Using the literature 2: Empirical paper 8. Data analysis 9. Using the literature 3: Position/policy paper 10. Writing up 11. Tutorial 12. Group presentation 13. Tips for writing up 14. Wrap-up <p>【受講生は毎週の課題として、5,000 語程度の英文資料を読み、200 語程度の英文を執筆することが求められます。グループワークが活動の核になりますので、単位修得のためには、全ての授業に無遅刻無欠席であることが求められます。】</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 10 or more journal articles, to write weekly essays, and to work closely with other students to complete tasks, including group research.		
テキスト	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)		
参考文献	To be introduced by the instructor		
評価方法	Contribution to the class 10%, weekly essays 30%, group research presentation 30% and final paper 30%		

13年度以降	英語専門講読 I (Children's Literature を研究する)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Children's Literatureとは、日本語に訳せば「児童文学」ですが、10代向けのYA小説や、ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』や、サリンジャーの『ライ麦畑でつかまえて』なども含むもので、欧米では、古くは『イソップ物語』あたりから始まり、17世紀の印刷技術の発展などを背景に本格化してきたジャンルと考えられています。</p> <p>このジャンルの歴史、読み方、今日の変容、問題点などを大づかみに捉えた入門書を、この講義では読みます。一回の授業で4~5ページほど。輪読形式で、毎回発表者2人か3人にそれぞれレジュメを作って発表をしてもらいます。発表者以外の人にも毎回課題が出されます。</p> <p>アカデミックな本を丸ごと読むのも初めて、という受講者も念頭に置いています。ある程度馴染みのあるテーマについて、理屈っぽく英語を使って考えるトレーニングをしましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (やり方を説明し、発表担当を決めます) 2. 子ども向けの本の出版史：概論 3. 子ども向けの本の出版史：古代から18世紀まで 4. 子ども向けの本の出版史：18世紀から19世紀 5. 子ども向けの本の出版史：20世紀 6. 子ども向けの本の出版史：21世紀 7. 子ども向けの本の出版史：21世紀 8. 研究アプローチ：大人の作者と子どもの読者 9. 研究アプローチ：初期の方法 10. 研究アプローチ：心理学アプローチ 11. 研究アプローチ：言語学的アプローチ 12. 研究アプローチ：ポストコロニアル・アプローチ 13. 研究アプローチ：子どもを中心とするアプローチ 14. まとめ <p style="text-align: right;">* タイトルは変更することがあります。</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：全員がプリントを手がかりにテキストを読んてくる。発表者はレジュメを作る。 事後：レジュメを見直しておく。		
テキスト	Kimberley Reynolds, <i>Children's Literature: A Very Short Introduction</i> (OUP, 2011)		
参考文献	桂宥子ほか『はじめて学ぶ英米児童文学史』(ミネルヴァ書房、2004) など		
評価方法	発表 30%, 毎回の提出課題 30%, 学期末試験 40% (ただし5回以上欠席は成績評価対象にしません。遅刻は 1/2 欠席扱いにします。)		

13年度以降	英語専門講読 II (児童文学を研究する)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的や概要は上の「I」に書いたとおりなので、ここではレジュメと発表の手順について書きます。</p> <p>レジュメには、テキストの担当範囲 (2ページくらい) について、(1) 議論の流れがわかるように日本語でアウトラインを作ってもらいます (具体的なサンプルは「I」の初回で示しますが、A4で2枚程度です)。(2) テキスト以外のsourceから調べて紹介してもらいます。(3) みんなで議論したいポイントの一つ探して、疑問点を作ってもらいます。これを各人一人ずつやってもらいます。</p> <p>レジュメは作成したら前日までに担当者 (片山) と打ち合わせをしてほしいので、私にアポイントを取ってください。片山はレジュメを読み、英文理解の漏れや誤りなど、気づいたことを指摘しますので、修正の上、人数分印刷して授業に臨んでください。発表時間は一人当たり20~30分くらいです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (やり方を説明し、担当を決めます) 2. メディアの変化：子どもとシェイクスピア 3. メディアの変化：ファンタジーの変容 4. メディアの変化：トランスリテラシー 5. メディアの変化：相互作用 6. 家族の物語：「ジャンル」フィクション 7. 家族の物語：ジャンルの変容 8. 家族の物語：家族のフリクション (摩擦) 9. 家族の物語：家族と友人たち 10. 未来をどう書くか：さまざまな死生観 11. 未来をどう書くか：さまざまな未来観 12. 倫理的な問題：プロパガンダ? 13. 倫理的な問題：権力の作用 14. まとめ <p style="text-align: right;">* タイトルは変更することがあります。</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：全員がプリントを手がかりにテキストを読んてくる。発表者はレジュメを作る。 事後：レジュメを見直しておく。		
テキスト	上と同じ。難易度が心配な人は、amazonの「なか身!検索」の機能などを使って検討してください。		
参考文献	桂宥子ほか『はじめて学ぶ英米児童文学史』(ミネルヴァ書房、2004) など		
評価方法	発表 30%, 毎回の提出課題 30%, 学期末試験 40% (ただし5回以上欠席は成績評価対象にしません。遅刻は 1/2 欠席扱いにします。)		

13年度以降	英語専門講読 I (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>インコタームズ® (Incoterms®) とは、国際商業会議所が制定した「貿易条件の解釈に関する統一規則」であり、1936年の初版以来、数次の改訂を経ながら長年にわたり貿易取引の迅速化・効率化に貢献してきました。現在、現行最新版のIncoterms®2010と旧版のIncoterms®2000がもっぱら実務に使用されています。この授業では、米国で出版された下記のテキストを使用して、インコタームズ®が規定する各々の貿易条件 (trade terms) を徹底的に学習することにより、実践的な貿易条件の知識とスキルを身につけることを目的とします。春学期は、Incoterms®2000が規定する4類型・13条件について、売主と買主の手続き義務、費用負担の分岐点 (採算条件)、危険負担の分岐点 (引渡し条件)、適用可能な運送手段などの観点から詳細かつ正確に学習し、主要な貿易条件を用いた輸出価格および輸入価格の積算訓練も行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期の授業内容と授業計画の説明 2. Incoterms®2000が規定する4類型・13条件の概略 3. E類型 (出荷地条件) の概略とEXWの詳細 4. F類型 (主要運賃買主負担条件) の概略 5. F類型の各貿易条件 (FAS、FOB、FCA) の詳細 6. C類型 (主要運賃売主負担条件) の概略 7. C類型の貿易条件のうち、CFRとCIFの詳細 8. C類型の貿易条件のうち、CPTとCIPの詳細 9. D類型 (到着地条件) の概略 10. D類型の貿易条件のうち、DAF、DES、DEQの詳細 11. D類型の貿易条件のうち、DDUとDDPの詳細 12. Incoterms®2000と改正米国貿易定義 (1941) の比較 13. 主要貿易条件を用いた輸出入価格の積算 14. 春学期の総復習と質疑応答 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読して置いて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報 (特に法令改正や通達) を入手するよう努めて下さい。		
テキスト	Catherine J. Petersen (2011); <i>Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010</i> ; Global Training Center		
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)		
評価方法	期末試験の結果 (概ね 80%の比重) および平常授業における小テストや課題レポートの実績 (概ね 20%の比重) を合計して評価します。		

13年度以降	英語専門講読 II (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上欄から続く)</p> <p>秋学期は、Incoterms®2010が規定する2分類・11規則について、Incoterms®2000からの変更点を確認した後、各々の規則 (貿易条件) を詳細かつ正確に学習します。各規則の学習が一通り終わった後には、売主と買主の立場から各々の貿易条件の長所と短所を検討し、いわゆるロジスティクス (logistic) の観点から、自社に有利な貿易条件を選択する戦略を考えます。また、実務の世界で貿易条件が誤用されている事例を紹介し、その問題点を検討します。</p> <p>この授業は、特に貿易、国際物流、ロジスティクス等に興味があり、これらの業界への就職や就活を考えている学生諸君に対して、非常に有益で興味深い情報を提供できるものと確信しています。その反面、かなり専門的で高度な内容を扱いますので、学習のモチベーションが相当高くないと履修を継続するのが難しいかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 秋学期の授業内容と授業計画の説明 2. Incoterms®2000からIncoterms®2010への主な変更点 3. Incoterms®2010が規定する2分類・11規則の概略 4. “Rules for Any Mode(s) of Transport” の概略 5. Rules for Any Mode(s)のうち、EXWとFCAの詳細 6. Rules for Any Mode(s)のうち、CPTとCIPの詳細 7. Rules for Any Mode(s)のうち、DAPとDATの詳細 8. Rules for Any Mode(s)のうち、DDPの詳細 9. 在来船専用の規則 (貿易条件) の概略 10. 在来船専用の規則のうち、FASとFOBの詳細 11. 在来船専用の規則のうち、CFRとCIFの詳細 12. 各規則 (貿易条件) の長所と短所の検討 13. ロジスティクス戦略と貿易条件の誤用事例の検討 14. 春学期の総復習と質疑応答 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読して置いて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報 (特に法令改正や通達) を入手するよう努めて下さい。		
テキスト	Catherine J. Petersen (2011); <i>Incoterms® 2000 and Incoterms® 2010</i> ; Global Training Center		
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)		
評価方法	期末試験の結果 (概ね 80%の比重) および平常授業における小テストや課題レポートの実績 (概ね 20%の比重) を合計して評価します。		

13年度以降	英語専門講読 I (現代イギリス小説) (金2)	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、英国の作家ジョージ・オーエルの小説 <i>Nineteen Eighty-four</i> (1948年作品) を読む。</p> <p>ここで描かれているのは、ビッグ・ブラザーと呼ばれる独裁者が君臨する極度に非人間的な全体主義的管理社会である。世界は3つの超大国によって分割され、いつ終わるとも知れない戦争が続いている。人々の私生活は細部まで当局に監視され、思想は管理され、愛情を持つことすら禁止されている。歴史は権力者の都合に合わせて常に改ざんされ続ける。当局に背いた者は拷問により洗脳された後に、公衆の面前で自らの罪を告白したうえで処刑される。</p> <p>人間の肉体的精神的自由を否定し過去も未来も自在にコントロールしようとする権力の出現に対してオーエルが鳴らした警鐘は決して今でも色あせていない。受講生と共に、「人間らしく」あるとはどういうことかを考えたい。</p> <p><u>受講を希望する学生は初回の授業に必ず出席すること。</u></p>		<p>第1回 インTRODクシヨソ</p> <p>第2回 講読 pp.3-5</p> <p>第3回 講読 pp.5-8</p> <p>第4回 講読 pp.8-11</p> <p>第5回 講読 pp.11-15</p> <p>第6回 講読 pp.15-18</p> <p>第7回 講読 pp.18-22</p> <p>第8回 講読 pp.22-25</p> <p>第9回 講読 pp.25-30</p> <p>第10回 講読 pp.30-34</p> <p>第11回 講読 pp.34-38</p> <p>第12回 講読 pp.38-42</p> <p>第13回 講読 pp.249-253</p> <p>第14回 講読 pp.253-256</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に分からない単語は辞書を引いておくこと。事後は音読をして内容理解を深めること。		
テキスト	George Orwell, <i>Nineteen Eighty-Four</i> . Penguin.		
参考文献	特になし		
評価方法	授業参加 40% 期末課題 60% 欠席が5回を越えると原則として単位は付与しない。		

13年度以降	英語専門講読 II (現代イギリス小説) (金2)	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き		<p>春学期の続き。初回から通常の授業を行う。</p> <p>第1回 講読 pp.259-263</p> <p>第2回 講読 pp.263-266</p> <p>第3回 講読 pp.266-270</p> <p>第4回 講読 pp.270-274</p> <p>第5回 講読 pp.275-279</p> <p>第6回 講読 pp.279-283</p> <p>第7回 講読 pp.283-287</p> <p>第8回 講読 pp.287-290</p> <p>第9回 講読 pp.290-295</p> <p>第10回 講読 pp.295-298</p> <p>第11回 講読 pp.299-303</p> <p>第12回 講読 pp.303-306</p> <p>第13回 講読 pp.331-335</p> <p>第14回 講読 pp.335-338</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル (資料) を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に分からない単語は辞書を引いておくこと。事後は音読をして内容理解を深めること。		
テキスト	George Orwell, <i>Nineteen Eighty-Four</i> . Penguin.		
参考文献	特になし		
評価方法	授業参加 40% 期末課題 60% 欠席が5回を越えると原則として単位は付与しない。		

13年度以降	英語専門講読 I (Schooling Around the World)	担当者	M. L. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
As Japan relaxes its immigration laws, Japanese schools are seeing a rise in the number of foreign students enrolled in classes. Developing an understanding of the range of educational backgrounds of students from other countries can help teachers be more sympathetic to non-native students' needs. In this course we will consider the difference between education and schooling, and examine teaching practices and educational philosophies from around the world. Knowing how children learn, the range of curricula and the variations in teaching styles can help develop a broader understanding of other cultures.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to course – Comparative Studies in Education 2. Schooling and Education. What's the difference? 3. Japanese schools – a view from the outside. 4. The changing demographics of Japanese schools. 5. Education in China 6. Education in South Korea 7. Discussion– comparing south-east Asian school systems 8. Education in Brazil 9. Education in the Philippines 10. Discussion –cultural expectations and the 'good' pupil 11. Education in Russia 12. Education in Finland 13. Presentations 14. Summary session 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト	No textbook is required for this class. Reading materials will be provided by the instructor. Bring paper and pen.		
参考文献	特になし		
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.		

13年度以降	英語専門講読 II (Schooling Around the World)	担当者	M. L. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
The fall term of this course will continue to examine teaching practices and educational philosophies around the world. In particular, we will consider how Japanese schools are responding to the needs of non-native Japanese speakers, and what can we learn from other countries who are dealing with similar issues. This course is aimed at any student interested in global issues, and for those students in particular who are considering a career in teaching. Developing an awareness of school experiences around the world, will help them to reflect more fully on the educational needs of both the ethnic minority students and Japanese pupils they will teach.		<ol style="list-style-type: none"> 1. The Language Learner 2. Bordieu, Linguistic Capital and the non-native speaker 3. Education in Canada – a bilingual approach 4. Education in the USA – a bilingual approach 5. Discussion – whose language is best? 6. Education in France – education of ethnic minorities 7. Education in UK – education of ethnic minorities 8. Discussion – multiculturalism or assimilation? 9. Non-native Japanese student experiences 10. What ethnic minority pupils add to the school 11. Discussion – creating an inclusive system 12. Lessons for Japanese schools 13. Presentations 14. Summary lesson 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト	No textbook is required for this class. Reading materials will be provided by the instructor. Bring paper and pen.		
参考文献	特になし		
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.		

13年度以降	英語専門講読 I (Conflict and Development)	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業では、「Conflict and Development」をテーマとした専門書を読み進めながら、様々な角度から紛争と開発、特に冷戦終焉後の国内紛争と国際社会の関与に関わる課題を学ぶと共に、討論を通じて課題への理解を深めることを目的とします。</p> <p>1.授業は、英語または日本語のプレゼンテーションと討論形式で進めます。</p> <p>2.学年混合の主体的なグループ作業によってプレゼンの準備・発表を行います。</p> <p>授業は、グループ分け・プレゼン内容(章)の決定後、グループ準備作業⇒授業でのプレゼン⇒ディスカッションのサイクルで行います。授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。</p> <p>紛争と開発、平和構築について関心と意欲のある学生の受講を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Introduction chapter 3. The evolution of development theory 4. The evolution of conflict theory 5. Chapter 1 (Conflict causation and escalation) 6. Chapter 1 (Political economy of conflict maintenance) 7. Discussion session for Chapter 1 8. Chapter 2 (Institutions: software) 9. Chapter 2 (institutions: hardware) 10. Discussion session for Chapter 2 11. Chapter 3(People's participation) 12. Chapter 3 (Civil society) 13. Discussion session for Chapter 3 14. Review of the studied chapters 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章を読んで授業に臨み、積極的にディスカッションに参加してください。発表担当グループは、プレゼン準備としてパワポを作成します。		
テキスト	MacGinty and Williams (2016) <i>Conflict and Development</i> . Oxon. Routledge. 詳細は授業で説明します		
参考文献	適宜、授業内で紹介します。		
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表 50% & 授業中討論への参加度 50%		

13年度以降	英語専門講読 II (Conflict and Development)	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業では、「Conflict and Development」をテーマとした専門書を読み進めながら、様々な角度から紛争と開発、特に冷戦終焉後の国内紛争と国際社会の関与に関わる課題を学ぶと共に、討論を通じて課題への理解を深めることを目的とします。</p> <p>1.授業は、英語または日本語のプレゼンテーションと討論形式で進めます。</p> <p>2.学年混合の主体的なグループ作業によってプレゼンの準備・発表を行います。</p> <p>授業は、グループ分け・プレゼン内容(章)の決定後、グループ準備作業⇒授業でのプレゼン⇒ディスカッションのサイクルで行います。授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。</p> <p>紛争と開発、平和構築について関心と意欲のある学生の受講を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Review of the spring semester 3. Chapter 4 (Conflict transformation) 4. Chapter 4 (Reconciliation) 5. Discussion session for Chapter 4 6. Chapter 5 (Post-conflict reconstruction) 7. Chapter 5 (Democratization) 8. Chapter 5 (Development) 9. Discussion session for Chapter 5 10. Chapter 6 (Development aid) 11. Chapter 6 (Aid and human security) 12. Discussion session for Chapter 6 13. Conclusion chapter 14. Review of the studied chapters 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章を読んで授業に臨み、積極的にディスカッションに参加してください。発表担当グループは、プレゼン準備としてパワポを作成します。		
テキスト	MacGinty and Williams (2016) <i>Conflict and Development</i> . Oxon. Routledge. 詳細は授業で説明します		
参考文献	適宜、授業内で紹介します。		
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表 40% & 授業中討論への参加度 60%		

13年度以降	英語専門講読 I (ディズニー映画の文化研究①)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
現代ポピュラー文化の土台の1つとなった20世紀のディズニー映画を文化研究の立場から複眼的に分析したエッセイを読んでいきます。通常の授業は、課題箇所の内容理解を目標に、学生によるファシリテーションと教員を交えたインタラクションで進行していきます。		<ol style="list-style-type: none"> 1. Overview; Breaking the Disney Spell 2. "The Wonderful World of Disney": Comprehension 3. "The Wonderful World of Disney": Application 4. Pinocchio: Comprehension 5. Pinocchio: Application 6. Disney Does Dutch: Comprehension 7. Disney Does Dutch: Application 8. The Movie You See, The Movie Don't: Comprehension 9. The Movie You See, The Movie Don't: Application 10. Somatexts at the Disney Shop: Comprehension 11. Somatexts at the Disney Shop: Application 12. "The Whole Wide World ...": Comprehension 13. "The Whole Wide World ...": Application 14. Presentations on Bambi (take-home exam due) 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を精読してから授業に参加してください。また、グループ単位の事前準備には担当箇所を読んでから参加してください。		
テキスト	初回の授業で説明します。		
参考文献	必要に応じて授業で紹介します。		
評価方法	授業中のインタラクション（グループワーク・発言等）：30%、最終発表：30%、take-home exam：40%		

13年度以降	英語専門講読 II (ディズニー映画の文化研究②)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、20世紀のディズニー映画を文化研究の立場から複眼的に分析したエッセイを読んでいきます。通常の授業は、課題箇所の内容理解を目標に、学生によるファシリテーションと教員を交えたインタラクションで進行していきます。		<ol style="list-style-type: none"> 1. Overview; warm-up exercise 2. Beyond Captain Nemo: Comprehension 3. Beyond Captain Nemo: Application 4. The Curse of Masculinity: Comprehension 5. The Curse of Masculinity: Application 6. "Where Do The Mermaids Stand?": Comprehension 7. "Where Do The Mermaids Stand?": Application 8. "Eighty-Six the Mother": Comprehension 9. "Eighty-Six the Mother": Application 10. Spinsters in Sensible Shoes: Comprehension 11. Spinsters in Sensible Shoes: Application 12. Pretty Woman: Comprehension 13. Pretty Woman: Application 14. Presentations on Mickey (take-home exam due) 	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を精読してから授業に参加してください。また、グループ単位の事前準備には担当箇所を読んでから参加してください。		
テキスト	春学期の初回の授業で説明します。		
参考文献	必要に応じて授業で紹介します。		
評価方法	授業中のインタラクション（グループワーク・発言等）：30%、最終発表：30%、take-home exam：40%		

13年度以降	英語専門講読 I (シェイクスピア) (金3)	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義ではシェイクスピアの戯曲を日本語の詳しい注釈が付いたテキストを使って精読します。現代英語生成に大きな影響を与えたシェイクスピアの英語とはどんなものだったのかを学ぶと同時に、シェイクスピア作品の時代背景を学び、その魅力に迫ります。今年度は喜劇の代表作である『十二夜』を読みます。ほとんどの学生が初めて原文でシェイクスピアを読むことを念頭に、基礎的な事項を丁寧に確認しながら授業を進めます。基本的にひとりがひとつの文章(ピリオドまで)を英語で読んで日本語に訳す、という作業を繰り返しながら、必要に応じてテキストの解説も読んだり、講師が解説を加えたりして読み進めます。期末には試験を行います。</p> <p>★受講を希望する学生は必ず初回の授業に出席すること。</p>		<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 1幕1場</p> <p>第3回 1幕2場</p> <p>第4回 1幕3場61行目まで</p> <p>第5回 1幕3場62行目から最後まで</p> <p>第6回 1幕4場</p> <p>第7回 1幕5場68行目まで</p> <p>第8回 1幕5場69行目から133行目まで</p> <p>第9回 1幕5場134行目から230行目まで</p> <p>第10回 1幕5場231行目から最後まで</p> <p>第11回 2幕1場</p> <p>第12回 2幕2場</p> <p>第13回 2幕3場70行目まで</p> <p>第14回 まとめと期末試験</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストを予習し、分からないところを明確にしておくこと。事後は音読をくり返してシェイクスピア英語に親しむこと。		
テキスト	安西徹雄編注 『十二夜』 大修館 1987年		
参考文献	教室で紹介する		
評価方法	授業参加 40%、期末試験 60%		

13年度以降	英語専門講読 II (シェイクスピア) (金3)	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き		<p>第1回 2幕3場71行目から121行目まで</p> <p>第2回 2幕3場122行目から最後まで</p> <p>第3回 2幕4場78行目まで</p> <p>第4回 2幕4場79行目から最後まで</p> <p>第5回 2幕5場60行目まで</p> <p>第6回 2幕5場61行目から130行目まで</p> <p>第7回 2幕5場131行目から最後まで</p> <p>第8回 3幕1場67行目まで</p> <p>第9回 3幕1場68行目から最後まで</p> <p>第10回 5幕1場92行目まで</p> <p>第11回 5幕1場93行目から184行目まで</p> <p>第12回 5幕1場185行目から275行目まで</p> <p>第13回 5幕1場276行目から最後まで</p> <p>第14回 まとめと期末試験</p>	
到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル(資料)を講読、読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にテキストを予習し、分からないところを明確にしておくこと。事後は音読をくり返してシェイクスピア英語に親しむこと。		
テキスト	安西徹雄編注 『十二夜』 大修館 1987年		
参考文献	教室で紹介する		
評価方法	授業参加 40%、期末試験 60%		

13年度以降	Advanced Writing (Creative)	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course will offer students an opportunity to look at and produce creative writing. We will look at some examples of creative writing, considering the features of various genres and the benefits of writing creatively.</p> <p>The class will workshop students' own pieces, refining and improving their style, while working towards a final piece of written work.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Welcome - introductions and course outline. 2. Getting to know you – conversation activities. 3. Writing and you – the creative process. 4. Creative space – writing environments. 5. Narratives – story types. 6. Genres – forms of creative writing. 7. Introduction to workshopping – peer review. 8. Aspects of genre – characteristics of style. 9. The process – methods of creativity. 10. Workshop – peer review 2. 11. Building ideas – writing exercises. 12. First draft peer review – group review. 13. Second draft peer review – group and teacherreview. 14. Final portfolio submission and course review. 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to write at home before classes, and review and edit after classes.		
テキスト	None		
参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (20%) and a final portfolio of work (80%)		

13年度以降	Advanced Writing (Business)	担当者	D. ブラドリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to provide opportunities to practice business writing skills to help students in their future workplace.</p> <p>We will use a course book in business English with reading and writing materials to give context and introduce genre-specific vocabulary so that students can learn to write the kinds of communications needed in business situations.</p> <p>By the end of the course you will have put together a folder of memos, emails, letters and reports which will be used for assessment.</p> <p>We will do half the units in the book in the spring term.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course 2. Consolidation 3. Newspaper business page 4. Mergers: writing a press release 5. Meetings: writing a memo 6. Technology: writing a formal email 7. Negotiating: writing a letter 8. Review and writing a report 9. Investment: writing a letter 10. Company finance: writing a recommendation 11. Banking: writing a policy choice letter 12. Consulting: writing a formal email 13. Business quiz and writing a report 14. Review 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparing vocabulary and readings: 30 minutes. Writing task each week: one hour.		
テキスト	<i>Intelligent Business Coursebook Upper Intermediate</i> by Tonya Trappe and Graham Tullis.		
参考文献	特になし		
評価方法	Grades will be based on class participation (40%) and your folder of work (60%). Not coming every week from day one will impact your grade.		

13年度以降	Advanced Writing (Business)	担当者	D. ブラドリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are the same as in the spring course and the procedures largely similar. It will in effect be a parallel course using the half of the textbook not used in the spring. For anyone wanting to do a whole year they can get extensive practice without repeating the same material.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course 2. Consolidation 3. Newspaper business page 4. Projects: writing an informal email 5. Information: writing a letter 6. Advertising: writing a fax 7. Brands: writing a formal email 8. Review and writing a report 9. Energy: writing an email 10. Competition: writing a press release 11. Company training: writing an email 12. Review and writing a report 13. Business quiz 14. Review 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparing vocabulary and readings: 30 minutes. Writing task each week: one hour.		
テキスト	<i>Intelligent Business Coursebook Upper Intermediate</i> by Tonya Trappe and Graham Tullis.		
参考文献	特になし		
評価方法	Grades will be based on class participation (40%) and your folder of work (60%). Not coming every week from day one will impact your grade.		

13年度以降	Advanced Writing (Creative)	担当者	E. 本橋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The course is designed to provide students the opportunity to write in a variety of genres, including poetry, narratives, short stories, memoir, autobiography, and descriptive pieces. Students will learn about characterization, descriptive writing techniques and figurative language, style and point of view. The students will be provided opportunities to produce multiple kinds of creative writing with an emphasis on revision and editing skills. There is also a cooperative aspect to the course, therefore students should expect to do pair/group work.</p>		<p>Week 1 Introduction to Course/Why Creative Writing? Week 2 Types of Creative Writing Week 3 Starting with Yourself (Memoir) Week 4 Descriptives & Figurative Language Week 5 Enriching Your Memoir Week 6 Types of Poetry Week 7 Poetry (cont'd) Week 8 Where I Am From Poem Week 9 Where I am From Poem Presentation Week 10 Narrative Structure Week 11 Characterization Week 12 Point of View Week 13 Scripted Language/Writing Dialogues Week 14 Reader's Theater Performances</p>	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments in preparation for class participation.		
テキスト	There is no text for this course.		
参考文献	Materials will be provided by the instructor.		
評価方法	Homework and In-class participation (40%), Revisions of Writing Projects (20%), Mid-term and Final Writing Project/Assignments (40%).		

13年度以降	Advanced Writing (Creative)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is intended as a broad-based introduction to various forms of creative writing, such as short fiction, nonfiction, and poetry. Students are also given an opportunity to write in these genres and explore their creative strengths. The class is usually comprised of technique and style discussions, reading assignments and writing exercises. Students will be introduced to the concept of a writing workshop, wherein they share pieces with peers in order to give and receive feedback.</p>		<p>Week 1: Introduction. Week 2: The concept of creativity. Week 3: Where and how to get ideas. Week 4: Short fiction readings. Week 5: Short fiction writing. Week 6: Rewriting a story Week 7: Nonfiction readings. Week 8: Nonfiction writing. Week 9: Editing writing. Week 10: Text organization. Week 11: Appreciating poetry. Week 12: Creating poetry. Week 13: Sharing poetry. Week 14: Review and consolidation.</p>	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete any assigned reading and/or written homework (approximately 4 hours) in preparation for class participation.		
テキスト	Handouts		
参考文献	Presented on a case-by-case basis		
評価方法	Grades are based on in-class participation (20%) and weekly assigned work (20%), and submission of final portfolio of work (60%).		

13年度以降	Advanced Writing (Research)	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goals of the Research Writing course are to refine the writing skills students should have developed in their previous writing courses in order to write academic essays by enhancing reading, critical thinking, and research skills. Students will be taught how to analyze, evaluate, and synthesize diverse sources and viewpoints to develop persuasive and academic essays. When writing academic essays, learning how to summarize, paraphrase, and draft revisions will be emphasized. APA style will be used. (one semester course)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Paragraph/Essay Review 3. Introduction to the Research Essay 4. Choosing Topics, Brainstorming, Outlining 5. Gathering Sources, Note Cards raft Writing 6. Summarizing and Paraphrasing 7. Plagiarism 8. Using Citations, Draft Writing 9. Coherence and Unity 10. The Reference Page 11. Peer Editing and Revision 12. Teacher Conferences 13. Teacher Conferences 14. Research Essay due, Course wrap-up 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Introduction and Completion of Steps to Research Writing		
テキスト	「 <i>Academic Writing Skills, Book 3</i> 」 Chin, Peter, et.al., Cambridge, 2013		
参考文献	特になし		
評価方法	Classwork, Homework, and Essays		

13年度以降	Advanced Writing (Research)	担当者	K. エラ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goals of the Research Writing course are to refine the writing skills students should have developed in their previous writing courses in order to write academic essays by enhancing reading, critical thinking, and research skills. Students will be taught how to analyze, evaluate, and synthesize diverse sources and viewpoints to develop persuasive and academic essays. When writing academic essays, learning how to summarize, paraphrase, and draft revisions will be emphasized. APA style will be used. (one semester course)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Paragraph/Essay Review 3. Introduction to the Research Essay 4. Choosing Topics, Brainstorming, Outlining 5. Gathering Sources, Note Cards raft Writing 6. Summarizing and Paraphrasing 7. Plagiarism 8. Using Citations, Draft Writing 9. Coherence and Unity 10. The Reference Page 11. Peer Editing and Revision 12. Teacher Conferences 13. Teacher Conferences 14. Research Essay due, Course wrap-up 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Introduction and Completion of Steps to Research Writing		
テキスト	「 <i>Academic Writing Skills, Book 3</i> 」 Chin, Peter, et.al., Cambridge, 2013		
参考文献	特になし		
評価方法	Classwork, Homework, and Essays		

13年度以降	Advanced Writing (Research)	担当者	M. L. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating, and using diverse sources. They will have opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction What is research? 2. Introduction to first research topic. 3. Sourcing Information 4. Avoiding plagiarism: Quotes, paraphrases and summaries. 5. Draft 1 mid-term paper – sharing and critiquing. 6. Writing the bibliography (1) 7. Choosing a new topic. (Mid-term paper due). 8. Introductions and Conclusions 9. Writing the body 10. Citations and bibliography (2) 11. Draft 1 final-paper – sharing and critiquing. 12. Grammar checks and preparing for presentation 13. Presentation and Peer Evaluation 14. An introduction to field research techniques. (Final paper due). 	
到達目標	「Writing kills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト	No textbook is required for this class. Reading materials will be provided by the instructor. Bring paper and pen.		
参考文献	特になし		
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.		

13年度以降	Advanced Writing (Research)	担当者	M. L. ボイル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating, and using diverse sources. They will have opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction What is research? 2. Introduction to first research topic. 3. Sourcing Information 4. Avoiding plagiarism: Quotes, paraphrases and summaries. 5. Draft 1 mid-term paper – sharing and critiquing. 6. Writing the bibliography (1) 7. Choosing a new topic. (Mid-term paper due). 8. Introductions and Conclusions 9. Writing the body 10. Citations and bibliography (2) 11. Draft 1 final-paper – sharing and critiquing. 12. Grammar checks and preparing for presentation 13. Presentation and Peer Evaluation 14. An introduction to field research techniques. (Final paper due). 	
到達目標	「Writing kills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.		
テキスト	No textbook is required for this class. Reading materials will be provided by the instructor. Bring paper and pen.		
参考文献	特になし		
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.		

13年度以降	Advanced Writing (Research)	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one semester only course.</p> <p>You will study how to write good quality academic essays of between 800 ~ 1000 words using internet research. You will also learn how to plan the essay, and how to write a bibliography at the end of the essay.</p> <p>Attendance is very important on this course because new important skills will be taught every class.</p> <p>Attendance policy: 4 absences = fail the course Up to 15 minutes after the bell = 1 late 3 lates = 1 absence</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Essay 1 select topic / general v specific information 2 Introduction & conclusion technique 3 Introduction to internet research (part 1) 4 How to write the body / referencing 5 Select essay 2 topic / note-taking / essay 1 draft due 6 Editing essay 1 draft 7 Internet research (part2) / essay 1 final due 8 Paraphrasing, summarizing & plagiarism 9 How to write an essay plan page in note style 10 How to write a bibliography 11 Essay 2 draft due / extra research -- essay data gaps 12 Editing essay 2 draft 13 Essay 2 final due / problem areas discussion 14 Essay 2 – collect essay & review 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	The teacher will inform students on a weekly basis of any pre or post lesson preparation, homework, or assignments.		
テキスト	No textbook . All materials provided by the teacher.		
参考文献	Electronic dictionary is OK.		
評価方法	Your course grade is based only on your essay grades.		

13年度以降	Advanced Writing (Research)	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one semester only course.</p> <p>You will study how to write good quality academic essays of between 800 ~ 1000 words using internet research. You will also learn how to plan the essay, and how to write a bibliography at the end of the essay.</p> <p>Attendance is very important on this course because new important skills will be taught every class.</p> <p>Attendance policy: 4 absences = fail the course Up to 15 minutes after the bell = 1 late 3 lates = 1 absence</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Essay 1 select topic / general v specific information 2 Introduction & conclusion technique 3 Introduction to internet research (part 1) 4 How to write the body / referencing 5 Select essay 2 topic / note-taking / essay 1 draft due 6 Editing essay 1 draft 7 Internet research (part2) / essay 1 final due 8 Paraphrasing, summarizing & plagiarism 9 How to write an essay plan page in note style 10 How to write a bibliography 11 essay 2 draft due / extra research -- essay data gaps 12 Editing essay 2 draft 13 Essay 2 final due / problem areas discussion 14 Essay 2 - collect essay & review 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができるようにする。		
事前・事後学修の内容	The teacher will inform students on a weekly basis of any pre or post lesson preparation, homework, or assignments.		
テキスト	No textbook . All materials provided by the teacher.		
参考文献	Electronic dictionary is OK.		
評価方法	Your course grade is based only on your essay grades.		

13年度以降	Advanced Writing (Research)	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this one-semester course students develop their ability to write essays that have logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in argumentative style essays. Students work on the same issue for the first model 1000-word essay. The issue for the second essay is selected by students from a list of choices. Essays will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. Essay assignments involve research, outlining, drafting, detailed revision and editing.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Developing body paragraphs 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Final essay submission/Course review test 14. Return of essays/Self-reflection 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができる。		
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and writing preparation for next class.		
テキスト	No textbook is required		
参考文献	No reference book		
評価方法	Work in progress and final essay submissions (90%), and academic skills writing test (10%)		

13年度以降	Advanced Writing (Research)	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this one-semester course students develop their ability to write essays that have logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in argumentative style essays. Students work on the same issue for the first model 1000-word essay. The issue for the second essay is selected by students from a list of choices. Essays will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. Essay assignments involve research, outlining, drafting, detailed revision and editing.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Developing body paragraphs 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Final essay submission/Course review test 14. Return of essays/Self-reflection 	
到達目標	「Writing Skills I～IV」で学習した内容をふまえ、英文レポート、小論文、卒業論文に応用できる、中級レベルのアカデミック・ライティングができる。		
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and writing preparation for next class.		
テキスト	No textbook is required		
参考文献	No reference book		
評価方法	Work in progress and final essay submissions (90%), and academic skills writing test (10%)		

13年度以降	College Grammar (月3)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・移動が関与する構文 (1) 4・移動が関与する構文 (2) 5・移動が関与する構文 (3) 6・補部と付加部の区別 (1) 7・補部と付加部の区別 (2) 8・補部と付加部の区別 (3) 9・条件の副詞節 (1) 10・条件の副詞節 (2) 11・条件の副詞節 (3) 12・Be動詞の機能 (1) 13・Be動詞の機能 (2) 14・総復習 ※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (前期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。		
テキスト	テキスト：初回授業にて指示します。		
参考文献	参考文献：『英語構文事典』大修館書店		
評価方法	平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

13年度以降	College Grammar (月3)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・解釈の曖昧性 (1) 4・解釈の曖昧性 (2) 5・SVOC構文の下位区分 (1) 6・SVOC構文の下位区分 (2) 7・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (1) 8・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (2) 9・一般動詞の意味特性 (1) 10・一般動詞の意味特性 (2) 11・一般動詞の意味特性 (3) 12・情報構造 (1) 13・情報構造 (2) 14・総復習 ※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (後期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。		
テキスト	テキスト：初回授業にて指示します。		
参考文献	参考文献：『英語構文事典』大修館書店		
評価方法	平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

13年度以降	College Grammar	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 〈College Grammar for TOEIC〉と題して、TOEICの成績向上をめざし、英文法の重要事項を学習するとともに、TOEICの試験に頻出する問題を解きながら、英文法の重要な点を理解することを目的とする。</p> <p>講義概要: 1時限100分という授業時間を有効に使い、TOEICの成績向上に資するため次のように授業を進める。</p> <p>10分:宿題の答合せと質疑応答 60分:教科書の重要事項の学習 20分:TOEIC関連問題の解答 10分:答合せと問題点の解説</p> <p>春学期では、5文型を中心とする文の構造と疑問文、感嘆文、命令文などの文の種類を学習し、それを踏まえて、文を構成する要素として、述語動詞、名詞、代名詞、形容詞、冠詞、副詞の特徴と用法を学習し、これらに関する練習問題を解く。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 文(1):「主部+述部」、主部を欠く文、節・句・語 文(2):主部の要素と述部の要素 文型:5文型、5文型の拡張、7文型 述語動詞(1):述部、述語動詞の種類、等位叙述型、補語 述語動詞(2):自動詞型、他動詞型、他動詞型の述部 文の種類(1):中心文型の文、文の種類、重文と複文 文の種類(2):疑問文、感嘆文、命令文、否定文 名詞の種類:可算・不可算・集合名詞〈中間試験〉 代名詞の種類(1):人称代名詞、再帰代名詞 代名詞の種類(2):指示代名詞、不定代名詞 形容詞(1):形容詞の種類と用法 形容詞(2):形容詞の語順、数詞 冠詞、不定冠詞、定冠詞、無冠詞の用法 副詞、副詞の種類、副詞の用法、副詞の位置 	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために、宿題の練習問題を解き、英語例文の日本語訳を含め、必ず予習すること。		
テキスト	安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社)		
参考文献	石井辰哉『TOEIC TEST 文法別問題集』、福居盛世『新 TOEIC テスト 900 点を突破する英文法トレーニング』		
評価方法	出席は単位認定の前提とし、授業での発表(10%)と中間試験(45%)と期末試験(45%)に基づいて評価する。		

13年度以降	College Grammar	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 〈College Grammar for TOEIC〉と題して、TOEICの成績向上をめざし、英文法の重要事項を学習するとともに、TOEICの試験に頻出する問題を解きながら、英文法の重要な点を理解することを目的とする。</p> <p>講義概要: 1時限100分という授業時間を有効に使い、TOEICの成績向上に資するため次のように授業を進める。</p> <p>10分:宿題の答合せと質疑応答 60分:教科書の重要事項の学習 20分:TOEIC関連問題の解答 10分:答合せと問題点の解説</p> <p>秋学期では、助動詞、関係代名詞、関係副詞を学習し、次に、動詞の不定詞と分詞の四つの用法と、時制、比較表現、否定表現、強調表現、仮定法、時制の一致や話法を学習し、合わせて、これらに関する練習問題を解く。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 助動詞の種類 助動詞の用法 非定形節(1):不定詞 非定形節(2):分詞、動名詞 関係代名詞、関係副詞 時制(1):現在時制の用法 時制(2):過去時制の用法 現在完了の用法、過去完了の用法〈中間試験〉 進行形の用法 能動態と受動態 呼応 時制の一致 仮定法、直説法と仮定法 話法:直接話法と間接話法 	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業の準備のために、宿題の練習問題を解き、英語例文の日本語訳を含め、必ず予習すること。		
テキスト	安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社)		
参考文献	石井辰哉『TOEIC TEST 文法別問題集』、福居盛世『新 TOEIC テスト 900 点を突破する英文法トレーニング』		
評価方法	出席は単位認定の前提とし、授業での発表(10%)と中間試験(45%)と期末試験(45%)に基づいて評価する。		

13 年度以降	College Grammar (月 5)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・移動が関与する構文 (1) 4・移動が関与する構文 (2) 5・移動が関与する構文 (3) 6・補部と付加部の区別 (1) 7・補部と付加部の区別 (2) 8・補部と付加部の区別 (3) 9・条件の副詞節 (1) 10・条件の副詞節 (2) 11・条件の副詞節 (3) 12・Be動詞の機能 (1) 13・Be動詞の機能 (2) 14・総復習 ※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (前期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。		
テキスト	初回授業にて指示します。		
参考文献	『英語構文事典』大修館書店		
評価方法	平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

13 年度以降	College Grammar (月 5)	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・解釈の曖昧性 (1) 4・解釈の曖昧性 (2) 5・SVOC構文の下位区分 (1) 6・SVOC構文の下位区分 (2) 7・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (1) 8・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (2) 9・一般動詞の意味特性 (1) 10・一般動詞の意味特性 (2) 11・一般動詞の意味特性 (3) 12・情報構造 (1) 13・情報構造 (2) 14・総復習 ※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (後期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。		
テキスト	初回授業にて指示します。		
参考文献	『英語構文事典』大修館書店		
評価方法	平常点&授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。		

13 年度以降	College Grammar	担当者	倉林 秀男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では実際に英語の歌詞を毎回一つ取り上げ、それを文法的な側面から理解することで、正確に歌詞の内容を理解し、そして歌詞の解釈、意味の理解をめざします。</p> <p>例えば、Queen の” We are the Champions” の中に I've done my sentence, but committed no crime という一節が出てきます。ここでどうして現在完了が使われているのか、そして実際に刑務所に入っているわけではないのにも関わらず刑期を終えたという表現になっているのか、ということを考えてりしながら、文法を理解し、さらに語感を養うことができると思っています。</p> <p>授業は教員の講義ではなく、受講生同士のディスカッションやリサーチの時間を多く取りながら進めていきます。</p> <p>高校時代に使った学習用の文法書や参考文献にあげる文法書を必ず 1 冊は持ってくること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. Joe Yellow U.S.A. 3. The Carpenters I Need to Be in Love 4. Bruno Mars Just the Way You Are 5. Les Misérables Do you hear the people sing? 6. Adele When We Were Young 7. Ariana Grande Baby I 8. Katy Perry Firework 9. Queen We are the Champions 10. One Direction Best Song Ever 11. Ben E King Stand By Me 12. Eric Clpaton Change the World 13. Les Misérables One Day More 14. まとめ 	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Youtube などを利用して事前に授業で扱う歌を繰り返し聞き、イメージした内容をまとめておくこと。		
テキスト	なし。		
参考文献	江川泰一郎『英文法解説』、田中茂範『表現英文法』、Michael Swan <i>Practical English Usage</i>		
評価方法	授業後のリアクションペーパー30 パーセント、レポート 30 パーセント、試験 40 パーセント。		

13 年度以降	College Grammar	担当者	倉林 秀男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では実際に英語の歌詞を毎回一つ取り上げ、それを文法的な側面から理解することで、正確に歌詞の内容を理解し、そして歌詞の解釈、意味の理解をめざします。</p> <p>例えば、Queen の” We are the Champions” の中に I've done my sentence, but committed no crime という一節が出てきます。ここでどうして現在完了が使われているのか、そして実際に刑務所に入っているわけではないのにも関わらず刑期を終えたという表現になっているのか、ということを考えてりしながら、文法を理解し、さらに語感を養うことができると思っています。</p> <p>授業は教員の講義ではなく、受講生同士のディスカッションやリサーチの時間を多く取りながら進めていきます。</p> <p>高校時代に使った学習用の文法書や参考文献にあげる文法書を必ず 1 冊は持ってくること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. Queen We are the Champions 3. The Carpenters Yesterday Once More 4. ABBA Thank you for the Music 5. Backstreet Boys All I Have to Give 6. Michael Jackson Heal the World 7. Carly Rae Jepsen Call Me Maybe 8. Stevie Wonder I Just to Say Call I Love You 9. Les Misérables Stars 10. Queen I was born to love you 11. Wham! Last Christmas 12. Christmas songs 13. Christmas hymns 14. まとめ 	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Youtube などを利用して事前に授業で扱う歌を繰り返し聞き、イメージした内容をまとめておくこと。		
テキスト	なし。		
参考文献	江川泰一郎『英文法解説』、田中茂範『表現英文法』、Michael Swan <i>Practical English Usage</i>		
評価方法	授業後のリアクションペーパー30 パーセント、レポート 30 パーセント、試験 40 パーセント。		

13年度以降	College Grammar	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コミュニケーションが「何を言いたいか」という<意味のやり取り>であることから、この授業では、“英文法”を意味の観点から徹底的に見直していきます。そのためには、「なぜこう言っても、ああ言えないのか？」と素朴な疑問を発することが大切です。</p> <p>“No news is good news.”と“No tap water is 100% pure.”で“No”はどこを否定するのかと学生に訊くと、前者は“news”だけを否定する「語否定」で、後者は「水道水が100パーセント純粋などということはない」という「文否定」であると答えます。しかしどうしてそうなるのかと尋ねると、「そう教わったから」と、ただ記憶・暗記型の学習をしてきただけということがわかります。</p> <p>しかしこの授業では、英文法学習を通じ、理由も考えずに、「言われた通りの正解を丸暗記する受動的な(passive)学習から脱却し、自ら積極的(active)に問いを立てて答えを見つけ出そうとする姿勢を身に付けてもらうことを狙いとします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> モノの捉え方と表現の仕方（配布プリントに基づく講義） （不定冠詞と複数語尾）vs.（はだか名詞）vs. 定冠詞（同上） 基本文型—新しい視点から眺めて：基本文型とそうでない構文 文の構造—文の多様性を探る：構造と意味から見た文の種類 文の構造—文の意味階層/音声による文の分類 動詞—動詞の分類/時制(tense)と相(aspect) 動詞—進行形の意味機能 動詞—完了形の意味機能 否定—否定の正しい意味解釈のために：語否定と文否定 否定—部分否定と全体否定/否定と焦点 助動詞—根源的の用法と認識的の用法 助動詞—個々の助動詞の意味用法 受動文—be 受動文の意味的・形式的制約 受動文—be 受動文と get 受動文の使い分け 	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習（テキストを読んで質問内容を整理）し、学習内容をノートにまとめる等の復習をしっかりと行う。		
テキスト	伊藤健三・ほか『大学生のための現代英文法』開拓社		
参考文献	授業で適宜紹介する。		
評価方法	定期試験 6 割、小テスト・課題 4 割。詳細あるいは変更のある場合は第 1 回目の授業で説明される。		

13年度以降	College Grammar	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的と概要は春学期と同じですが、この授業を履修すると、高校までは「likeはto不定詞とing動名詞を取るのにdislikeは不定詞をとらない」と習って、ただそれを暗記してきたわけですが、実は「なぜそうなのかわからないのか」ということはto不定詞のもつ意味とing動名詞のもつ意味に加え、dislikeの意味特性をよく考えれば、「なるほど！」わかってくるようになります。</p> <p>また、高校生に「(訪問のときに) ドアをノックする」を英語で何と言うかと尋ねると、多くがknock the door と答えます。正解はknock on the door ですが、ではなぜそうなのかと問うと、「そう習ったからそう覚えている」としか答えません。しかし、実はどうしてonが必要なのかというような問い掛けこそが英語の勘を養う上でとても重要なことなのです。本授業を履修すればknock the doorもknock on the doorも、果てはknock at the doorも言えるが、それぞれ形が違うことから意味もまた異なるということがよくわかるようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 時制の一致とは？（配布プリントに基づく講義） 準動詞—不定詞の意味用法 準動詞—動名詞と現在分詞の意味用法 形容詞—名詞修飾だけが形容詞の機能ではない 形容詞—visible starsとstars visibleの意味の違い 名詞句と文構造の多様性—同格/文名詞句 名詞句と文構造の多様性—間接疑問と潜伏疑問/語法 代用表現—合理的な表現手段について：代名詞の用法 Do you prefer brown bread or {white /*white one}? など Some ate rice and others rice. など 関係詞—基本から派生へ：関係詞の機能と種類 関係詞—制限的と非制限的用法/関係詞の二重制限 特殊(?)構文—前置構文/倒置構文/強調構文/後置構文 John is tough to please. vs. John is eager to please. 	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	予習（テキストを読んで質問内容を整理）し、学習内容をノートにまとめる等の復習をしっかりと行う。		
テキスト	伊藤健三・ほか『大学生のための現代英文法』開拓社		
参考文献	授業で適宜紹介する。		
評価方法	定期試験 6 割、小テスト・課題 4 割。詳細あるいは変更のある場合は第 1 回目の授業で説明される。		

13年度以降	College Grammar (水3)	担当者	水口 学
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】本講義では、これまでに学習してきた文法事項を含めて英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。</p> <p>【講義概要】本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成文法論などの最近の言語学研究で得られた知見を積極的に取り込みながら、講義を進めていく。春学期は文の構成を中心に講義し、大枠となる文の種類、文の構成や文型、品詞の考察から始めて、動詞、時制、法助動詞、未来表現など文の骨格となる要素に焦点を当てる。その上で、受動態などの文の発展事項へと移り、文構成への理解を深めていくことにする。講義の前提として、英語学入門程度の知識があることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の説明、英文法への導入 文の構成(1)：文の種類、文と節 2. 文の構成(2)：文の種類(続き)、文の形態と伝達内容 3. 文の構成(3)：文を構成する要素、品詞、文型 4. 動詞と時制(1)：動詞の分類、時と時制、相と時制 5. 動詞と時制(2)：時制各論(現在時制、過去時制) 6. 動詞と時制(3)：相各論(進行相、完了相) 7. 法助動詞(1)：法助動詞とその文法的特徴 8. 法助動詞(2)：法助動詞各論(用法上の違いなど) 9. 法助動詞(3)：法助動詞各論(続き) 10. 未来表現(1)：文法、表現形式、形式と意味 11. 未来表現(2)：形式と意味(続き) 12. 受動態(1)：「態」とは何か、受動態の文法的特徴 13. 受動態(2)：過去分詞の性質、be受動文とget受動文 14. 春学期のまとめ <p>※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレビューすること。		
テキスト	水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社、その他、適宜ハンドアウトを配布して使用する。		
参考文献	必要に応じて授業内で指示する。		
評価方法	期末試験(100%)に、講義への取り組みを加味して最終評価を決定する。		

13年度以降	College Grammar (水3)	担当者	水口 学
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的】本講義では、これまでに学習してきた文法事項を含めて英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。</p> <p>【講義概要】本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成文法論など、最近の言語学研究で得られた知見を積極的に取り込みながら、講義を進めていく。秋学期は従属節構造や関係詞など、文の埋め込み構造を中心に講義し、埋め込み節の特徴を概観し、考察する。それと関連して名詞や形容詞、副詞や否定など、埋め込み構造を理解する上で重要となる要素もできるだけ扱うことにし、英文法に対する幅広い理解を得られるようにしたい。講義の前提として、英語学入門程度の知識があることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の説明、英文法への導入 仮定法(1)：「法」とは何か、直説法と仮定法 2. 仮定法(2)：直説法と仮定法(続き)、仮定法の特徴 3. 命令法：命令法の特徴、注意すべき点 4. 節構造(1)：節とは何か、節の種類、句と節の違い 5. 節構造(2)：節の機能、その注意点 6. 節構造(3)：動詞・形容詞に続く定・非定形節の特徴 7. 関係節(1)：関係節の文法的特徴、関係詞節の特徴 8. 関係節(2)：関係詞節の特徴(続き)、自由関係詞 9. 関係節(3)：不定関係節、擬似関係詞節、分裂文 10. 比較構文(1)：「比較」とは、比較の文法的特徴 11. 比較構文(2)：比較級・最上級の特徴、絶対比較 12. 否定(1)：否定の種類、文法的特徴、否定の作用域 13. 否定(2)：否定の作用域(続き)、否定の注意点 14. 秋学期のまとめ <p>※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレビューすること。		
テキスト	水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社、その他、適宜ハンドアウトを配布して使用する。		
参考文献	必要に応じて授業内で指示する。		
評価方法	期末試験(100%)に、講義への取り組みを加味して最終評価を決定する。		

13年度以降	College Grammar (水4)	担当者	水口 学
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】本講義では、これまでに学習してきた文法事項を含めて英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。</p> <p>【講義概要】本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成文法論などの最近の言語学研究で得られた知見を積極的に取り込みながら、講義を進めていく。春学期は文の構成を中心に講義し、大枠となる文の種類、文の構成や文型、品詞の考察から始めて、動詞、時制、法助動詞、未来表現など文の骨格となる要素に焦点を当てる。その上で、受動態などの文の発展事項へと移り、文構成への理解を深めていくことにする。講義の前提として、英語学入門程度の知識があることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の説明、英文法への導入 文の構成(1)：文の種類、文と節 2. 文の構成(2)：文の種類(続き)、文の形態と伝達内容 3. 文の構成(3)：文を構成する要素、品詞、文型 4. 動詞と時制(1)：動詞の分類、時と時制、相と時制 5. 動詞と時制(2)：時制各論(現在時制、過去時制) 6. 動詞と時制(3)：相各論(進行相、完了相) 7. 法助動詞(1)：法助動詞とその文法的特徴 8. 法助動詞(2)：法助動詞各論(用法上の違いなど) 9. 法助動詞(3)：法助動詞各論(続き) 10. 未来表現(1)：文法、表現形式、形式と意味 11. 未来表現(2)：形式と意味(続き) 12. 受動態(1)：「態」とは何か、受動態の文法的特徴 13. 受動態(2)：過去分詞の性質、be受動文とget受動文 14. 春学期のまとめ <p>※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレビューすること。		
テキスト	水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社、その他、適宜ハンドアウトを配布して使用する。		
参考文献	必要に応じて授業内で指示する。		
評価方法	期末試験(100%)に、講義への取り組みを加味して最終評価を決定する。		

13年度以降	College Grammar (水4)	担当者	水口 学
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的】本講義では、これまでに学習してきた文法事項を含めて英文法に対する理解を深め、確固たる知識として確立していくことを目的とする。英文法を深く理解するためには「理論」と「実践」の両要素が必要不可欠である。本講義では主に前者に焦点を当て、文法を単なる暗記するものではなく、「考える・研究する」対象として扱い、言語学の視点から英文法を考える。本講義で英文法に対するこれまでとは違った見方を提供できればと思う。</p> <p>【講義概要】本講義は伝統文法に基づく英文法を基調とするが、生成文法論など、最近の言語学研究で得られた知見を積極的に取り込みながら、講義を進めていく。秋学期は従属節構造や関係詞など、文の埋め込み構造を中心に講義し、埋め込み節の特徴を概観し、考察する。それと関連して名詞や形容詞、副詞や否定など、埋め込み構造を理解する上で重要となる要素もできるだけ扱うことにし、英文法に対する幅広い理解を得られるようにしたい。講義の前提として、英語学入門程度の知識があることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の説明、英文法への導入 仮定法(1)：「法」とは何か、直説法と仮定法 2. 仮定法(2)：直説法と仮定法(続き)、仮定法の特徴 3. 命令法：命令法の特徴、注意すべき点 4. 節構造(1)：節とは何か、節の種類、句と節の違い 5. 節構造(2)：節の機能、その注意点 6. 節構造(3)：動詞・形容詞に続く定・非定形節の特徴 7. 関係節(1)：関係節の文法的特徴、関係詞節の特徴 8. 関係節(2)：関係詞節の特徴(続き)、自由関係詞 9. 関係節(3)：不定関係節、擬似関係詞節、分裂文 10. 比較構文(1)：「比較」とは、比較の文法的特徴 11. 比較構文(2)：比較級・最上級の特徴、絶対比較 12. 否定(1)：否定の種類、文法的特徴、否定の作用域 13. 否定(2)：否定の作用域(続き)、否定の注意点 14. 秋学期のまとめ <p>※講義の進捗により授業計画が前後する可能性がある ※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義で扱う箇所を毎回事前に予習し、問題意識を持って授業に臨むこと。事後は、教科書等講義で扱った例文や他の例文を確認しながら、講義の内容をレビューすること。		
テキスト	水鳥・岡田・西村著『大学英文法入門』英宝社、その他、適宜ハンドアウトを配布して使用する。		
参考文献	必要に応じて授業内で指示する。		
評価方法	期末試験(100%)に、講義への取り組みを加味して最終評価を決定する。		

13年度以降	College Grammar	担当者	田川 憲二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>皆さんは中学、高校で英文法の体系を一通り学んできたと思いますが、その過程で「なぜこの表現はこんな意味で使われるのか?」、「この単語の品詞は何だろう?」といった疑問を数多く抱かれてきたと思います。しかし、受験という大目標を前にして、とりあえず丸暗記することでのいできたのではないのでしょうか? 受験から解放された今こそ、こうした疑問について徹底的に考えるチャンスです。本講義では、誰もが抱く英文法の疑問の中から、主として動詞、時制、アスペクトに関する問題を取り上げて、合理的な説明を与えるを試みます。文法書や辞書に網羅的に記述されている、英語のさまざまな文型、語法、慣用表現の例をたたき台にして、皆さんとともに納得のいく説明を見つけていきたいと思ひます。そして、授業での解説を鵜呑みにするのではなく、自分なりの解答を見つけていくよう努力してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知言語学と生成文法 2. John BowersのPredicate Phrase 3. iconicity 4. 進行相 5. 受動態 6. 完了相 7. to 不定詞 8. いわゆるSVOC文型（知覚動詞） 9. いわゆるSVOC文型（指示・願望動詞） 10. いわゆるSVOC文型（使役動詞） 11. 仮定法 12. 法助動詞 13. 法助動詞 14. まとめ 	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にはテーマ表現の視覚的なイメージを試作し、事後は授業で提示されてイメージと比較する。		
テキスト	英和辞典を持参してください。ジーニアス英和辞典を推奨しますが、他のものでも大丈夫です。		
参考文献	David Lee. <i>Cognitive Linguistics: An Introduction</i> . Oxford University Press など。		
評価方法	授業内小テスト 30%、授業への参加姿勢 10%、期末試験 60%の割合で算出します。		

13年度以降	College Grammar	担当者	田川 憲二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期の講義を履修した人もしていない人も歓迎します。前期に引き続いての授業ですが、英文法や語法の中から、前期とは異なる項目を選んで、その仕組みを解明することを目指します。受験から解放された今こそ、皆さんが長年抱いていた諸問題に納得できる説明を見つけたら好機です。英語の表現を日本語に置き換え日本語のフィルターを通して理解する方法は捨て、native speakerが世界をどうとらえているか、という視点から英語の表現の背景にある考え方や感じ方をできるだけ直観的に理解することを目指します。後期は、主として非動詞系の諸現象に関わる問題を取り上げますが、授業での説明を鵜呑みにするのではなく、自分なりの解答を見つけていくことを試みてください。そして、英文法が直観的・視覚的に理解できるシステムなのだというを体感してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. iconicity 2. metonymy 3. notとnoの比較 4. 真理値（いわゆる「鯨の構文」） 5. 真理値（as well as, much less など） 6. 譲歩 7. 強調構文 8. 倍数表現 9. 時間表現のパラドックス 10. 不定代名詞、指示代名詞、人称代名詞 11. 同時性を強調する表現 12. 等位接続詞 13. 機能からみた文の分類 14. まとめ 	
到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前にはテーマ表現の視覚的なイメージを試作し、事後は授業で提示されてイメージと比較する。		
テキスト	英和辞典を持参してください。ジーニアス英和辞典を推奨しますが、他のものでも大丈夫です。		
参考文献	David Lee. <i>Cognitive Linguistics: An Introduction</i> . Oxford University Press など。		
評価方法	授業内小テスト 30%、授業への参加姿勢 10%、期末試験 60%の割合で算出します。		

13年度以降	Communication Skills	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles that students choose themselves. Each student presents two or three news articles during the semester to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate opinions, and logical reasoning effectively in English</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to course and class 2. Discussing an example news article 3. Developing mind map skills for presenting articles 4. Students present articles to small groups/discussion 5. Students present articles to small groups/discussion 6. Students present articles to small groups/discussion 7. Students present articles to small groups/discussion 8. Students present articles to small groups/discussion 9. Review of presentation/mind map skills 10. Students present articles to whole class/discussion 11. Students present articles to whole class/discussion 12. Students present articles to whole class/discussion 13. Students present articles to whole class/discussion 14. Speaking test 	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and discussion preparation for next class		
テキスト	No textbook is required		
参考文献	No reference book		
評価方法	Active class participation (60%), oral reports/presentations (30%), speaking tests (10%)		

13年度以降	Communication Skills	担当者	K. フォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles that students choose themselves. Each student presents two or three news articles during the semester to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate opinions, and logical reasoning effectively in English</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to course and class 2. Discussing an example news article 3. Developing mind map skills for presenting articles 4. Students present articles to small groups/discussion 5. Students present articles to small groups/discussion 6. Students present articles to small groups/discussion 7. Students present articles to small groups/discussion 8. Students present articles to small groups/discussion 9. Review of presentation/mind map skills 10. Students present articles to whole class/discussion 11. Students present articles to whole class/discussion 12. Students present articles to whole class/discussion 13. Students present articles to whole class/discussion 14. Speaking test 	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Review of class instructional materials and discussion preparation for next class		
テキスト	No textbook is required		
参考文献	No reference book		
評価方法	Active class participation (60%), oral reports/presentations (30%), speaking tests (10%)		

13年度以降	Communication Skills	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Beat the Monday morning blues by studying in this dynamic class. All students, who are prepared to try hard, are most welcome. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak and discuss a variety of issues in English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. At the end of the course if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal.</p> <p>Student who have previously studied in the class are welcome - the content will be changed from last year.</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. The order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. More information will be provided in the first class.</p> <p>First Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the class and teacher. 2. Discussion of learning strategies. 3. Details of your teacher's background and discussion. 4. Reading, discussion and the use of the internet in learning. 5. Class surveys on learning styles. 6. Bad habits discussion related to smoking and drinking. 7. Smoking comparative analysis. 8. Drinking alcohol – customs examined around the world. 9. Historical discussion on how tobacco and alcohol became used in society. 10. Case study of the use of tobacco and addictions. 11. Researching tobacco use in Japan. 12. Should Japan change tobacco laws because of upcoming Olympic games. 13. Other bad habits discussed. 14. Review of the semesters study <p>A change may be made to the exact content of this class especially if previous students return.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.		
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.		
参考文献	特になし		
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%		

13年度以降	Communication Skills	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Beat the Monday morning blues by studying in this dynamic class. All students, who are prepared to try hard, are most welcome. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak and discuss a variety of issues in English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. At the end of the course if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal.</p> <p>Student who have previously studied in the class are welcome - the content will be changed from last year.</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. The order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. More information will be provided in the first class.</p> <p>First Semester Topics:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Welcome back to class. 2. Introduction to the course of studies. 3. Marriage and divorce. 4. Cultural comparisons of marriage. 5. Marriage and divorce research. 6. Gender issues on marriage. 7. Pets. 8. Cultural perspective; pets in UK. 9. Benefits of pets. 10. Pet therapy. 11. Ways of relieving stress. 12. Zoos and animal welfare. 13. Environmental issues and species. 14. Review and discussion of semester topics. <p>A change may be made to the exact content of this class especially if previous students return.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students need to prepare for lessons, do homework and review lessons.		
テキスト	No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students.		
参考文献	特になし		
評価方法	Participation and effort = 20%, Class & Homework = 30%, Written reports = 20% End of Term assessment = 30%		

13年度以降	Communication Skills	担当者	N. ハミルトン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The Culture and Societies of the British Isles This is an intermediate level content based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people and culture b) improve students' analytical and critical abilities towards foreign and Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening and conversation practice around a variety of topics and issues</p> <p>In addition to viewing and discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5-10 minute presentation and submit a 1500+ word report on any topic from British culture during the term.</p>		<p>Week 1: Getting to Know you - Introductions Week 2: Introduction to the Course (The U.K.) Week 3: England Week 4: Kings and Queens Week 5: The King James Bible and Shakespeare Week 6: London - An English City? Week 7: English Accents Week 8: Princess Diana - Queen of Hearts Week 9: British Popstars/ Music Week 10: "The Season" - An English Summer Week 11: To be arranged Week 12: Scotland - An Independent Country? Week 13: Students' Final Presentations Week 14: Students' Final Presentations</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vocabulary Preview and Topic Preview will be required before each class.		
テキスト	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts.		
参考文献	An electronic or smartphone dictionary is required at every class.		
評価方法	30% Classwork; 30 % Homework; 20% Presentation; 20% Report.		

13年度以降	Communication Skills	担当者	N. ハミルトン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The Culture and Societies of the British Isles This is an intermediate level content based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people and culture b) improve students' analytical and critical abilities towards foreign and Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening and conversation practice around a variety of topics and issues</p> <p>In addition to viewing and discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5-10 minute presentation and submit a 1500+ word report on any topic from British culture during the term.</p>		<p>Week1: Second Semester Introduction/Britain's Got Talent! Week 2: Northern Ireland Week 3: The Troubles Week 4: Ireland - Saints and Scholars Week 5: Irish Music and Culture Week 6: Irish Accents and Blarney Week 7: British Television Week 8: Wales Week 9: British Humour Week 10: Brexit Week 11: British Youth Week 12: Christmas Special Week 13: Students' Final Presentations Week 14: Students' Final Presentations</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vocabulary Preview and Topic Preview will be required before each class.		
テキスト	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts.		
参考文献	An electronic or smartphone dictionary is required at every class.		
評価方法	30% Classwork; 30 % Homework; 20% Presentation; 20% Report.		

13年度以降	Communication Skills (火1)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss World Issues, from an International point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>(* Note: This is a <i>tentative</i> schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Introductions, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion.</p> <p>Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to international communication.)</i></p> <p>Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication?</i> Expressing your opinions, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)]</p> <p>Week 4: Communicating about future plans. "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?"</p> <p>Week 5: "How was your Golden Week?"/ "How was your Mother's Day?": communicating a past experience...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.</p> <p>Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. Directions: asking for and communicating <i>street directions</i>, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation.</p> <p>Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment.</p> <p>Week 8: Discussing and communicating about your hobbies. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment.</p> <p>Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food: Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies.</p> <p>Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about movies, books, music, food, etc., in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics.</p> <p>Week 11: Examining & using of International vs. Domestic etiquette and manners. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations.</p> <p>Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: street directions and/or train directions. Preparing for student presentations.</p> <p>Week 13: Continuous assessment. Ways to meet new people (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations.</p> <p>Week 14: Body Language & 'EQ' Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.		
参考文献	特になし N/A		
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)		

13年度以降	Communication Skills (火1)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss World Issues, from an International point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English;</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises.</p> <p>Week 2: "What do you usually do...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments.</p> <p>Week 3: "What do you usually do...?", part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion.</p> <p>Week 4: Hallow'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallow'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations.</p> <p>Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallow'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallow'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations.</p> <p>Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answers to "What are you thankful for?" Preparations for student presentations.</p> <p>Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations.</p> <p>Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations.</p> <p>Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations.</p> <p>Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.		
参考文献	特になし N/A		
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)		

13年度以降	Communication Skills	担当者	R. J. バロウズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>- UK Culture & Society This is an intermediate-level content based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues</p> <p>In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.</p>		<p>UK Culture I</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introductory Class 2. Introduction to Britain 3. British Pop 4. London 5. The Train 6. Heathrow Airport 7. William Shakespeare 8. Tea 9. Climbers 10. Sherlock Holmes 11. The Purple Violin 12. British Universities 13. An English Summer 14. Review 	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vocabulary preview (30 minutes) & Topic Preview will be required before each class (30 minutes)		
テキスト	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary or smartphone is also required		
参考文献	An electronic or smartphone dictionary is required at every class		
評価方法	30 % Classwork, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.		

13年度以降	Communication Skills	担当者	R. J. バロウズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>- UK Culture & Society This is an upper-intermediate content based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues</p> <p>In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 – 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.</p>		<p>UK Culture II</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Preview 2. The Seven Wonders of Britain 3. Wales 4. BBC World Service 5. The Mini 6. The Village 7. Agatha Christie 8. Charles Dickens 9. The Sea 10. Taxi 11. Public School 12. WOMAD 13. A British Christmas 14. Review 	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vocabulary preview (30 minutes) & Topic Preview will be required before each class (30 minutes)		
テキスト	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary or smartphone is also required.		
参考文献	An electronic or smartphone dictionary is required at every class		
評価方法	30 % Classwork, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.		

13年度以降	Communication Skills	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this class we will look at contemporary issues from persuasive perspectives. Students will develop their abilities to form and present cohesive opinions and arguments while responding to the opinions and ideas of others.</p> <p>The discussion topics will be chosen by the teacher and the students and presented in written (article) and verbal form.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Welcome - introductions and course outline.. 2. Getting to know you – conversation activities. 3. Narrative fictions – lying and describing. 4. Happiness – activities related to wellbeing 5. Fear – activities related to fear. 6. Structuring debates – debate analysis. 7. Persuasive language – types of persuasive language. 8. You, preparation – student topics for debate, planning. 9. Points of view – analyzing perspectives. 10. You, debate – student topics for debate, performance. 11. Sadness – activities relating to unhappiness. 12. Presentation planning – student preparation. 13. Presentations performance – presentations and discussion. 14. Presentations feedback – presentations analysis. 	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class		
テキスト	None		
参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (50%) and final presentations (50%)		

13年度以降	Communication Skills	担当者	R. ウィルコックス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II.</p> <p>The prerequisites for the Communication Skills are Comprehensive English I/II and Reading Skills I/II or a TOEIC score of 600 or above.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills; 2. To improve reading comprehension via critical analysis of text; 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process; 4. To foster a mature, analytical and constructively critical approach toward the development and presentation of one's own ideas and opinions; 		<p>Weeks</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Text unit 1: Physical Fitness 2. Text unit 2: Blood Types 3. Text unit 3: Dreams 4. Text unit 4: Speed Dating 5. Preparation Mid Term Speaking Test 6. Mid Term Speaking Test 7. Text unit 5: Pets In Japan 8. Text unit 6: Stress 9. Preparation Student Debates 10. Student Debates 11. Text Unit 7: Fast Food 12. Text Unit 8 Shopping Trends 13. Preparation Final Presentation 14. Final Presentations 	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments		
テキスト	Textbook: Life Topics [Advanced], Shimaoka and Berman, Nan Undo, 2014, ISBN: 9784523177517		
参考文献	Google Scholar		
評価方法	Written reports 30%, Oral Test And Debate 35%, Final Presentation 35%		

13年度以降	Communication Skills	担当者	R. ウィルコックス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills are Comprehensive English I/II and Reading Skills I/II or a TOEIC score of 600 or above.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills; 2. To improve reading comprehension via critical analysis of text; 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process; 4. To foster a mature, analytical and constructively critical approach toward the development and presentation of one's own ideas and opinions; 		<p>Weeks</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Text unit 9: Women and Work 2. Text unit 10: The Internet 3. Text unit 11: Kawaii 4. Text unit 12: Same Sex Marriage 5. Preparation Mid Term Speaking Test 6. Mid Term Speaking Test 7. Text unit 13: Japan Dresses Casual 8. Text unit 14: World Happiness 9. Preparation Student Debates 10. Student Debates 11. Text Unit 15: The Right to Die 12. Text Unit 16 Pet Cloning 13. Preparation Final Presentation 14. Final Presentations 	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments		
テキスト	Textbook: Life Topics [Advanced], Shimaoka and Berman, Nan Undo, 2014, ISBN: 9784523177517		
参考文献	Google Scholar		
評価方法	Written reports 30%, Oral Test And Debate 35%, Final Presentation 35%		

13年度以降	Communication Skills	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. It will build on skills developed in the first semester.</p> <p>Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class.</p> <p>Grades will be based on class participation, small group discussion leadership and a multimedia presentation.</p>		<p>Week1: Orientation, introduction to topic discussion Week2: Good observation, making pros and cons Week3: Writer point of view, background influences Week4: Making effective visual aids Week5: Good discussion questions Week6: Small group discussion workshop Week7: Leadership skills 1st (of 4) small group discussion presentations Week8: Leadership skills--2nd (of 4) small group discussion presentations Week9: Leadership skills--3rd (of 4) small group discussion presentations Week10: Leadership skills--4th (of 4) small group discussion presentations Week11: Making effective topic presentations Week12: Presentation workshop Week13: Presentations Week14: Presentations</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership, multimedia presentation		
テキスト	No class textbook. Handout will be provided by the teacher		
参考文献	To be introduced in class		
評価方法	20% class participation 40% small group discussion leadership 40% multimedia presentation		

13年度以降	Communication Skills	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. It will build on skills developed in the first semester.</p> <p>Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class.</p> <p>Grades will be based on class participation, small group discussion leadership and a multimedia presentation.</p>		<p>Week1: Orientation, introduction to topic discussion Week2: Good observation, making pros and cons Week3: Writer point of view, background influences Week4: Making effective visual aids Week5: Good discussion questions Week6: Small group discussion workshop Week7: Leadership skills 1st (of 4) small group discussion presentations Week8: Leadership skills--2nd (of 4) small group discussion presentations Week9: Leadership skills--3rd (of 4) small group discussion presentations Week10: Leadership skills--4th (of 4) small group discussion presentations Week11: Making effective topic presentations Week12: Presentation workshop Week13: Presentations Week14: Presentations</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership, multimedia presentation		
テキスト	No class textbook. Handout will be provided by the teacher.		
参考文献	To be introduced in class		
評価方法	20% class participation 40% small group discussion leadership 40% multimedia presentation		

13 年度以降	Communication Skills (木 2)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss World Issues, from an International point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>(* Note: This is a <i>tentative</i> schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Introductions, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion.</p> <p>Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. <i>Asking student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to international communication.)</i></p> <p>Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication?</i> Expressing your opinions, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)]</p> <p>Week 4: Communicating about future plans. "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?"</p> <p>Week 5: "How was your Golden Week?"/ "How was your Mother's Day?": communicating a past experience...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.</p> <p>Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. Directions: asking for and communicating <i>street directions</i>, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation.</p> <p>Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment.</p> <p>Week 8: Discussing and communicating about your hobbies. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment.</p> <p>Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food: Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies.</p> <p>Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about movies, books, music, food, etc., in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics.</p> <p>Week 11: Examining & using of International vs. Domestic etiquette and manners. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations.</p> <p>Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: street directions, and/or train directions. Preparing for student presentations.</p> <p>Week 13: Continuous assessment. Ways to meet new people (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise: with discussion thereof. Class presentations.</p> <p>Week 14: Body Language & 'EQ' Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.		
参考文献	特になし N/A		
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)		

13 年度以降	Communication Skills (木 2)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss World Issues, from an International point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English;</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises.</p> <p>Week 2: "What do you usually do...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments.</p> <p>Week 3: "What do you usually do...?", part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion.</p> <p>Week 4: Hallowe'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations.</p> <p>Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations.</p> <p>Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answers to "What are you thankful for?" Preparations for student presentations.</p> <p>Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 11: "How often do you...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations.</p> <p>Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations.</p> <p>Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations.</p> <p>Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.		
参考文献	特になし N/A		
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)		

13年度以降	Communication Skills (木3)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss World Issues, from an International point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>(* Note: This is a <i>tentative</i> schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Introductions, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion.</p> <p>Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to international communication.)</i></p> <p>Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication?</i> Expressing your opinions, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)]</p> <p>Week 4: Communicating about future plans. "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?"</p> <p>Week 5: "How was your Golden Week?"/ "How was your Mother's Day?" communicating a past experience...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.</p> <p>Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. Directions: asking for and communicating <i>street directions</i>, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation.</p> <p>Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment.</p> <p>Week 8: Discussing and communicating about your hobbies. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment.</p> <p>Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies.</p> <p>Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about movies, books, music, food, etc., in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics.</p> <p>Week 11: Examining & using of International vs. Domestic etiquette and manners Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations.</p> <p>Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: street directions and/or train directions Preparing for student presentations.</p> <p>Week 13: Continuous assessment. Ways to meet new people (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations.</p> <p>Week 14: Body Language & 'EQ' Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.		
参考文献	特になし N/A		
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)		

13年度以降	Communication Skills (木3)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss World Issues, from an International point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English;</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p> <p>※同一学期に同一教員の重複履修不可</p>		<p>(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises.</p> <p>Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments.</p> <p>Week 3: "What do you usually do...?", part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion.</p> <p>Week 4: Halloween: researching and discussing about this international 'festival'. Halloween video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations.</p> <p>Week 5: Researching and discussing 'Cute Fawkes Day' & Halloween. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Halloween video, continued. Refinement and preparations for student presentations.</p> <p>Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answers to "What are you thankful for?" Preparations for student presentations.</p> <p>Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations.</p> <p>Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations.</p> <p>Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations.</p> <p>Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations.</p> <p>Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations.</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.		
テキスト	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.		
参考文献	特になし N/A		
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you participate in class; how well you speak and elaborate (explain) in English, the ways in which you reason (think); how well you use the information taught to you; how well you work together with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. Attendance is CRUCIAL (very important) in this class. You must NOT miss more than three classes, for any reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)		

13年度以降	Communication Skills	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one term, semi-elective course aims to further develop and build on language skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster the presentation of one's own ideas. 		<p>Week 1 -Course introduction</p> <p>Week 2- Japan's demographic sweet spot</p> <p>Week 3- Easier Taught Than Done? Yale's Most Popular Class</p> <p>Week 4- The case for America First Economics</p> <p>Week 5- African refugees enter Europe</p> <p>Week 6- Thousands Walk Out of Class, Urging Gun Control</p> <p>Week 7- A Linguistic Melting Pot That Can Still Boil Over</p> <p>Week 8 -Language issue divides Northern Ireland</p> <p>Week 9- Van Gogh's obsession with Japan</p> <p>Week 10- Fish Instead of Flamin` Hot Cheetos, and Feeling Lost</p> <p>Week 11- Ohtani fans six, earns victory in MLB pitching debut</p> <p>Week 12- Saudi Arabia lightens up</p> <p>Week 13- Bitcoin comes to campus</p> <p>Week 14- Final Examination & Review</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content and I recommend that they read English newspaper articles and watch BBC or CNN news programs.		
テキスト	15 Selected Units of English through the News Media – 2019 Edition, M. Takahashi, N. Itoh, R. Powell, Asahi Press		
参考文献	特になし		
評価方法	Classroom Participation: 40%, Presentations: 30%, Final Exam: 30%		

13年度以降	Communication Skills	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one term, semi-elective course aims to further develop and build on language skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster the presentation of one's own ideas. 		<p>Week 1 – Course introduction</p> <p>Week 2- Japan's demographic sweet spot</p> <p>Week 3- Easier Taught Than Done? Yale's Most Popular Class</p> <p>Week 4- The case for America First Economics</p> <p>Week 5- African refugees enter Europe</p> <p>Week 6- Thousands Walk Out of Class, Urging Gun Control</p> <p>Week 7- A Linguistic Melting Pot That Can Still Boil Over</p> <p>Week 8 -Language issue divides Northern Ireland</p> <p>Week 9- Van Gogh's obsession with Japan</p> <p>Week 10- Fish Instead of Flamin` Hot Cheetos, and Feeling Lost</p> <p>Week 11- Ohtani fans six, earns victory in MLB pitching debut</p> <p>Week 12- Saudi Arabia lightens up</p> <p>Week 13- Bitcoin comes to campus</p> <p>Week 14- Final Examination & Review</p>	
到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content and I recommend that they read English newspaper articles and watch BBC or CNN news programs.		
テキスト	15 Selected Units of English through the News Media – 2019 Edition, M. Takahashi, N. Itoh, R. Powell, Asahi Press		
参考文献	特になし		
評価方法	Classroom Participation: 40%, Presentations: 30%, Final Exam: 30%		

13年度以降	Discussion	担当者	A. ジェネス
講義目的、講義概要		授業計画	
Continuing from the Spring, in this course we will use TED talk videos as a springboard to launch into discussion topics. We will spend 3 weeks on each topic. Students will watch and analyse videos, read articles, and practice discussing in pairs and in groups in the first two weeks. In the third week we will hold a “fishbowl discussion”, in which a small group discuss the topic in front of the class, bringing their own questions, ideas and research.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction/ Unit 6: Text generation 2. Unit 6: Discussion skills- Active listening 3. Unit 6: Fishbowl discussion 4. Unit 7: Barriers and bridges 5. Unit 7: Discussion skills- Giving examples 6. Unit 7: Fishbowl discussion 7. Unit 8: Personality types 8. Unit 8: Discussion skills- Restating ideas 9. Unit 8: Fishbowl discussion 10. Unit 9: Smart thinking 11. Unit 9: Discussion skills- Leading a discussion 12. Unit 9: Fishbowl discussion 13. Unit 10: Facing fear 14. Unit 10 Fishbowl discussion 	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need to read articles before attending class, research and present contemporary news topics, and write short reports.		
テキスト	21 st Century Reading Book 3. Cengage. ISBN 9781305265714		
参考文献	Provided in class.		
評価方法	Discussion participation 40%, Discussion reports 40%, Readings and quizzes 20%		

13年度以降	Discussion	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>This course aims to:</u></p> <p>(1) build students' confidence in English speaking skills:from sentence to presentation</p> <p>(2) improve students' skills in academic speaking strategies: organized and logical</p> <p>(3) build students' confidence in formulating speeches</p> <p><u>Attendance Policy:</u></p> <p>1.If you have four (4) unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three (3) times it willcount as one absence.</p> <p>2. Turn off your cell phones in class.</p> <p>3. Report your absence in advance whenever possible.</p> <p>4. NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Hisaye Yamamoto 2. Hisaye Yamamoto 3. Maxine Hong Kingston 4. Maxine Hong Kingston 5. Bruce Chatwin 6. Bruce Chatwin 7. Midterm Exam 8. Toni Morrison 9. Toni Morrison 10. Kate Chopin 11. Kate Chopin 12. Sylvia Plath 13. Sylvia Plath 14. Final Exam & Review 	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me		
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.		
参考文献	特になし		
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)		

13年度以降	Discussion	担当者	J. E. マジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>This course aims to:</u></p> <p>(1) build students' confidence in English speaking skills:from sentence to presentation</p> <p>(2) improve students' skills in academic speaking strategies: organized and logical</p> <p>(3) build students' confidence in formulating speeches</p> <p><u>Attendance Policy:</u></p> <p>1.If you have four (4) unexcused absences, you will automatically receive a grade of F. If you are more than 10 minutes late for class three (3) times it willcount as one absence.</p> <p>2. Turn off your cell phones in class.</p> <p>3. Report your absence in advance whenever possible.</p> <p>4. NO LATE HOMEWORK IS ACCEPTED (Very Important).</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Kazuo Ishiguro 2. Kazuo Ishiguro 3. Ralph Ellison 4. Ralph Ellison 5. Joy Kogawa 6. Joy Kogawa 7. Midterm Exam 8. Sherman Alexie 9. Sherman Alexie 10. Upton Sinclair 11. Upton Sinclair 12. Julian Barnes 13. Julian Barnes 14. Final Exam & Review 	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use MyDOC to receive notices from me		
テキスト	Handouts are prepared by the instructor.		
参考文献	特になし		
評価方法	In-class performance (20%), Midterm test (20%), Class assignments (20%), Final paper (40%)		

13年度以降	Discussion	担当者	N. ハミルトン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed for students who are serious about wanting to communicate in English and express their opinions on various topics. If you want to develop your English skills and your aim is to be coherent and articulate in speaking English in your place of work in the future, this course is for you!</p> <p>This course will be a friendly and fun “English only” environment and will help you to speak English with confidence. We learn through our mistakes, so don’t worry if you make them.</p> <p>Students will be required to take part in the discussions and be willing to share their thoughts and ideas with others, while being respectful to the views of others.</p>		<p>Week 1: Orientation and Introductions</p> <p>Week 2: Discussion skills</p> <p>Week 3: How Japanese are you? (Culture)</p> <p>Week 4: Hikikomori</p> <p>Week 5: Millennials and “Snowflakes”</p> <p>Week 6: Cyber Bullying</p> <p>Week 7: Students choose topic</p> <p>Week 8: J-Pop vs. K-Pop</p> <p>Week 9: Harassment/Bullying</p> <p>Week 10: Text Language/Abbreviations</p> <p>Week 11: Women Only?</p> <p>Week 12: Students choose topic</p> <p>Week 13: Students’ Final Presentations</p> <p>Week 14: Students’ Final Presentations</p>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Prepare discussion points and conduct prior research.		
テキスト	Text materials will be provided		
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.		
評価方法	Grades are based on the following: Performance 50%; Final Presentations 50%		

13年度以降	Discussion	担当者	N. ハミルトン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed for students who are serious about wanting to communicate in English and express their opinions on various topics. If you want to develop your English skills and your aim is to be coherent and articulate in speaking English in your place of work in the future, this course is for you!</p> <p>This course will be a friendly and fun “English only” environment and will help you to speak English with confidence. We learn through our mistakes, so don’t worry if you make them.</p> <p>Students will be required to take part in the discussions and be willing to share their thoughts and ideas with others, while being respectful to the views of others.</p>		<p>Week 1: Summer Adventures</p> <p>Week 2: Music Genres</p> <p>Week 3: Students choose topic</p> <p>Week 4: New Emperor/New Japan?</p> <p>Week 5: Students choose topic</p> <p>Week 6: Politics - Left, Right or Centre?</p> <p>Week 7: Students choose topic</p> <p>Week 8: We Japanese?</p> <p>Week 9: Careers Choices</p> <p>Week 10: Students choose topic</p> <p>Week 11: TBA</p> <p>Week 12: TBA</p> <p>Week 13: Students’ Final Presentations</p> <p>Week 14: Students’ Final Presentations</p>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Prepare discussion points and conduct prior research.		
テキスト	Text materials will be provided		
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.		
評価方法	Grades are based on the following: Performance 50%; Final Presentations 50%		

13年度以降	Discussion	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice.</p> <p>The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups.</p> <p>The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions, course outline, evaluation, requirements. 2. McDonald's Fast Food & Genetically Modified Foods. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 3. Harry Potter & Hollywood Blockbusters. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 4. Taylor Swift, Music & Philanthropy. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 5. Adventure Tourism & Traveling, do's and don'ts? Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 6. Library research project task 1 – MBTI -Research your individual personality type, complete online personality questionnaire and worksheet. Reading, listening & comprehension activities. 7. Personality Types & Best Jobs. How to find a suitable partner & job. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 8. Stress, Destress & Mitigating techniques. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 9. Sports & endorphins. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 10. English, Lingua Franca. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 11. Learning & Education, learning styles How do we learn best? Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 12. Healthy eating, Healthy diets, "We are what we eat". Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 13. Happiness, what is happiness? Hedonistic behavior. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 14. The Internet, smart-phones & technology, how much is society changing? Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities 	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Topic discussion and target skills research, speaking, asking opinions, reasons, clarification, confirmation, agreeing, disagreeing and negotiating skills research from the internet.		
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week		
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week		
評価方法	1. Class participation & target skills 40% 2. Weekly class activities & discussion 60%		

13年度以降	Discussion	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice.</p> <p>The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups.</p> <p>The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions, course outline, evaluation, requirements. 2. Healthy eating, Heart Attack Grill. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 3. Toy Story 3 & Hollywood Movies. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 4. Lady Gaga, Music & Philanthropy. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 5. The River Nile, Egypt & Traveling, do's and don'ts? Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 6. Library research project task 1 – Holland's Test -Research your individual personality type, complete online personality questionnaire and worksheet. 7. Personality Types & Best Jobs. How to find a suitable partner & job. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 8. Sleep & Stress, Destress & Mitigating techniques. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 9. Sports, Adidas recycling and feeling good. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 10. The History of English. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 11. Reverse classroom, learning & Education, learning styles. How do we learn best? Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 12. Vegetarians Vegans, Healthy diets, "We are what we eat". Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 13. Happiness, what is happiness? Hedonistic behavior. Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities. 14. The Internet, smart-phones & technology, how much is society changing? Pair and small groups discussion. Reading, listening & comprehension activities 	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Topic discussion and target skills research, speaking, asking opinions, reasons, clarification, confirmation, agreeing, disagreeing and negotiating skills research from the internet		
テキスト	Class notes and handouts will be provided every week		
参考文献	Class notes and handouts will be provided every week		
評価方法	1. Class participation & target skills 40% 2. Weekly class activities & discussion 60%		

13年度以降	Discussion	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to learn discussion principles and increase discussion skills, including expression your opinions, supporting your opinions with reasons and examples, explaining your opinions, listening to others' opinions, interrupting appropriately, asking for clarification, summarizing and restating information, etc. All these will be practiced in small groups and pairs while talking about current events and issues.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Discussion language 3. Topic 1: brainstorming and research 4. Topic 1: discussion and debrief 5. Discussion language 6. Topic 2: brainstorm and research 7. Topic 2: discussion and debrief 8. Discussion language 9. Topic 3: brainstorm and research 10. Topic 3 discussion and debrief 11. Discussion language 12. Topic 4: brainstorm and research 13. Topic 4: discussion and debrief 14. Final Evaluation & Review 	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be a research and preparation assignment to complete during the week.		
テキスト	No textbook. Handouts will be provided.		
参考文献	none		
評価方法	Grades will be based on: in-class participation 60%, homework assignments 20%, journal 20%		

13年度以降	Discussion	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class focuses on developing students' ability to select good topics for discussion as well as forming and structuring their opinions to promote constructive discussion.</p> <p>Students will participate in, and lead, discussions at small group and full class level.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Welcome - introductions and course outline. 2. Getting to know you - conversation activities. 3. Agree / disagree - discussion activity. 4. Creating discussions - discussions structures. 5. My discussion articles - teacher topics. 6. Your discussion articles - student topics. 7. Opposing viewpoints - conversation activity. 8. Controversial issues - discussion activity. 9. Group work - your discussion articles. 10. Breaking news - researched discussion topics. 11. Your topics - partnering and preparation. 12. Discussion planning - student-led class discussion preparation. 13. Discussion presentations - discussion performance. 14. Final class work - student-led class discussions. 	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class.		
テキスト	None		
参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (40%) and student-led class discussions (60%)		

13年度以降	Discussion	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class focuses on developing students' ability to select good topics for discussion as well as forming and structuring their opinions to promote constructive discussion.</p> <p>Students will participate in, and lead, discussions at small group and full class level.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Welcome - introductions and course outline. 2. Getting to know you - conversation activities. 3. Agree / disagree - discussion activity. 4. Creating discussions - discussions structures. 5. My discussion articles - teacher topics. 6. Your discussion articles - student topics. 7. Opposing viewpoints - conversation activity. 8. Controversial issues - discussion activity. 9. Group work - your discussion articles. 10. Breaking news - researched discussion topics. 11. Your topics - partnering and preparation. 12. Discussion planning - student-led class discussion preparation. 13. Discussion presentations - discussion performance. 14. Final class work - student-led class discussions. 	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class.		
テキスト	None		
参考文献	None		
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (40%) and student-led class discussions (60%)		

13年度以降	Discussion	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course, the students will be provided with ample opportunity to use English and express themselves through a combination of speaking activities, group discussions and presentations. Students will do plenty of speaking in this class.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. The Famous/The Infamous Discussion 3. Famous/Infamous Presentation 4. My Turning Point Discussion 5. My Turning Point Presentation 6. Around the World Discussion 7. Around the World Presentation 8. Challenge facing Japan Discussion 9. Challenge Facing Japan Presentation 10. Mid Term Test 11. My Passion Discussion 12. My Passion Presentation Preparation 13. Final Presentation Day 1 14. Final Presentation Day 2 	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned in this class		
テキスト	No textbook will be assigned for this course		
参考文献	特になし		
評価方法	The students will be evaluated on attendance, participation in Discussions, the mid term test and the presentations.		

13年度以降	Discussion	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
Same as above		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Someone I admire Discussion 3. Someone I admire Presentation 4. The Supernatural Discussion 5. The Supernatural Presentation 6. My Favorite Film Discussion 7. My Favorite Film Presentation 8. Music Discussion 9. Music Presentation 10. Mid Term test 11. Christmas Discussion 12. Christmas Presentation Preparation 13. Christmas Presentation Day 1 14. Christmas Presentation Day 2 	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned for this class		
テキスト	No textbook will be assigned for his course		
参考文献	特になし		
評価方法	The students will be evaluated on attendance, participation in Discussions, the mid term test and the presentations.		

13年度以降	Discussion	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.</p>		<p>Week 1- Course introduction Week 2- First Impressions Week 3- Traffic Jam Week 4- Who Needs the Local Language Week 5- Getting Ahead Week 6- Forever Single Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- What are Friends For? Week 9- What's for Dinner? Week 10- Cyber Bullying Week 11- Taking Care of Father Week 12- Why Go To School? Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Students Choose Discussion Topic & Final Examination</p>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content and I recommend that they read English newspaper articles and watch BBC or CNN news programs.		
テキスト	Impact Issues – Book 2 Author: Richard R. Day, Joseph Schauls, and Junko Yamanaka		
参考文献	特になし		
評価方法	It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class -30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination. -40%		

13年度以降	Discussion	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.</p>		<p>Week 1- Course Introduction Week 2- An International Relationship Week 3- Too Little, Too Late Week 4- Ben and Mike Week 5- Government Control Week 6- Living Together Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- Size Discrimination Week 9- Who Will Help Them? Week 10- Finding the Right One Week 11- Dress for Success Week 12- A Mother's Story Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Students Choose Discussion Topic & Final Examination</p>	
到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content and I recommend that they read English newspaper articles and watch BBC or CNN news programs.		
テキスト	Impact Issues - Book 2 Author: Richard R. Day, Joseph Schauls, and Junko Yamanaka		
参考文献	特になし		
評価方法	It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class-30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination -40%		

13年度以降	Public Speaking I	担当者	S. ペイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In today's world the ability to cogently present ideas is a vital professional tool. This course aims to train students to become excellent public speakers able to present their ideas effectively to any audience with confidence and professionalism. It also aims to raise awareness of what makes a great speech or presentation. There will be plenty of opportunities for on-stage practice and critical feedback</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Components of an effective presentation 3. Posture, gestures, and eye contact 4. Voice inflection, volume, and speed 5. Visuals and effective slide design 6. Presentation introduction and conclusion 7. Presentation body 8. 2-minute presentation 9. 2 minute presentation 10. Informative and Persuasive presentations 11. Final Presentation workshop 12. Final Presentation workshop 13. Final Presentations 14. Final Presentations 	
到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベル英語で口頭発表ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	After each class there will be an assignment to complete during the week. Students will also keep a journal.		
テキスト	No textbook. Handouts will be provided.		
参考文献	none		
評価方法	Grades will be based on in-class participation 30%, homework assignments 20%, presentations 50%		

13年度以降	Public Speaking I	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking.</p> <p>Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction : Public speaking, why where when. It's not conversation. 2. What listeners need. What speakers do. 3. Topic : Explain a future plan. Ideas, research, homework ! 4. Write and edit 5. Decide how to do it, "props", visuals, practice 6. Presentations, evaluation, feedback. 7. Topic : teaching people how to do something. Ideas, research, homework ! 8. (as Week 4) 9. (as Week 5) 10. Presentations, evaluation, feedback. 11. Topic : making a persuasive argument. Ideas, research, homework ! 12. (as Week 4) 13. (as Week 5) 14. Presentations, evaluation, feedback. 	
到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will have research work preparing for, and then practicing presentations		
テキスト	There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.		
参考文献	特になし		
評価方法	There is no final exam. This is a performance course. The teacher's evaluation will be according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%)		

13年度以降	Public Speaking I	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking.</p> <p>Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction : Public speaking, why where when. It's not conversation. 2. What listeners need. What speakers do. 3. Topic : Explain a future plan. Ideas, research, homework ! 4. Write and edit 5. Decide how to do it, "props", visuals, practice 6. Presentations, evaluation, feedback. 7. Topic : teaching people how to do something. Ideas, research, homework ! 8. (as Week 4) 9. (as Week 5) 10. Presentations, evaluation, feedback. 11. Topic : making a persuasive argument. Ideas, research, homework ! 12. (as Week 4) 13. (as Week 5) 14. Presentations, evaluation, feedback. 	
到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will have research work preparing for, and then practicing presentations		
テキスト	There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.		
参考文献	特になし		
評価方法	There is no final exam. This is a performance course. The teacher's evaluation will be according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%)		

13年度以降	Public Speaking I	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p style="text-align: center;"><u>Speeches</u></p> <p>This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches. Students will then give their own speeches, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Elements of a speech—the purpose 3. Elements of a speech—the design 4. Evaluating speech—the science 5. Evaluating a speech—the art 6. Delivering a speech—the parts 7. Delivering a speech—the design 8. Delivering a speech—the science 9. Delivering a speech—the art 10. Student speeches—1st draft 11. Student speeches—2nd draft 12. Student speeches—group 1 13. Student speeches—group 2 14. Evaluation and summary 	
到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare speeches and conduct background research. (4 hours homework each week.)		
テキスト	Reading materials will be distributed in class.		
参考文献	Reference materials will be distributed in class		
評価方法	Speech preparation and speech delivery = 60%. Participation = 40%		

13年度以降	Public Speaking II	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p style="text-align: center;"><u>Presentations</u></p> <p>This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective presentations in English. First, we will examine the elements of effective presentations and communication through discussions and the analysis of several presentations. Students will then give their own presentations. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Orientation 2 Elements of a presentation—the purpose 3 Elements of a presentation—the design 4 Evaluating a presentation—the science 5 Evaluating a presentation—the art 6 Delivering a presentation—the parts 7 Delivering a presentation—the design 8 Delivering a presentation—the science 9 Delivering a presentation—the art 10 Student presentations—1st draft 11 Student presentations—2nd draft 12 Student presentations—group 1 13 Student presentations—group 2 14 Evaluation and summary 	
到達目標	様々な形態や状況を想定して、「Public Speaking I」より高いレベルの英語で口頭発表ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare presentations and conduct background research. (4 hours homework each week.)		
テキスト	Reading materials will be distributed in class.		
参考文献	Reference materials will be distributed in class.		
評価方法	Presentation preparation and presentation delivery = 60%. Participation = 40%		

13年度以降	Debate I	担当者	N. ハミルトン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is designed with two goals in mind:</p> <p>1) to help students develop debating skills - to understand issues, to articulate or defend their views on those issues.</p> <p>2) to help students improve their overall language skills - speaking, listening and critical thinking.</p> <p>Debate topics will be decided in advance and will include a variety of enjoyable and challenging topics. Students are required to have a notebook in which articles from the news will be pasted and described. These will serve as a foundation for our warm-up debates. We will watch some of the famous debates in Western history, evaluating them from a critical point of view - looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills, and the overall persuasiveness of the candidates.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and Overview</p> <p>Week 2: Mini Lecture on Debating</p> <p>Week 3: Debate Preparations 1</p> <p>Week 4: Debate and Summations</p> <p>Week 5: Mini Lecture on Debating</p> <p>Week 6: Debate Preparations 2</p> <p>Week 7: Debate and Summations</p> <p>Week 8: Mini Lecture on Debating</p> <p>Week 9: Debate Preparations 3</p> <p>Week 10: Debate and Summations</p> <p>Week 11: Mini Lecture on Debating</p> <p>Week 12: Debate Preparations 4</p> <p>Week 13: Debate and Summations</p> <p>Week 14: Final Group Summations</p>	
到達目標	討論という状況で、リサーチを基にして、中級レベルの英語で思考し、討論できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Prepare for the debates, conduct research and complete notebook requirement.		
テキスト	Material will be provided.		
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.		
評価方法	Grades are based on the following: In-class performance 50%; Homework 25%; Final discussion 25%		

13年度以降	Debate II	担当者	N. ハミルトン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is a continuation of Debate I, but will address topics of greater domestic and world importance. It is designed with two goals in mind: to help students develop debating skills- understand issues and to articulate and defend their views on those issues; to help students improve their overall language skills- speaking, listening and critical thinking.</p> <p>Topics will be decided in advance and will include a variety of enjoyable and challenging topics. Students are required to have a notebook in which articles from the news will be pasted and described. These will serve as a foundation for our warm-up debates. We will watch some of the famous debates in Western history, evaluating them from a critical point of view - looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills, and the overall persuasiveness of the candidates.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and Overview</p> <p>Week 2: Mini Lecture on Debating</p> <p>Week 3: Debate Preparations 1</p> <p>Week 4: Debate and Summations</p> <p>Week 5: Mini Lecture on Debating</p> <p>Week 6: Debate Preparations 2</p> <p>Week 7: Debate and Summations</p> <p>Week 8: Mini Lecture on Debating</p> <p>Week 9: Debate Preparations 3</p> <p>Week 10: Debate and Summations</p> <p>Week 11: Mini Lecture on Debating</p> <p>Week 12: Debate Preparations 4</p> <p>Week 13: Debate and Summations</p> <p>Week 14: Final Group Summations</p>	
到達目標	「Debate I」より高いレベルで、討論という状況で、リサーチを基にして、英語で思考し討論できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Prepare for the debates, conduct research and complete notebook requirement.		
テキスト	Material will be provided.		
参考文献	Reference material will be provided or recommended in class.		
評価方法	Grades are based on the following: In-class performance 50%; Homework 25%; Final discussion 25%		

13年度以降	Academic Lecture	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(Japanese Art History)</p> <p>This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. Supplemental readings and associated exercises will be provided to ensure comprehension of specialized terms and to facilitate an understanding of historical and cultural context.</p> <p>By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal painting styles and their features and to convey this understanding in an articulate and informed manner. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History 3. Principles and Materials of Japanese Painting 4. Yamato-e 大和絵 "Pictures of Japan" 5. Paintings and Artists of the Tosa school (土佐派) 6. Paintings and Artists of the Kanō school (狩野派) 7. Paintings and Artists of the Kanō school (狩野派) 8. Paintings and Artists of the Rimpa school (琳派) 9. Paintings and Artists of the Rimpa school (琳派) 10. Paintings and Artists of the Literati school / Nanga school (文人画・南画) 11. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school (円山・四条派) 12. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school (円山・四条派) 13. Museum Exhibition Trip 14. Review and Final Assessment 	
到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト	Lecture outlines and supplementary reading materials will be provided by the instructor.		
参考文献	A comprehensive reading list will be distributed in class.		
評価方法	Evaluations will be based on participation (15%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (45%).		

13年度以降	Academic Lecture	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(Japanese Art History)</p> <p>This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. Supplemental readings and associated exercises will be provided to ensure comprehension of specialized terms and to facilitate an understanding of historical and cultural context.</p> <p>By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal painting styles and their features and to convey this understanding in an articulate and informed manner. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History 3. Principles and Materials of Japanese Painting 4. Yamato-e 大和絵 "Pictures of Japan" 5. Paintings and Artists of the Tosa school (土佐派) 6. Paintings and Artists of the Kanō school (狩野派) 7. Paintings and Artists of the Kanō school (狩野派) 8. Paintings and Artists of the Rimpa school (琳派) 9. Paintings and Artists of the Rimpa school (琳派) 10. Paintings and Artists of the Literati school / Nanga school (文人画・南画) 11. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school (円山・四条派) 12. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school (円山・四条派) 13. Museum Exhibition Trip 14. Review and Final Assessment 	
到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all assigned readings and homework prior to each class.		
テキスト	Lecture outlines and supplementary reading materials will be provided by the instructor.		
参考文献	A comprehensive reading list will be distributed in class.		
評価方法	Evaluations will be based on participation (15%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (45%).		

13年度以降	Academic Lecture	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>As societies have become more “globalized” in the recent years, we often come across the term “international relations”. Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations.</p> <p>As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester. In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject.</p> <p><u>This course is taught in English.</u> It is an ideal course for students who wish to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Why Study International Relations? 3. Nation-State and International Relations 4. Theories of International Relations/ Overview 5. Theories of International Relations/ Discussion 6. Various Aspects of International Relations 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination/ The Cold War: A Brief Introduction 9. The Cold War: How it began 10. The Cold War: The 1950s 11. The Cold War: The 1960s 12. The Cold War: The 1970s 13. The Cold War: How it ended 14. Course Review 	
到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.		
テキスト	To be announced.		
参考文献	To be announced.		
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (50%), and final examination (50%). Details will be explained by the instructor in the first class.		

13年度以降	Academic Lecture	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>As societies have become more “globalized” in the recent years, we often come across the term “international relations”. Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations.</p> <p>As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester. In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject.</p> <p><u>This course is taught in English.</u> It is an ideal course for students who wish to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Why Study International Relations? 3. Nation-State and International Relations 4. Theories of International Relations/ Overview 5. Theories of International Relations/ Discussion 6. Various Aspects of International Relations 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination/ The Cold War: A Brief Introduction 9. The Cold War: How it began 10. The Cold War: The 1950s 11. The Cold War: The 1960s 12. The Cold War: The 1970s 13. The Cold War: How it ended 14. Course Review 	
到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.		
テキスト	To be announced.		
参考文献	To be announced.		
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (50%), and final examination (50%). Details will be explained by the instructor in the first class.		

13年度以降	Listening and Pronunciation (水3)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 本講義では英語の楽曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものも多く見られる。授業では一回につき一つ、音声特徴が楽譜（音符）と対応している楽曲を取り上げ、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。尚、リスニング力の強化として NetAcademy2の素材を用いたディクテーション、及び楽曲の背景を説明したオーディオ教材を使用する。</p> <p>概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を漫然と聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠である。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learningへの取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『This Land is Your Land』強拍/弱拍のメリハリ 5. 『My Grandfather's Clock』日本人の苦手な音① 6. 『Moon River』日本人の苦手な音② 7. Web上の音声教材によるリスニング・発音の強化 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『We Will Rock You』シラブルの“格差” 10. 『Top Of The World』押韻を意識する 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. イントネーションとメロディーの関係 13. 期末テスト・録音② 14. 総復習：今期のまとめ 	
到達目標	英語ネイティブレベルのリスニングと発音ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習		
テキスト	指定教科書なし（毎回授業で資料を配布します）		
参考文献	必要に応じて文献やウェブサイトを紹介します		
評価方法	中間・期末試験の結果（60％）の他に課題提出（20％）や授業への積極的な参加（20％）を加味して総合的に評価します		

13年度以降	Listening and Pronunciation (水3)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 本講義では英語の楽曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものも多く見られる。授業では一回につき一つ、音声特徴が楽譜（音符）と対応している楽曲を取り上げ、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。尚、リスニング力の強化として NetAcademy2の素材を用いたディクテーション、及び楽曲の背景を説明したオーディオ教材を使用する。</p> <p>概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を漫然と聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠である。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learningへの取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『This Land Is Your Land』強拍/弱拍のメリハリ 5. 『My Grandfather's Clock』日本人の苦手な音① 6. 『Moon River』日本人の苦手な音② 7. Web上の音声教材によるリスニング・発音の強化 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『We Will Rock You』シラブルの“格差” 10. 『Top Of The World』押韻を意識する 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. イントネーションとメロディーの関係 13. 期末テスト・録音② 14. 総復習：今期のまとめ 	
到達目標	英語ネイティブレベルのリスニングと発音ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習		
テキスト	指定教科書なし（毎回授業で資料を配布します）		
参考文献	必要に応じて文献やウェブサイトを紹介します		
評価方法	中間・期末試験の結果（60％）の他に課題提出（20％）や授業への積極的な参加（20％）を加味して総合的に評価します		

13年度以降	Listening and Pronunciation (水5)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 本講義では英語の楽曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものも多く見られる。授業では一回につき一つ、音声特徴が楽譜（音符）と対応している楽曲を取り上げ、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。尚、リスニング力の強化として NetAcademy2の素材を用いたディクテーション、及び楽曲の背景を説明したオーディオ教材を使用する。</p> <p>概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を漫然と聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠である。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learningへの取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『This Land is Your Land』強拍/弱拍のメリハリ 5. 『My Grandfather's Clock』日本人の苦手な音① 6. 『Moon River』日本人の苦手な音② 7. Web上の音声教材によるリスニング・発音の強化 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『We Will Rock You』シラブルの“格差” 10. 『Top Of The World』押韻を意識する 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. イントネーションとメロディーの関係 13. 期末テスト・録音② 14. 総復習：今期のまとめ 	
到達目標	英語ネイティブレベルのリスニングと発音ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習		
テキスト	指定教科書なし（毎回授業で資料を配布します）		
参考文献	必要に応じて文献やウェブサイトを紹介します		
評価方法	中間・期末試験の結果（60％）の他に課題提出（20％）や授業への積極的な参加（20％）を加味して総合的に評価します		

13年度以降	Listening and Pronunciation (水5)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 本講義では英語の楽曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものも多く見られる。授業では一回につき一つ、音声特徴が楽譜（音符）と対応している楽曲を取り上げ、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。尚、リスニング力の強化として NetAcademy2の素材を用いたディクテーション、及び楽曲の背景を説明したオーディオ教材を使用する。</p> <p>概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を漫然と聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠である。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コースの説明／概要・録音① 2. 英語の楽曲について＋e-learningへの取り組み方法 3. 『ABC song』個別音とアルファベット 4. 『This Land Is Your Land』強拍/弱拍のメリハリ 5. 『My Grandfather's Clock』日本人の苦手な音① 6. 『Moon River』日本人の苦手な音② 7. Web上の音声教材によるリスニング・発音の強化 8. 中間テスト・映像を介した英語 9. 『We Will Rock You』シラブルの“格差” 10. 『Top Of The World』押韻を意識する 11. 『楽曲未定』連結・同化などの減約 12. イントネーションとメロディーの関係 13. 期末テスト・録音② 14. 総復習：今期のまとめ 	
到達目標	英語ネイティブレベルのリスニングと発音ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習		
テキスト	指定教科書なし（毎回授業で資料を配布します）		
参考文献	必要に応じて文献やウェブサイトを紹介します		
評価方法	中間・期末試験の結果（60％）の他に課題提出（20％）や授業への積極的な参加（20％）を加味して総合的に評価します		

13年度以降	英語の音声	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。本授業では、英語学習者や教師にとって重要である英語音声についてその基礎を体系的に学ぶ。日本語や他言語との比較も交えて、英語音声をよりよく理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や言語の様々な面に触れることにより、ことばの面白さを紹介し、これ以降の音声・言語関係の科目への導入とする。</p> <p><メッセージ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴方の英語、「文法や表現」の知識と「音声」の知識はバランスがとれていますか？メッセージ自体が料理なら、音声はそれを運ぶ器のようなもの。音声について、一度しっかり学んでみませんか。 ・「英語らしさって何?」、「なぜ言えない、聞き取れない?」等、初めて学べば目からウロコ。 ・中学・高校のベテラン英語教師から「発音や音声は教えられないよ…」という声をよく聞きます。知らなければ、この先ずっと知らない「音声」について、今!この機会に学んでほしい。 ・初回(4/9火4限)から参加してください。特にゼミ検討者、履修を! 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Lingua Franca としての英語, 学習者・指導者として 2. セグメントとプロソディ、音声が進ぶ情報 3. 第4章 英語の母音 (1) 基本母音、母音の分類 4. 英語の母音 (2) 日本語との比較 5. 第5章 英語の子音 (1) 子音の分類 6. 英語の子音 (2) 日本語との比較 7. 第3章 音素と異音 日本語の干渉 8. 第6章 音節 音節構造と強勢と母音 9. 第7章 語強勢 強勢と母音、第二強勢 10. リズム フット、弱化と圧縮 11. 第8章 音縮小、第9章 同時調音 12. 第10章 イントネーション(1) 音調核 13. イントネーション(2) 意味・文法・意図との関係 14. 音声教育、その他の応用 	
到達目標	英語の音声に関して概括的知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	英語音声学の基礎を学習し、練習する。知識習得には積み重ね学習が重要となる。学生は事前または事後にテキストの指定部分を読み、練習問題などの課題をやってもらうことが必須となる。		
テキスト	佐藤寧・佐藤努 (1997) 『現代の英語音声学』金星堂		
参考文献	その他 配布資料		
評価方法	授業参加 (準備・参加) : 約 15%, クイズ・課題 : 約 15%, 試験 : 約 70%。 単位認定には約 70%以上の出席が求められる		

13年度以降	英語の音声	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。本授業では、英語学習者や教師にとって重要である英語音声についてその基礎を体系的に学ぶ。日本語や他言語との比較も交えて、英語音声をよりよく理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や言語の様々な面に触れることにより、ことばの面白さを紹介し、これ以降の音声・言語関係の科目への導入とする。</p> <p><メッセージ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴方の英語、「文法や表現」の知識と「音声」の知識はバランスがとれていますか？メッセージ自体が料理なら、音声はそれを運ぶ器のようなもの。音声について、一度しっかり学んでみませんか。 ・「英語らしさって何?」、「なぜ言えない、聞き取れない?」等、初めて学べば目からウロコ。 ・中学・高校のベテラン英語教師から「発音や音声は教えられないよ…」という声をよく聞きます。知らなければ、この先ずっと知らない「音声」について、今!この機会に学んでほしい。 ・初回(4/9火4限)から参加してください。特にゼミ検討者、履修を! 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Lingua Franca としての英語, 学習者・指導者として 2. セグメントとプロソディ、音声が進ぶ情報 3. 第4章 英語の母音 (1) 基本母音、母音の分類 4. 英語の母音 (2) 日本語との比較 5. 第5章 英語の子音 (1) 子音の分類 6. 英語の子音 (2) 日本語との比較 7. 第3章 音素と異音 日本語の干渉 8. 第6章 音節 音節構造と強勢と母音 9. 第7章 語強勢 強勢と母音、第二強勢 10. リズム フット、弱化と圧縮 11. 第8章 音縮小、第9章 同時調音 12. 第10章 イントネーション(1) 音調核 13. イントネーション(2) 意味・文法・意図との関係 14. 音声教育、その他の応用 	
到達目標	英語の音声に関して概括的知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	英語音声学の基礎を学習し、練習する。知識習得には積み重ね学習が重要となる。学生は事前または事後にテキストの指定部分を読み、練習問題などの課題をやってもらうことが必須となる。		
テキスト	佐藤寧・佐藤努 (1997) 『現代の英語音声学』金星堂		
参考文献	その他 配布資料		
評価方法	授業参加 (準備・参加) : 約 15%, クイズ・課題 : 約 15%, 試験 : 約 70%。 単位認定には約 70%以上の出席が求められる。		

13年度以降	通訳 I (月3)	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。リスニング、シャドーイングなど通訳者養成に必要な訓練法を通じて英語力の総合的な向上も目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身に付けることを目標とします。</p> <p>講義概要： 多様な教材を通じて世界情勢をとらえ、英日・日英の通訳演習による通訳の基礎技術を習得します。効率的なリサーチ方法、教養のための読書法など、自立した学習者になるための方法も身に付けます。基礎力強化のため単語・時事問題小テストを毎回実施します。個人演習だけでなく、ペアやグループワークなども行います。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと) 2. 通訳概論 3. 教育 (英日) 4. 教育 (日英) 5. 国際関係 (英日) 6. 国際関係 (日英) 7. 前半の総括 8. 環境 (英日) 9. 環境 (日英) 10. 軍事 (英日) 11. 軍事 (日英) 12. 医学 (英日) 13. 医学 (日英) 14. 総括 	
到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
テキスト	一杉武史編著『改訂版キクタン TOEIC TEST SCORE 990』(アルク、2018年)(改訂版第5刷)		
参考文献	適宜紹介します		
評価方法	毎回の授業準備・参加・通訳パフォーマンス (50%)、小テスト (30%)、課題などの提出物 (20%)		

13年度以降	通訳 I (月3)	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。リスニング、シャドーイングなど通訳者養成に必要な訓練法を通じて英語力の総合的な向上も目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身に付けることを目標とします。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだことを生かし、精度のより高い通訳を目指します。日本語・英語の運用能力の強化を図り、基礎力強化のため単語・時事問題小テストを毎回実施します。個人演習だけでなく、ペアやグループワークなども行います。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性ゆえ春学期から引き続き履修することが望ましいです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと) 2. 通訳概論 3. 政治 (英日) 4. 政治 (日英) 5. 技術 (英日) 6. 技術 (日英) 7. 前半の総括 8. 社会問題 (英日) 9. 社会問題 (日英) 10. 産業 (英日) 11. 産業 (日英) 12. 国連 (英日) 13. 国連 (日英) 14. 総括 	
到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
テキスト	一杉武史編著『改訂版キクタン TOEIC TEST SCORE 990』(アルク、2018年)(改訂版第5刷)		
参考文献	適宜紹介します		
評価方法	毎回の授業準備・参加・通訳パフォーマンス (50%)、小テスト (30%)、課題などの提出物 (20%)		

13年度以降	通訳 I (水1)	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。リスニング、シャドーイングなど通訳者養成に必要な訓練法を通じて英語力の総合的な向上も目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身に付けることを目標とします。</p> <p>講義概要： 多様な教材を通じて世界情勢をとらえ、英日・日英の通訳演習による通訳の基礎技術を習得します。効率的なリサーチ方法、教養のための読書法など、自立した学習者になるための方法も身に付けます。基礎力強化のため単語・時事問題小テストを毎回実施します。個人演習だけでなく、ペアやグループワークなども行います。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと) 2. 通訳概論 3. 教育 (英日) 4. 教育 (日英) 5. 国際関係 (英日) 6. 国際関係 (日英) 7. 前半の総括 8. 環境 (英日) 9. 環境 (日英) 10. 軍事 (英日) 11. 軍事 (日英) 12. 医学 (英日) 13. 医学 (日英) 14. 総括 	
到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
テキスト	一杉武史編著『改訂版キクタン TOEIC TEST SCORE 990』(アルク、2018年)(改訂版第5刷)		
参考文献	適宜紹介します		
評価方法	毎回の授業準備・参加・通訳パフォーマンス (50%)、小テスト (30%)、課題などの提出物 (20%)		

13年度以降	通訳 I (水1)	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。リスニング、シャドーイングなど通訳者養成に必要な訓練法を通じて英語力の総合的な向上も目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身に付けることを目標とします。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだことを生かし、精度のより高い通訳を目指します。日本語・英語の運用能力の強化を図り、基礎力強化のため単語・時事問題小テストを毎回実施します。個人演習だけでなく、ペアやグループワークなども行います。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性ゆえ春学期から引き続き履修することが望ましいです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと) 2. 通訳概論 3. 政治 (英日) 4. 政治 (日英) 5. 技術 (英日) 6. 技術 (日英) 7. 前半の総括 8. 社会問題 (英日) 9. 社会問題 (日英) 10. 産業 (英日) 11. 産業 (日英) 12. 国連 (英日) 13. 国連 (日英) 14. 総括 	
到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
テキスト	一杉武史編著『改訂版キクタン TOEIC TEST SCORE 990』(アルク、2018年)(改訂版第5刷)		
参考文献	適宜紹介します		
評価方法	毎回の授業準備・参加・通訳パフォーマンス (50%)、小テスト (30%)、課題などの提出物 (20%)		

13年度以降	通訳 I (水2)	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。リスニング、シャドーイングなど通訳者養成に必要な訓練法を通じて英語力の総合的な向上も目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身に付けることを目標とします。</p> <p>講義概要： 多様な教材を通じて世界情勢をとらえ、英日・日英の通訳演習による通訳の基礎技術を習得します。効率的なリサーチ方法、教養のための読書法など、自立した学習者になるための方法も身に付けます。基礎力強化のため単語・時事問題小テストを毎回実施します。個人演習だけでなく、ペアやグループワークなども行います。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと) 2. 通訳概論 3. 教育 (英日) 4. 教育 (日英) 5. 国際関係 (英日) 6. 国際関係 (日英) 7. 前半の総括 8. 環境 (英日) 9. 環境 (日英) 10. 軍事 (英日) 11. 軍事 (日英) 12. 医学 (英日) 13. 医学 (日英) 14. 総括 	
到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
テキスト	一杉武史編著『改訂版キクタン TOEIC TEST SCORE 990』(アルク、2018年)(改訂版第5刷)		
参考文献	適宜紹介します		
評価方法	毎回の授業準備・参加・通訳パフォーマンス (50%)、小テスト (30%)、課題などの提出物 (20%)		

13年度以降	通訳 I (水2)	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 英日・日英の基礎的な逐次通訳演習を通じて通訳業の仕組みと国際コミュニケーションの舞台における通訳者の立場を理解します。リスニング、シャドーイングなど通訳者養成に必要な訓練法を通じて英語力の総合的な向上も目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身に付けることを目標とします。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだことを生かし、精度のより高い通訳を目指します。日本語・英語の運用能力の強化を図り、基礎力強化のため単語・時事問題小テストを毎回実施します。個人演習だけでなく、ペアやグループワークなども行います。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性ゆえ春学期から引き続き履修することが望ましいです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (履修者は必ず出席のこと) 2. 通訳概論 3. 政治 (英日) 4. 政治 (日英) 5. 技術 (英日) 6. 技術 (日英) 7. 前半の総括 8. 社会問題 (英日) 9. 社会問題 (日英) 10. 産業 (英日) 11. 産業 (日英) 12. 国連 (英日) 13. 国連 (日英) 14. 総括 	
到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
テキスト	一杉武史編著『改訂版キクタン TOEIC TEST SCORE 990』(アルク、2018年)(改訂版第5刷)		
参考文献	適宜紹介します		
評価方法	毎回の授業準備・参加・通訳パフォーマンス (50%)、小テスト (30%)、課題などの提出物 (20%)		

13年度以降	通訳 II	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳業務への理解を深め、通訳の応用技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とします。リスニング、シャドーイング、サイト・トランスレーションなど応用技術の習得を通じて英語力の総合的な向上も目指します。授業を機に多様な分野に関心を抱き、教養を身に付けることを目標とします。</p> <p>講義概要： 多様な教材を通じて世界情勢をとらえ、英日・日英の通訳演習による通訳の応用技術を習得します。文化的背景も踏まえた訳出法を学び、英日両言語で効率的なリサーチ方法も獲得していきます。応用力構築のため単語・時事問題小テストを毎回実施します。個人演習だけでなく、ペアやグループワークなども行います。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. 教育（英日） 4. 教育（日英） 5. 国際関係（英日） 6. 国際関係（日英） 7. 前半の総括 8. 環境（英日） 9. 環境（日英） 10. 軍事（英日） 11. 軍事（日英） 12. 医学（英日） 13. 医学（日英） 14. 総括 	
到達目標	英語通訳に必要な語彙を増やし、同時通訳や長時間通訳といった上級レベルの英語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
テキスト	一杉武史編著『改訂版キクタン TOEIC TEST SCORE 990』（アルク、2018年）（改訂版第5刷）		
参考文献	適宜紹介します		
評価方法	毎回の授業準備・参加・通訳パフォーマンス（50%）、小テスト（30%）、課題などの提出物（20%）		

13年度以降	通訳 II	担当者	柴原 早苗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳業務への理解を深め、通訳の応用技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とします。異文化コミュニケーション力を向上させて教養を深め、自立した学習者になることを目指します。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだことを応用し、題材に応じて効果的なコミュニケーションや文化的背景を踏まえた精度の高い通訳を目指します。言語運用能力の強化を図り、応用力強化のため単語・時事問題小テストを毎回実施します。個人演習だけでなく、ペアやグループワークなども行います。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性ゆえ春学期から引き続き履修することが望ましいです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 通訳概論 3. 政治（英日） 4. 政治（日英） 5. 技術（英日） 6. 技術（日英） 7. 前半の総括 8. 社会問題（英日） 9. 社会問題（日英） 10. 産業（英日） 11. 産業（日英） 12. 国連（英日） 13. 国連（日英） 14. 総括 	
到達目標	英語通訳に必要な語彙を増やし、同時通訳や長時間通訳といった上級レベルの英語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：テーマの事前リサーチおよび事前課題に取り組む 事後学修：通訳パフォーマンスの復習		
テキスト	一杉武史編著『改訂版キクタン TOEIC TEST SCORE 990』（アルク、2018年）（改訂版第5刷）		
参考文献	適宜紹介します		
評価方法	毎回の授業準備・参加・通訳パフォーマンス（50%）、小テスト（30%）、課題などの提出物（20%）		

13年度以降	翻訳	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>みなさんは英語の構文についてひととおり勉強し、文法の知識もだいたい身に付けていると思います。この講義では、それらの勉強を土台に、さまざまな英語の文章を日本語に訳していきます。人称をどうするか、Iは「私」か「僕」か「俺」か、「です・ます」なのか「である」調なのか。女性は「だわ」で男性は「だぜ」なのか。これらの選択を始めとするさまざまな翻訳上の問題について、そして面白さについて、受講者全員で味わいましょう。</p> <p>授業では毎回1ページ程度の英文課題を出しますので、次の授業開始時に自分で翻訳したものを持参してください。その上で授業中には少しずつご自分の訳を読み上げてもらい、担当者が解説します。授業の最後には、各自持参した翻訳を修正して提出してください（←polishする能力は、翻訳者としてぜひ身に付けてほしいものなので、この修正のプロセスを重視しています）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに（辞書選び／字幕と吹き替えと出版翻訳etc） 2. 絵本を翻訳する 3. 児童書を翻訳する 4. YA小説を翻訳する 5. 一般向けの小説：女ことばを翻訳するには 6. 一般向けの小説：男ことばを翻訳するには 7. 三人称の語り手を翻訳する 8. 自由間接話法を翻訳する 9. 文体を翻訳する 10. 詩を翻訳する 11. 新聞記事を翻訳する 12. 雑誌記事を翻訳する 13. インターネットのブログを翻訳する 14. まとめ 	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：課題プリントを翻訳してくる。 事後：プリントを見直しておく。		
テキスト	プリントを配布。		
参考文献	構文力に自信のない人は、岡田伸夫『英語の構文 150』（美誠社）などで各自勉強してください。		
評価方法	授業中の発言や課題プリント約 60%、学期末試験約 40% (ただし欠席回数が5回以上の場合は、理由にかかわらず成績評価対象としません。)		

13年度以降	翻訳	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を挙げながら、翻訳の可能性について実践的に探ります。</p> <p>授業では、毎週、新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品などの一部を取り上げながら、日英翻訳の演習を行います。</p> <p>履修人数にもよりますが、前期後半は各学生の関心のあるジャンルについての翻訳プレゼンテーションを行ってまいります。</p> <p>初回の授業には必ず出席して下さい。</p>		<p>第1回 ガイダンス 辞書について</p> <p>第2回 翻訳の難しさと面白さについて</p> <p>第3回 機械翻訳の可能性について</p> <p>第4回 翻訳の実例比較 その1</p> <p>第5回 翻訳の実例比較 その2</p> <p>第6回 復習テスト</p> <p>第7回 訳テキスト分析と発表内容チェック</p> <p>第8回 翻訳テキスト分析と発表内容チェック</p> <p>第9回 翻訳テキスト分析と発表内容チェック</p> <p>第10回 学生による翻訳プレゼンテーション</p> <p>第11回 学生による翻訳プレゼンテーション</p> <p>第12回 学生による翻訳プレゼンテーション</p> <p>第13回 学生による翻訳プレゼンテーション</p> <p>第14回 まとめと復習テスト</p>	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	翻訳発表のための準備およびパワーポイント作成		
テキスト	プリント配布		
参考文献	特になし		
評価方法	分析コメント20%、プレゼンテーション20%、翻訳実習30%、テスト20%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。		

13年度以降	翻訳	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。授業では、毎週、さまざまなジャンルの翻訳演習を行います。</p> <p>また、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、プレゼンテーションを行なってまいります。また、発表内容について毎回、各学生にコメントを行ってまいります。</p> <p>なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。</p> <p>また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。</p>		<p>第1回 前期テストの講評および後期授業のガイダンス</p> <p>第2回 日英および英日翻訳の分析</p> <p>第3回 日英および英日翻訳の実例検討 その1</p> <p>第4回 日英および英日翻訳の実例検討 その2</p> <p>第5回 翻訳テキスト分析および発表のテーマ検討</p> <p>第6回 復習テストと発表テーマの確認</p> <p>第7回 発表準備 資料作成と内容チェック</p> <p>第8回 発表準備 資料作成と内容チェック</p> <p>第9回 発表準備 資料作成と内容チェック</p> <p>第10回 学生発表と講評 その1</p> <p>第11回 学生発表と講評 その2</p> <p>第12回 学生発表と講評 その3</p> <p>第13回 学生発表と講評 その4</p> <p>第14回 まとめと復習テスト</p>	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	翻訳発表のための準備およびパワーポイント作成		
テキスト	プリント配布		
参考文献	特になし		
評価方法	分析コメント20%、プレゼンテーション20%、翻訳実習30%、テスト20%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。		

13年度以降	翻訳	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいわけではありません。適切な英文読解に加え、作品自体を味わい、文化的背景を読み込む必要もあります。受験英語的な「和訳」でも、行き過ぎた「意識」でもなく、日本語のみを読んで原作と同様の魅力を味わえる「翻訳」を目指します。課題文には短編小説や長編小説中の短いチャプターを使用します。まず全体に目を通してから翻訳に取り掛かってください。授業中も一語一語しっかりと丁寧に読んでいきます。</p> <p>授業では、事前提出してもらった翻訳課題をセレクトした抜粋資料を配布します。自分の翻訳と読み比べより良い翻訳を模索するために、積極的な参加と発言が求められます。学期の中盤からグループまたはペアで発表します。その際俳句の英訳も行い、母語から外国語への翻訳感覚を味わいます。言葉のブラッシュアップを楽しみましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 個人翻訳：英文読解の精度を上げる（概要） 3 個人翻訳：英文読解の精度を上げる（パラグラフ） 4 個人翻訳：英文読解の精度を上げる（文脈） 5 個人翻訳：英文の意図を汲んだ日本語を作る（概要） 6 個人翻訳：英文の意図を汲んだ日本語を作る（文体） 7 個人翻訳：英文の意図を汲んだ日本語を作る（文脈） 8 グループ共訳の作成、発表（概要） 9 グループ共訳の作成、発表（パラグラフ） 10 グループ共訳の作成、発表（文脈） 11 グループ共訳の作成、発表（文体） 12 グループ共訳の作成、発表、改定版作成（文脈） 13 グループ共訳の作成、発表、改定版作成（文体） 14 グループ共訳の作成、発表、改定版作成（総合） 	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修として、課題を提出し疑問点などをリストアップする（1時間）。事後学修として、返却された課題を読み直しリバイズする（1時間）。		
テキスト	課題作品を授業時に配布する。		
参考文献	<i>Longman Dictionary of Contemporary English</i> . Pearson. (2014) 978-1447954200		
評価方法	課題・授業参加度（25%）、発表（25%）、学期末レポート（50%）通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。		

13年度以降	翻訳	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいわけではありません。適切な英文読解に加え、作品自体を味わい、文化的背景を読み込む必要もあります。受験英語的な「和訳」でも、行き過ぎた「意識」でもなく、日本語のみを読んで原作と同様の魅力を味わえる「翻訳」を目指します。課題文には短編小説や長編小説中の短いチャプターを使用します。まず全体に目を通してから翻訳に取り掛かってください。授業中も一語一語しっかりと丁寧に読んでいきます。</p> <p>授業では、事前提出してもらった翻訳課題をセレクトした抜粋資料を配布します。自分の翻訳と読み比べより良い翻訳を模索するために、積極的な参加と発言が求められます。学期の中盤からグループまたはペアで発表します。その際俳句の英訳も行い、母語から外国語への翻訳感覚を味わいます。言葉のブラッシュアップを楽しみましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 個人翻訳：英文読解の精度を上げる（概要） 3 個人翻訳：英文読解の精度を上げる（パラグラフ） 4 個人翻訳：英文読解の精度を上げる（文脈） 5 個人翻訳：英文の意図を汲んだ日本語を作る（概要） 6 個人翻訳：英文の意図を汲んだ日本語を作る（文体） 7 個人翻訳：英文の意図を汲んだ日本語を作る（文脈） 8 グループ共訳の作成、発表（概要） 9 グループ共訳の作成、発表（パラグラフ） 10 グループ共訳の作成、発表（文脈） 11 グループ共訳の作成、発表（文体） 12 グループ共訳の作成、発表、改定版作成（文脈） 13 グループ共訳の作成、発表、改定版作成（文体） 14 グループ共訳の作成、発表、改定版作成（総合） 	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修として、課題を提出し疑問点などをリストアップする（1時間）。事後学修として、返却された課題を読み直しリバイズする（1時間）。		
テキスト	課題作品を授業時に配布する。		
参考文献	<i>Longman Dictionary of Contemporary English</i> . Pearson. (2014) 978-1447954200		
評価方法	課題・授業参加度（25%）、発表（25%）、学期末レポート（50%）通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。		

13年度以降	翻訳 (木3)	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者を実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。(1) 掛かり方を示す構文分析 (2) 一語一句おろそかにしない解説 (3) 英文和訳での正解となる「原文に即した訳」(4) 原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」(5) 指名した受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その論理をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>二年(春、秋×2)かけて全100題を終了します。今・春学期は51番から75番を取り上げます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 モデル授業 2 イギリス人 (国民性とは) 3 イギリス人 (イギリス人の特質) 4 イギリス人 (他国民との違い) 5 イギリス人 (イギリスの庶民) 6 中年の思いごと 7 目の見える有難さ 8 機械と人間 9 忘れっぽさ 10 友情論 11 幸福論 12 外国語を学ぶ効用 (何のために学ぶか) 13 外国語を学ぶ効用 (どう裨益されるか) 14 日本人論 <p>*各回、他に1題を扱います。</p>	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと 事後：重要ポイントを復習し納得すること		
テキスト	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。		
参考文献	柴田耕太郎著『翻訳家になろう!』青弓社。折にふれ参照しますので、必ず入手してください。		
評価方法	定期試験 80%, 授業での課題 20%		

13年度以降	翻訳 (木3)	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者を実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。(1) 掛かり方を示す構文分析 (2) 一語一句おろそかにしない解説 (3) 英文和訳での正解となる「原文に即した訳」(4) 原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」(5) 指名した受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>二年(春、秋×2)かけて全100題を終了します。今・秋学期は76番から100番を取り上げます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 モデル授業 2 英国人と詩心 3 イギリス小説 4 海外の日本人 5 青年期の読書 6 幼年期教育 7 感情と理性 8 幸せな人間 9 伝記とは 10 人間の人間たるゆえん 11 日本人の和 12 シェークスピア礼賛 13 出版の使命 14 無限の歴史 <p>*各回、他に1題を扱います。</p>	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと 事後：重要ポイントを復習し納得すること		
テキスト	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。		
参考文献	柴田耕太郎著『翻訳家になろう!』青弓社。折にふれ参照しますので、必ず入手してください。		
評価方法	定期試験 80%, 授業での課題 20%		

13年度以降	翻訳（木4）	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、さまざまなジャンルの比較的やさしい英文を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれますが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行います。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。</p> <p>木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。英語と表現力の基礎を固めたい人は、ここから入ってください。</p> <p>秋学期同時限（木4）の、中級向けの出版翻訳クラスにつながります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 モデル授業 2 英語の規則（アンドとカンマ） 3 英語の規則（掛かり方） 4 訳文校正 5 歴史「ミノタウロス」 6 児童文学「不思議の国のアリス」（導入部） 7 児童文学「不思議の国のアリス」（地底の国） 8 子供百科「フクロウの目」 9 子供百科「恐竜」 10 子供百科「宇宙」 11 ミュージカル「オクラホマ」 12 詩「虹の歌」 13 小説「マダム・ロゼット」 14 歴史「トロイ戦争」 	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと 事後：重要ポイントを復習し納得すること		
テキスト	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。		
参考文献	柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』青弓社。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。		
評価方法	定期試験 80%, 授業での課題 20%		

13年度以降	翻訳（木4）	担当者	柴田 耕太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座では、さまざまな分野の書籍の抜粋部分（600ワード程度）を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の聴講を期待します。</p> <p>木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。翻訳現場の厳しさを実感したい人の受講を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 モデル授業 2 辞書の引き方 3 小説「ミセス・ピクスビーと大佐のコート」（書き出し） 4 小説「ミセス・ピクスビーと大佐のコート」（展開） 5 スポーツ「アマチュア・チャンピオンシップ」 6 美術「古代の芸術」 7 ドキュメンタリー「生き残りし者」 8 科学「重力の問題」 9 造形「心の庭」 10 音楽「オーケストラを指揮する」 11 評伝「二都物語」 12 動物「人間と動物の絆」 13 歴史「そして水は引かなかった」 14 観光「コルシカへの招待」 	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと 事後：重要ポイントを復習し納得すること		
テキスト	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。		
参考文献	柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』青弓社。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。		
評価方法	定期試験 80%, 授業での課題 20%		

13年度以降	翻訳（水4）	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course during the first semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from English to Japanese. Particular attention will be given to common mistranslations and translation strategies. The materials used will mainly include poems (by Robert Frost, et al.), novels (Mark Twain's "Huckleberry Finn," etc.) newspaper and magazine articles (mainly from Newsweek and Newsweek Japan), along with English-language movies (Japanese subtitles).</p> <p>The format of the course will consist of lectures in Japanese presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation.</p> <p>It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.</p>		1 Introduction 2 Document #1 (see list at left for examples) 3 Document #2 4 Document #3 5 Document #4 6 Document #5 7 Document #6 8 Document #7 9 Document #8 10 Document #9 11 Document #10 12 Document #11 13 Document #12 14 Final Examination and Self-Evaluation	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の例文を復習 配られた文章を予習		
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.		
参考文献	特になし		
評価方法	Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation 50% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

13年度以降	翻訳（水2）	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course during the second semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from Japanese to English. Particular attention will be given to vocabulary nuance and word order. The materials used will include English translations of novels and essays by famous Japanese authors (including Matsuo Basho, Natsume Soseki, Yasunari Kawabata, Junichiro Tanizaki, Yukio Mishima, Shusaku Endo, Kobo Abe, Haruki Murakami, Banana Yoshimoto, et al.), along with movies based on those authors' works, and Japanese animated features (looking at the English and Japanese subtitles).</p> <p>The format of the course will consist of lectures in Japanese presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation.</p> <p>It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.</p>		1 Introduction 2 Author #1 (see list at left for examples) 3 Author #2 4 Author #3 5 Author #4 6 Author #5 7 Author #6 8 Author #7 9 Author #8 10 Author #9 11 Author #10 12 Author #11 13 Author #12 14 Final Examination and Self-evaluation	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の例文を復習 配られた文章を予習		
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.		
参考文献	特になし		
評価方法	Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation 50% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

13年度以降	翻訳	担当者	白川 貴子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 翻訳は学校英語の英文和訳とは大きく違います。なぜ、どう違うのかを認識することが翻訳の第一歩になります。この講義では翻訳をするための基本的な枠組みを学び、演習を通して実践に役立つ力を身につけます。</p> <p>講義概要 今日の情報化社会にあつては翻訳においてもインターネットの活用は欠かせません。授業ではパソコンを活用して翻訳演習を行い、訳文の解析、発表やグループワークを通してさまざまな角度から翻訳の要諦を学んでいきます。授業計画は変更する場合があります。具体的な内容はオリエンテーションで説明しますので必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. リテラシーとしての翻訳概論（翻訳とは） 3. リテラシーとしての翻訳概論（翻訳の諸形態） 4. リテラシーとしての翻訳概論（翻訳のdo's and don'ts） 5. 翻訳の基本（構文） 6. 翻訳の基本（品詞） 7. 翻訳の基本（コンテキスト） 8. 翻訳演習 ノンフィクション（初級レベル） 9. 翻訳演習 ノンフィクション（中級レベル） 10. 翻訳演習 ノンフィクション（難解レベル） 11. 翻訳演習 フィクション（初級レベル） 12. 翻訳演習 フィクション（中級レベル） 13. 翻訳演習 フィクション（難解レベル） 14. 総括 	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	指示に従って指定された箇所を事前に準備し、適宜授業時に課題を提出。		
テキスト	初回に指示します。		
参考文献	必要に応じプリントを配布します。		
評価方法	課題および授業参加態度 70%、発表および期末レポート 30%		

13年度以降	翻訳	担当者	白川 貴子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 英文和訳と翻訳とはどう違うのか。翻訳の心がまえを学び、概念としての理解にとどまらず、実践的に翻訳に取り組む力を養います。</p> <p>講義概要 授業ではパソコンを活用して翻訳演習を行い、訳文の解析、発表やグループワークを通してさまざまな角度から翻訳の要諦を学んでいきます。授業計画は変更する場合があります。具体的な内容はオリエンテーションで説明しますので必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 翻訳とは 3. 翻訳の方法 4. 翻訳の基本（品詞や構文） 5. 翻訳の基本（コンテキスト） 6. 翻訳演習 ノンフィクション（案内文など） 7. 翻訳演習 ノンフィクション（論説文など） 8. 翻訳演習 フィクション（初級レベル前半） 9. 翻訳演習 フィクション（初級レベル後半） 10. 翻訳演習 フィクション（中級レベル前半） 11. 翻訳演習 フィクション（中級レベル後半） 12. 翻訳演習 フィクション（難解レベル前半） 13. 翻訳演習 フィクション（難解レベル後半） 14. 総括 	
到達目標	英文を的確に和訳するための総合力、ならびに、和文を的確に英訳するための総合力を習得し、中級レベルの翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	指示に従って指定された箇所を事前に準備し、適宜授業時に課題を提出。		
テキスト	初回に指示します。		
参考文献	必要に応じプリントを配布します。		
評価方法	課題および授業参加態度 70%、発表および期末レポート 30%		

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火1）	担当者	野村 誠二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目は企業の現場でのビジネスの為に必要とされる英語能力の向上とコミュニケーション・スキルの習得を目的とする。講師の企業での実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には、貿易および金融取引に関連するビジネスを題材とし、次の方法で演習を行う。英検準1級程度のレベル。</p> <p>1. 英語、日本語のナレーションのDVDおよび/またはハンドアウトを利用し、その内容を理解する。</p> <p>2. ほぼ毎回、DVDおよび/またはハンドアウトの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。</p> <p>3. 受講者参加型の授業であり、相応の事前・事後の学修が必要。 ※同一曜日・時限の英語ビジネス・コミュニケーション既修者は登録不可</p>		<p>1 講義内容の説明と評価方法などのガイダンス</p> <p>2 コミュニケーションの原理と役割、手段</p> <p>3 ビジネスの現場の英語力とコミュニケーション</p> <p>4 日本企業の国際化と海外依存度</p> <p>5 アジア諸国とのビジネスの重要性（理解度確認テスト）</p> <p>6 中国とのビジネスの理解</p> <p>7 ASEANとのビジネスの理解</p> <p>8 貿易取引の理解</p> <p>9 サービス貿易の理解</p> <p>10 国際通貨体制の理解（課題の提出）</p> <p>11 国際金融と外国為替の理解</p> <p>12 国際貿易体制と自由貿易協定（FTA）の理解</p> <p>13 貿易、金融取引とコンプライアンス</p> <p>14 期末試験と授業のまとめ</p> <p>上記の授業計画は各種事情により多少変更することがあります。</p>	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テレビ、インターネットでの経済ビジネスニュースの視聴および Nikkei Asian Review などの英語ビジネス雑誌記事による海外経済事情・背景の事前理解、授業での理解不足の場合にはインターネットなどにより知識を補充すること。		
テキスト	テキストは使用せず、DVD および/またはハンドアウトを使用		
参考文献	開講時ならびに授業中に必要に応じて指示する。		
評価方法	期末試験 40%、理解度確認テスト（クイズ）と課題の提出 30%、授業への参加度（平常点） 30%		

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火1）	担当者	野村 誠二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目は企業の現場でのビジネスの為に必要とされる英語能力の向上とコミュニケーション・スキルの習得を目的とする。講師の企業での実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には、貿易および金融取引に関連するビジネスを題材とし、次の方法で演習を行う。英検準1級程度のレベル。</p> <p>1. 英語、日本語のナレーションのDVDおよび/またはハンドアウトを利用し、その内容を理解する。</p> <p>2. ほぼ毎回、DVDおよび/またはハンドアウトの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。</p> <p>3. 受講者参加型の授業であり、相応の事前・事後の学修が必要。 ※同一曜日・時限の英語ビジネス・コミュニケーション既修者は登録不可</p>		<p>1 講義内容の説明と評価方法などのガイダンス</p> <p>2 コミュニケーションの原理と役割、手段</p> <p>3 ビジネスの現場の英語力とコミュニケーション</p> <p>4 日本企業の国際化と海外依存度</p> <p>5 アジア諸国とのビジネスの重要性（理解度確認テスト）</p> <p>6 中国とのビジネスの理解</p> <p>7 ASEANとのビジネスの理解</p> <p>8 貿易取引の理解</p> <p>9 サービス貿易の理解</p> <p>10 国際通貨体制の理解（課題の提出）</p> <p>11 国際金融と外国為替の理解</p> <p>12 国際貿易体制と自由貿易協定（FTA）の理解</p> <p>13 貿易、金融取引とコンプライアンス</p> <p>14 期末試験と授業のまとめ</p> <p>上記の授業計画は各種事情により多少変更することがあります。</p>	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テレビ、インターネットでの経済ビジネスニュースの視聴および Nikkei Asian Review などの英語ビジネス雑誌記事による海外経済事情・背景の事前理解、授業での理解不足の場合にはインターネットなどにより知識を補充すること。		
テキスト	テキストは使用せず、DVD および/またはハンドアウトを使用		
参考文献	必要に応じて指示する。		
評価方法	期末試験 40%、理解度確認テスト（クイズ）と課題の提出 30%、授業への参加度（平常点） 30%		

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火2）	担当者	野村 誠二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目は企業の現場でのビジネスの為に必要とされる英語能力の向上とコミュニケーション・スキルの習得を目的とする。講師の企業での実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には、業務提携、共同事業（JV）、買収（M&A）などにより海外にビジネスを展開する企業を題材とし、国際間での契約コミュニケーション、オフィス・コミュニケーション、投資家コミュニケーション等の観点も取り上げ、次の方法で演習を行う。英検準1級程度のレベル。</p> <p>1. 英語、日本語のナレーションのDVDおよび/またはハンドアウトを利用し、その内容を理解する。</p> <p>2. ほぼ毎回、DVDおよび/またはハンドアウトの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。</p> <p>3. 受講者参加型の授業であり、相応の事前・事後の学修が必要。 ※同一曜日・時限の英語ビジネス・コミュニケーション既修者は登録不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義内容の説明と評価方法などのガイダンス 2 ビジネス・コミュニケーションの理解 3 業務提携、共同事業（JV）、買収（M&A）の理解 4 事業戦略・計画の理解と策定 5 外部アドバイザーの起用（理解度確認テスト） 6 業務提携等の候補相手先の選定とリサーチ 7 守秘義務契約、Letter of Intent の交渉 8 必要資金の調達交渉 9 デュー・デリジェンスの実施 10 業務提携等の契約交渉（課題の提出） 11 業務提携等の相手先との間の取引トラブル、クレーム 12 業務提携等の相手先との間のコミュニケーション 13 業務提携事業に関する投資家への業績報告 14 期末試験と授業のまとめ <p>上記の授業計画は各種事情により多少変更することがあります。</p>	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テレビ、インターネットでの経済ビジネスニュースの視聴および Nikkei Asian Review などの英語ビジネス雑誌記事による海外経済事情・背景の事前理解、授業での理解不足の場合にはインターネットなどにより知識を補充すること。		
テキスト	テキストは使用せず、DVD および/またはハンドアウトを使用		
参考文献	開講時ならびに授業中に必要に応じて指示する。		
評価方法	期末試験 40%、理解度確認テスト（クイズ）と課題の提出 30%、授業への参加度（平常点） 30%		

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火2）	担当者	野村 誠二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目は企業の現場でのビジネスの為に必要とされる英語能力の向上とコミュニケーション・スキルの習得を目的とする。講師の企業での実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には、業務提携、共同事業（JV）、買収（M&A）などにより海外にビジネスを展開する企業を題材とし、国際間での契約コミュニケーション、オフィス・コミュニケーション、投資家コミュニケーション等の観点も取り上げ、次の方法で演習を行う。英検準1級程度のレベル。</p> <p>1. 英語、日本語のナレーションのDVDおよび/またはハンドアウトを利用し、その内容を理解する。</p> <p>2. ほぼ毎回、DVDおよび/またはハンドアウトの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。</p> <p>3. 受講者参加型の授業であり、相応の事前・事後の学修が必要。 ※同一曜日・時限の英語ビジネス・コミュニケーション既修者は登録不可</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義内容の説明と評価方法などのガイダンス 2 ビジネス・コミュニケーションの理解 3 業務提携、共同事業（JV）、買収（M&A）の理解 4 事業戦略・計画の理解と策定 5 外部アドバイザーの起用（理解度確認テスト） 6 業務提携等の候補相手先の選定とリサーチ 7 守秘義務契約、Letter of Intent の交渉 8 必要資金の調達交渉 9 デュー・デリジェンスの実施 10 業務提携等の契約交渉（課題の提出） 11 業務提携等の相手先との間の取引トラブル、クレーム 12 業務提携等の相手先との間のコミュニケーション 13 業務提携事業に関する投資家への業績報告 14 期末試験と授業のまとめ <p>上記の授業計画は各種事情により多少変更することがあります。</p>	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テレビ、インターネットでの経済ビジネスニュースの視聴および Nikkei Asian Review などの英語ビジネス雑誌記事による海外経済事情・背景の事前理解、授業での理解不足の場合にはインターネットなどにより知識を補充すること。		
テキスト	テキストは使用せず、DVD および/またはハンドアウトを使用		
参考文献	必要に応じて指示する。		
評価方法	期末試験 40%、理解度確認テスト（クイズ）と課題の提出 30%、授業への参加度（平常点） 30%		

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木1)	担当者	土川 孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、本格的なビジネスレターの書き方を分かりやすく解説する、実践的なBusiness Writingの講義です。将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象にしています。</p> <p>具体的には、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までの貿易の基本的なプロセスに沿って、それぞれの段階における英文ビジネスレターの書き方を学びます。また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も習得していきます。</p> <p>なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 (ガイダンス) 2. ビジネスレターの形式&練習問題 3. 効果的なビジネスレターの書き方 (Readability etc.) 4. 効果的なビジネスレターの書き方 (Courteousness etc.) 5. 取引の申込み&練習問題 6. 取引申込みに対する応答&練習問題 7. 引合い (具体的な問い合わせ) &練習問題 8. 中間試験、復習 9. オファー (売手からの申込み) &練習問題 10. オファーに対する応答&練習問題 11. 信用状&練習問題 12. 積出し&練習問題 13. クレーム&練習問題 14. クレームに対する応答&練習問題 	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。		
テキスト	海老沢達郎著『BUSINESS WRITING－英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007年・2011年重版）		
参考文献	都度、紹介		
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則 5回まで。		

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木1)	担当者	土川 孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、本格的なビジネスレターの書き方を分かりやすく解説する、実践的なBusiness Writingの講義です。将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象にしています。</p> <p>具体的には、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までの貿易の基本的なプロセスに沿って、それぞれの段階における英文ビジネスレターの書き方を学びます。また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も習得していきます。</p> <p>なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 (ガイダンス) 2. ビジネスレターの形式&練習問題 3. 効果的なビジネスレターの書き方 (Readability etc.) 4. 効果的なビジネスレターの書き方 (Courteousness etc.) 5. 取引の申込み&練習問題 6. 取引申込みに対する応答&練習問題 7. 引合い (具体的な問い合わせ) &練習問題 8. 中間試験、復習 9. オファー (売手からの申込み) &練習問題 10. オファーに対する応答&練習問題 11. 信用状&練習問題 12. 積出し&練習問題 13. クレーム&練習問題 14. クレームに対する応答&練習問題 	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。		
テキスト	海老沢達郎著『BUSINESS WRITING－英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007年・2011年重版）		
参考文献	都度、紹介		
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則 5回まで。		

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木2）	担当者	土川 孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象に、ビジネス英文メールの書き方を中心に、ビジネス英語に馴染のない学生に英文Business Writingの基本を分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>具体的には、テキストに沿ってPart1「大手旅行会社の世界支店長会議を想定した社内連絡メールの作成」、Part2「食料品専門商社とアメリカのワインメーカーとの商取引を想定した社外向けメールの作成」、Part3「大手製造業の国際展示会出展の準備を想定した社内外向けメールの作成」を1年を通して習得しますが、春期はそのうちPart1とPart2の前半を学びます。</p> <p>また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も習得していきます。</p> <p>なお、授業計画は、多少変更することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要（ガイダンス） 2. (Part1) ビジネス英文メールの形式 3. 世界主要支社長会議開催のお知らせ&練習問題 4. 世界主要支社長会議への出席通知&練習問題 5. 販売本部長の営業報告&練習問題 6. 宣伝部長報告&練習問題 7. 企画部長報告&練習問題 8. 中間試験、復習 9. 議事録送付 10. (Part2) カリフォルニアワイン見本輸入&練習問題 11. 見本商品の発送通知&練習問題 12. 引き合い&練習問題 13. オファー&練習問題 14. カウンター・オファー&練習問題 	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。		
テキスト	海老沢達郎・功力義雄著『ENGLISH FOR BUSINESS』（DTP 出版、2014）		
参考文献	都度、紹介		
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。欠席は原則 5 回まで。		

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木2）	担当者	土川 孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、将来、外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたいと考える学生を対象に、ビジネス英文メールの書き方を中心に、ビジネス英語に馴染のない学生に英文Business Writingの基本を分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>具体的には、テキストに沿ってPart1「大手旅行会社の世界支店長会議を想定した社内連絡メールの作成」、Part2「食料品専門商社とアメリカのワインメーカーとの商取引を想定した社外向けメールの作成」、Part3「大手製造業の国際展示会出展の準備を想定した社内外向けメールの作成」を1年を通して習得しますが、秋期は春期に引き続きPart2の後半とPart3を学びます。</p> <p>また、新聞・インターネットなどから収集した英文記事を題材に、Readingのスキルアップを行うと同時に、ビジネスの実践の場で役に立つ情報も習得していきます。</p> <p>なお、授業計画は、多少変更することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要（ガイダンス） 2. カウンター・オファー受託通知&練習問題 3. 信用状開設準備&練習問題 4. 船積通知&練習問題 5. クレーム&練習問題 6. クレームの解決&練習問題 7. (Part3) 国際展示会及び営業会議招待&練習問題 8. 中間試験、復習 9. 国際展示会及び営業会議への出席通知&練習問題 10. 営業会議出席者の宿泊等の申し込み&練習問題 11. 有力販売店主の工場視察&練習問題 12. ホテルへの苦情&練習問題 13. 顧客のホテル苦情への返信&練習問題 14. 有力販売店主の工場長宛礼状練習問題 	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回に提出してください。		
テキスト	海老沢達郎・功力義雄著『ENGLISH FOR BUSINESS』（DTP 出版、2014）		
参考文献	都度、紹介		
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。欠席は原則 5 回まで。		

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木3)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文 (Business Correspondence) の読解と作成のスキルを身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに (右記参照)、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元 (春学期は Unit1~12) における実務知識、通信文のスケルトン・プラン (skeleton plan)、および専門語彙 (technical terms) を学ぶとともに、通信文の読解 (英文和訳) と作成 (和文英訳) の訓練を行います。ただし、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p>なお、木曜日 4 時限の同一教員による同一名称科目とは内容が異なりますので注意して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期の授業内容と授業計画の説明 2. Unit1 (市況) 3. Unit2 (取引先の発見) 4. Unit3 (取引の申込み) 5. Unit4 (信用照会) 6. Unit5 (引合い) 7. Unit6 (引合いに対する返信) 8. Unit7 (オファー) 9. Unit8 (カウンター・オファー) 10. Unit9 (注文) 11. Unit10 (注文の受諾) 12. Unit11 (注文の謝絶) 13. Unit12 (成約) 14. 春学期の総復習と質疑応答 	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各 Unit の Sample Email および解説を熟読するとともに、Exercises を解いて学習成果を必ず確認して下さい。また、Vocabulary (関連語彙集) と Related Expressions (関連表現集) を利用して語彙力と表現力の拡充に努めて下さい。		
テキスト	杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習 2 1 講 (四訂版)』(三恵社、2016年)		
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)		
評価方法	期末試験の結果 (概ね 80% の比重) および平常授業における小テストや課題レポートの実績 (概ね 20% の比重) を合計して評価します。		

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木3)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文 (Business Correspondence) の読解と作成のスキルを身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに (右記参照)、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元 (秋学期は Unit13~21) における実務知識、通信文のスケルトン・プラン (skeleton plan)、および専門語彙 (technical terms) を学ぶとともに、通信文の読解 (英文和訳) と作成 (和文英訳) の訓練を行います。ただし、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p>なお、木曜日 4 時限の同一教員による同一名称科目とは内容が異なりますので注意して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 秋学期の授業内容と授業計画の説明 2. Unit13 (信用状の開設と訂正) 3. Unit14 (海上保険) 4. Unit15 (輸出手配) 5. Unit16 (船積み) 6. Unit17 (決済) 7. Unit18 (輸入手配) 8. Unit19 (クレーム) 9. Unit20 (クレーム調整) 10. Unit21の1 (会社社交文①: 推薦状) 11. Unit21の2 (会社社交文②: 案内状) 12. Unit21の3 (会社社交文③: 礼状) 13. Unit21の4 (会社社交文④: 見舞い状) 14. 秋学期の総復習と質疑応答 	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	各 Unit の Sample Email および解説を熟読するとともに、Exercises を解いて学習成果を必ず確認して下さい。また、Vocabulary (関連語彙集) と Related Expressions (関連表現集) を利用して語彙力と表現力の拡充に努めて下さい。		
テキスト	杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習 2 1 講 (四訂版)』(三恵社、2016年)		
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)		
評価方法	期末試験の結果 (概ね 80% の比重) および平常授業における小テストや課題レポートの実績 (概ね 20% の比重) を合計して評価します。		

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木4)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際商取引には実に多くの類型がありますが、その中心は物品売買取引である(狭義の)貿易です。そして、貿易を学ぶためには、「モノ」(貨物)、「カネ」(決済資金)、「カミ」(文書・情報)の3つの流れを理解することが必要です。この授業は、上記の「カミ」、すなわち貿易関係書類および関連する英語のビジネス文書の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得することを目標とします。春学期は、まずレター・オブ・インテント、スポット売買契約書、長期売買契約書等の法律文書を取上げ、各々の書類の意義と目的、記載事項、読解と作成の注意点等、書類に関する実務的な知識を学んでから当該の書類を実際に読解ないし作成する実習を行います。次に、技術文書として、海外に輸出する工業製品の取扱説明書(マニュアル)を扱い、英語圏(特に米国)のPlain English Actに適合した英文マニュアルを作成する方法を検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期の授業内容と授業計画の説明 2. 法律英語の文体の特徴 3. レター・オブ・インテントのサンプル検討 4. レター・オブ・インテントの作成演習(代理店) 5. レター・オブ・インテントの作成演習(技術援助) 6. スポット売買契約書のサンプル検討(タイプ条項) 7. スポット売買契約書のサンプル検討(裏面約款) 8. スポット売買契約書のサンプル検討(書式の戦い) 9. 長期売買契約書のサンプル検討(実質条項) 10. 長期売買契約書のサンプル検討(一般条項) 11. 長期売買契約書のサンプル検討(定義条項ほか) 12. “Plain English Act”の趣旨と具体的内容 13. 英文取扱説明書作成上の注意点と作成演習 14. 春学期の総復習と質疑応答 	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、実習で作成した貿易関連書類や関連文書は必ず提出して下さい。		
テキスト	当方で用意する和文と英文の資料プリント		
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)		
評価方法	期末試験の結果(概ね80%の比重)および平常授業における小テストや課題レポートの実績(概ね20%の比重)を合計して評価します。		

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木4)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上欄から続く)</p> <p>秋学期は、まず貿易取引の履行段階および決済段階に登場する重要書類として、商業送り状、船荷証券、貨物海上保険証券、原産地証明書等の船積み書類(Shipping Documents; S/D)、為替手形(bill of exchange; draft)、荷為替信用状(documentary letter of credit; L/C)などを取上げて、各々の書類の意義と目的、記載事項、読解と作成の注意点等、書類に関する実務的な知識を学んでから当該の書類を実際に読解ないし作成する実習を行います。次に、通関(customs clearance)についての基本事項、および輸出申告書と輸入(納税)申告書の書き方を学んだ後、実際の輸出入案件に基づいた通関手続きのシミュレーション実習を行います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、春学期、秋学期ともに、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 秋学期の授業内容と授業計画の説明 2. 各種の船積み書類の意義と目的 3. 商業送り状と包装明細書のサンプル検討 4. 商業送り状と包装明細書の作成演習 5. 船荷証券のサンプル検討 6. 船荷証券の読解演習 7. 貨物海上保険証券のサンプル検討 8. 貨物海上保険証券の読解演習 9. 原産地規則の概要と原産地証明書のサンプル検討 10. 輸出通関と輸入通関の基礎知識 11. 輸出申告書のサンプル検討と作成演習 12. 輸入(納税)申告書のサンプル検討と作成演習 13. 荷為替信用状による決済の概要とサンプル検討 14. 秋学期の総復習と質疑応答 	
到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、実習で作成した貿易関連書類や関連文書は必ず提出して下さい。		
テキスト	当方で用意する和文と英文の資料プリント		
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)		
評価方法	期末試験の結果(概ね80%の比重)および平常授業における小テストや課題レポートの実績(概ね20%の比重)を合計して評価します。		

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を包括的に学びます。この授業の学習内容は木曜日3・4時間目の「英語ビジネス・コミュニケーション」よりも詳細かつ広範囲であり、高度に専門的な知識の習得を目指しています。特に貿易や国際物流・ロジスティクス(logistics)に興味があり、貿易や物流関係の企業への就活や就職を希望する学生諸君、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験の受験を予定している学生諸君、通関士国家試験の受験を検討している学生諸君などに有益な情報を提供できると自負しています。具体的な学習範囲として、<u>春学期は、貿易の基本概念に加え、貿易取引の時系列的な流れを特に輸出者の視点から6つのステージに区分して、右記のように、その前半(貿易マーケティングの段階、取引関係創設の段階、成約段階)に属するテーマを詳しく学習する予定です。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期の授業内容および授業計画の説明 2. 貿易の基本概念(1)：貿易の意義、貿易の主体など 3. 貿易の基本概念(2)：貿易実務の遂行手順の概観 4. 貿易の基本概念(3)：種々の貿易形態、貿易関係機関 5. 貿易の基本概念(4)：貿易管理制度、関係法令など 6. 貿易マーケティングの段階(1)：海外市場調査 7. 貿易マーケティングの段階(2)：販売戦略調査 8. 取引関係創設の段階(1)：取引先選定と引合い 9. 取引関係創設の段階(2)：信用照会 10. 成約段階(1)：オファーと承諾、注文と受注 11. 成約段階(2)：品質と数量に関する条件 12. 成約段階(3)：価格と決済に関する条件 13. 成約段階(4)：船積みと保険に関する条件 14. 春学期の授業の総復習と質疑応答 	
到達目標	英語ビジネス・コミュニケーション実務能力を習得し、英語で貿易実務ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報(特に法令改正や通達)を入手するように努めて下さい。		
テキスト	当方で用意する和文と英文の資料プリント		
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)		
評価方法	期末試験の結果(概ね80%の比重)および平常授業における小テストや課題レポートの実績(概ね20%の比重)を合計して評価します。		

13年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上欄から続く)</p> <p><u>秋学期は、貿易取引の時系列的な流れを特に輸出者の視点から6つのステージに区分して、右記のように、その後半(履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階)に属するテーマを詳しく学習する予定です。</u></p> <p>春学期、秋学期ともに、履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えたりリアルなビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限りもうけます。</p> <p>なお、右記の授業計画は春学期、秋学期ともに、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれませんが、念のため申し添えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明 2. 履行段階(1)：“Incoterms 2010”の各貿易条件の概観 3. 履行段階(2)：外為法に基づく輸出許可と輸出承認 4. 履行段階(3)：輸出通関手続き 5. 履行段階(4)：海上運送に関する実務知識と手続き 6. 履行段階(5)：航空運送に関する実務知識と手続き 7. 履行段階(6)：複合運送に関する実務知識と手続き 8. 履行段階(7)：貨物海上保険に関する実務知識と手続き 9. 履行段階(8)：輸出PL保険に関する実務知識と手続き 10. 履行段階(9)：各種運送書類 11. 履行段階(10)：為替リスクの種々の回避法 12. 決済段階：荷為替信用状による決済および信用状以外の決済の仕組み 13. クレームおよびクレーム調整の段階：クレームの種類、クレームの予防、クレームの解決法など 14. 秋学期の授業の総復習と質疑応答 	
到達目標	英語ビジネス・コミュニケーション実務能力を習得し、英語で貿易実務ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報(特に法令改正や通達)を入手するように努めて下さい。		
テキスト	当方で用意する和文と英文の資料プリント		
参考文献	杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)		
評価方法	期末試験の結果(概ね80%の比重)および平常授業における小テストや課題レポートの実績(概ね20%の比重)を合計して評価します。		

13年度以降	メディア英語 I	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on raising the ability of students to focus on current health issues in the USA through the use of the juicing as seen in Part One of the documentary, "Fat, sick and Nearly Dead". Students will be expected to make presentations, prepare questions for biweekly quizzes and submit homework on topics viewed in video sources focusing on nonverbal cues. Analysis involves the use of critical think skills that will be presented in class The use of email to submit homework is COMPULSORY. The contents of the course are subject to change.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Topic 1/Presentation of Video/ QUIZ questions 2. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 3. Topic 2/Presentation of Video/ QUIZ question 4. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 5. Topic 3/Presentation of Video/ QUIZ questions 6. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 7. Topic 4/Presentation of Video/ QUIZ questions 8. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 9. Topic 5/ Presentation. / QUIZ questions 10. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 11. Topic 6/ Presentation/ QUIZ questions. 12. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 13. Final Evaluation/Presentation of Video/ Final Evaluation questions 14. Final Evaluation & Review 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Reading the video scripts and preparing questions for verbal and non verbal items viewed in class. Weekly review of items discussed previously.		
テキスト	Prints of transcripts from video clips sent by email.		
参考文献	Fat, Sick and Nearly Dead reviews.		
評価方法	35% In-class performance 35% Continuous assessment based on quizzes, presentations and homework submitted by email as well as other tasks assigned in class 30% Final Evaluation		

13年度以降	メディア英語 I	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will continue the focus on raising the ability of students to focus on current health issues in the USA through the use of the juicing as seen in Part One of the documentary, "Fat, sick and Nearly Dead". Students will be expected to make presentations, prepare questions for biweekly quizzes and submit homework on topics viewed in video sources focusing on nonverbal cues. Analysis involves the use of critical think skills that will be presented in class The use of email to submit homework is COMPULSORY. The contents of the course are subject to change.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Topic 1/Presentation of Video/ QUIZ questions 2. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 3. Topic 2/Presentation of Video/ QUIZ question 4. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 5. Topic 3/Presentation of Video/ QUIZ questions 6. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 7. Topic 4/Presentation of Video/ QUIZ questions 8. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 9. Topic 5/ Presentation. / QUIZ questions 10. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 11. Topic 6/ Presentation/ QUIZ questions. 12. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 13. Final Evaluation/Presentation of Video/ Final Evaluation questions 14. Final Evaluation & Review 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Reading the video scripts and preparing questions for verbal and non verbal items viewed in class. Weekly review of items discussed previously.		
テキスト	Prints of transcripts from video clips sent by email.		
参考文献	Fat, Sick and Nearly Dead reviews.		
評価方法	35% In-class performance 35% Continuous assessment based on quizzes, presentations and homework submitted by email as well as other tasks assigned in class 30% Final Evaluation		

13年度以降	メディア英語 I (水2)	担当者	関根 路代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、BBCニュースや<i>The Guardian</i>、<i>The New York Times</i>から厳選した素材をもとに、世界で起きている様々な出来事について学び、世界各国の文化や社会について知識を深めることを目的とする。</p> <p>授業はプレゼンテーション形式で進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Fake News 3. Brexit 4. SNS 5. Veganism 6. Tourism 7. The Olympics 8. Generation Z 9. AI 10. Paternity Leave 11. Gay Marriage 12. Terrorism 13. Home-Schooling 14. Whaling 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。		
テキスト	初回の授業にて指示する。		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業内での発表 (30%)、参加度 (20%)、課題 (20%)、レポート (30%) 出席は全体の 1/3 以上を欠席するとその時点で単位認定不能となります。		

13年度以降	メディア英語 I (月4)	担当者	A. ジェネス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Continuing from the Spring, the aim of this course is to further develop critical thinking skills and the critical literacy to deal with the wide variety of text types that we encounter in the media. Textbook units and articles will provide a platform to learn critical thinking skills and approach discussion topics. In addition, students will be expected to research current news topics related to class themes, and present them in class. At the end of the course, students will take part in a 'critical thinking case study' that will allow them to use the skills they have learned for a group presentation project.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction 2. Unit 6: Women in the workplace 3. Unit 6: Discussion 4. Unit 7: School on Saturdays 5. Unit 7: Discussion 6. Unit 8: Food Labeling 7. Unit 8: Discussion 8. Unit 9: Etiquette in the digital age 9. Unit 9: Discussion 10. Unit 10: Merit based pay 11. Unit 10: Discussion 12. Critical Thinking case study 13. Critical Thinking case study: Presentations 14. Final Class: course review 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need to read articles before attending class, research and present contemporary news topics, and write a final report.		
テキスト	Think smart: Critical Thinking in Critical Times. Michael Hood. ISBN 978-4-7647-4043-3		
参考文献	Provided in class.		
評価方法	Discussion participation 20%, Discussion reports 40%, Critical thinking case study 40%		

13年度以降	メディア英語 I	担当者	土川 孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、ツーリズムや航空業界に関する新聞や業界誌の英文記事を読み解くことによって、Reading力を養うと同時に、業界の最新の動向を学び、業界への理解を深めていくことを目的としています。</p> <p>期中に、業界の旬の話題である訪日観光客とLCCをテーマにした演習を行います。これは、授業で習得した業界の知識に基づき、全員がインターネットなどで情報を収集しながらテーマに沿った企画を策定し、それをグループで相互に発表し合う演習です。その後、各グループでディスカッションを行いグループの代表作品を決め、グループ対抗のプレゼンテーションを経て、全員の投票で最優秀作品を選びます。</p> <p>なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 (ガイドンス) 2. “Japan offers fun experiences” 3. “How to avoid tourist trouble in Japan” 4. “The travel industry now supports nearly 10% of world’s jobs” 5. “Five myths about women traveling solo” 6. “Travel tipping guide: Who gets what?” 7. 演習「訪日客インバウンド・ツアー企画」グループ・ディスカッション 8. 演習「訪日客インバウンド・ツアー企画」プレゼンテーション 9. “Five myths and facts about air travel” 10. “Southwest invested the budget airline” 11. “No-frills carriers: Revolution or evolution?” 12. “Secrets to flying without losing your mind” 13. 演習「LCCを使った海外旅行企画」グループ・ディスカッション 14. 演習「LCCを使った海外旅行企画」プレゼンテーション 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布されるプリントを十分予習してください。また、2回の演習時は予めそれぞれの企画を策定する宿題を出しますので、ディスカッションの日に提出できるようにしてください。		
テキスト	プリントを使用		
参考文献	都度、紹介		
評価方法	演習 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則 5回まで。		

13年度以降	メディア英語 I	担当者	土川 孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、ツーリズムや航空業界に関する新聞や業界誌の英文記事を読み解くことによって、Reading力を養うと同時に、業界の最新の動向を学び、業界への理解を深めていくことを目的としています。</p> <p>期中に、業界の旬の話題である訪日観光客とLCCをテーマにした演習を行います。これは、授業で習得した業界の知識に基づき、全員がインターネットなどで情報を収集しながらテーマに沿った企画を策定し、それをグループで相互に発表し合う演習です。その後、各グループでディスカッションを行いグループの代表作品を決め、グループ対抗のプレゼンテーションを経て、全員の投票で最優秀作品を選びます。</p> <p>なお、授業計画は、授業の進捗等の理由で多少変更することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 (ガイドンス) 2. “Japan offers fun experiences” 3. “How to avoid tourist trouble in Japan” 4. “The travel industry now supports nearly 10% of world’s jobs” 5. “Five myths about women traveling solo” 6. “Travel tipping guide: Who gets what?” 7. 演習「訪日客インバウンド・ツアー企画」グループ・ディスカッション 8. 演習「訪日客インバウンド・ツアー企画」プレゼンテーション 9. “Five myths and facts about air travel” 10. “Southwest invested the budget airline” 11. “No-frills carriers: Revolution or evolution?” 12. “Secrets to flying without losing your mind” 13. 演習「LCCを使った海外旅行企画」グループ・ディスカッション 14. 演習「LCCを使った海外旅行企画」プレゼンテーション 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布されるプリントを十分予習してください。また、2回の演習時は予めそれぞれの企画を策定する宿題を出しますので、ディスカッションの日に提出できるようにしてください。		
テキスト	プリントを使用		
参考文献	都度、紹介		
評価方法	演習 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%、欠席は原則 5回まで。		

13年度以降	メディア英語 I (金1)	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include "Hiroshima" (BBC) and "The Cove." As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.</p>		<p>1 Documentary (or article) #1</p> <p>2 Documentary (or article) #1</p> <p>3 Essay or Presentation #1</p> <p>4 Documentary (or article) #2</p> <p>5 Documentary (or article) #2</p> <p>6 Essay or Presentation #2</p> <p>7 Documentary (or article) #3</p> <p>8 Documentary (or article) #3</p> <p>9 Essay or Presentation #3</p> <p>10 Documentary (or article) #4</p> <p>11 Documentary (or article) #4</p> <p>12 Essay or Presentation #4</p> <p>13 Final preparation</p> <p>14 Final presentation, Self-evaluation</p>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約。配られた資料を予習。		
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.		
参考文献	特になし		
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

13年度以降	メディア英語 I (金1)	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories from around the world, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.</p> <p>Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.</p>		<p>1 Documentary (or article) #1</p> <p>2 Documentary (or article) #1</p> <p>3 Essay or Presentation #1</p> <p>4 Documentary (or article) #2</p> <p>5 Documentary (or article) #2</p> <p>6 Essay or Presentation #2</p> <p>7 Documentary (or article) #3</p> <p>8 Documentary (or article) #3</p> <p>9 Essay or Presentation #3</p> <p>10 Documentary (or article) #4</p> <p>11 Documentary (or article) #4</p> <p>12 Essay or Presentation #4</p> <p>13 Final preparation</p> <p>14 Final presentation, Self-evaluation</p>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約。配られた資料を予習。		
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.		
参考文献	特になし		
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

13年度以降	メディア英語 I (金2)	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories from around the world, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.</p> <p>Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.</p>		<p>1 Documentary (or article) #1</p> <p>2 Documentary (or article) #1</p> <p>3 Essay or Presentation #1</p> <p>4 Documentary (or article) #2</p> <p>5 Documentary (or article) #2</p> <p>6 Essay or Presentation #2</p> <p>7 Documentary (or article) #3</p> <p>8 Documentary (or article) #3</p> <p>9 Essay or Presentation #3</p> <p>10 Documentary (or article) #4</p> <p>11 Documentary (or article) #4</p> <p>12 Essay or Presentation #4</p> <p>13 Final preparation</p> <p>14 Final presentation, Self-evaluation</p>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約。配られた資料を予習。		
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.		
参考文献	特になし		
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

13年度以降	メディア英語 II	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on raising the ability of students to focus on current health issues in the USA through the use of the juicing as seen in Part Two of the documentary, "Fat, sick and Nearly Dead". Students will be expected to make presentations, prepare questions for biweekly quizzes and submit homework on topics viewed in video sources focusing on nonverbal cues. Analysis involves the use of critical think skills that will be presented in class The use of email to submit homework is COMPULSORY. The contents of the course are subject to change.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Topic 1/Presentation of Video/ QUIZ questions 2. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 3. Topic 2/Presentation of Video/ QUIZ question 4. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 5. Topic 3/Presentation of Video/ QUIZ questions 6. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 7. Topic 4/Presentation of Video/ QUIZ questions 8. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 9. Topic 5/ Presentation. / QUIZ questions 10. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 11. Topic 6/ Presentation/ QUIZ questions. 12. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 13. Final Evaluation/Presentation of Video/ Final Evaluation questions 14. Final Evaluation & Review 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Reading the video scripts and preparing questions for verbal and non verbal items viewed in class.. Weekly review of items discussed previously.		
テキスト	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		
参考文献	Fat, Sick and Nearly Dead reviews.		
評価方法	35% In-class performance 35% Continuous assessment based on quizzes, presentations and homework submitted by email as well as other tasks assigned in class 30% Final Evaluation		

13年度以降	メディア英語 II	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on raising the ability of students to focus on current health issues in the USA through the use of the juicing as seen in Part Two of the documentary, "Fat, sick and Nearly Dead". Students will be expected to make presentations, prepare questions for biweekly quizzes and submit homework on topics viewed in video sources focusing on nonverbal cues. Analysis involves the use of critical think skills that will be presented in class The use of email to submit homework is COMPULSORY. The contents of the course are subject to change.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Topic 7/Presentation of Video/ QUIZ questions 2. Quiz 7 Correction and Discussion of Answers 3. Topic 8 /Presentation of Video/ QUIZ question 4. Quiz 8 Correction and Discussion of Answers 5. Topic 9 Presentation of Video/ QUIZ questions 6. Quiz 9 Correction and Discussion of Answers 7. Topic 10 /Presentation of Video/ QUIZ questions 8. Quiz 10/Correction and Discussion of Answers 9. Topic 11/ Presentation. / QUIZ questions 10. Quiz 11/Correction and Discussion of Answers 11. Topic 12/ Presentation/ QUIZ questions. 12. Quiz 12/Correction and Discussion of Answers 13. Final Evaluation/Presentation of Video/ Final Evaluation questions 14. Final Evaluation & review 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Reading the video scripts and preparing questions for verbal and non verbal items viewed in class.. Weekly review of items discussed previously.		
テキスト	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		
参考文献	Fat, Sick and Nearly Dead reviews.		
評価方法	35% In-class performance 35% Continuous assessment based on quizzes, presentations and homework submitted by email as well as other tasks assigned in class 30% Final Evaluation		

13年度以降	メディア英語 II	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English II is designed for students whose English is at an advanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include "Hiroshima" (BBC) and "The Cove." As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English II course cannot take Media English I in the same year, and vice versa.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14 Final presentation, Self-evaluation 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約。配られた資料を予習。		
テキスト	Materials to be handed out in class weekly.		
参考文献	特になし		
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

13年度以降	メディア英語 II	担当者	関根 路代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、毎週、<i>The New York Times</i>から最新のニュース記事を読む。</p> <p>トピックは主として学生の興味・関心に応じて厳選する。加えて、日本に関する報道にも注目してみたい。</p> <p>授業はプレゼンテーション形式で進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. LGBTQ 3. Racism 4. Regulating SNS 5. Advertisement 6. College Life 7. Tokyo Olympics 8. Dark Tourism 9. AI 10. Fashion Industry 11. Vegan 12. Music & Politics 13. Child Soldier 14. National Defense 	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。		
テキスト	初回の授業にて指示する。		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業内での発表 (30%)、参加度 (20%)、課題 (20%)、レポート (30%) 出席は全体の 1/3 以上を欠席するとその時点で単位認定不能となります。		

13年度以降	メディア英語 II	担当者	E. ホフ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English II is designed for students whose English is from an upper intermediate to an advanced level. It will develop further from the Media English I course, looking at media from traditional forms and beyond. The aim of this course is to introduce students to English expressions and vocabulary commonly used in media related sources such as newspapers, magazines, and advertisements. There will be further exploration from these formats with examination of online sources, podcasts and the role of YouTube among others. The course text will serve as an anchor for studies and students will have the opportunity to research and discuss media forms that they find interesting through group discussion and class presentations.</p>		<p>Week 1: Course Introduction and Objectives Week 2: Unit 1: Newspapers Week 3: Unit 2: Radio Week 4: Unit 3: Magazines Week 5: Unit 4: Television Week 6: Midterm Week 7: Unit 5: Film Week 8: Unit 6: New Media Week 9: Unit 7: Advertizing Week 10: Unit 8: Marketing Week 11: Individual Presentations Week 12: Individual Presentations Week 13: Individual Presentations Week 14: Individual Presentations</p>	
到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	30 minutes should be set aside for reading before each class and homework will be assigned. Preparation for the final presentation will take more time.		
テキスト	Nick Ceramella and Elizabeth Lee. <i>Cambridge English for the Media</i> . Cambridge University Press		
参考文献	特になし		
評価方法	Midterm 20%, Individual presentation 30%, In-class quizzes 30%, Homework 20%		

13年度以降	シネマ英語	担当者	J. D. コーリス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Films of Steven Spielberg. This course will focus on the films of Steven Spielberg, examining the life and legacy of one of the most successful directors in American cinema history.</p> <p>Spielberg's works are closely linked with the rise of the Hollywood "blockbuster era". They span genres and generations and provide an engaging lens into broader sociocultural and economic trends. Students will practice analyzing the themes, aesthetics, innovations and historic relevance of Spielberg's films through screenings, in-class activities and small group discussions. In addition to viewing a selection from Spielberg's own films, we will examine the director's biography and compare materials from some of his influences, contemporaries, and successors. Key assignments include a short film review, and a movie poster presentation.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Greetings and Introduction 2. Creature Features (Jaws, Jurassic Park) 3. Style and Cinematography 4. Influences (John Ford; Alfred Hitchcock; Stanley Kubrick) 5. Action Adventure (Raiders of the Lost Ark, Hook) 6. The "Blockbuster Era" (George Lucas) 7. Sci-fi (E.T., Close Encounters of the Third Kind) 8. New Hollywood (Brian De Palma) 9. Contemporaries (Francis Ford Coppola; Martin Scorsese) 10. Themes and Inspiration 11. Historical and Period Dramas (Lincoln, Schindler's List, Saving Private Ryan) 12. Impact Today (J.J. Abrams, The Duffer brothers) 13. DreamWorks and DreamWorks Interactive 14. Student Poster Presentations 	
到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students prepare readings before class and write reviews and summaries of the films shown in class. Students write a short essay on a film of their choice and give a final presentation.		
テキスト	All materials will be provided in class.		
参考文献	Provided in class.		
評価方法	Classroom Participation 40%, Film Reviews 25%, Poster Presentation 25%, Homework 10%		

13年度以降	シネマ英語	担当者	J. D. コーリス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Villains in Film: This course will focus on villains and antagonists in film.</p> <p>The Joker and Batman, Darth Vader and Luke Skywalker, Lord Voldemort and Harry Potter; heroes are made by the villains they overcome. Antagonists are key to understanding the central themes and conflicts of a film, and great villains are often the most compelling characters in a story.</p> <p>We will review common villain tropes in literature and film and screen examples from a wide range of genres. Students will discuss and practice analyzing the themes and aesthetics of cinema villains with reference to the specific social and historic contexts that gave rise to some of the most memorable characters in movie history. Major assignments will include a short comparative essay and a final poster presentation.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Intro: Why a great villain is better than a great hero 2. Villain tropes in literature and film (Austin Powers) 3. Survival Instincts (Alien, The Lost Boys, Lake Placid) 4. Logic and Machines (2001, The Terminator, Ex Machina) 5. Authority and Domination (One Flew Over the Cuckoo's Nest, Harry Potter and the Order of the Phoenix) 6. Money and Corruption (Wall Street, There Will Be Blood) 7. Obsessed and Disturbed (Psycho, Fatal Attraction) 8. Chaotic, Inexplicable Evil (The Dark Knight, Halloween) 9. Sympathetic Villains (Jurassic Park, Godzilla) 10. Antiheroes (A Clockwork Orange, American Psycho) 11. The Devil Inside (Fight Club, Blade Runner) 12. Social Ills (Dawn of the Dead, Falling Down, Get Out) 13. Review: What makes a great villain? 14. Final Presentations 	
到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students prepare readings before class and write responses to the films shown in class. Students write a short critical essay and research and prepare a final presentation.		
テキスト	All materials will be provided in class.		
参考文献	Provided in class.		
評価方法	Classroom Participation 40%, Homework and Response Papers 20%, Comparative Essay 20%, Final Poster Presentation 20%		

13年度以降	シネマ英語	担当者	A. ジェネス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Continuing from Spring, the course focuses on “film and American culture”, and aims to examine American culture and society through film. Time will be spent in class watching and critically analyzing films, as a window onto American culture and society. The two themes for the autumn semester are: “The American dream” and “Social justice”, and we will watch films from a variety of genres in relation to these themes. Films will be show in class in English without subtitles. The films provided on the schedule are a tentative list and may be changed during the course.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course introduction / review 2. Theme 3: The American dream- Pleasantville 3. They live 4. The Founder (pt. 1) 5. The Founder (pt. 2) 6. American Beauty (pt. 1) 7. American Beauty (pt. 2) 8. Theme 4: Crime & Social Justice- 12 Angry Men 9. One flew over the Cuckoo’s nest 10. Taxi Driver (pt. 1) 11. Taxi Driver (pt. 2) 12. Philadelphia 13. RBG 14. Final Class: course review 	
到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will need to make a presentation about a film of their choice. There will be readings assigned and students need to write film reviews and reports for films shown in class.		
テキスト	All materials will be provided in class.		
参考文献	Provided in class.		
評価方法	Presentation 20%, Film reviews/ reports 50%, class participation 30%		

13年度以降	シネマ英語	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。前期の前半は、映画の誕生から今日に至るまでの歴史を振り返りながら、主としてアメリカ映画にみられるエスニシティとジェンダーに関する問題を扱います。履修人数にもよりますが、前期の後半はグループごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。</p>		<p>第1回 ガイダンス サイレントからトーキーへ 第2回 ミュージカル映画について 第3回 映画に見られるテーマと表現分析その1 第4回 テーマと表現分析その2 およびグループ・ワークシート作成 1 第5回 テーマと表現分析その3 およびグループ・ワークシート作成 2 第6回 テーマと表現分析その4 およびグループ・ワークシート作成 3 第7回 復習テストと発表テーマ確認 第8回 発表資料作成と内容チェック 第9回 発表資料作成と内容チェック 第10回 発表資料作成と内容チェック 第11回 学生プレゼンテーションとコメント 第12回 学生プレゼンテーションとコメント 第13回 学生プレゼンテーションとコメント 第14回 まとめと復習テスト</p>	
到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成		
テキスト	プリント配布		
参考文献	特になし		
評価方法	分析コメント30%、ワークシート20%、プレゼンテーション20%、テスト20%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。		

13年度以降	シネマ英語	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、主に英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、テーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。後期も主としてエスニシティとジェンダーに関する問題を扱いますが、取り上げる作品はアメリカ映画には限定しません。</p> <p>履修人数にもよりますが、後期の後半はグループごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。</p>		<p>第1回 ガイダンス 第2回 映画に描かれる日本人について 第3回 テーマと表現 分析その1 第4回 テーマと表現 分析その2 グループ・ワークシート作成 1 第5回 テーマと表現 分析その3 グループ・ワークシート作成 2 第6回 グループ・ワークシート作成 3 第7回 復習テスト プレゼンテーションのテーマチェック 第8回 発表資料作成と内容チェック 第9回 発表資料作成と内容チェック 第10回 発表資料作成と内容チェック 第11回 学生プレゼンテーションとコメント 第12回 学生プレゼンテーションとコメント 第13回 学生プレゼンテーションとコメント 第14回 まとめと復習テスト</p>	
到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成		
テキスト	プリント配布		
参考文献	特になし		
評価方法	分析コメント30%、ワークシート20%、プレゼンテーション20%、テスト20%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。		

13年度以降	シネマ英語	担当者	T. ダニー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This a one-semester, semi-elective course where the use of film and theatre and its analysis is central to the work undertaken in the classroom. Further, there will be opportunities for group discussion, practical workshops and presentations allowing the student to improve self-confidence and team work. Such a course will help sharpen the students listening, critical thinking and comprehension skills. Depending on the students level, English sub-titles (or no sub-titles) will be used.</p> <p>Overall Objectives:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide the students with an introduction to a range of film genres 2. To expose the student to a range of International accents, regional dialects, non-verbal communication and colloquial language 3. To enhance the student's critical thinking through teacher and student led discussion 4. To enable the student to develop their general confidence, team work and levels of self expression through the experience of practical exploration of the films themes, text and character 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction & Introductory activities 2. Introduction of 1st Film & Selected Viewing 3. 1st Film Follow-up Class Discussion 4. Introduction of 2nd Film & Selected Viewing 5. 2nd Film Follow-up Class Discussion 6. 2nd Film Script Workshop 7. Mid-Term Assignment: A Profile of an Actor 8. Introduction of 3rd Film & Selected Viewing 9. 3rd Film Follow-up Class Discussion 10. Introduction of 4th Film & Selected Viewing 11. 4th Film Follow-up Class Discussion 12. Film Dialogue & Script Writing: 1st steps 13. Mini Scripts: Presentations 14. Submission of Final Assignment: Film Review 	
到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read handouts & any other material shown in class and complete all assignments before beginning of the following class. After class, students are required to do all homework tasks set. Students can expect to spend about 90 minutes per week in preparation.		
テキスト	No textbook is required, instead, handouts and online material will be made available when		
参考文献	特になし		
評価方法	Final Grades will be based on: In-class Participation 20% Mid Term Presentation 30% Final Assignment 50%		

13年度以降	シネマ英語	担当者	T. ダニー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This a one-semester, semi-elective course where the use of film and theatre and its analysis is central to the work undertaken in the classroom. Further, there will be opportunities for group discussion, practical workshops and presentations allowing the student to improve self-confidence and team work. Such a course will help sharpen the students listening, critical thinking and comprehension skills. Depending on the students level, English sub-titles (or no sub-titles) will be used.</p> <p>Overall Objectives:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To provide the students with an introduction to a range of film genres 2. To expose the student to a range of International accents, regional dialects, non-verbal communication and colloquial language 3. To enhance the student's critical thinking through teacher and student led discussion 4. To enable the student to develop their general confidence, team work and levels of self expression through the experience of practical exploration of the films themes, text and character 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction & Introductory activities 2. Introduction of 1st Film & Selected Viewing 3. 1st Film Follow-up Class Discussion 4. Introduction of 2nd Film & Selected Viewing 5. 2nd Film Follow-up Class Discussion 6. 2nd Film Script Workshop 7. Mid-Term Assignment: A Profile of an Actor 8. Introduction of 3rd Film & Selected Viewing 9. 3rd Film Follow-up Class Discussion 10. Introduction of 4th Film & Selected Viewing 11. 4th Film Follow-up Class Discussion 12. Film Dialogue & Script Writing: 1st steps 13. Mini Scripts: Presentations 14. Submission of Final Assignment: Film Review 	
到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Read handouts & any other material shown in class and complete all assignments before beginning of the following class. After class, students are required to do all homework tasks set. Students can expect to spend about 90 minutes per week in preparation.		
テキスト	No textbook is required, instead, handouts and online material will be made available when		
参考文献	特になし		
評価方法	Final Grades will be based on: In-class Participation 20% Mid Term Presentation 30% Final Assignment 50%		

13年度以降	国際ツーリズム論	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ツーリズムによる国際的な人間の流動は、経済・社会・文化の幅広い領域に関する複合的な現象である。本講義では、ツーリズム全般に関する基礎的な事象や概念を学び、個別のツーリズム関連産業や観光地について理解するために必要な知識や視座を習得する。</p> <p>講義では、まずツーリズムに関する基礎的な用語や概念について解説し、次に現代ツーリズムを支える諸産業・メディアについて概説する。その上で、ツーリズムが地域社会に与える経済的、社会的・文化的影響について学ぶ。ゲストスピーカーによる授業を行うこともある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：なぜツーリズムを学ぶのか？ 2. ツーリズムとは何か：諸概念の整理 3. ツーリズムの歴史 4. ツーリズムを支える諸産業①：交通と宿泊 5. ツーリズムを支える諸産業②：旅行業 6. ツーリズムと情報／メディア 7. ツーリストのまなざし論 8. ツーリストと観光行動 9. ツーリズムとオーセンティシティ 10. ツーリズムの経済効果 11. ツーリズムの社会的文化的インパクト 12. ツーリズムの環境へのインパクト 13. 日本における観光政策史 14. 観光地計画と観光政策の現在 	
到達目標	国際ツーリズムに関して専門知識を習得し、経済、社会、文化、教育、環境などの分野における影響や変化について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内の指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	前田勇編著『新現代観光総論』学文社 大橋昭一ほか編『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版		
評価方法	授業への参加／講義内小課題 30% 期末試験 70%		

16年度以降	国際ツーリズム各論	担当者	増田 由香子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「アメリカの国立公園と環境教育」</p> <p>アメリカの国立公園は国内外から多くのビジターが訪れる人気の観光スポットです。全米で400カ所以上ある公園には800カ所以上のビジターセンターや魅力的なレンジャープログラムがあり、ハード面のみならずソフト面のコンテンツが充実しています。</p> <p>また、国立公園は観光のみならず、アメリカの貴重な「自然・文化・歴史資源の保護保全」の役割を担っており、「環境教育」や「インタープリテーション（地域の自然・歴史・文化と人との橋渡し）」の重要な現場でもあります。</p> <p>本講義ではアメリカの国立公園の歴史、組織の理念やしぐみ、環境教育とインタープリテーションについての概念や基礎知識を理解・習得し、なぜ国立公園が「America's best idea」と称されるのか、課題やグループディスカッション等を通して考察します。履修者の主体的な授業への参加が求められます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション&オリエンテーション 2. アイスブレイキング、国立公園の歴史①公園の始まり 3. 国立公園の歴史②大きな影響を与えた人々 4. 国立公園の歴史③1950年代以降のムーブメント 5. 国立公園の理念と組織 6. 国立公園の魅力と特徴①イエローストーンとヨセミテ 7. 国立公園の魅力と特徴②グランドキャニオンとメサベルデ 8. 国立公園の魅力と特徴③その他の公園ユニット 9. 中間の課題プレゼンテーション、日本の国立公園 10. 環境教育とは？インタープリテーションとは？ 11. 国立公園におけるEEとIP 12. 国立公園のブランディングとエコツーリズム 13. 国立公園の課題と展望 14. 講義全体のまとめと期末の課題について 	
到達目標	「国際ツーリズム論」で得た知見を深め、国際ツーリズムにおける諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト	授業内で適宜資料を配付します。		
参考文献	授業中に適宜示します。		
評価方法	平常点 50%（授業への参加度、受講姿勢、毎回のふりかえりシート）、中間課題 20%、期末の課題 30% 第1回目の授業において注意点等を説明します。5回以上の欠席は原則として評価の対象となりません。		

16年度以降	世界ブランド論	担当者	工藤 和宏 (コーディネーター)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちの暮らす社会では、いつの時代にも言語、宗教、国境の壁を越え、世界の人々を魅了するモノや文化が生み出されてきました。こうした世界の人々に憧れられ、愛され続けてきたものを、私たちは「世界ブランド」として認知しています。</p> <p>本講義では英語学科教員がリレー形式で、さまざまな分野の「世界ブランド」の創生、興亡の物語を論じていきます。一般的に「ブランド商品」として知られている宝飾品、ファッションに加え、アニメーション、音楽、食文化、学術の世界で世界ブランド化した人物や企業などに注目し、その独創的なアイデアと戦略、成功と苦難の過程を学びます。今日急速に進展するグローバル化の現象は、国境と文化を超えた新たなブランドの創造過程でもあります。「世界ブランド」の考察を通して、われわれが暮らす現代世界の真相に迫ります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ブランドの誕生①：Lヴィトン、ティファニー、トワイニング 2. ブランドの誕生②：ファッション、ツーリズム、エアライン、ホテル 3. ロック・ミュージックのブランド①：The Beatles 4. ロック・ミュージックのブランド②：Bob Dylan 5. 広告コミュニケーション①：香水のブランド戦略 6. 広告コミュニケーション②：PCのブランド戦略 7. 世界を席卷する飲食ブランド①：ファーストフード文化 8. 世界を席卷する飲食ブランド②：カフェ文化 9. セシル・ローズ①：ダイヤモンド・デビアス社 10. セシル・ローズ②：ローズ奨学金 11. 学歴というブランド：世界大学ランキング 12. アニメとブランド①：ディズニー映画 13. アニメとブランド②：ジブリ映画 14. 総括 	
到達目標	選択したコースでは学ぶことができない世界ブランドに関する専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各担当教員が紹介する文献等の講読		
テキスト	指定しない。		
参考文献	各担当教員が紹介する文献		
評価方法	各担当教員による小テスト（合計7回）の成績を集計して、総合評価を決定する。		

16年度以降	ポップカルチャー・スタディーズ	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ウォルト・ディズニーおよび彼が興したエンターテインメント企業は、後世に残る数々のアニメ映画作品を世に送り出してただけでなく、それらを核として、壮大なディズニー文化を築いてきた。これは、いまやアメリカの（そして日本を含めた世界の）ポップカルチャーを語る上では避けて通ることのできないものである。</p> <p>この授業では、スタジオの黎明期から、66年にウォルトが死去するまでの、ディズニー映画の歴史をたどりながら、その文化の諸相を、スケプティカルな視点から考察していくものとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ミッキーマウス以前 3. 初の長編アニメーションへの挑戦 4. 『白雪姫』長編映画のための新技術 5. 『ピノキオ』『ファンタジア』 6. 『ダンボ』『ピノキオ』 7. 労働争議とスタジオ接収と戦時協力映画 8. 戦後のオムニバス映画 9. 『シンデレラ』 10. 『アリス』『ピーターパン』『わんわん物語』 11. 実写映画、テレビ、テーマパーク 12. 『眠れる森の美女』『101匹わんちゃん』 13. 『王様の剣』 14. まとめ 	
到達目標	選択したコースでは学ぶことができないポップカルチャーに関する専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	扱われる映画作品をできる限り予め視聴しておくこと。また、20世紀のアメリカ史について、基本的事項を繰り返し確認しておくこと。授業後は十分な復習が必要である。凡そ4時間の学修時間になる。		
テキスト	なし		
参考文献	授業中適宜紹介する		
評価方法	欠席回数が4回までの受講者を評価対象とし、期末試験の成績で評価する。		

16年度以降	フィルム・スタディーズ	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ディズニー映画の好き嫌いを問うと、多くの学生が「好き」という答えを返してくれる。しかし、さらにその理由を問うと、キャラクターが「かわいいから」という表面的な思いをこえた考えが聞き出せないこともまた多い。この授業では、20世紀半ばから現在までに公開されたディズニーのアニメ映画―主として「ディズニー・クラシックス」と称される一連の長編映画―を、さまざまな変化や、背景にあるものを考えながら辿っていく。受講者には、例えばシンデレラとラプンツェルを比較しアカデミックなコメントができる基礎知識とスケプティカルな姿勢を身に付けて欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 暗黒の時代→経営交代と新生ディズニーの発足 3. ディズニーの第2黄金期（メンケンとアシュマン） 4. 再びの低迷期から、再びのルネッサンスへ 5. 本を読む女の子、戦う女の子：『ムーラン』他 6. 先住民の問題『ピーター』から『ポカホンタス』へ 7. 種や身分を超えた愛①『わんわん物語』 8. 種や身分を超えた愛②『リトル・マーメイド』 9. 種や身分を超えた愛③『ポカホンタス』 10. 種や身分を超えた愛④『ヘラクレス』 11. 種や身分を超えた愛⑤『ラプンツェル』 12. 友愛、家族愛、慈愛①『美女と野獣』『アナ雪』 13. 友愛、家族愛、慈愛②『ノートルダムの鐘』 14. まとめ 	
到達目標	選択したコースでは学ぶことができない映画などに関する専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	扱われる映画作品をできる限り予め視聴しておくこと。また、20世紀のアメリカ史について、基本的事項を繰り返し確認しておくこと。授業後は十分な復習が必要である。凡そ4時間の学修時間になる。		
テキスト	なし		
参考文献	授業中適宜紹介する		
評価方法	欠席回数が4回までの受講者を評価対象とし、期末試験の成績で評価する。		

16年度以降	海外留学と国際理解	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【本講義は、原則として英語で行います。教材・資料の約9割は英語、約1割は日本語です。アクティブ・ラーニングの手法を用いますので、活発な授業参加が必須です。】</p> <p>This course is designed to help students to generate both a concrete and conceptual understanding of studying at a foreign university. Grounded in recent scholarship in educational and intercultural studies, this course provides students with opportunities to <i>reflect</i> on their recent or future study abroad experience and to <i>develop</i> further their intercultural competence through many collaborative activities. Topics to be covered include: goals and motivation; academic challenges; making local friends; discrimination; identity and agency; personal growth; life after study abroad; and Japanese universities in the global context.</p> <p>This course is highly recommended to students who have already studied at a foreign university or students who have a keen interest in study abroad. The workload is heavy and comparable to international standards.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to course 2. Why study abroad? 3. The Colonial Student in the 21st century 4. Different cultures of learning 5. Bioecological model of human development 6. Culture shock and adjustment 7. Study abroad as self-formation 8. Intercultural relationship development 9. Prejudice and discrimination 10. Intercultural competence and employability 11. Life after study abroad 12. Group presentation 13. Tips for writing up 14. Wrap-up <p>【リーディング、ライティング、ディスカッション、プレゼンテーションなど、こなさなければならない課題は多いですが、(世界で通用する)高度な学力・英語力を身につけるための「通過点」として本講義をご利用いただければ幸いです。】</p>	
到達目標	選択したコースでは学ぶことができない海外留学と国際理解に関する専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 10 or more journal articles, to write weekly essays, and to work closely with other students to complete tasks, including group research.		
テキスト	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)		
参考文献	To be introduced by the instructor		
評価方法	Group research presentation 30%, group research paper 30%, weekly essays 30%, and contribution to the class 10%		

16年度以降	Global Studies 1	担当者	E. ホフ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will examine the projection of Japanese culture internationally, perspectives from within Japan and their interpretations.</p> <p>A focus will be on youth culture and how young people interact with content from Japan around the world.</p> <p>The nation maintains a global image with products ranging from the more traditional cars, and electronic to the more contemporary manga, and video games.</p> <p>How are these images received and what lies beyond consumer materials for offer?</p> <p>Topics will be explored in class through small group and classroom wide discussion. Contemporary articles will be provided to base discourse and students will have a chance to present their own perspectives on Japan and the world to the class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> Week 1: Course Introduction and Objectives Week 2: Things Japanese - Products and Machines Week 3: Western Culture and Japan Week 4: Fashion - Traditional and Modern Week 5: Food Culture Week 6: Sports and the Olympics Week 7: J-Pop and Music in Japan Week 8: Academic Article Review Week 9: The Changing Face of Video Games Week 10: Migration and Movements of People Week 11: Individual Presentations Week 12: Individual Presentations Week 13: Individual Presentations Week 14: Individual Presentations 	
到達目標	選択したコースでは学ぶことができない世界情勢に関する講義を英語で受け、専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	30 minutes should be set aside for reading before each class and homework will be assigned. Preparation for the final presentation will take more time.		
テキスト	Handouts to be provided by instructor		
参考文献	特になし		
評価方法	Group presentation 20%, Individual presentation 30%, In-class quizzes 30%, Homework 20%		

16年度以降	Global Studies 2	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Prejudice and Discrimination in Contemporary Japan 【本科目を受講するためには、最低でも TOEFL-iBT61 以上、TOEFL-ITP500 以上、IELTS6.0 以上、TOEIC700 以上、実用英語技能検定英検準 1 級以上の英語力が必要です。】 This course is designed to help students to develop both a concrete and conceptual understanding of prejudice and discrimination in contemporary Japan. Drawing on the literature of intercultural/intergroup contact, this course provides students with opportunities to <i>feel</i> the world of persons who are subjected to prejudice as well as to <i>analyse</i> its psycho-social dimensions. Students are also invited to the world of the ‘Human Library’, in which they will listen informally to people susceptible to prejudice in society (e.g. people with disabilities, sexual minorities, refugees, disaster victims) in order to gain different perspectives on prejudice and life in general. This course is highly recommended to students who want to (re)discover Japan from a co-cultural perspective and with global implications, and more importantly, to discover their unknown self through dialogue.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Getting better acquainted 3. (Post-)multicultural perspective of Japan 4. The nature of prejudice and discrimination 5. Case study 1: Coming out in Japan 6. Case study 2: Adjunct instructors of English in Japan 7. The reduction of prejudice 8. Theory of listening 9. Anti-discrimination strategies 1: Human Library 10. Anti-discrimination strategies 2: Blue Eyes/Brown Eyes 11. (Anti-)multiculturalism in Japan 12. Group presentation 13. Tips for writing up 14. Wrap up <p>* This course will be taught in English. The workload is heavy and comparable to international standards.</p>	
到達目標	選択したコースでは学ぶことができない世界情勢に関する講義を英語で受け、専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 10 or more journal articles, to write weekly essays, and to work closely with other students to complete tasks, including group research.		
テキスト	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)		
参考文献	To be introduced by the instructor		
評価方法	Group research presentation 30%, group research paper 30%; weekly essays 30%, and contribution to the class 10%		

16年度以降	Global Studies 3	担当者	J. D. コーリス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Culture, Games and Play: This course will examine the role of play and games in different times, places, and cultures of the world.</p> <p>True cultural universals are surprisingly rare, but play is one. All cultures exhibit some form of play. Historian Johan Huizinga goes so far as to say play <u>precedes</u> culture. Animals play, though kittens wrestling is probably not as bursting with meaning as most forms of human play. We use games and play to relax, but also to socialize, to make meaning, to learn and compete and even to negotiate our ideals and values.</p> <p>In this class students will survey examples of games and types of play from around the world, with an emphasis on the sociocultural, economic, and historic dimensions that make games and play such a rich and diverse domain of human experience. Key assignments will include a short review essay and a final project in which students design an original game prototype.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Welcome and Introduction: Why do we play games? 2. The Importance of Play 3. Huizinga and the “Magic Circle” 4. Play and Competition 5. Caillois: Games vs. Play 6. Games of Chance and Agency 7. Games of Strategy and War 8. Midterm Reviews 9. The Balinese Cockfight 10. Party and Drinking Games 11. Euro- vs. American-style Tabletop games 12. Collectible Card Games and Commerce 13. Where do <i>videogames</i> belong? 14. Student Presentations 	
到達目標	選択したコースでは学ぶことができない世界情勢に関する講義を英語で受け、専門知識を習得し、分析等を行い、見解等を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students prepare homework and assigned readings before class. Students write a midterm essay and prepare a final project throughout the semester.		
テキスト	All materials will be provided in class.		
参考文献	Provided in class.		
評価方法	Classroom Participation 40%, Homework 20%, Critical Essay 20%, Final Project 20%		

13年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英国スパイ・アクション映画のブランド「007」シリーズを、鑑賞しながら、授業を進めます。テキストを併用し、情報もしっかりと獲得します。</p> <p>このスパイ映画に登場する世界の主要都市、世界のブランド、そして当時の国際関係を解説します。ポイントは、インテリジェンスの視点から世界を眺めることです。</p> <p>スパイ映画「007」シリーズは、1960年代初めにリリースされて以来、「いま」にいたる50年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。</p> <p>映画の中では、イギリスが世界に誇る多くのブランド品が登場します。ブランド品にも注目して、解説を行います。“世界ブランド論”の授業の一翼を担います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 スパイ映画「007 スカイフォール」研究 前 2 スパイ映画「007 スカイフォール」研究 後 3 機密ファイルの争奪戦、国際サイバー戦争 4 国際メディア戦争 上 (南シナ海) 5 国際メディア戦争 下 (南シナ海) 6 ミサイル誘導マシンの争奪戦 上 (地中海) 7 ミサイル誘導マシンの争奪戦 下 (地中海) 8 暗号解読マシンの争奪戦 上 (ロシア) 9 暗号解読マシンの争奪戦 下 (ロシア) 10 ダイヤモンド取引のコントロール (ヨーロッパ) 11 「金」ゴールド取引のコントロール (アメリカ) 12 スパイ映画「007」と冷戦時代 13 原作者 イアン・フレミングの世界 14 ミュージカル映画「チキ・チキ・パン・パン」 	
到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画・パワーポイント資料の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。		
テキスト	『グローバル社会論資料集』		
参考文献	授業中にお知らせします。		
評価方法	評価方法は期末テスト80%。小テスト20%です。		

13年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英国スパイ・アクション映画のブランド「007」シリーズを、鑑賞しながら、授業を進めます。テキストを併用し、情報もしっかりと獲得します。</p> <p>このスパイ映画に登場する世界の主要都市、世界のブランド、そして当時の国際関係を解説します。ポイントは、インテリジェンスの視点から世界を眺めることです。</p> <p>スパイ映画「007」シリーズは、1960年代初めにリリースされて以来、「いま」にいたる50年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。</p> <p>映画の中では、イギリスが世界に誇る多くのブランド品が登場します。ブランド品にも注目して、解説を行います。“世界ブランド論”の授業の一翼を担います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 スパイ映画「007 スカイフォール」研究 前 2 スパイ映画「007 スカイフォール」研究 後 3 機密ファイルの争奪戦、国際サイバー戦争 4 国際メディア戦争 上 (南シナ海) 5 国際メディア戦争 下 (南シナ海) 6 ミサイル誘導マシンの争奪戦 上 (地中海) 7 ミサイル誘導マシンの争奪戦 下 (地中海) 8 暗号解読マシンの争奪戦 上 (ロシア) 9 暗号解読マシンの争奪戦 下 (ロシア) 10 ダイヤモンド取引のコントロール (ヨーロッパ) 11 「金」ゴールド取引のコントロール (アメリカ) 12 スパイ映画「007」と冷戦時代 13 原作者 イアン・フレミングの世界 14 ミュージカル映画「チキ・チキ・パン・パン」 	
到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画・パワーポイント資料の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。		
テキスト	『グローバル社会論資料集』		
参考文献	授業中にお知らせします。		
評価方法	評価方法は期末テスト80%。小テスト20%です。		

13年度以降	グローバル社会論 b	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあつて、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。現在の国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか。本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自グローバル社会を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。</p> <p>なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週のグローバル・イシューズ」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心を喚起したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 行為主体 (1) 主権国家、主権国家体制 3 行為主体 (2) 国際組織 4 行為主体 (3) NGO、多国籍企業 5 地域主義・地域協力 (1) ヨーロッパ統合の歩み 6 地域主義・地域協力 (2) ASEAN 7 戦争と平和 (1) 戦争、勢力均衡、同盟 8 戦争と平和 (2) レジーム、制度、規範 9 戦争と平和 (3) 予防外交、人道的介入、平和構築 10 人間の安全保障 11 グローバリゼーションとは何か 12 グローバル・イシューズ (1) 貧困 13 グローバル・イシューズ (2) 地球環境問題 14 グローバル・イシューズ (3) 人権、民主化 	
到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	日頃から国際問題に関する新聞・雑誌記事、インターネットニュースを読むように努めてください。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	参考文献を適宜紹介する。		
評価方法	平常点 (コメント点) 20%、試験 80%		

13年度以降	グローバル社会論 b	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあつて、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。現在の国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか。本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自グローバル社会を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。</p> <p>なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週のグローバル・イシューズ」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心を喚起したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 行為主体 (1) 主権国家、主権国家体制 3 行為主体 (2) 国際組織 4 行為主体 (3) NGO、多国籍企業 5 地域主義・地域協力 (1) ヨーロッパ統合の歩み 6 地域主義・地域協力 (2) ASEAN 7 戦争と平和 (1) 戦争、勢力均衡、同盟 8 戦争と平和 (2) レジーム、制度、規範 9 戦争と平和 (3) 予防外交、人道的介入、平和構築 10 人間の安全保障 11 グローバリゼーションとは何か 12 グローバル・イシューズ (1) 貧困 13 グローバル・イシューズ (2) 地球環境問題 14 グローバル・イシューズ (3) 人権、民主化 	
到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択してグローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	日頃から国際問題に関する新聞・雑誌記事、インターネットニュースを読むように努めてください。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	参考文献を適宜紹介する。		
評価方法	平常点 (コメント点) 20%、試験 80%		

13年度以降	英語圏の国際関係 a	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、オーストラリアの歴史をイギリスの植民地時代から第二次世界大戦終結時まで振り返り、現代オーストラリア理解の一助とすることである。</p> <p>多くの日本人が観光客、留学生として訪問し、また経済的にも日本と繋がりが深い国でありながら、オーストラリアがどのような歴史をたどってきたのかを知る者はおどろくほど少ないのが現状である。また知りたいと思っても、日本では情報がそもそも少なく、オーストラリアを知る機会はおのずと限られてしまっている。</p> <p>本講義では、イギリス人が18世紀後半に入植してから、6つの植民地がそれぞれ発展を遂げ、それが1901年にオーストラリア連邦として独立し、そして20世紀前半の二つの世界大戦を経験するまでの、オーストラリアの歴史を、イギリス（英帝国、英連邦）やアメリカ、アジア地域（日本や中国、東南アジア）との関係の中で振り返っていく。</p> <p>本講義ではアウトラインを提示したレジメを配付する。なお2回程度、理解度確認テストを実施する予定。</p>		<p>第1回：イントロダクション～オーストラリアを学ぶ意義</p> <p>第2回：植民地オーストラリア①～植民地の誕生</p> <p>第3回：植民地オーストラリア②～植民地の発展</p> <p>第4回：大英帝国・英連邦とオーストラリア① ～英帝国のなかのオーストラリア</p> <p>第5回：大英帝国・英連邦とオーストラリア② ～英連邦、コモンウェルスのなかのオーストラリア</p> <p>第6回：ゴールドラッシュと白豪主義政策</p> <p>第7回：講義前半の総括と質疑応答</p> <p>第8回：多文化主義社会オーストラリア</p> <p>第9回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア ～「二つのナショナリズム」</p> <p>第10回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とアンザック精神</p> <p>第11回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とオーストラリア国内社会</p> <p>第12回：第二次世界大戦～アジア国際関係と黄禍論</p> <p>第13回：2つの捕虜収容所～アンボンとカウラ</p> <p>第14回：総括と質疑応答</p>	
到達目標	英語圏の国際関係に関して専門知識を習得し、歴史的背景を踏まえながら英語圏諸国の国際関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業終了10分前に当日の授業の整理をおこなうので、それをもとに復習し、疑問点があれば、まとめておくこと。授業開始後10分程度で、前回の授業のレビューをおこなうので、確認すること。		
テキスト	永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007年。		
参考文献	講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布。		
評価方法	不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と試験（70%）による評価。		

13年度以降	英語圏の国際関係 b	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本にとって、オーストラリアとの関係は極めて重要である。石炭・天然ガス・鉄鉱石など天然資源の供給地として、民主主義・人権など政治的価値観を共有する国家として、さらにはインド太平洋における安全保障協力のパートナーとして、オーストラリアは日本にとって重要な国家である。</p> <p>それにも関わらず、観光地としてのイメージはあっても、私たちのあいだでオーストラリアに対する全般的理解は浅い。本講義では、戦後のアジア太平洋国際関係においてオーストラリアがどのような外交を展開してきたのかを概観し、受講者には21世紀の国際関係において日本が学ぶべきものは何かを考えてもらいたい。</p> <p>本講義では、第二次世界大戦後のオーストラリアの外交・安全保障を中心に見ていく。オーストラリアは、第二次世界大戦を契機に、イギリスからアメリカ合衆国へと自らの安全保障の拠り所を変換させ、さらに日本を含めたアジア諸国との関係を深化させていった。こうした流れに沿いながら、オーストラリア外交の歴史を概観していく。</p> <p>本講義ではアウトラインを提示したレジメを配付する。なお2回程度、理解度確認テストを実施する予定。</p>		<p>第1回：イントロダクション～オーストラリア外交を見る眼</p> <p>第2回：チフリー労働党政権の外交～新たな国際関係構築の模索</p> <p>第3回：アンザス同盟の実現</p> <p>第4回：冷戦下のアジア① ～中国誕生、マラヤ暴動、朝鮮戦争、第一次インドシナ危機</p> <p>第5回：冷戦下のアジア② ～イギリスのアジアの戦争「対決政策」</p> <p>第6回：冷戦下のアジア③ ～アメリカのアジアの戦争「ベトナム戦争」</p> <p>第7回：講義前半の総括と質疑応答</p> <p>第8回：ポストベトナムのオーストラリア外交</p> <p>第9回：冷戦末期から冷戦後のオーストラリア外交 ～オーストラリアの「アジア化」</p> <p>第10回：ミドルパワー外交①その定義</p> <p>第11回：ミドルパワー外交②その実践</p> <p>第12回：日豪関係の歴史的展開①戦後貿易の再開</p> <p>第13回：日豪関係の歴史的展開②戦略的パートナーシップへ</p> <p>第14回：21世紀オーストラリア外交の行方&質疑応答</p>	
到達目標	英語圏の国際関係に関して専門知識を習得し、歴史的背景を踏まえながら英語圏諸国の国際関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業終了10分前に当日の授業の整理をおこなうので、それをもとに復習し、疑問点があれば、まとめておくこと。授業開始後10分程度で、前回の授業のレビューをおこなうので、確認すること。		
テキスト	永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007年。		
参考文献	講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布。		
評価方法	不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と試験（70%）による評価。		

13年度以降	グローバル・ヒストリー a	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦 (The Cold War)」の展開を考察する。</p> <p>春 semester では、ヨーロッパ、地中海周辺地域、アフリカにおける米ソ冷戦の展開とヨーロッパ諸国の冷戦政策に加え、西ヨーロッパ諸国による脱国家的な地域統合（今日の欧州連合）の試み、イギリス、フランス等のヨーロッパ諸国の帝国の解体・脱植民地化と冷戦の関連について考察する。また、国際機関や NGO、市民運動による国際的、またはトランスナショナルな連帯がヨーロッパの冷戦の進展、変容、終焉に及ぼした影響にも注目する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 第二次世界大戦の展開：大戦の起源・展開 3 欧州冷戦の起源 4 欧州分断体制（1）：マーシャル計画、NATO 5 欧州分断体制（2）：西欧統合、ジュネーブ首脳会談 6 「危機の時代」の米ソ関係とヨーロッパ 7 ヨーロッパ植民地支配の終焉：アフリカ 8 冷戦構造の多極化とデタント 9 米ソ・デタントとヨーロッパ・デタント 10 デタントの崩壊 11 新冷戦とヨーロッパ 12 冷戦の終焉（1）：ゴルバチョフ、東欧革命 13 冷戦の終焉（2）：ドイツ統一、ソ連崩壊 14 冷戦後のヨーロッパ：民主化、市場経済化 	
到達目標	グローバル社会の歴史に関する専門知識を習得し、その背景事情、および未来の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献の講読		
テキスト	指定しない。		
参考文献	初回講義で参考文献リストを配布する。		
評価方法	平常点（コメント点）20%、試験 80%		

13年度以降	グローバル・ヒストリー b	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦 (The Cold War)」の展開を考察する。</p> <p>秋 semester では、アジア・中東における米ソ冷戦、米中対立の展開のほか、日本および欧米諸国のアジア、中東における帝国解体とそれに伴う第三世界諸国による世界大での独立戦争、非同盟・中立運動、また、70年代以降のアジア国際関係の構造転換・地域紛争、経済発展、民主化などについて議論する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 第二次世界大戦の展開：日中戦争、日米戦争 3 大戦の終結と占領：日本帝国の解体 4 朝鮮戦争とアジア国際秩序の変容 5 脱植民地化（1）：南アジア、東南アジア 6 脱植民地化（2）：中東 7 非同盟・中立運動 8 アジア冷戦における中ソ対立 9 ベトナム戦争 10 米中和解 11 1970年代の地域紛争 12 新冷戦とアジア 13 経済発展と民主化 14 冷戦の終焉とアジア 	
到達目標	グローバル社会の歴史に関する専門知識を習得し、その背景事情、および未来の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献の講読		
テキスト	指定しない。		
参考文献	初回講義で参考文献リストを配布する。		
評価方法	平常点（コメント点）20%、試験 80%		

13年度以降	国際開発論（世界のエアライン・ホテル）	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、「国際」と「開発」をキーワードに、エアライン、ホテル、リゾートなどツーリズム産業を扱います。</p> <p>シンガポールでは、強力な政府が国策会社テマセクを設立し、シンガポール航空、ラッフルズ・ホテル、有力な民間企業の大半を傘下に置いてきました。小国シンガポールが生き延び、そして豊かな先進国として成長し続けるために、国家主導で開発政策を導入したのです。</p> <p>常に顧客のニーズを考え、誰にも負けない比較優位を実現することで、シンガポール航空は世界ナンバーワン・クラスのエアラインへと飛躍しました。</p> <p>ビデオ映像、パワーポイント資料を活用し、テキストを使用しながら授業を進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 エアラインの歴史 JALとANA 2 世界のエアライン アジア系 シンガポール航空 3 世界のエアライン 中東系 エミレーツ航空 4 世界のエアライン ヨーロッパ系 5 世界のエアライン 新興国の挑戦 6 世界のエアライン 国力と国家サイズ 国際比較 7 海洋リスク パイレーツ問題の発生 8 海洋リスク パイレーツ問題への対処 9 海洋リスク パイレーツ問題への国際協力 10 小さなスイスが「観光大国」へ変身、その謎を解く 11 世界のホテル アメリカ系・カナダ系 12 世界のホテル アジア系 13 世界のホテル 国際比較 14 日本のツーリズム：JTB、国際観光ホテル、東京近代化にみるツーリズム開発戦略 	
到達目標	国際開発に関して専門知識を習得し、開発途上国が直面する課題とその解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画・パワーポイント資料の時代背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。		
テキスト	竹田いさみ『世界を動かす海賊』（ちくま新書）など。		
参考文献	授業中にお知らせします。		
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。		

13年度以降	国際協力論	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、開発途上国の開発をめぐる国際協力を中心に、その歴史、仕組み、変化、課題を検討します。講義は3つのシリーズから構成されます。</p> <p>第1の「国際協力の歴史」では、植民地期から現在までを時代ごとに区分し、それぞれの時期の国際協力の特徴を多面的に描きながら、その変化を捉えます。</p> <p>第2の「開発途上国の開発と国際協力」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けたうえで、それを後押ししてきた国際援助のあり方とその影響について考えます。</p> <p>第3の「グローバル化時代の開発と国際協力」では、グローバル化時代の特徴・影響や開発のトレンドを探りつつ、MDGsなどを例に新たな開発と国際協力の方向性について検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：国際協力、国際開発、開発援助 ＜国際協力の歴史＞ 2. 開発の格差を生んだ要因：植民地支配 3. 欧米諸国の植民地政策とその功罪 4. 日本の植民地支配と戦後の国際協力 5. 冷戦期の国際関係と国際協力 6. ポスト冷戦時代の国際協力 ＜開発途上国の開発と国際協力＞ 7. 経済開発の基本形と途上国の実態 8. 工業化の段階と国際協力 9. 高度経済成長の要因と弊害 10. 高度成長の弊害としての貧富の格差（中国） 11. 経済格差の社会・文化的要因（カースト制度） ＜グローバル化時代の開発と国際協力＞ 12. グローバル化時代の特徴と開発協力 13. グローバル化がもたらす開発途上国への影響 14. 新たなテーマとMDGs / SDGs 	
到達目標	国際協力に関して専門知識を習得し、国際協力に関連した事例、および国際協力の実態や新たな展開などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるため、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。		
テキスト	授業ごとに配布するレジュメ資料を使用します。特定の文献をテキストとして指定することはしません。		
参考文献	講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。		
評価方法	学期末試験の成績をもとに評価を行います。		

13年度以降	国際交流論	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の狙いは、学生が国際交流の基本的な考え方を学び、現代のグローバル社会において様々な形での国際交流・国際貢献にチャレンジする基盤を作ることです。</p> <p>授業は2つのパートから構成されます。前半のパートでは異文化コミュニケーションを中心とした国際交流の考え方について学術的、及び実証的な観点から学び、国際的活動への基礎を固めます。後半のパートでは、実際に行われている文化交流や国際協力等の事例を取り上げ、それらの成果を考えると共に、活動に関与している人材が抱える課題等も検討します。</p> <p>授業では、積極的に参加・発言することが求められます。将来に向けて、国際交流力を付けてグローバルに活動したいと考えている意欲のある学生の受講を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 世界とつながる（国際交流の歴史 古代—明治） 3. 世界とつながる（国際交流の歩み：明治—現代） 4. 多文化世界を考える 5. 国際社会に生きる自分（コミュニケーションの障害） 6. 国際社会に生きる自分（アイデンティティ） 7. 共感力を鍛える 8. 3Eの法則について 9. 過剰な意識を手放す 10. 総合力を養う 11. 対応力を鍛える 12. 国際交流の実践（青年の船&ボランティア） 13. 国際協力の実践（青年海外協力隊の活動） 14. 講義のまとめ 	
到達目標	国際交流に関して専門知識を習得し、分野ごとの文化交流事業、文化交流政策、文化交流目的などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各自、事前に教科書を読んで授業に臨んでください。その他の資料は、随時、ポータルサイトにアップロードします。		
テキスト	石川幸子著『世界のどこでも誰とでもうまくいく共感コミュニケーション』（同文館、2017年4月）		
参考文献	石川幸子著『敵をもファンに変える超一流の交渉術』（実務教育出版、2016年）		
評価方法	定期試験 80%、授業内レポート及び発表 20%		

13年度以降	国際 NGO・ボランティア論	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化、開発途上国の多極化といった現象が進むなか、様々な面で国際協力の重要性が高まっています。国際協力を担う主体も、国家、国際機関、企業などに加え、非政府組織（NGO）やボランティア組織にも注目が集まっています。本講義では、途上国への開発支援におけるODAやNGOの役割に注目しながら、開発協力の諸問題について考えます。本講義は3つのシリーズから構成されます。</p> <p>第1の「開発援助の仕組みと展開」では、援助の主流をなしてきた政府開発援助（ODA）の現状を把握します。</p> <p>第2の「NGOの役割と課題」では、NGOの歴史、位置付け、実態、役割などを捉えるとともに、開発とNGOの関係を具体的なケースを取り上げながら考えます。</p> <p>第3の「開発援助の新たなテーマ」では、開発援助に関して現在起こっている新しい動きを捉えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：国際協力・開発援助・NGO ＜開発援助の仕組みと展開＞ 2. ODAの仕組みとトレンド 3. 日本のODAの特徴 4. 日本の援助実績 5. 開発援助の問題点 6. ODAの課題と改革 7. 国際援助の新たなトレンドとNGO ＜NGOの役割と課題＞ 8. NGOの定義と歴史的経緯 9. NGOの機能と途上国での役割 10. 開発とNGO：ケーススタディ・バングラデシュ 11. 日本における市民活動の歴史と国際協力NGO 12. 日本の国際協力NGOの実績と課題 ＜開発援助の新たなテーマ＞ 13. マイクロクレジットという方法 14. 中国による「ODA」の特徴と問題点 	
到達目標	国際 NGO・ボランティアに関して専門知識を習得し、現代の国際社会が抱える開発協力の諸課題とその解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるのので、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。		
テキスト	授業ごとに配布するレジュメ資料を使用します。特定の文献をテキストとして指定することはしません。		
参考文献	講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。		
評価方法	学期末試験の成績をもとに評価を行います。		

13年度以降	国際リスク・海洋論（ディズニー映画）	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>W・ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」を鑑賞しながら、世界史に登場した「海賊（パイレーツ）」の正体に迫ります。</p> <p>毎回の授業では、前半にディズニー映画などを取り上げ、授業の後半で、テキストを参照して、知識を獲得します。</p> <p>この授業では「ツーリズム」を「移動すること」と解釈し、移動のリスクを冒して暴れ回った海賊、パイレーツに光をあてます。世界ブランドになったコーヒー、紅茶、スパイスの世界史も触れます。英国初のブランド・ビジネスは、パイレーツと縁が深いのです。</p> <p>（注意）既に同担当者の「国際関係特殊講義」を修得済みの場合は履修不可とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」上 2 ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」中 3 ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」下 4 英雄としての海賊 前 5 英雄としての海賊 後 6 映画「エリザベス」＜パイレーツ女王＞ 7 海洋覇権のゆくえ——パイレーツの役割 8 スパイス争奪戦——パイレーツの「東インド会社」前 9 スパイス争奪戦——パイレーツの「東インド会社」後 10 コーヒーから「午後の紅茶」前 11 コーヒーから「午後の紅茶」後 12 ディズニー映画「カリブの海賊——生命の泉」前 13 ディズニー映画「カリブの海賊——生命の泉」後 14 まとめ、質疑応答 	
到達目標	国際紛争、海洋問題に関して専門知識を習得し、その解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画・パワーポイント資料の時代背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。		
テキスト	竹田いさみ『世界史をつくった海賊』（ちくま新書）など。		
参考文献	授業中にお知らせします。		
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。		

13年度以降	国際関係特殊講義 a	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義ではイギリス帝国の誕生、発展、そして解体までの歴史を、当時の国際関係（構造やプロセス）と関連づけながら概観していく。まずは帝国、帝国主義、脱植民地化の定義や国際政治上の意味について説明した上で、イギリス帝国の歴史を概観する。続いて、より詳細にイギリス帝国の誕生と発展のプロセスを振り返り、最後に東南アジア、南アジア、中東、南太平洋における脱植民地化の進展を具体的に検証していく。</p> <p>講義を進めるにあたっては、帝国とはいったい何か、そして帝国と当時の国際関係にはどのような関係が存在したのか、さらには帝国の解体、脱植民地化と戦後の国際関係（冷戦）がどのように影響を及ぼしあったのか、などを念頭に置きながら、イギリス帝国の歴史を振り返っていく。</p> <p>イギリス帝国の歴史を振り返ることを通じて、イギリス帝国についての理解を深めるだけでなく、帝国の存在やその解体（を考へること）が現代国際関係にどのようなインプリケーションを持っているのか、自分なりの考え方を持つことができるであろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（本講義の目的と概要） 2. 国際政治と帝国・脱植民地化①帝国とは何か 3. 国際政治と帝国・脱植民地化②国際関係における帝国 4. 国際政治と帝国・脱植民地化③帝国と世界経済 5. 国際政治と帝国・脱植民地化④世界大戦と帝国 6. 国際政治と帝国・脱植民地化⑤帝国解体と国際関係 7. 前半の授業のまとめと質疑応答 8. イギリス帝国の誕生と発展①～英帝国の誕生（その1） 9. イギリス帝国の誕生と発展②～英帝国の誕生（その2） 10. イギリス帝国の誕生と発展③～英帝国の再編（その1） 11. イギリス帝国の誕生と発展④～英帝国の再編（その2） 12. イギリス帝国の誕生と発展⑤～英帝国の発展（その1） 13. イギリス帝国の誕生と発展⑥～英帝国の発展（その2） 14. イギリス帝国の解体、脱植民地化（総論） 	
到達目標	国際関係に関して学際的な専門知識を習得し、歴史学、国際関係論、地域研究などについてさまざまな観点から分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと。また授業終了直前におこなう「授業のまとめ」にしたがって復習し、次回の授業までに授業内容と疑問点をまとめておくこと。		
テキスト	川北稔・木畑洋一編『イギリスの歴史 帝国＝コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000年。（図書館所蔵）		
参考文献	講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布します。		
評価方法	リアクションペーパーの提出（30%）と学期末試験（論述形式、70%）による。		

13年度以降	国際関係特殊講義 b	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は講義形式で進める。サブ・サハラ・アフリカ（SSA）に着目し、歴史、政治、経済、社会などの側面から国際社会におけるアフリカの果たしうる役割について考える。</p> <p>数多くのアフリカ諸国が独立を果たした1960年は「アフリカの年」と呼ばれる。独立から半世紀以上が経過し、被援助国としての立場から脱却しつつあり、豊富な天然資源、順調な経済成長、労働人口の増加などを背景に「世界最後のフロンティア」として国際社会の関心を集めている。</p> <p>この授業では、アフリカを取り巻く国際関係を理解するために必要な視点また情報を提供する。映像資料を積極的に用い、地理的・心理的にも未だ遠いアフリカを身近に感じてもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要の説明 2. 多様なアフリカ 3. つくられたアフリカ像 4. 奴隷貿易の歴史 5. 植民地支配の歴史 6. 植民地支配の影響 7. 冷戦とアフリカ 8. 国際支援と国家建設 9. アフリカ化と構造調整 10. グッドガバナンス 11. 「資源の罠」 12. 人間の安全保障 13. 世界の中のアフリカ 14. 授業総括 	
到達目標	国際関係に関して学際的な専門知識を習得し、歴史学、国際関係論、地域研究などについてさまざまな観点から分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で用いる資料はポータル・サイトに載せる。復習を怠らないこと。		
テキスト	適宜配布する。		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	レポート 30%、定期試験 70%		

13年度以降	国際関係特殊講義 b	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、「紛争・平和と国際協力」をテーマとして、理論 (conflict theories) と国際社会における実践を考察しながら、平和を実現するために国際社会が歩んできた歴史を理解するとともに、現代、国際社会が直面する課題とその解決策について考えます。</p> <p>講義は3つのパートから構成されます。まず、紛争・平和の歴史と理論を学んだ後、パート2で平和実現に向けた国際社会の活動を、国際機構、法、軍事介入、人道援助、並びに開発援助の5つの観点から考察し、それぞれの分野での成果と課題を検討します。パート3では、日本の政府開発援助（開発協力）で実施されてきた平和構築支援について、その政策と実践を学びます。授業では、積極的に参加・発言することが求められます。紛争と平和構築分野に関心の高い学生の受講を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 紛争の歴史と変容 3. 冷戦後の新しい紛争 4. 平和構築の理論 5. 平和のための国際機構（国際連盟から国際連合へ） 6. 平和のための国際機構（国際連合の限界） 7. 平和のための法（国際人道法） 8. 人間の安全保障の考え方（理論と変遷） 9. 人間の安全保障の考え方（事例研究） 10. 軍事介入（保護する責任） 11. 人道援助 12. 開発援助（理論と変遷） 13. 開発援助（事例研究） 14. 講義のまとめ 	
到達目標	国際関係に関して学際的な専門知識を習得し、歴史学、国際関係論、地域研究などについてさまざまな観点から分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ポータルサイトに授業の資料をアップロードしますので、事前に各自でダウンロード後、目を通してから授業に臨んでください。		
テキスト	適宜、授業内で紹介します。		
参考文献	適宜、授業内で紹介します。		
評価方法	定期試験 70%、授業内レポート及び発表 30%		

13年度以降	国際関係文献セミナーa	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では国際関係に関する日本語と英語の両方の文献を用いて国際情勢を分析し、多角的な視点を養うことを目的とする。具体的には、持続可能な開発目標（SDGs）、人の移動、女性の権利、食料安全保障、土地収奪など国際社会が現在直面する課題を取り上げる。資料としては、新聞記事、論文、国連決議、国際機関の発行する報告書などを幅広く用いる。</p> <p>この授業を通じて、文献の調査方法、レポートの執筆方法、発表方法を身に付けてもらいたい。また、グループ・ディスカッションの時間も設ける予定である。学期完結の授業であり、授業効率化のため毎回の授業で課題を出す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要の説明 2. レポート・プレゼンテーション方法 3. 文献調査方法 4. 広がる格差 5. 核兵器廃絶にむけての取組み 6. 持続可能な開発目標（SDGs） 7. 国際支援のかたち（伝統的ドナー） 8. 国際支援のかたち（新興ドナー） 9. 人の移動（難民） 10. 人の移動（移民） 11. 食料安全保障 12. 環境問題 13. 貿易の自由化 14. 授業総括 	
到達目標	文献研究を通じて、国際関係に関する特定分野について専門知識と理論を習得し、国際社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で用いる文献をポータル・サイトに載せる。予習・復習を怠らないこと。		
テキスト	適宜配布する。		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	課題 20%、授業参加度 30%、小テスト 20%、レポート 30%		

13 年度以降	国際関係文献セミナーa	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業では、「人間の安全保障 (human security)」の基礎を理解した上で、東アジア各国 (日中韓+ASEAN) において人間の安全保障がどのように理解され、実践されているかについて国別の論文を読み解きながら、各国の比較研究を行います。</p> <p>1. 授業は、グループによるプレゼン(英語または日本語)とクラス討論形式で進めます。</p> <p>2. 学年混合の主體的なグループ・ワークによってプレゼンの準備・発表を行います。</p> <p>授業の流れは、プレゼン内容 (対象国・論文) の決定後、グループ準備作業→授業でのプレゼン→全体での討論・まとめ。学期の最後にはグループ、または個人で選んだテーマについて人間の安全保障の切り口からの発表、及びディスカッションを行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Introduction: What is human security? 3. Introduction: Development of human security 4. Human security in Japan 5. Human security in Cambodia / Indonesia 6. Human security in Malaysia/ Myanmar 7. Human security in Philippines/ Singapore 8. Human security in Thailand/ Vietnam 9. Human security in China/ Korea 10. Talk like TED on human security 1 (students select topics) 11. Talk like TED on human security 2 (students select topics) 12. Talk like TED on human security 3 (students select topics) 13. Talk like TED on human security 4 (students select topics) 14. Conclusion 	
到達目標	文献研究を通じて、国際関係に関する特定分野について専門知識と理論を習得し、国際社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の論文を読んで授業に臨み、積極的にディスカッションに参加してください。発表担当グループは、プレゼン準備としてパワポを作成します。		
テキスト	Mine et al., eds. (2018) <i>Human Security Norms in East Asia</i> . Cham. Palgrave Macmillan		
参考文献	適宜、授業内で紹介します。		
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表 50% & 授業中討論への参加度(スピーチを含む) 50%		

13 年度以降	国際関係文献セミナーb	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業では、「人間の安全保障 (human security)」の基礎を理解した上で、東アジア各国における人間の安全保障の実践について、自然災害、紛争、人身取引、難民等にかかる様々なケース・スタディを読み解き、人間の安全保障の実現に向けた対応策と課題を学びます。</p> <p>1. 授業は、グループによるプレゼン(英語または日本語)とクラス討論形式で進めます。</p> <p>2. 学年混合の主體的なグループ・ワークによってプレゼンの準備・発表を行います。</p> <p>授業の流れは、プレゼン内容 (対象国・論文) の決定後、グループ準備作業→授業でのプレゼン→全体での討論・まとめ。学期の最後にはグループ、または個人で選んだテーマについて人間の安全保障の切り口からの発表、及びディスカッションを行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Review of the concept of human security (HS) 3. HS in practice(Land grabbing in Cambodia) 4. HS in practice (Conflict and Tsunami in Aceh) 5. HS in practice (Cyclone in Myanmar) 6. HS in practice (Mindanao conflict) 7. HS in practice (Human trafficking in Southeast Asia) 8. HS in practice (Haiyan crisis in the Philippines) 9. HS in practice (Great East Japan earthquake) 10. Talk like TED on human security 1 (students select topics) 11. Talk like TED on human security 2 (students select topics) 12. Talk like TED on human security 3 (students select topics) 13. Talk like TED on human security 4 (students select topics) 14. Conclusion 	
到達目標	文献研究を通じて、国際関係に関する特定分野について専門知識と理論を習得し、国際社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の論文を読んで授業に臨み、積極的にディスカッションに参加してください。発表担当グループは、プレゼン準備としてパワポを作成します。		
テキスト	Hernandez et al., eds. (2018) <i>Human Security and Cross-Border Cooperation in East Asia</i> . Cham. Palgrave Macmillan		
参考文献	適宜、授業内で紹介します。		
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表 50% & 授業中討論への参加度(スピーチを含む) 50%		

16年度以降 15年度以前	異文化コミュニケーション論 異文化間コミュニケーション論 a	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目標1】異文化コミュニケーションに関する用語や概念を説明できる。</p> <p>【目標2】文化の多様性を学び、その学びに基づいた適切なコミュニケーションができる。</p> <p>【講義概要】異文化コミュニケーションの基本的諸要素を学んだ後、異文化コミュニケーションの重要な諸テーマ（自己の発見、日本の表現方法と欧米的表現方法、自民族中心主義と多文化主義、カルチャーショックと適応、非言語コミュニケーションなど）について学んでいく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要を説明後、グループ分けを行う 2. 異文化コミュニケーションと他のコミュニケーション領域との関係について 3. 異文化コミュニケーションの諸要素、自己の発見（ジョハリの窓） 4. 文化の定義と多様性 5. 日本の表現方法と西洋的表現方法の諸要因および歴史的背景 6. グローバルな表現方法について 7. グローバルな表現法を使った2分スピーチ【スピーチ実践】 8. コミュニケーションと行動の変化 9. 対立のコミュニケーション 10. 自民族中心主義と多文化主義 11. カルチャーショックと適応、および人間的成長 12. 非言語コミュニケーションの諸要因 13. 異文化コミュニケーションに関するビデオ視聴・分析【小レポート】 14. 賢い異文化コミュニケーションに必要な要素 	
到達目標	異文化コミュニケーション研究に関して総論的な専門知識を習得し、様々な視点から文化とコミュニケーションの関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、ミニレポートや発表に備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行う。		
テキスト	テキストとして、授業テーマに関連するプリントを毎回配布する。		
参考文献	石井他著、『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』.八代京子他著、『異文化コミュニケーション・ワークブック』		
評価方法	授業中の学習活動への参加 30%、スピーチ実践と小レポート 30%、最終レポート 40%		

16年度以降 15年度以前	異文化コミュニケーション論 異文化間コミュニケーション論 a	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目標1】異文化コミュニケーションに関する用語や概念を説明できる。</p> <p>【目標2】文化の多様性を学び、その学びに基づいた適切なコミュニケーションができる。</p> <p>【講義概要】異文化コミュニケーションの基本的諸要素を学んだ後、異文化コミュニケーションの重要な諸テーマ（自己の発見、日本の表現方法と欧米的表現方法、自民族中心主義と多文化主義、カルチャーショックと適応、非言語コミュニケーションなど）について学んでいく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要を説明後、グループ分けを行う 2. 異文化コミュニケーションと他のコミュニケーション領域との関係について 3. 異文化コミュニケーションの諸要素、自己の発見（ジョハリの窓） 4. 文化の定義と多様性 5. 日本の表現方法と西洋的表現方法の諸要因および歴史的背景 6. グローバルな表現方法について 7. グローバルな表現法を使った2分スピーチ【スピーチ実践】 8. コミュニケーションと行動の変化 9. 対立のコミュニケーション 10. 自民族中心主義と多文化主義 11. カルチャーショックと適応、および人間的成長 12. 非言語コミュニケーションの諸要因 13. 異文化コミュニケーションに関するビデオ視聴・分析【小レポート】 14. 賢い異文化コミュニケーションに必要な要素 	
到達目標	異文化コミュニケーション研究に関して総論的な専門知識を習得し、様々な視点から文化とコミュニケーションの関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、ミニレポートや発表に備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行う。		
テキスト	テキストとして、授業テーマに関連するプリントを毎回配布する。		
参考文献	石井敏他著、『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』.八代京子他著、『異文化コミュニケーションワークブック』		
評価方法	授業中の学習活動への参加 30%、スピーチ実践と小レポート 30%、最終レポート 40%		

16年度以降 15年度以前	メディア文化論 異文化間コミュニケーション論 b	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語圏（主に米国）の様々なメディア事象を文化の問題として分析し、日本のメディア文化状況に関連する提言を含んだ講義を行います。</p> <p>注意事項：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループ単位の即興口頭発表課題が時々出されます。 2. 小テストのスコアが3割以上で研究発表に進めます。 3. 小テストの受験資格はグループワーク参加度が10段階の6以上とします。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：講義概要と基本概念の開設 2. メディア・リテラシー教育：英語圏の取り組み 3. メディアと現実①：声の文化と文字の文化 4. メディアと現実②：マスメディアの日米関係史 5. メディアと現実③：パソコン・スマホ文化の形成と意味 6. メディアと管理社会①：“You are what you ___” 7. メディアと管理社会②：“Post-consumerism”を中心に 8. 音楽とメディア：蓄音機発明前の「歌うアメリカ人」 9. ポピュラー映画と現実認識：テレビアニメ映画などを例に 10. ノスタルジア映画と歴史認識：“Back to the future”再訪 11. アートとメディア：Mary Missなどを例に 12. ミュージアムとメディア：スミソニアン博物館などを例に 13. 総括と小テスト、発表準備 14. 研究発表と総評 	
到達目標	メディア研究に関して総論的な専門知識を習得し、様々な視点からメディアと文化形成などの関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回の講義に関する資料を事前及び事後に目を通すことが求められます。		
テキスト	なし（適宜プリントを配布する予定）		
参考文献	遠藤 英樹 他編 『メディア文化論 ― 想像力の現在』 第2版、ナカニシヤ出版		
評価方法	小テスト：20% 研究発表：80%		

16年度以降 15年度以前	メディア文化論 異文化間コミュニケーション論 b	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語圏（主に米国）の様々なメディア事象を文化の問題として分析し、日本のメディア文化状況に関連する提言を含んだ講義を行います。</p> <p>注意事項：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループ単位の即興口頭発表課題が時々出されます。 2. 小テストのスコアが3割以上で研究発表に進めます。 3. 小テストの受験資格はグループワーク参加度が10段階の6以上とします。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：講義概要と基本概念の開設 2. メディア・リテラシー教育：英語圏の取り組み 3. メディアと現実①：声の文化と文字の文化 4. メディアと現実②：マスメディアの日米関係史 5. メディアと現実③：パソコン・スマホ文化の形成と意味 6. メディアと管理社会①：“You are what you ___” 7. メディアと管理社会②：“Post-consumerism”を中心に 8. 音楽とメディア：蓄音機発明前の「歌うアメリカ人」 9. ポピュラー映画と現実認識：テレビアニメ映画などを例に 10. ノスタルジア映画と歴史認識：“Back to the future”再訪 11. アートとメディア：Mary Missなどを例に 12. ミュージアムとメディア：スミソニアン博物館などを例に 13. 総括と小テスト、発表準備 14. 研究発表と総評 	
到達目標	メディア研究に関して総論的な専門知識を習得し、様々な視点からメディアと文化形成などの関係について分析を行い、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回の講義に関する資料を事前及び事後に目を通すことが求められます。		
テキスト	なし（適宜プリントを配布する予定）		
参考文献	遠藤 英樹 他編 『メディア文化論 ― 想像力の現在』 第2版、ナカニシヤ出版		
評価方法	小テスト：20% 研究発表：80%		

16年度以降 15年度以前	マス・コミュニケーション論 メディア・コミュニケーション論 a	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 コミュニケーションおよびマスメディアの諸モデルを理解し、それらの理解に基づきマス・コミュニケーションが現実社会に与える影響を分析できるようになる。 講義概要 まずコミュニケーションの諸モデルを学んだ後、マスメディアに関する主要4理論（弾丸理論、限定効果モデル、適度効果モデル、強力効果モデル）を学ぶ。 また、学習内容を定着させるために、ビデオ視聴内容に関するミニレポートの作成を行う。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入&メディアとは 2. コミュニケーションの諸領域について 3. コミュニケーションの直線的モデル 4. コミュニケーションの円環的モデル 5. コミュニケーションの効果の概念、他 6. マスメディアの順機能と逆機能 7. メディアの文化伝承・娯楽機能とディズニー映画 8. ビデオ視聴【ビデオ内容分析のミニレポート提出】 9. マスメディアに関する効果モデル：弾丸理論 10. マスメディアに関する効果モデル：限定効果モデル 11. マスメディアに関する効果モデル：適度効果モデル 12. マスメディアに関する効果モデル：強力効果モデル 13. ビデオ視聴【ビデオ内容分析のミニレポート提出】 14. メディアリテラシーの必要性 	
到達目標	マス・コミュニケーション研究に関する諸理論を習得し、分析を行い、現代メディアを批判的に読み解くことができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト(プリント)内容の予習を行い、ミニレポートに備えて学習内容を定着させるための復讐を行うこと。		
テキスト	テキストとして毎回プリントを配布する。		
参考文献	田崎・児島著『マスコミュニケーション効果研究の展開』（北樹出版）		
評価方法	毎回行う授業内学習活動への参加点 30%、ミニレポート 30%、最終レポート 40%		

16年度以降 15年度以前	メディア・スタディーズ メディア・コミュニケーション論 b	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 【目的1】 メディアの影響に関する理論を理解する。 【目的2】 メディアコンテンツが人々に与える影響を測定できるようになる。具体的には、仮説の設定、調査票の作成、調査の実施、調査データの分析・解釈ができるようになる。 講義概要 まず、ディズニー映画等を例にしながら、メディアの影響に関する4理論（カタルシス、観察学習、脱感作、カルティベーション）を学ぶ。 さらに、メディア研究方法（KJ法、記述統計、相関係数）を学んだ上で、クラス内で調査を実施し、調査によって得られたデータを分析して発表する。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、独立変数と従属変数、仮説の設定方法 2. 理論1：カタルシス理論とディズニー映画 3. 理論2：観察学習理論とディズニー映画 4. 理論3：脱感作理論とディズニー映画 5. 理論4：カルティベーション理論とディズニー映画 6. ディズニー映画分析【授業内ミニレポート提出】 7. メディア研究方法：班分け&統計手法（KJ法） 8. メディア研究方法：統計手法（エクセルで記述統計と相関係数）の習得 9. 調査票作成法および調査票作成のための班内議論 10. 調査票作成（各班内で） 11. 調査票完成（各班内で） 12. 調査実施（クラス受講者を調査対象者として）と調査データ分析（エクセルにデータを入力・分析） 13. 調査結果のまとめ 14. 各班による調査結果の発表 	
到達目標	メディアとコミュニケーションの関係に関する諸理論を習得し、分析を行い、現代メディアを批判的に読み解くことができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキスト(プリント)内容の予習を行い、発表に備えて学習内容を定着させるための復習を行うこと。		
テキスト	毎回、テキストとしてプリントを配布する。		
参考文献	佐々木著、『メディアと暴力』（勁草書房）、田中・山際著、『教育・心理統計と実験計画』（教育出版）		
評価方法	毎回の授業内学習活動への参加点 30%、ミニレポートと各班による調査結果発表 30%、最終レポート 40%		

16年度以降 15年度以前	イメージ文化論 スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スピーチ（発言）としてのイメージ表現について、コミュニケーション理論、文化理論、実例、研究発表を通じて学びます。理論は英語圏から発信されているものを中心に用い、実例はポピュラーな（ポピュラーだった）ものを用いる予定です。授業は講義形式と参加形式をブレンドさせながら進める予定です。</p> <p>注意事項： 1. グループ単位の即興口頭発表課題が時々出されます。 2. 小テストのスコアが3割以上で研究発表に進めます。 3. 小テストの受験資格はグループワーク参加度が10段階の6以上とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明、研究グループ編成、始動的活動 2. 理論概要：イメージ文化論における主体論 3. メディアとイメージ操作：構造・戦略・影響 4. イメージ仮構：戦況報道を例に 5. アメリカ大統領とイメージ戦略1：ケネディー以後 6. アメリカ大統領とイメージ戦略2：トランプ論 7. イエスマン論1：戦略としてのイメージ操作 8. イエスマン論2：視聴とディスカッション 9. イエスマン論3：ミニ・シンポジウム 10. バンクシー論1：権力とグラフィティ 11. バンクシー論2：視聴とディスカッション 12. バンクシー論3：ミニ・シンポジウム 13. まとめ、小テスト、コンサルテーション 14. 研究発表（または上映や展示）と相互評価、総評 	
到達目標	イメージのコミュニケーションに関する諸理論を習得し、分析を行い、コミュニケーション現象を批判的に読み解くことができるようにする。		
事前・事後学修の内容	資料はもちろんのこと、参考文献や推薦映像等が紹介されたら直ぐに目を通すようにしてください。		
テキスト	なし。（資料を配布します。）		
参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	ミニ・シンポジウム：10%、小テスト：20%（上記の注意事項1～3も参照）、研究発表：70%		

16年度以降 15年度以前	スピーチ・コミュニケーション論 スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>様々な「スピーチ」（発言、発話表現）を多角的・複眼的に捉えるための理論を色々な実例と実演を通じて学びます。この講義では「スピーチ」を広義に捉え、それを個人技の成果というよりも、むしろ「合作」「多声混在体」及び新たなコミュニケーションを起こす「一手」のようなものと捉えます。その上で、主に英語圏の実践例を紹介しながら、様々なスピーチ・コミュニケーションを分析し、その可能性についても考えていきます。</p> <p>注意事項： 1. グループ単位の即興口頭発表課題が時々出されます。 2. 小テストのスコアが3割以上で研究発表に進めます。 3. 小テストの受験資格はグループワーク参加度が10段階の6以上とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明、研究グループ編成、始動的活動 2. スピーチは合作：個人技からプロジェクトへ 3. 議論構成：「議論構築モデル」「修辭的状况」 4. ドラマティズム：「劇的」「ペンタッド」 5. スピーチとしての音楽：海外 6. スピーチとしての音楽：日本 7. スピーチとしての広告：商品販促・サービス・C I 8. スピーチとしての広告：公共・意見・キャンペーン 9. スピーチとしての映画：短編フィクション 10. スピーチとしての映画：短編ドキュメンタリー 11. スピーチとしての演劇：Blue Man Showを例に 12. スピーチとしての演劇：Stompを例に 13. まとめ、小テスト、コンサルテーション 14. 研究発表（または実演や上映）と相互評価、総評 	
到達目標	発話を中心としたコミュニケーションに関する諸理論を習得し、分析を行い、批判的に読み解くことができるようにする。		
事前・事後学修の内容	資料はもちろんのこと、参考文献や推薦映像等が紹介されたら直ぐに目を通すようにしてください。		
テキスト	なし。（資料を配布します。）		
参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	小テスト：30%（上記の注意事項1～3も参照）、研究発表：70%		

16年度以降 15年度以前	視覚コミュニケーション論 スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、視覚イメージによるコミュニケーションの批判的読み方を、映画やビデオ、写真、絵画など様々な映像メディアを使って学習します。映像という視覚イメージに組み込まれた文化的諸力の問題を主題として解説していきます。映像表現や構造、映像の技術的語りなどを批判的に解釈することで、表象＝イメージがいかなるものかを考察し、そのメディア性の批判を展開していくことになります。</p> <p>メディアの批判的アプローチでは、見えてしまっているという自明の事実を問い直すことが最も大切です。そもそも自分はなぜ見えるのかという経験そのものを考えなおすことがなければ、批判とは言えません。この批判は常に己に向けられます。映像をつぶさに考察することで発見される見方が、これまで思い込みで見えていた世界とは異なる、新たな視覚をもたらす分析をしていきます。見えてしまっていることを根本的に問い直す為の視座と立ち位置を様々な批判的アプローチと共に探っていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ポストモダンの探偵・テレビドラマ『古畑任三郎』 3. 自己アイデンティティの葛藤 4. 記号の実在性と現実（界） 5. 空間の広告化、広告の空間化-広告の偏在とイデオロギーとしての資本主義 6. 空間の広告化、広告の空間化-広告としての『ですよねえ』 7. 家族の（非）存在 8. ジェンダーと階級と知の権力 9. 記号・モノとしての身体-意味生成の空間としての身体 10. 記号・モノとしての身体-自画像の眼差し 11. 多文化主義と越境される国境-『JSA』の視覚論 12. 多文化主義と越境される国境-接触領域としての JSA 13. ヴァーチャルなものの精神分析 14. 総括 	
到達目標	視覚コミュニケーション研究に関する諸理論を習得し、分析を行い、コミュニケーション現象を批判的に読み解くことができるようにする。		
事前・事後学修の内容	必要な予習及び映画等のスクリーニングは、各自の事前学習として必須となります。授業後に講義内容も復習してください。		
テキスト	テキストは適宜紹介します。		
参考文献	池田理知子編『現代コミュニケーション学』有斐閣、2006.		
評価方法	講義内クイズ（20%）及び定期試験又はレポート（80%）によって評価します。		

16年度以降 15年度以前	コミュニケーション論 スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コミュニケーション学は古代ギリシアのレトリック研究に起源を持ちます。本講義では、20世紀以降折々の思想に影響を受けて変容してきた様々な現代レトリック論を理論家ごとに学んでいきます。そして、それぞれの理論家がひも解く、コミュニケーションや言葉、レトリックとは何かを理解することを目的とします。</p> <p>ギリシア時代に弁論術として開花したレトリック理論ですが、その対象範囲は弁論のような音声記号だけに留まることはなく、様々な文化や技術変容に伴い、20世紀以降は視覚や身体的触覚なども射程にいれ、今日では我々と世界を媒介するメディア論として更なる展開が進行しています。</p> <p>このような現代の文化的影響も射程に入れつつ、コミュニケーションとは何か、文化とは何か、メディアとは何かを批判的に考察した、20世紀に台頭した構造主義以降の思想をコミュニケーション論として講義します。この批判理論の学習によって、現代の世界で実践されるコミュニケーションにまつわる複雑な社会・文化状況を改めて識別していくことが求められます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション／フェルディナン・ド・ソシュールと記号論-言語論的転回 2. フェルディナン・ド・ソシュールと記号論-文化的な力の析出 3. ハイデガーと存在論-世人と非本来的生き方 4. ハイデガーと存在論-現存在と投企 5. 言語の行為論 6. 物と記号の批判-存在論と精神分析 7. 物と記号の批判-記号論への展開 8. 精神分析とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・パーク-無意識の問い 9. 精神分析とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・パーク-欲望の問題とシニフィアン 10. ミシェル・フーコー、表象、視覚技術-エピステーメーと表象 11. ミシェル・フーコー、表象、視覚技術-エピステーメーの変遷 12. ミシェル・フーコーの権力論-近代の権力とパノプティコン 13. ミシェル・フーコーの権力論-言説とセクシュアリティ 14. エドワード・サイードとオリエンタリズム/まとめ 	
到達目標	コミュニケーション研究に関する諸理論を習得し、分析を行い、コミュニケーション現象を批判的に読み解くことができるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布物等がある場合には必ず予習しておいてください。授業後に講義内容を復習して下さい。		
テキスト	授業中に適宜紹介します。		
参考文献	授業中に適宜紹介します。		
評価方法	講義内クイズ（20%）及び定期試験又はレポート（80%）によって評価します。		

13年度以降	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【騙し絵の視覚レトリック】</p> <p>レトリックはしばしば言葉の芸術と考えられるが、視覚という芸術にも、レトリックが忍び込んでいます。この視覚のレトリックが最も前景化するものが騙し絵と言えます。</p> <p>騙し絵のレトリックを考えるにあたり、さしあたりその範囲を15世紀ルネッサンス以降、とりわけ17世紀の西洋絵画に重点をおき、絵画の歴史のおよび文化的な視覚性を考察していきます。考察する視覚論の基軸となるのは遠近法や視覚技術の問題ですが、その歴史を踏まえつつ、絵画が構成する視覚の文化的空間を描きだしていきます。</p> <p>カメラ・オブスクラや遠近法箱 (perspective box) 等、様々な視覚技術との関わりの中で変容する絵画の視覚性を歴史的に辿っていくこととなります。絵画の視覚領野の中にいかなるルネッサンスや透視画法への抵抗があるのかを、歴史的な視覚の痕跡である実際の絵画の中で理論的に考察していきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 視覚技術の変容と視覚の言説 (クレーリーの視覚メディア論) 3. 美術史のバロック問題-美術史の誕生とバロック、ヴェルフリン 4. 美術史のバロック問題-マネエリズムとバロック問題 5. ベラスケス：バロックと古典主義時代 (17-18世紀) の表象 6. バロックとしてのアナモルフォーズ-アナモルフォーズ画の原理、キルヒヤー、ニセロン 7. バロックとしてのアナモルフォーズ-アナモルフォーズによる近代の視覚批判 8. 北方ルネッサンスと描写術-『描写の芸術』と17世紀の視覚性 9. 北方ルネッサンスと描写術-様々な遠近法：フェルメール、デ・ブリース 10. サミュエル・ファン・ホーホストラテン-生成されるヴァーチャルな視覚と遠近法 11. サミュエル・ファン・ホーホストラテン-自画像としての騙し絵と視覚のレトリック 12. ヘイスブレヒツと騙し絵のレトリック-『絵画の自意識』とメタ絵画の達成 13. ヘイスブレヒツと騙し絵のレトリック-『裏返しのタブロー』 14. まとめ 	
到達目標	多様な視点から論じられるコミュニケーション論に関する主題とその諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に鑑賞が必要な絵画や配布物等がある場合、予習をしてください。授業後の講義内容の復習も必須です。		
テキスト	授業で適宜紹介します。		
参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	講義内クイズ (20%) 及び定期試験又はレポート (80%) によって評価します。		

13年度以降	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【視覚文化論】</p> <p>春学期に、視覚文化論の1アプローチである騙し絵のレトリックを学習したことを踏まえて、秋学期ではその内容を前提としつつ、理論的な背景を展開していきます。</p> <p>現在、視覚文化論はコミュニケーション学で最も注目される分野の一つであり、その諸相を歴史と多様なアプローチと共に扱っていきます。1980年代に米国で台頭した視覚文化論は、絵画芸術を中核とする美術 (史) の分野に加えて、メディア論やコミュニケーション論、比較文学等の隣接領域を包みつつ、視覚的表象の文化的次元を扱う新たな領域として認知されています。秋学期の講義では、視覚文化論が射程とする様々なトピックを取り上げ、写真、映画、絵画、技術、身体、空間等の視覚性を検討していくこととなります。</p> <p>我々を取り巻く現代世界は、テレビや映画を始め、写真や広告映像等の視覚的なコミュニケーションで溢れています。本講義は、そのような視覚コミュニケーションを理解し分析するのに必要な視覚文化論の知を学ぶことを目的としています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 視覚文化論とは 3. 視覚技術と身体-鏡像段階論とナルキッソス神話 4. 視覚技術と身体-身体イメージとナルシズム：森村泰昌のセルフポートレート 5. メディアとしての視覚の変容-古典主義時代の視覚：暗室箱 6. メディアとしての視覚の変容-近代の視覚：ステレオスコープ 7. 視の制度 (scopic regime) と視覚の専制的力への批判-デカルト的遠近法主義批判 8. 視の制度 (scopic regime) と視覚の専制的力への批判-描写術とバロック 9. 眼差しと視線-眼差しと視線の区分 10. 眼差しと視線-視線と監視 11. 言葉とイメージ-カリグラムの解体と言葉とイメージの置換 12. 言葉とイメージ-類似の消滅と相似 (マグリット、ウォホール) 13. イメージのレトリック 14. 総括 	
到達目標	多様な視点から論じられるコミュニケーション論に関する主題とその諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に鑑賞が必要な絵画や配布物等がある場合、予習をしてください。授業後の講義内容の復習は必須です。		
テキスト	授業で適宜紹介します。		
参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	講義内クイズ (20%) 及び定期試験又はレポート (80%) によって評価します。		

13年度以降	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	松本 健太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間とはコミュニケーションする動物である。初歩的な記号表現から複雑なテクノメディアに至るまで、人間はこれまで様々なタイプのコミュニケーション手段を考案してきた。人間にとってコミュニケーションとは不可避であり、それを媒介するメディアなしに文化的活動を営むことはできない。</p> <p>本講義では、わたしたち人間にとって重要な意味をもつ「メディア・コミュニケーション」の本質に迫るために、コミュニケーション研究やメディア論における基本的な考え方を、現代社会にあふれる豊富な具体例とともに解説してゆく。さらにそのうえで「空間とメディア」の諸相に目を向け、わたしたちをとりまく記号世界、あるいはメディア環境の組成を分析的に把握するためのリテラシー獲得を目指すことになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス——本講義をつうじて学んでほしいこと 2 コミュニケーション①：コード 3 コミュニケーション②：コンテキスト 4 コミュニケーション③：高／低コンテキスト 5 コミュニケーション④：文化の島宇宙化 6 メディアの媒介作用①：その定義の多様性 7 メディアの媒介作用②：デジタル化の諸相 8 メディアの延長作用①：人間の拡張 9 メディアの延長作用②：時空の拡張 10 人間にとって技術とは何か 11 ポスト・ヒューマンの肖像 12 SF映画の鑑賞 13 SF映画の分析 14 総括 	
到達目標	多様な視点から論じられるコミュニケーション論に関する主題とその諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習することが求められる。		
テキスト	松本健太郎・堀幸枝著 『メディア・コミュニケーション学講義』（ナカニシヤ出版、2019年）		
参考文献	授業時に指示する。		
評価方法	平常点 50%、 期末試験 50%		

13年度以降	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	松本 健太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では記号論における基礎的な考え方を、わたしたちの身近にある様々な事例とともに解説していく。それによってホモ・シグニフィカンスとも称される人間の固有性や、人間の記号活動の集積として構築されるコミュニケーション文化の組成を理解していくことが本講義の目的となる。</p> <p>本講義ではソシュール、バルト、丸山圭三郎らの記号論的思想をとりあげる。さらに所定の教科書に準拠し、様々な分野の学問的言説を援用しながら、ビデオゲーム、ショッピングモール、デジタル地図、お笑いなど、幅広い事象を分析の俎上に載せていくことになる。そのうえで「記号」と「メディア」の現代的な関係性を理論的に考察することを目標とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス——記号論の成り立ち 2 パースの記号論 3 ソシュールの言語観 4 バルトの記号観①——ステレオタイプと神話 5 バルトの記号観②——言語記号と映像記号 6 バルトの記号観③——その写真論と日本論の共通点 7 バルトの記号観④——言語活動の外部へ 8 バルトの記号観⑤——記号とメディアの間隙 9 丸山圭三郎の人間観——その言語哲学の可能性 10 カジュアル革命と、スポーツ化するスポーツゲーム 11 ビデオゲームにおける没入のメカニズム 12 ゲームは現実の何を模倣して成立するか 13 GSVにおける写真的現実の歪み 14 総括 	
到達目標	多様な視点から論じられるコミュニケーション論に関する主題とその諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習することが求められる。		
テキスト	松本健太郎著 『デジタル記号論』（新曜社、2019年）		
参考文献	授業時に指示する。		
評価方法	平常点 50%、 期末試験 50%		

13年度以降	コミュニケーション論文献セミナーa	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>イメージが氾濫する現代において、〈見る〉とは何かを考察した視覚文化論の古典、ジョン・バージャーの <i>About Looking</i> を読み、視覚とは何かを考えていく。</p> <p>バージャーの <i>About Looking</i> は、絵画や写真を射程として、〈見る〉とは何かを考え直すエッセーを所収している。視覚文化論の古典とも言える本著は、美術史の大きな流れを踏まえつつ、我々がものを見るとはいかなることかを考察している。バージャーは見ることに隠された階級等の文化的価値観があることを、イメージの中で批判的に見出す。その視覚題材の読みを丹念に踏まえることで、いかにイメージは批判的に見られるのかを理解することとなる。</p> <p>イメージの批評的な分析と考察を深めていく本講義においては、以下の3点が探求の目的となる。1) 現代のイメージと古典絵画との歴史的な関係を踏まえること、2) 視覚文化の批評とは何かを理解すること、3) イメージのコミュニケーション論とは何かを理解すること。これら3点について、その批評的意義を探っていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Paul Strand 3. Uses of Photography 4. Millet and the Peasant 5. Seker Ahmet and the Forest 6. La Tour and Humanism 7. Francis Bacon and Walt Disney 8. An Article of Faith 9. Courbet and the Jura 10. Turner and the Barber's Shop 11. Magritte and the Impossible 12. Hals and Bankruptcy 13. Giacometti 14. まとめ 	
到達目標	各種のコミュニケーション論を主題とする文献研究によりコミュニケーションの諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の予習及び発表の為の準備は、各自の事前学習として必須です。授業後は当該の章を必ず復習してください。		
テキスト	John Burger. <i>About Looking</i> . Bloomsbury Publishing, 2009.		
参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	発表・発言等による授業への参加度 (30%)、定期試験又はレポート (70%)、出席状況 (4回以上の欠席は不可、遅刻2回は欠席1回に相当) 等から総合的に評価します。		

13年度以降	コミュニケーション論文献セミナーb	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の <i>About Looking</i> に続き、ジョン・バージャーの <i>Ways of Seeing</i> を読み、視覚とは何かを考えていく。</p> <p>バージャーの <i>Ways of Seeing</i> は、中世絵画から現代を取り巻く広告メディアや写真等を射程として、〈見る〉とは何かを考え直す名著である。視覚文化論の古典とも言える本著は、美術史の大きな流れを踏まえつつ、我々がものを見るとはどのようなことかを考察している。バージャーは見ることに隠された帝国主義やジェンダー等の文化的価値観を、イメージの言語として視覚的題材に読むことでえぐり出す。その読みを丹念に踏まえることで、いかにイメージは見られるのかを理解することが可能となる。</p> <p>春学期と同様、イメージの批評的な分析と考察を深めていく本講義においては、以下の3点が探求の目的となる。1) 現代のイメージと古典絵画との歴史的な関係を踏まえること、2) 視覚文化批評とは何かを理解すること、3) イメージのコミュニケーション論とは何かを理解すること。これら3点について、その批評的意義を探っていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Reading <i>Ways of Seeing</i> (Chapter 1) 3. Reading <i>Ways of Seeing</i> (Chapter 1, 2) 4. Watching BBC, <i>Ways of Seeing</i>, Episode 1 5. Reading <i>Ways of Seeing</i> (Chapter 3) 6. Reading <i>Ways of Seeing</i> (Chapter 3, 4) 7. Watching BBC, <i>Ways of Seeing</i>, Episode 2 8. Reading <i>Ways of Seeing</i> (Chapter 5) 9. Reading <i>Ways of Seeing</i> (Chapter 5, 6) 10. Watching BBC, <i>Ways of Seeing</i>, Episode 3 11. Reading <i>Ways of Seeing</i> (Chapter 7) 12. Reading <i>Ways of Seeing</i> (Chapter 7, 8) 13. Watching BBC, <i>Ways of Seeing</i>, Episode 4 14. まとめ 	
到達目標	各種のコミュニケーション論を主題とする文献研究によりコミュニケーションの諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	教科書の予習及び発表の為の準備は、各自の事前学習として必須です。授業後は当該の章を必ず復習してください。		
テキスト	John Burger. <i>Ways of Seeing</i> . Penguin Books Ltd., 1972.		
参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	発表・発言等による授業への参加度 (30%)、定期試験又はレポート (70%)、出席状況 (4回以上の欠席は不可、遅刻2回は欠席1回に相当) 等から総合的に評価します。		

13年度以降	コミュニケーション論文献セミナーa	担当者	松本 健太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義のテキストとして選定する『越境する想像力・コンテンツ・文化』は、今日のグローバル社会におけるポピュラーカルチャーの形成・伝達・受容について、その一連のメカニズムを解明するために企画されたものである。</p> <p>本講義では、まず本書の内容について講義形式での解説を加えたうえで、グループごとにテキストに関するレジュメ発表をおこなってもらおう。さらに学期の後半には、それまでのレジュメ発表をつうじて学習したことをもとに、グループごとに研究発表をおこなってもらおう予定である（その形式面を含めた詳細に関しては初回授業時に指示する）。</p>		<p>1 概要説明、プレゼンテーション担当者決定</p> <p>2 ポピュラーカルチャーの流通について【講義】</p> <p>3 テキストを読む【講読】第1章/第2章</p> <p>4 テキストを読む【講読】第3章/第4章</p> <p>5 テキストを読む【講読】第5章/第6章</p> <p>6 テキストを読む【講読】第7章/第8章</p> <p>7 テキストを読む【講読】第9章/第10章</p> <p>8 テキストを読む【講読】第11章/第12章</p> <p>9 研究発表 第1班/第2班</p> <p>10 研究発表 第3班/第4班</p> <p>11 研究発表 第5班/第6班</p> <p>12 研究発表 第7班/第8班</p> <p>13 研究発表 第9班/第10班</p> <p>14 研究発表 第11班/第12班</p>	
到達目標	各種のコミュニケーション論を主題とする文献研究によりコミュニケーションの諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストをもちいた予習。および、配布資料をもちいた復習。		
テキスト	高馬京子・松本健太郎編『越境する想像力・コンテンツ・文化』（ナカニシヤ出版、2018）		
参考文献	なし		
評価方法	平常点 40%、 プレゼンテーション 30%、 レポート 30%		

13年度以降	コミュニケーション論文献セミナーb	担当者	松本 健太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義のテキストとして選定する『メディア・メッセージ論』（仮・2019年夏に刊行予定）は、デジタル時代における「メッセージ」と「コミュニケーション」の関係を多角的に考察した論集である。</p> <p>本講義では、まず本書の内容について講義形式での解説を加えたうえで、グループごとにテキストに関するレジュメ発表をおこなってもらおう。さらに学期の後半には、それまでのレジュメ発表をつうじて学習したことをもとに、グループごとに研究発表をおこなってもらおう予定である（その形式面を含めた詳細に関しては初回授業時に指示する）。</p>		<p>1 概要説明、プレゼンテーション担当者決定</p> <p>2 メッセージの現代的な位置について【講義】</p> <p>3 テキストを読む【講読】第1章/第2章</p> <p>4 テキストを読む【講読】第3章/第4章</p> <p>5 テキストを読む【講読】第5章/第6章</p> <p>6 テキストを読む【講読】第7章/第8章</p> <p>7 テキストを読む【講読】第9章/第10章</p> <p>8 テキストを読む【講読】第11章/第12章</p> <p>9 研究発表 第1班/第2班</p> <p>10 研究発表 第3班/第4班</p> <p>11 研究発表 第5班/第6班</p> <p>12 研究発表 第7班/第8班</p> <p>13 研究発表 第9班/第10班</p> <p>14 研究発表 第11班/第12班</p>	
到達目標	各種のコミュニケーション論を主題とする文献研究によりコミュニケーションの諸理論を習得し、分析を行い、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストをもちいた予習。および、配布資料をもちいた復習。		
テキスト	小西卓三・松本健太郎編『メディア・メッセージ論』（ナカニシヤ出版、2019）		
参考文献	なし		
評価方法	平常点 40%、 プレゼンテーション 30%、 レポート 30%		

13年度以降	英語圏の文学・文化 a	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>イギリスの歴史から3人の女王（Elizabeth I, Victoria, Elizabeth II）の時代を取り上げ、それぞれの時代の文化について理解を深めることを目指す。この3人の女王の治世は、初期近代(early-modern)、近代(modern)、ポストモダン(postmodern)と区別される時代にあたっている。それぞれの時代の文化を理解することによって、近代がどのように成立し、変容してきたのかを考える。</p> <p>3つの時代はいずれも女王が君主となり、新たな文化が生み出された時代である。それぞれの時代の文化について、文学、宗教、科学の3つの視点から論じる。それぞれの時代の特徴を示す英文テキストを読みながら、各時代の文化について講義していく。</p> <p>2017年に「英語圏の文学・文化b」を履修した人はこの授業の単位を取ることはできません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> Elizabeth Iの時代(1)：宗教改革と近代の始まり Elizabeth Iの時代(2)：Shakespeareと近代英語 Elizabeth Iの時代(3)：Shakespeareと大衆娯楽 Elizabeth Iの時代(4)：Baconと近代科学 Victoriaの時代(1)：世界の工場と大英帝国 Victoriaの時代(2)：Dickensを読んだ中流市民 Victoriaの時代(3)：Dickensが描いた貧困層 Victoriaの時代(4)：Darwinと進化論 Elizabeth IIの時代(1)：Pax Britannicaの終焉 Elizabeth IIの時代(2)：Becketと不条理演劇 Elizabeth IIの時代(3)：The Beatlesと若者文化 Elizabeth IIの時代(4)：羊のDollyと遺伝子の時代 Elizabeth IIの時代(5)：Bridget Jonesと消費文化 まとめ 	
到達目標	英語圏の文学・文化に関して総論的な専門知識を習得し、文化・社会・政治的知識と関連づけながら鑑賞・分析を行い、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布されたテキストの英文を、事前によく読んでおくこと。授業中に提示されたキーワードを覚え、その歴史的背景を理解すること。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献	川崎寿彦『イギリス文学史入門』（研究社）、近藤和彦『イギリス史 10 講』（岩波新書）など		
評価方法	学期末試験 75%、毎回の授業のリアクション・ペーパー25%		

13年度以降	英語圏の文学・文化 b	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>19世紀中期、20世紀前半、第2次大戦から現代までの文学を中心に、他民族・多文化国家であるアメリカの特徴を紹介しながら、英語圏の異文化理解を深める。アメリカの文学文化を鏡にしながら、日本の「いまここ」にいる私たちの姿をとらえ直すのが、この講義の目的。</p> <p>個々の作品とそれが生まれた時代背景や思潮を、人種・階級・宗教・ジェンダーなどのテーマから解説する。英語教員となるために必要とされる基礎知識の習得を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> イントロダクション Native American の過去と現在 Henry David Thoreauの <i>Walden</i>とエコロジー Harman Melville の <i>Moby-Dick</i> (エイハブ船長の狂気) Walt Whitman の <i>Leaves of Grass</i>と民主主義 Emily Dickensonの詩とピューリタニズム Mark Twainの <i>Adventures of Huckleberry Finn</i> William Faulkner とアメリカ南部 Ezra Poundとモダニズム (日本の俳句の影響) Ernest Hemmingwayの <i>The Old Man and the Sea</i> J. D. Salingerの <i>Catcher in the Rye</i> Beat Generation Bob DylanとRock Music (ベトナム戦争と対抗文化) Alice Walker の <i>The Color Purple</i> (人種とジェンダー) 	
到達目標	英語圏の文学・文化に関して総論的な専門知識を習得し、文化・社会・政治的知識と関連づけながら鑑賞・分析を行い、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定されたテキストの箇所を読み、疑問点を整理する。講義の後で課題レポートを提出。		
テキスト	『アメリカ文学入門』（三修社、2016年）		
参考文献	授業中に紹介		
評価方法	4回の課題レポート90%、授業での発言10%		

13年度以降	英語圏の文学・文化・批評 a	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今年ではディストピア(dystopia)小説と呼ばれる作品をいくつか読んでみたいと思います。小説は長いので日本語訳を参照し、サワリの部分だけ英文のプリントを用意します。映画やTVドラマも参考にします。授業で読む作品は以下の通りです。</p> <p>①オルダス・ハクスリー、 <i>Brave New World</i> 『すばらしい新世界』(1932)</p> <p>②フィリップ・K・ディック、 <i>Do Androids Dream of Electric Sheep?</i> 『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』(1968) (『ブレードランナー』として映画化)</p> <p>③カズオ・イシグロ、 <i>Never Let Me Go</i> 『わたしを離さないで』(2005)</p> <p>時間的に可能であれば、「すばらしい新世界」の言葉が取られたシェイクスピアの『テンペスト』や、スタンリー・キューブリック監督の超名作映画『2001年宇宙の旅』(1968)なども取り上げる予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODククション 2 『すばらしい新世界』の時代背景 3 『すばらしい新世界』の英語テキスト 4 『すばらしい新世界』の思想 5 『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』の時代背景 6 『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』の英語テキスト 7 『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』の思想 8 『ブレードランナー』 9 『わたしを離さないで』の時代背景 10 『わたしを離さないで』の英文テキスト 11 『わたしを離さないで』の思想 12 『テンペスト』 13 『2001年宇宙の旅』 14 まとめのディスカッション <p>ディスカッション形式の授業なので積極的参加が求められます。</p>	
到達目標	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストを十分に読み込むこと。歴史、文化、社会的側面についてもしっかり予習、復習をお願いします。初回の授業に出席しなかった学生は、2回目の授業に必要な予習範囲を必ずポータルサイトで確認してください。		
テキスト	上記3作品、売店(Duo)に発注済みです。英文原作は図書館指定書コーナーにあります。		
参考文献	ポータルサイトで配布、図書館指定書の利用など、授業中に指示します。		
評価方法	学期中の小レポート(20% x 2)、学期末レポート(40%)、クラス・フェイスブックでの毎週の議論(20%)		

13年度以降	英語圏の文学・文化・批評 b	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>《シェイクスピア入門》</p> <p>ウィリアム・シェイクスピアの作品に用いられている英語表現を理解し、作品成立の背景となる初期近代イングランドの社会や文化についての知識を深めることを目指す。シェイクスピアの作品から『リチャード三世』『ロミオとジュリエット』『ヴェニスの商人』を取り上げ、特に有名な台詞に用いられている英語表現について解説しながら、作品が生み出された時代の文学伝統、演劇をとりまく社会的情勢など、文化背景について講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 『リチャード三世』と英語の韻文について 2. 『リチャード三世』と薔薇戦争について 3. 『リチャード三世』とチューダー朝神話について 4. 『リチャード三世』と独白について 5. 『ロミオとジュリエット』と物語詩について 6. 『ロミオとジュリエット』と宮廷風恋愛について 7. 『ロミオとジュリエット』とセクシャリティについて 8. 『ロミオとジュリエット』と映画化について 9. 『ヴェニスの商人』と海洋貿易について 10. 『ヴェニスの商人』とフェミニズム批評について 11. 『ヴェニスの商人』とユダヤ人問題について 12. 『ヴェニスの商人』と法律について 13. 『ヴェニスの商人』第五幕と近代市民社会と性の問題について 14. まとめ 	
到達目標	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布された英文テキストを事前に精読しておくこと。取り上げる作品は(翻訳でもよいので)読んでおくこと。		
テキスト	授業中にプリントを配布する。		
参考文献	前沢浩子『シェイクスピアと名優たち』NHK出版、2014		
評価方法	学期末レポート70%、授業への参加度(小テスト、リアクション・ペーパー)30%		

13年度以降	英語圏の文学・文化・批評b	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>女性の声に耳を傾けるのは時として難しいものです。女性なんて、どこにでもいて喋っているじゃないかと思うかもしれませんが、「サブ」のポジションに位置付けられがちな彼女たちが本当のところ何を感じ、何を体験し、何を言いたいかは、現行の権力構造においては、きちんと焦点化しないかぎり、なかなか見えてこないものです。</p> <p>この授業では、英語圏の女性の書き手たちが、どんな方法で女性たちの声を浮かび上がらせてきたかを時系列順に見ていきます。取り上げるのはすでに定評を得て「古典」となった作品がほとんどですが、同様の方法がその後どう広がってきた／いるのかも示します。もちろん受講者の性別は問いません（女性だって他の女性の声を聴くことは難しかったりもしますし）。これまで勉強してきた英語を使って、英語圏の文学作品を題材に、彼女たちについて、自分たちについて、あれこれ考えてみましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：女性の声を聴く 2. 「ミセス」を書く 3. Virginia Woolf, <i>Mrs. Dalloway</i> (2からの続き) 4. ネガティブな感情を書く 5. Jean Rhysの短編 (4からの続き) 6. 「狂気」を書く 7. Sylvia Plath, <i>The Bell Jar</i> (6からの続き) 8. 物語を書き換える 9. Angela Carter, <i>The Bloody Chamber</i> (8からの続き) 10. 妊娠中絶を書く 11. Ursula K. Le Guin, "The Princess" (10からの続き) 12. 老女を書く 13. Leonora Carrington, <i>The Hearing Trumpet</i> (12から) 14. まとめ：書き継ぐこと <p>*タイトルおよび作品は変更することがあります。</p>	
到達目標	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：次回の英文の一部をレジюмеに載せるので、読んできてください。 事後：レジюмеを読み返してください。興味を持った作品はぜひ手にとってみましょう。		
テキスト	不要。レジюмеを配布します。		
参考文献	ヴァージニア・ウルフ『自分ひとりの部屋』（平凡社ライブラリー、2015）など。		
評価方法	授業内レポート約 30%、定期試験約 70%（ただし五回以上の欠席は、理由を問わず評価対象外とします。）		

13 年度以降	英語圏の社会・思想・歴史 a	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は2つのセッションからなる。第1セッション"Changing Britannia"(第1回～第7回)では、まず多人種・多文化社会として公式な自己を定義しようとしている現在のイギリスの姿を確認する。そのうえで、二次世界大戦後、旧植民地からの大量の移民の到来によって、いやおうなく多人種・多文化社会へとなくなっていったイギリスのここ半世紀の変化を見ていく。第2セッション"400Years—Empire, Capitalism and Slavery"(第8回～第15回)では、第1セッションで見てきた混成状態を醸成した帝国の歴史を振りかえる。大西洋世界の形成と英国の覇権、奴隷制と資本主義の発達、国民国家とディアスポラの問題、帝国なき後の英国の苦悩、20世紀後半からの新しいBritishnessの模索などを取り上げる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 混成の英国—オリンピック誘致にみる、公式イメージとしての多様性 2. 1948—混成の英国へ、ひとつの始まり 3. 冷たい歓迎と移民第一世代 4. ホスト社会の戸惑い 5. 第二世代の誕生 6. ColouredからBlack British へ 7. Marley(1945-1981) とSmith(1975～)のミレニアム 8. 400 Years—混成の必然 9. 資本主義と奴隷制 10. カリブ—西欧近代史の「背中の膺」 11. 帝国のひろがり 12. Mother Countryの幻想 13. イギリス人とは誰か 14. 混成の英国—英国史とBritishnessの再定義 	
到達目標	英語圏の社会、思想、歴史に関して専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に配布するハンドアウトに目を通しておくこと。事後は必要に応じて復習を。参考文献は個々人の興味に応じて活用してください。		
テキスト	ハンドアウトを使用する。		
参考文献	必要に応じて授業時に紹介する。		
評価方法	授業内提出物 30%、定期試験 70% (予定)		

13 年度以降	英語圏の社会・思想・歴史 b	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界で最も典型的な多人種・多民族社会アメリカを舞台に、そのエスニック・ヒストリーを学ぶ。</p> <p>各人種・民族集団間相互のあつれきを生み出したメカニズムを解明し、対立を回避し、相互理解と和解の道を模索する様々な努力を紹介する。</p> <p>こうしたアメリカ社会の努力は「外国人たちとの共生」の道を模索せねばならぬ我々日本人にとっても有益な示唆を与えるはずである。</p> <p>下記二冊のテキストにそってアメリカの反ユダヤ主義とそれを生み出した要因のひとつとなるユダヤ人側の経済的成功について学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ経済のユダヤ・パワー；同族人脈ネットワークと資金力 2. ユダヤ人大富豪が集中する最新の稼ぎ場；情報・通信とメディア産業 3. 貧しいユダヤ移民の資産形成の花道；不動産、小売業 4. 業界シェアの過半を占める伝統的ユダヤ・ビジネス；玩具、化粧品、カジノ、観光業 5. ウォール街の顔役たち；金融ビジネスのユダヤ人 6. なぜ彼等は成功したのか、ユダヤ人大富豪の人使い 7. ユダヤ教とユダヤ人の歴史的体験は彼等の企業家的成功とどの様なかわりがあるのか 8. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 9. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件 10. 大都市移民ゲットーのエスニック・コンフリクト 11. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン 12. 甦る儀式殺人告発、20世紀アメリカで復活した中世ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義 13. 公民権闘争期のユダヤ教会堂爆破 14. ミネアポリス、「反ユダヤ主義の都」 	
到達目標	英語圏の社会、思想、歴史に関して専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
テキスト	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行(2000年 集英社新書 740円) 仮題『アメリカのユダヤ大富豪』佐藤唯行(PHP研究所電子書籍版 1120～560円)		
参考文献	特になし		
評価方法	評価は筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストの持ち込み可。12 択 20 問の Quiz 形式。		

13年度以降	英語圏の社会・思想・歴史 a	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いまの私たちにとって、詩はページに印刷された活字を黙読するものになっています。大昔、詩と歌と踊りの根っこは同じでしたが、時代を経るにしたがって、それぞれのジャンルに分かれていきました。印刷術が発明されるまでは、詩は楽器に合わせて歌われていました。昔むかしの詩人たちは、共同体の語り部であり、ときには預言者でもありました。そのコトバは、詩であり歌そのものでした。</p> <p>ボブ・ディランは、現代に「声としての詩」を復活させた「ポエト／シンガー」といえます。</p> <p>この講義では、2016年にノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランの歌（詩）をテキストに、作品が生まれた文化的・社会的・歴史的背景を紹介しながら、“Song and Dance Man”の魅力をお伝えします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. “Blowin’ in the Wind” 3. “A Hard Rain’s A-Gonna Fall” 4. “The Times They’re A-Changin” 5. “With God on Our Side” 6. “It Aint’t Me , Babe” 7. “Mr. Tambourine Man” 8. “Like a Rolling Stone” 9. “Desolation Row” 10. “All Along the Watchtower” 11. “Hurricane” 12. “Jokerman” 13. “License to Kill” 14. “Tempest” 	
到達目標	英語圏の社会、思想、歴史に関して専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で取りあげる作品を調べ、質問事項をメーリングリストで知らせる。		
テキスト	Bob Dylan. <i>The Lyrics 1961-2012</i> . New York: Simon & Schuster, 2016.		
参考文献	授業で紹介		
評価方法	学期末レポート 80%、授業での発言 20%。		

13年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ a	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>多民族社会米英を舞台にユダヤ系を中心に、黒人その他の集団との関係史を学ぶ。</p> <p>下記二冊のテキストにそって英米の人種関係史をユダヤ系を主軸にして考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 中世英国のユダヤ人金融。 2. 西洋キリスト教世界初の一国規模のユダヤ人追放が行われた原因を探る。 —1290年のイングランド— 3. 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656年。 4. 千年王国思想とユダヤ人再入国。 5. 17～18世紀英国の外国貿易とユダヤ人。 6. 英国人地主貴族社会への同化現象。 7. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム。 8. 英国ファシスト勢力との対決とナチス政権からの亡命ユダヤ人の受け入れ。 9. 8%の有色人種人口を抱える現代英国社会。 10. 高等教育機関におけるユダヤ人排斥。 11. 公民権闘争期の黒人・ユダヤ人関係史。 12. 黒人の反ユダヤ主義。 13. 英労働党の反ユダヤ主義。 14. 在英ムスリム社会の反ユダヤ主義。 	
到達目標	英語圏の文学、文化、歴史、社会に関して学際的な専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。		
テキスト	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000年 集英社新書 740円）『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995年 講談社選書 1600円）		
参考文献	特になし		
評価方法	評価はクイズ形式による筆記試験（12択20問）によってのみ決定する。試験はテキストの持込み可。出席はとらない。		

13年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ b	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is intended as a comprehensive survey of American history and culture, introducing students to the diversity of this large country. Materials to be used in class include documentaries, movies, songs, TV programs, audio recordings, primary sources, and other historical materials. The language used for the lectures will be college-level English.</p> <p>This course will start out with an introduction to pre-European North America, followed by the period through independence, with an introduction to various colonial powers. After that, we will look at how the United States developed as a nation, with emphasis placed on different ethnic groups and cities across the land. Technological innovation played a big part in America's development, so that will also be introduced. Music from each period will also be presented so as to give students a more visceral feel of the changing and diverse culture of the United States through the times.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction, The First Americans 2. Columbus and the Conquistadors 3. The First British in America 4. War and Independence 5. Building a New Nation 6. Civil War Splits the Country 7. Trains Everywhere, Uniting the Coasts 8. European Immigrants Pour In 9. Agriculture: Amber Waves of Grain 10. Industrialists, Inventors, Tycoons 11. Black Culture in America 12. Imperial World Capital 13. Postwar Good Life & The Sunbelt 14. America the Beautiful 	
到達目標	英語圏の文学、文化、歴史、社会に関して学際的な専門知識を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約小クイズ（抜き打ち）の準備		
テキスト	Materials will be handed out in class.		
参考文献	特になし		
評価方法	Class performance 20%, final project 30%, final test (essay) 50%. Tardiness over 30 minutes late will not be accepted. Three times tardy equals one absence. Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4回以上の欠席は単位取得を困難にする。		

13 年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>《Downton AbbeyとPax Britannicaの終焉》</p> <p>世界的な大ヒットとなったTVドラマ<i>Downton Abbey</i>を通し、20世紀前半のイギリスの歴史への理解を深める。1912年から1925年というこのドラマの時代設定は、イギリスの大きな転換点だった。それまでの強固な階級制度が崩れ始め、イギリス国内の人々の価値観と社会制度が変化すると同時に、国際社会でイギリスの占める位置にも決定的な変化が起きた。こうした歴史的背景を、作者Julian Fellowesは巧みにドラマの中に取り込んでいる。そうした歴史が具体的なセリフの英語表現の中にどのように書き込まれているかを見ながら、イギリス現代史への理解を深めることを目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. タイタニック号の沈没 3. 貴族階級と相続制度 4. 階級社会と社会的流動性 5. 婦人参政権運動と働く女性たち 6. 第一次世界大戦の勃発 7. 化学兵器、塹壕、シェルショック 8. 志願兵と徴兵制度 9. スペイン風邪 10. アイルランド独立運動 11. 労働党政権の誕生 12. Pax Britannicaの終焉 13. Real Downton Abbeyとイギリスの文化遺産 14. まとめ 	
到達目標	英語圏の文学・文化の特定分野に関して専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義で取り上げるドラマのスク립トからの抜粋（英文）を精読しておくこと。		
テキスト	授業の際にプリントを配布する。		
参考文献	授業内で随時紹介する。		
評価方法	学期末試験 70%、授業への参加度（リアクション・ペーパー） 30%		

13 年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>English Bestsellers of All Time)</p> <p>世紀を越えて英国の（そして世界の）読者に読まれているベストセラー小説を深く味わうとともに、書かれた時代の状況の中に据えて分析的に理解する。</p> <p>2005年にBBCが行った「あなたの好きな一冊」調査、Big Read の上位20位に入っているもので、「小説の黄金期」であった19世紀に書かれた4作を取り上げる。ジェイン・オースティンの『自負と偏見』（2位）、エミリー・ブロンテの『嵐が丘』（12位）、シャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』（10位）、チャールズ・ディケンズの『大いなる遺産』（17位）である。いずれも、英国小説、定番中の定番であり、また現在にいたるまで、映画をはじめ、さまざまなアダプテーションがつけられている。</p> <p>個々の小説を解説した後は、人種、ジェンダー、植民地などの切り口から、複数の小説を分析する。そこからは現代の世界の作られ方も見えてくるはずである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 小説と帝国 2. 『自負と偏見』作品解説 3. 同上、時代とテーマ 4. 『嵐が丘』作品解説 5. 同上、時代とテーマ 6. 『ジェイン・エア』作品解説 7. 同上、時代とテーマ 8. 『大いなる遺産』作品解説 9. 同上、時代とテーマ 10. 個人と社会へのまなざし 11. 人種、民族へのまなざし 12. ジェンダーの切り口で 13. テキストの無意識 14. テキストと読者+小テスト 	
到達目標	英語圏の文学・文化の特定分野に関して専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に指定のテキストとハンドアウトをしっかりと読んでおくこと。事後は個人の理解度と興味に応じて復習をしたり、授業時に紹介する参考文献などを用いて発展学習をしたりして欲しい。		
テキスト	ハンドアウトを使用するが、小説の原著、翻訳の希望があれば共同購入を検討する。		
参考文献	授業時に必要に応じて紹介する。		
評価方法	数回の提出物(30%)、小テスト(30%)、レポート(40%)（変更の可能性もある）		

13年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー）という言葉がずいぶん知られるようになり、2000年代に入ると、LGBTの人たちを描いた映画が数多く作られるようになりました。リアルな日常に迫るものがある一方で、これまでの歴史を振り返るものも多いのが特徴です。それらの映画は、LGBTに相当しない多数派の人たち（ヘテロセクシュアル、シスジェンダー）にも、考える題材を提供してくれます。また英語圏の社会、文化、英語の会話文など、様々な情報を豊かに含んでいます。</p> <p>この講義では、こうした観点から、英語圏のLGBT映画6作品を取り上げます。いくつかの場面を選んで鑑賞し、そこで使われている英語を味わい、その背景にある考え方を探ります。また、講義の一回は特別回として、性の多様性とセーファーセックスについてみんなで考える予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. <i>The Kids Are All Right</i> (2010) 3. 女性カップルの子どもであること（2の続き） 4. <i>Any Day Now</i> (2012) 5. 男性カップルの子育てと1970年代アメリカ（4の続き） 6. <i>Dallas Buyer's Club</i> (2013) 7. エイズ禍と1980年代アメリカ（6の続き） 8. <i>Three Generations</i> (2015) 9. トランスジェンダーの子のカミングアウト（8の続き） 10. <i>Pride</i> (2014) 11. イギリスのLGBT（10の続き） 12. <i>Call Me Kuchu</i> (2012) 13. LGBTとウガンダの現状（12の続き） 14. まとめ：性の多様性とセーファーセックス (順番変更や作品変更がありえます。) 	
到達目標	英語圏の文学・文化の特定分野に関して専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事後：レジュメを読み返しておく。関心を持った映画は通して見てみる。		
テキスト	プリントを配布。		
参考文献	講義で提示します。		
評価方法	授業内レポート約30%、定期試験約70%（ただし五回以上の欠席は、理由を問わず評価対象外とします。）		

13年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>カリフォルニア、とりわけSan Francisco Bay Areaを中心に、ここで生まれた詩と音楽をテキストにしなが、カリフォルニア文化とは何かを考察する。</p> <p>1950年代以降にサンフランシスコ・ベイ・エリアで書かれた詩やその場所を歌ったポピュラー・ミュージックを取り上げながら、アメリカ先住民の文化、ビート、ポエトリー・リーディング、ベトナム戦争、ホモセクシュアリティ、ドラッグ、カウンターカルチャー、環境問題、ロック・ミュージック、禅仏教などについて論じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. What is San Francisco? 3. What was Gold Rush? 4. Counterculture & Rock Music ("Summer of Love") 5. Counterculture & Rock Music ("The Last Waltz") 6. Zen Buddhism in the Bay Area 7. Kenneth Rexroth (1905-82) 8. Lawrence Ferlinghetti (1919-) 9. Philip Whalen (1923-2002) 10. Allen Ginsberg (1926-1997) 11. Gary Snyder (1930-) 12. Dianne de Prima (1934) 13. Robert Hass (1941-) 14. Jane Hirshfield (1953-) 	
到達目標	英語圏の文学・文化の特定分野に関して専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で取りあげる作品を調べ、質問事項をメーリングリストで知らせる。		
テキスト	担当者がプリントで配布。		
参考文献	授業で紹介。		
評価方法	学期末レポート80%、授業での発言20%。		

13年度以降	英語圏の文学・文化文献セミナー a	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 まず第一に、詩を楽しむこと。詩の言葉をとおしてアメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡を使いながら「いまここ」の私たちを考える。</p> <p>講義概要 アメリカ先住民の口承詩（うた）、ロック・ミュージックの歌詞、モダニストの作品、そして同時代の詩人の作品を紹介しながら、ディスカッションを中心に進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカの大地の声--Native Americanのうた 2. デモクラシーを歌う『草の葉』の詩人--Walt Whitman 3. ミクロコスモのなかのマクロコスモ--Emily Dickinson 4. モダニズムの詩人たち(1)Ezra Pound 5. (2) T. S. Eliot 6. (3) William Carlos Williams 7. (4) E. E. Cumming 8. (5) Wallace Stevens 9. モダニズム以降の詩人たち (1) Allen Ginsberg 10. (2) Gary Snyder 11. (3) Sylvia Plath 12. (4) Robert Bly 13. (5) Robert Creeley 14. (6) Frank O'Hara 	
到達目標	文献研究を通じて、英語圏の文学・文化に関する特定分野について専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定された作品を精読し、疑問点をまとめ、マーキング・リストで送る。		
テキスト	The American Poetry & Literary Project, ed. <i>101 Great American Poems</i> . Mineola, NY: Dover Pub., 1998.		
参考文献	『アメリカ名詩選』（岩波文庫）		
評価方法	レポート（作品論）70%、授業での発言30%。		

13年度以降	英語圏の文学・文化文献セミナー b	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>《George Bernard Shaw, <i>Pygmalion</i>を読む》</p> <p>George Bernard Shawの<i>Pygmalion</i>を読みながら、Shawの掲げた社会改革の理念について考察する。オードリー・ヘップバーン主演の映画で親しまれている『マイ・フェア・レディ』はロマンチックなミュージカルだが、その原作である<i>Pygmalion</i>には、「教育」「階級」「女性の自立」といった社会的問題についてのShawの思想が色濃く表現されている。テキストの精読をしながら、機知に富んだ喜劇的対話の中に、社会改革を目指す理念を組み込んでいったShawの劇作手法への理解を深める。</p> <p>テキストの精読と発表とを組み合わせる授業を進める。テキストの精読を通し英語表現への理解を深めるとともに、そこに表れているショーの喜劇作家としての手法や社会改革者としての思想を検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ジョージ・バーナード・ショーについて 2. 第一幕の精読 3. 登場人物と彼らの社会的背景についての発表 4. 第二幕の精読 5. イギリスの階級制度と言語についての発表 6. 第三幕の精読 7. ヒギンズ教授と母親についての発表 8. 第四幕の精読 9. ヴィクトリア朝の女性についての発表 10. 第五幕の精読 11. ドゥーリトルとミドルクラスの倫理についての発表 12. 後日譚の精読 13. 「ロマンス」の結末についての発表 14. ショーの作劇技法について 	
到達目標	文献研究を通じて、英語圏の文学・文化に関する特定分野について専門知識を習得し、鑑賞・分析を行い、批評や見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	精読と発表を交互に行うので、毎週、その準備をすること。		
テキスト	Bernard Shaw, <i>Pygmalion</i> (Penguin Classics). ISBN: 0141439505		
参考文献	授業中に資料を配布する。		
評価方法	精読の際の小テスト 40%、発表 20%、学期末レポート 40%		

16年度以降 15年度以前	言語学の世界 英語学の世界	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、B. L. ウォーフ (Benjamin Lee Whorf) の言う「好まれる言い回し」(“fashions of speaking”) という観点から英語と日本語を比較対照し、両者の間に存在する共通点と相違点を捉える枠組みを構築することを目指すものである。</p> <p>その足がかりとして、英語と日本語の異同に関する多くのデータを取り上げることになるが、これらを個々に覚えることそのものが目的ではないことに注意されたい。一見したところ無秩序にも思えるデータの背後に、法則ないし傾向を見てとる目を養うことが目的である。</p> <p>そのような理解の仕方をして初めて、表現のレベルでも流暢な英語を身につけられるであろうし、多くの者にとっての母語である日本語への自覚も芽生えることであろう。履修登録者が少ない場合には演習形式で実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義方針等のガイダンス (出席は必須である) 2. 好まれる言い回し (“fashions of speaking”) 3. 人間中心 対 状況中心 4. 人間の全体 対 人間の一部 5. 所有表現 対 存在表現 6. 移動表現 対 推移表現 7. 知覚表現 対 存在表現 8. 他動詞構文 対 自動詞構文 9. 受動構文 対 自動詞構文 10. 個体への注目 対 状況全体への注目 11. 結果志向 対 過程志向 12. 「する」的言語 対 「なる」的言語 13. 客観的把握 対 主観的把握 14. 春学期のまとめ 	
到達目標	言語学に関する基礎知識を習得し、言語データを分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義の予習に1時間以上、復習に1時間以上の授業時間外学修を必要とする。		
テキスト	講義は板書や配布資料による。		
参考文献	Hinds, John (1986) <i>Situation vs. Person Focus</i> . Tokyo: Kuroasio. など。		
評価方法	評価を受ける資格を有する者について、日本語による記述式の試験にて評価を行う。なお、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることはせず、特別の「救済措置」などは実施しない。		

16年度以降 15年度以前	言語学の世界 英語学の世界	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、B. L. ウォーフ (Benjamin Lee Whorf) の言う「好まれる言い回し」(“fashions of speaking”) という観点から英語と日本語を比較対照し、両者の間に存在する共通点と相違点を捉える枠組みを構築することを目指すものである。</p> <p>その足がかりとして、英語と日本語の異同に関する多くのデータを取り上げることになるが、これらを個々に覚えることそのものが目的ではないことに注意されたい。一見したところ無秩序にも思えるデータの背後に、法則ないし傾向を見てとる目を養うことが目的である。</p> <p>そのような理解の仕方をして初めて、表現のレベルでも流暢な英語を身につけられるであろうし、多くの者にとっての母語である日本語への自覚も芽生えることであろう。履修登録者が少ない場合には演習形式で実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義方針等のガイダンス (出席は必須である) 2. 好まれる言い回し (“fashions of speaking”) 3. 人間中心 対 状況中心 4. 人間の全体 対 人間の一部 5. 所有表現 対 存在表現 6. 移動表現 対 推移表現 7. 知覚表現 対 存在表現 8. 他動詞構文 対 自動詞構文 9. 受動構文 対 自動詞構文 10. 個体への注目 対 状況全体への注目 11. 結果志向 対 過程志向 12. 「する」的言語 対 「なる」的言語 13. 客観的把握 対 主観的把握 14. 秋学期のまとめ 	
到達目標	言語学に関する基礎知識を習得し、言語データを分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義の予習に1時間以上、復習に1時間以上の授業時間外学修を必要とする。		
テキスト	講義は板書や配布資料による。		
参考文献	Hinds, John (1986) <i>Situation vs. Person Focus</i> . Tokyo: Kuroasio. など。		
評価方法	評価を受ける資格を有する者について、日本語による記述式の試験にて評価を行う。なお、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることはせず、特別の「救済措置」などは実施しない。		

16年度以降 15年度以前	コーパス言語学 a 言語情報処理 I a	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目的とする。</p> <p>コーパス言語学aでは、「コーパス (=自然言語データ) とは何か?」という基本的な概念を共有するところから始める。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか?」、「コーパスをどのように分析するのか?」という実習へ発展させていく。分析の観点は、使用する教科書に従い、「語彙」「語法」「文法」を扱う。最終的には、受講生自らが考えた言語分析課題(Research question(s))に従い、実際にコーパスデータを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行う。</p> <p>授業においては、教科書(下記参照)に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・第1章「コーパス言語学への招待」 2. 第2章「コーパスとは何か」 第3章「さまざまなコーパス」 3. 第5章「コーパス検索の技術」 4. 第6章「コーパス頻度の処理」 5. 第7章「コーパスと語彙」：品詞に基づく分析 6. 第7章「コーパスと語彙」：語彙的複雑さの分析 7. 第8章「コーパスと語法」：語法とは何か 8. 第8章「コーパスと語法」：語法による同義語の分析 9. 第9章「コーパスと文法」：文法項目の出現分析 10. 第9章「コーパスと文法」：正規表現の応用 11. プレゼンテーション準備：RQを検討 12. プレゼンテーション準備：データ分析 13. プレゼンテーション準備：資料作成 14. プレゼンテーション 	
到達目標	コーパス言語学に関して専門知識を習得し、各種ソフトを用いて言語情報を分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、オンラインで提出する。		
テキスト	『ベーシックコーパス言語学』(石川慎一郎著 ひつじ書房)		
参考文献	英語コーパス研究シリーズ(ひつじ書房)		
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み(60%)、最終プレゼンテーション(40%)		

16年度以降 15年度以前	コーパス言語学 b 言語情報処理 I b	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「日本人英語学習者のコーパス」を扱う。究極的な研究課題(Research question)は、「日本人英語学習者の話す/書く英語の特徴にはどのようなものがあるか?」ということである。それらの特徴は、使用する語彙、使用する(あるいはしない)文法項目、誤り(error)などの観点から特定できるものを指す。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から英語力が高まっていくに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおこしてしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれる。従って、英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心が強い人に向いている内容と言える。</p> <p>授業は、データ収集・加工をはじめ、演習が中心となる。コーパス言語学aを履修していなくても構わない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・学習者コーパスとは何か 2. 学習者の言語データと第二言語習得 3. 学習者データの収集：データ収集の素材と手順 4. 学習者データの収集：データ収集の練習 5. 学習者データの入力 6. 学習者データの加工 7. 学習者コーパスの語彙分析 8. 学習者コーパスの文法分析 9. 学習者コーパスの流暢さ分析 10. 学習者コーパスの誤り分析 11. プレゼンテーション準備：RQを検討 12. プレゼンテーション準備：データ分析 13. プレゼンテーション準備：資料作成 14. プレゼンテーション 	
到達目標	コーパス言語学に関して専門知識を習得し、各種ソフトを用いて言語情報を分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、オンラインで提出する。		
テキスト	テキストは使用しない。PPt スライドをPorTaに提示する。		
参考文献	英語コーパス研究シリーズ(ひつじ書房)		
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み(60%)、最終プレゼンテーション(40%)		

16年度以降	英語教育研究	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, we will look at real classroom data and summaries of research studies chosen from a variety of classroom contexts. Research relevant to English language learners is highlighted. You will engage in activities that will help you relate research and theory to your own teaching practice.</p> <p><i>All the coursework will be conducted in English.</i></p> <p>You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Oral Interaction 3. Comparing Speaking and Writing 4. Oral Interaction in Education 5. Language Learning by Using Language 6. Social Nature of Learning 7. Social Importance of Interaction for Children and Adolescents 8. Approaches to CBLT 9. Learning Language and Learning Content 10. Classroom-based Research on CBLT with Adolescent Learners 11. Classroom-based Research on Grammar 12. Preparation for presentations 13. Group Presentations 14. Wrap-up 	
到達目標	言語習得や外国語教授についての専門知識を習得し、分析のうえ、見解の提示ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	reading assignments, preparation for presentations, reading logs		
テキスト	Materials will be provided in class.		
参考文献	Reference materials will be recommended in class.		
評価方法	in-class discussion (30%), presentations(40%), reading assignments and logs (30%)		

16年度以降	英語教育教材論	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>How do you develop materials for language teaching? How do you evaluate them effectively? How do you produce materials?</p> <p>This course offers a practical introduction for students to some basic concepts and methodologies related to the development and implementation of materials for language learning and teaching.</p> <p>In addition to the general fundamental principles of materials development that will be covered, this course will also focus on materials developed, produced, and adapted for the Japanese English education classroom.</p> <p>Once students are familiar with the basic concepts, processes, tools, and techniques in materials development, they will then be asked to design materials for use in a practical teaching context.</p>		<ol style="list-style-type: none"> Week 1: Introduction Week 2: What is Materials Development? Week 3: Input and Output in LL Materials Week 4: Awareness-raising and LL Materials Week 5: Pedagogy and ELT Materials Week 6: English Language Teaching Coursebooks Week 7: Materials Evaluation and Adaptation Week 8: Materials to Develop Reading Skills Week 9: Materials to Develop Listening Skills Week 10: Materials to Develop Speaking Skills Week 11: Materials to Develop Writing Skills Week 12: Materials for Vocabulary Week 13: Materials for Teaching Grammar Week 14: Consolidation and Conclusion 	
到達目標	英語教育において用いる教材についての専門知識を習得し、分析のうえ、独創的な教材案を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students will be required each week to complete the assigned reading and homework assignments (approximately 4 hours) in preparation for class participation.		
テキスト	Mishan, F & Timmis, I. <i>Materials Development for TESOL</i> . (Edinburgh Univ. Pr., 2015)		
参考文献	Other materials will be provided by the instructor		
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (40%), projects and presentations (40%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).		

13年度以降	音声・音韻論 a	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語の音声」で学んだことをさらに発展させ、英語・日本語やその他言語の様々な音の特徴や変化についてそのしくみや法則を考え、ことばの知について学ぶ。</p> <p>音声には音声的な側面と音韻的な側面が表裏一体となって存在する。“音声”とは音波という具体物で、常に変化する“量的”なものである。一方、“音韻”は脳内にある抽象体で、音声に付けるA or B, 有or無, 高or低などの“質的”な記号である。授業では音の特徴や変化の法則性(音韻)を見ていくが、折に触れその音声実態の多様性を紹介し、音声と音韻の表裏一体性について導入する。</p> <p>各論は、主に英語や日本語の様々な音の現象について具体的に学ぶ。英語好きの疑問や何となく感じていた事象について解き明かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「英語の音声」が既習であること。または、困難ではあるが、今学期(火4)並行履修であること。 ・初習“入門”ではなく、“中級”レベルを目指す専門科目であるので、初習者への導入は限定的となる。各自の補足が必要。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction, 音声学と音韻論 2. 母音 (1), 開放/抑止, 長/短, 単/二重, 母音と有標性 3. 母音 (2), 大母音推移, 他言語 4. 子音, 他言語, グリムの法則, 子音の有標性 5. 音素/異音(1) 6. 音素/異音(2), 他言語, L1 vs L2/FL 7. Exercises 8. 音節 (1), 音声的/音韻的分節, 分綴 9. アクセント, 強勢衝突/間隙, 世界のアクセント 10. 句アクセント (2), 外来語アクセント, 日英語句アクセント 11. イントネーション, 意味と除アクセント 12. 音節とモーラ (1), 日本語/英語の音節/モーラの違い 13. 軽/重/超重音節 (2), 略語と音節, 二重母音vs母音連続 14. Review 	
到達目標	英語の音声・音韻論に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	学生は毎回の事前または事後の読み課題や練習問題課題をこなして理解を深める。予習、授業参加、提出などに積極的な参加が求められる。		
テキスト	配布資料, 川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館(1999)(ISBN4-469-21232-6)		
参考文献	窪歯晴夫(1998)『音声学・音韻論』くろしお出版, 菅原真理子編(2014)『音韻論』朝倉書店 田中伸一(2009)『日常言語に潜む音法則の世界』開拓社		
評価方法	授業参加(準備・参加):約15%, クイズ・課題:約15%; 試験:約70%。 単位認定には約70%以上の出席が求められる。		

13年度以降	音声・音韻論 b	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 春学期に同じ。</p> <p>講義概要 春学期に同じ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋学期からの受講もあり得るが、科目の性質上、春学期の内容が前提とならざるを得ない。よって、秋学期のみ履修する場合は、各自、春学期分の補足が必要になる。 (春に足し算を学んで、秋に掛け算を学ぶとしても、秋に足し算なしでは問題が解けないようなもの)。 ・秋学期からの履修の場合も、「英語の音声」が既習であること。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Review, 音声と音韻 2. 音韻素性 (1), 弁別/余剰素性 3. 音韻素性 (2), 自然類と音の現象 4. 音韻交替・音韻規則 (1), 同化 5. 音韻交替・音韻規則 (2), 形態音素 6. Exercises 7. 音と統語, 音と意味のインターフェース 8. 音韻表示と音声実現 9. 音声・音韻インターフェース, Topic (1) 10. Topic (2), 音声・音韻と調音(鼻音化) 11. Topic (3), 音声・音韻と知覚(無声化) 12. Topic (4), 音声・音韻と知覚(語彙階層) 13. Topic (5), L2音声の獲得 14. Review 	
到達目標	英語の音声・音韻論に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	学生は毎回の事前または事後の読み課題や練習問題課題をこなして理解を深める。予習、授業参加、提出などに積極的な参加が求められる。		
テキスト	配布資料, 川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館(1999)(ISBN4-469-21232-6)		
参考文献	窪歯晴夫(1998)『音声学・音韻論』くろしお出版, 菅原真理子編(2014)『音韻論』朝倉書店 田中伸一(2009)『日常言語に潜む音法則の世界』開拓社		
評価方法	授業参加(準備・参加):約15%, クイズ・課題:約15%; 試験:約70%。 単位認定には約70%以上の出席が求められる。		

13年度以降	シンタクス a	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>皆さんは中高6年間英語を学び、かなりの文法知識を持っていることと思います。しかし、いざ英語でまとめた文章を書いたり、家庭教師として英文解釈の説明をしようとする、その知識のあやふやさに気づくことがあるのではないのでしょうか。この授業では、英語の文構造を分析的に整理(=シンタクス)していきます。分析的に英語を見直していくことによって、実用的な英語力が高まるだけでなく、私たちが無意識に使っている日本語とも多くの共通性があることを知ることになるでしょう。さらに、何語であれ言語は私たちの知的活動に不可欠なものなので、英語のシンタクスを学ぶことにより、人間の本質に迫ることも期待できます。</p> <p>春学期に扱う英語のデータは主に単文です。授業の前半は講義形式で進めます。後半には講義内容に関する英語のデータを受講者に分析して提出してもらい、次週に返却して解説します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. シンタクスとは？ 2. 句構造 3. X-bar Syntax (一般句構造理論) : 動詞句 4. X-bar Syntax (一般句構造理論) : 名詞句 5. X-bar Syntax (一般句構造理論) : その他の句 6. 主要部による語彙選択 7. Midterm Activity 8. 主要部による語彙選択 9. 時制節の内部構造 10. 不定詞節の内部構造 11. 主語と助動詞の倒置 12. 本動詞・助動詞と時制辞の分布 13. 動詞句の省略 14. 他言語との比較 	
到達目標	英語のシンタクスに関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	返却された提出課題を復習し、配布プリントのデータを自分で分析する。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	Freiden, R. (2012) <i>Syntax: Basic Concepts and Applications</i> (CUP), 中村捷 (他) (1989)『生成文法の基礎』(研究社)など		
評価方法	Midterm Activity(30%)は履修者間で協力して取り組む。学期末試験(ノート持ち込み可)は評価全体の70%。授業での提出課題は評価対象としないが、講義を理解する上で非常に重要である。		

13年度以降	シンタクス b	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的や授業の進め方はシンタクスaと同様です。シンタクスaの既修もしくはそれと同程度の知識を持っていることを前提として授業を行います。</p> <p>扱うデータは主にthat節や不定詞節を含む英語の複文になります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. シンタクス a 学期末試験の解説など 2. 機能範疇と語彙範疇 3. persuade と expect の統語的差異 4. likely と eager の統語的差異 5. 不定詞補文一般について 6. 名詞句の分布と格理論 7. 名詞句移動: 受け身 8. 名詞句移動: 繰り上げ 9. Midterm Activity 10. himself などの再帰形と先行詞の構造的関係 11. each other などの再帰形と先行詞の構造的関係 12. 名詞句移動の局所性 13. he などの代名詞と先行詞との構造的関係 14. 日本語の再帰形 	
到達目標	英語のシンタクスに関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	返却された提出課題を復習し、配布プリントのデータを自分で分析する。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	Freiden, R. (2012) <i>Syntax: Basic Concepts and Applications</i> (CUP), 中村捷 (他) (1989)『生成文法の基礎』(研究社)など		
評価方法	Midterm Activity(30%)は、履修者間で協力して取り組む。学期末試験(ノート持ち込み可)は評価全体の70%。授業での提出課題は評価対象としないが、講義を理解する上で非常に重要である。		

13年度以降	意味論 a	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言語学・英語学における意味論の考え方を身につけることを目的とする。(個別の知識を蓄えることを目的とするものではない。)</p> <p>春学期は、下記テキストのはしがきから第8章の最後までを丁寧に読んでゆく予定である。日本語を母語とする者にとって、とりわけ理解しにくい英文法の諸領域が扱われている。(もくじに対応する右の授業計画から内容を推しはかることができるであろう。)</p> <p>模写・模刻・臨書に相当するような読みを通じて、著者の言語学の方法論を会得したい。</p> <p>暗記の対象としての英文法でなく、発見の対象としての英文法という考え方を身につけることにより、英語のみならず、日本語そのものについての理解も深められるであろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義方針等のガイダンス (出席は必須である) 2. 序説 3. 日英語の〈道具〉と〈位置〉の見立て 4. 英語は〈位置優位〉の言語 5. 空間認知と位置前置詞 6. 同位空間のat—理想的意味 7. 同位空間のat—拡張用法 8. 移動局面と達成局面 9. 日常活動の認知行動パターン 10. 同位空間のat—その他のめぼしい用法 11. in the streetとon the street 12. 〈道具〉はいつ主語になれるか 13. 自動詞+前置詞は他動詞か 14. 春学期のまとめ 	
到達目標	英語の意味論に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの予習に1時間以上、復習に1時間以上の授業時間外学修を必要とする。		
テキスト	中右 実 (2018)『英文法の心理』東京：開拓社。		
参考文献	中右 実 (1994)『認知意味論の原理』東京：大修館書店。		
評価方法	評価を受ける資格を有する者について、日本語による記述式の試験にて評価を行う。なお、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることはせず、特別の「救済措置」などは実施しない。		

13年度以降	意味論 b	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言語学・英語学における意味論の考え方を身につけることを目的とする。(個別の知識を蓄えることを目的とするものではない。)</p> <p>秋学期は、下記テキストの第9章から第17章の最後までを丁寧に読んでゆく予定である。日本語を母語とする者にとって、とりわけ理解しにくい英文法の諸領域が扱われている。(もくじに対応する右の授業計画から内容を推しはかることができるであろう。)</p> <p>模写・模刻・臨書に相当するような読みを通じて、著者の言語学の方法論を会得したい。</p> <p>暗記の対象としての英文法でなく、発見の対象としての英文法という考え方を身につけることにより、英語のみならず、日本語そのものについての理解も深められるであろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義方針等のガイダンス (出席は必須である) 2. 空間前置詞の時間用法 3. なぜin a carなのにon a busなのか 4. 軌道運行の乗り物 5. 自由走行の乗り物 6. 構文意識の揺れ 7. usingを用いる被験者の実態 8. on roller skates構文 9. 経験のcatch構文 10. 行為のcatch構文 11. hide構文 12. 二つのwipe構文 13. もうひとつのwipe構文 14. 秋学期のまとめ 	
到達目標	英語の意味論に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの予習に1時間以上、復習に1時間以上の授業時間外学修を必要とする。		
テキスト	中右 実 (2018)『英文法の心理』東京：開拓社。		
参考文献	中右 実 (1994)『認知意味論の原理』東京：大修館書店。		
評価方法	評価を受ける資格を有する者について、日本語による記述式の試験にて評価を行う。なお、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることはせず、特別の「救済措置」などは実施しない。		

16年度以降 15年度以前	言語・教育特殊講義 a 英語学特殊講義 a	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2019年1月17日現在Google翻訳で(1)を入力すると(2)が返ってきます。</p> <p>(1) John ate the meat on the plate. (2) ジョンは皿に肉を食べた。</p> <p>「皿に」は動詞にかかるのではなく名詞「肉」にかかるので、格助詞「に」を「の」に変えなければいけません。おそらく中学生でも(2)のような訳し間違いはしないと思いますが、Google翻訳は一向に直りません。英語をスペイン語、フランス語などに翻訳する際、この種の困難は生じません。単語の置き換えだけでほぼ正解の翻訳が得られます。しかし、Google翻訳が(1)の重要な構造、意味を理解していることにはなりません。</p> <p>この授業ではAIの言語理解にどのような困難があるかを取り上げ、将棋や囲碁とは次元が異なる人間の言語能力の本質について考察します。学期後半には講義内容に基づいてGoogle翻訳が得意な例文を考え、人間は何故訳し間違えないかを分析してレポートとして出してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 連用修飾と連体修飾 2. 英語の袋小路文 3. 日本語の袋小路文 4. 英語の多義文 5. 日本語の多義文 6. 局所的・全体的曖昧性 7. 意味(theta)役割による分析 8. 局所的曖昧性：目的語と主語 9. 局所的曖昧性：補文節と関係節 10. 局所的曖昧性：主節と従属節 11. 語彙的アスペクト：ヴェンドラーの述語の分類 12. 未完了パラドクス & レポート提出 13. フレーム問題 14. 全体のまとめ 	
到達目標	言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義内容を復習し、配布プリントのデータについて考察する		
テキスト	プリントを配布します		
参考文献	Pritchett, B.L. (1992) <i>Grammatical Competence and Parsing Performance</i> . U of Chicago Press 他		
評価方法	授業内クイズ 20%、レポート 20%、学期末試験 60%		

16年度以降 15年度以前	言語・教育特殊講義 a 英語学特殊講義 a	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>生成文法の枠組みに基づいて、自然言語の様々な統語現象に関する母語獲得研究を概観します。成人が持つ母語の知識と幼児の母語知識を比較することによって、普遍文法（ヒトに遺伝的に備わっている母語を獲得する能力）の性質の理解を目指します。また、言語学に関する細かい知識の習得よりも、論理的な議論の組み立て方の習得に重点を置きます。</p> <p>それぞれの統語現象に関して成人の母語知識を議論してから、幼児によるその知識の獲得研究を議論するというのが基本的な授業の進め方です。</p> <p>*生成文法統語論の基礎知識があれば、この授業の理解の助けになるため、未履修の場合は「シンタクスa, b」を並行履修することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 言語知識に関して 3. 言語獲得に関して 4. 文の階層性に関する言語知識 5. 階層性に関する獲得研究1：実験の概要 6. 階層性に関する獲得研究2：実験結果 7. 前半の復習 8. 階層性に関する獲得研究1：実験結果の検討 9. 階層性に関する獲得研究2：まとめ 10. 構造依存性に関する言語知識 11. 構造依存性に関する獲得研究1：実験の概要 12. 構造依存性に関する獲得研究2：実験結果 13. 構造依存性に関する獲得研究3：実験結果の検討 14. 後半のまとめ 	
到達目標	言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	復習課題に取り組み、授業内容の復習をすること。		
テキスト	ハンドアウトを毎回配布します。		
参考文献	杉崎鉦司『はじめての言語獲得』岩波書店		
評価方法	テスト 70% + 授業への参加度・貢献度 30%		

16年度以降 15年度以前	言語・教育特殊講義 b 英語学特殊講義 b	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的および講義概要は、同一講師の「言語・教育特殊講義 a」（春学期）を参照してください。</p> <p>*同一講師の「言語・教育特殊講義 a」（春学期）の内容を前提にしているため、連続して受講することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「なぜ/why」に関する言語知識 3. 「なぜ/why」の知識に関する獲得研究 4. パラメータに関して 5. 空主語パラメータ 6. 空主語パラメータに関する獲得研究 7. まとめ 8. 複合語形成に関する言語知識 9. 複合語形成パラメータ 10. 複合語形成パラメータの獲得研究 11. Wh-Copyingに関する言語知識 12. Wh-Copyingパラメータ 13. Wh-Copyingパラメータの獲得研究 14. まとめ 	
到達目標	言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）に関して専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	復習課題に取り組み、授業内容の復習をすること。		
テキスト	ハンドアウトを毎回配布します。		
参考文献	杉崎鉦司『はじめての言語獲得』岩波書店		
評価方法	テスト 70% + 授業への参加度・貢献度 30%		

16年度以降 15年度以前	言語・教育文献セミナーa 英語学文献セミナーa	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界には6000種類以上の言語があるとされています。それぞれの言語は一見すると全く異なっているように思えます。例えば、<i>He made the thing that one puts on one's body ugly for her</i>という長い英語の文を、モホーク語では<i>Washakotya'tawitsherahetkvhta'se'</i>のようにたった一語で表現します。これほど異なる言語が、ある共通のメカニズムに基づいて作られているとしたらどうでしょう。この仮説を極限まで追求したのが生成文法の「原理とパラメターアプローチ」です。この授業では原理とパラメターアプローチの入門書であるBaker (2001)を講読して、人間言語の普遍的特質と多様性について考えます。</p> <p>授業では、教科書の指定箇所を読んできたことを前提に、問題演習・グループディスカッション・グループプレゼンテーションに取り組みます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. The Code Talker Paradox (導入) 3. The Code Talker Paradox: 英語とナバホ語の違い 4. The Code Talker Paradox: 英語とナバホ語の類似性 5. The Code Talker Paradox (まとめ) 6. The Discovery of Atoms (導入) 7. The Discovery of Atoms: 含意的普遍性 8. The Discovery of Atoms: 空主語パラメター 9. The Discovery of Atoms (まとめ) 10. Samples Versus Recipes (導入) 11. Samples Versus Recipes: E言語とI言語 12. Samples Versus Recipes: 主要部パラメター 13. Samples Versus Recipes (まとめ) 14. 春学期のまとめ 	
到達目標	文献研究を通じて、言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）について専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週、教科書の指定箇所を読んで授業に臨み、授業後は復習課題に取り組む。		
テキスト	Baker, Mark (2001) <i>The atoms of language: The mind's hidden rules of grammar</i> . Basic Books.		
参考文献	なし		
評価方法	テスト 50% + 授業への参加度・貢献度 50%		

16年度以降 15年度以前	言語・教育文献セミナーb 英語学文献セミナーb	担当者	船越 健志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、Baker (2001)を講読します。秋学期は、モホーク語やエド語、ウェールズ語、チチェワ語、スワヒリ語などさらに多様な言語データを観察して、様々なパラメターを検討します。</p> <p>講義目的、講義概要は同一講師の「言語・教育文献セミナーa」(春学期)を参照してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Baking a Polysynthetic Language (導入) 3. Baking a Polysynthetic Language: 英語とモホーク語の違い 4. Baking a Polysynthetic Language: 多総合性と名詞編入 5. Baking a Polysynthetic Language: 多総合性パラメター 6. Alloys and Compounds (導入) 7. Alloys and Compounds: ウェールズ語の語順 8. Alloys and Compounds: 主語配置パラメターと動詞牽引パラメター 9. Alloys and Compounds: 連続動詞パラメター 10. Toward a Periodic Table of Languages (導入) 11. Toward a Periodic Table of Languages: パラメターの階層 12. Toward a Periodic Table of Languages: 対格言語と能格言語 13. Toward a Periodic Table of Languages (まとめ) 14. 秋学期のまとめ 	
到達目標	文献研究を通じて、言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）について専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週、教科書の指定箇所を読んで授業に臨み、授業後は復習課題に取り組む。		
テキスト	Baker, Mark (2001) <i>The atoms of language: The mind's hidden rules of grammar</i> . Basic Books.		
参考文献	なし		
評価方法	テスト 50% + 授業への参加度・貢献度 50%		

16年度以降 15年度以前	言語・教育文献セミナーa 英語学文献セミナーa	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、英語学という知的営みに参加できるようにすることである。先行研究の正確な理解に必要な読解の技術、単なる揚げ足取りでない問題点の見つけ方、有意義な問題設定の仕方、説得力のある議論の方法などを身につけることを目標とする。それと合わせて、英語そのものについての理解を深めることも目指したい。</p> <p>授業では、次の論文を一行一行丹念に読み進めてゆく。</p> <p>Kirsner, Robert S., Charles N. Li, and Sandra A. Thompson (1976) "The Role of Pragmatic Inference in Semantics: A Study of Sensory Verb Complements in English," <i>Glossa</i> 10.2: 200-240.</p> <p>履修登録者はあらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義方針等のガイダンス（出席は必須である） 2. 要旨 3. 導入 4. 補文のタイプ—単純形 5. 補文のタイプ—ing形 6. 補文のタイプ—that節 7. 文の主語と補文の主語 8. 知覚動詞文の含意 9. 完結性 10. 単純形とing形 11. 有界性 12. 知覚動詞の意味論 13. 動作主性 14. 春学期のまとめ 	
到達目標	文献研究を通じて、言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）について専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	使用テキストの予習に1時間以上、復習に1時間以上の授業時間外学修を必要とする。		
テキスト	配布資料による。		
参考文献	Quirk, Randolph et al. (1985) <i>A Comprehensive Grammar of the English Language</i> . London: Longman.		
評価方法	評価を受ける資格を有する者について、日本語による記述式の試験にて評価を行う。なお、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることはせず、特別の「救済措置」などは実施しない。		

16年度以降 15年度以前	言語・教育文献セミナーb 英語学文献セミナーb	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちが日常使用する言語は、単文だけでなく、複数の節からなら複文や重文があります。節の中に節が埋め込まれ、その繰り返しにより無限に異なる表現を作ることが出来るのは人間言語の本質です。様々な節の中で、主節というは特別な機能、性質を持っています。皆さんがよく知っている事実は、主語と助動詞の倒置です。主節の疑問文は倒置しますが、間接疑問節では少なくとも標準英語では倒置しません。この授業では英語・日本語などの節一般がどのような性質を持ち、主節が異なる振る舞いをするのは何故か、テキストの中の論文を読んで考察します。</p> <p>論文は履修者にレポートしてもらい、後半に講義を加えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要とレポーター決定 2. Augmented structure preservation and the Tensed-S constraint (Emonds): Introduction 3. Emonds: Left periphery 4. Emonds: Discourse shell 5. Emonds: Verb-second and topicalization 6. Root transformations & quantificational structure (Larson & Sawada): Introduction 7. Larson & Sawada: Asserted adverbial clauses 8. Larson & Sawada: Presupposed adverbial clause 9. Larson & Sawada: Semantic closure 10. Agreement that occur mainly in the main clause (Miyagawa): Introduction 11. Miyagawa: Allocutive agreement 12. Miyagawa: Ross's performative analysis 13. Miyagawa: Politeness marking 14. 全体のまとめ 	
到達目標	文献研究を通じて、言語学及び英語教育研究の特定分野（統語論、音声学、音韻論、意味論、コーパス言語学、第二言語獲得、教授法など）について専門知識を習得し、分析・論証できるようにする。		
事前・事後学修の内容	論文の指定部分を予習し、授業内容を復習する		
テキスト	Aelbrecht, L. et al. (eds) <i>Main Clause Phenomena</i> . John Benjamins.		
参考文献	Freiden, R. (2012) <i>Syntax: Basic Concepts and Applications</i> (CUP), 中村捷・他 (1989) 『生成文法の基礎』(研究社)		
評価方法	レポーター40%、学期末試験 60%		

交 流 文 化 論

13年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追従を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているLCC（低コスト航空会社）の拡大、多様化など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的な知識の習得を目的としている。</p> <p>講義概要： 本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。また、様々なビジネス理論の解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説を行う。タイミングが合えば、航空関係者を招聘し特別講演を実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 最近の航空産業の動きなど 3. 航空産業とキャリアデザイン 4. 航空とは何か 5. 航空の歴史 6. LCC（低コスト航空会社）が世界を変える 7. 航空事業の特性と運賃 8. 米国チャプター11（連邦破産法第11章） 9. JALの破綻と復活 10. 規制緩和とオープンスカイ政策 11. 航空機製造ビジネス 12. 三菱リージョナルジェット（MRJ）飛翔 13. 空港 14. 国際航空法 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習の実施。		
テキスト	教科書：『最新・航空事業論（第2版）』（2016年12月、日本評論社）		
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）		
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画 30%、最終試験 70%。		

13 年度以降	交流文化論（ツーリズム特殊講義 （紛争事例から学ぶ旅行契約法入門）	担当者	花本 広志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、旅行契約に関する具体的な紛争事例の解決策を検討することを通じて、旅行契約に関わる法（主に民法）のあり様と基本的な考え方を学びます。全部で3つの紛争事例を課題として取り上げる予定ですが、各事例の解決に向けて、グループで活動しながら、課題の解決に必要な知識や技能、態度を協調的・自立的に学習していきます。最後に総仕上げとして、口頭発表会を開催して、各自（履修者数によってはグループごと）の学習成果を発表したうえで、それをレポートにまとめて提出します。</p> <p>この授業を通じて、旅行契約において生じる法的問題のうち、少なくとも1つについて、法律学を学習したことのない人に対して、分かりやすく、自分の言葉で、簡潔に（口頭5分、文書2000字程度）、ただし法的思考の作法に従って解答することができるようになることを目指します（これがこの授業の獲得目標の一つになります）。</p> <p>具体的な授業の進め方や成績評価の方法などについては、第1回のオリエンテーションで詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第1回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. PBL ガイダンスと練習 3. IRAC エクササイズ 4. 第1事例（その1）：事例を検討して学習課題を抽出。 5. 第1事例（その2）：学習事項を共有したうえで、事例を再度検討し、追加の学習課題を抽出。 6. 第1事例（その3）：学習事項を共有したうえで、解決策を検討。教員による解説・解題。 7. 第2事例（その1）：第1事例（その1）に同じ。 8. 第2事例（その2）：第1事例（その2）に同じ。 9. 第2事例（その3）：第1事例（その3）に同じ。 10. 第3事例（その1）：第1事例（その1）に同じ。 11. 第3事例（その2）：第1事例（その2）に同じ。 12. 第3事例（その3）：第1事例（その3）に同じ。 13. 口頭発表会 14. 最終レポートのピア評価、授業全体のまとめと振り返り <p>*各事例の内容は、事例を検討する際の手がかりとなるので、授業当日までのお楽しみとします。</p>	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業3回に2回の割合で「予習メモ」、各事例の検討後は、グループでの検討結果をまとめたメモ（グループメモ）の提出を求めます。全事例の検討後は、受講者各自が授業全体を通じて学習した成果を口頭で発表のうえ、レポートにまとめて提出します。		
テキスト	学習に必要な文献や資料は、原則として受講者自身が協力し合って調査・収集するものとします。		
参考文献	必要に応じて適宜、授業中に紹介します		
評価方法	①正当な事由のない欠席2回以内、②正当な事由のあるものを含め欠席4回以内、③宿題提出率70%以上、④口頭発表を行い、最終レポートを提出していること、⑤最終レポートのピア評価70点以上、⑥ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の自己採点70点以上、のすべてを満たしていることを単位認定（C以上）の必要条件とします。その他、AA～Cの基準を含む成績評価方法について詳細は、第1回のオリエンテーションで説明します。		

13年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。</p> <p>本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方を理解する視点を身につけることを目標とする。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。</p> <p>講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点 3. ツーリズム商品の特徴②：イメージとパフォーマンス 4. パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 5. パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 6. パッケージツアー③：身体化される団体旅行 7. パッケージツアー④：商品企画における「知識の管理」 8. 空間の管理とテーマ化 9. テーマ化された空間とハイブリッド消費 10. 感情労働 11. 舞台としての観光地 12. 生活とツーリズム 13. スピリチュアリティの商品化は可能か 14. 「ツーリズムの終焉」とツーリズム産業 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加／講義内小課題 30% 期末試験 70%		

13 年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本の敗戦から70年以上が経ち、戦争について語られる機会も少なくなりました。この授業では、慰霊祭、メディアや学校、ミュージアムなどで、戦争がどのように表象されているかを調べ、記憶の継承や表象の可能性について、皆さんと議論していきます。</p> <p>1945年、秋田県の花岡鉱山（現・大館市）で、中国から強制連行されていた人たちが蜂起し、鎮圧されて400人以上が犠牲になりました。蜂起のあった6月30日（今年の日曜日）に、現地慰霊祭にあわせ課外授業をおこないます。片道料金で夜行バス10000円、新幹線17000円ですが、往復割引やより安い便などもあるので、各自で調べてください。</p> <p>やむを得ない事情で、大館・花岡での課外授業に参加できない受講生は、春の連休を利用して、『忘却された支配』で取り上げられている地方か、あるいは最低でも、靖国神社、女たちの戦争と平和資料館（wam）など都内周辺で各自フィールドワークをおこなうことが、単位取得の条件になります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. インTRODakション（3.1 事件 100 周年、平田オリザ『ソウル市民 1919』を観て考える） 2. 中国人強制連行の政策と思想 3. 花岡事件とは 4. 花岡事件と和解、記憶の継承 5. 強制を思い出す（宇部、北海道） 6. 骨と碑の戦後史（筑豊） 7. 追悼と謝罪の間（紀州） 8. 朝鮮人の特攻（万世・知覧） 9. 朝鮮ジェノサイド（四国） 10. 総督府官僚たち 11. 松代大本営（長野） 12. 沖縄（沖縄戦） 13. 沖縄（慰霊のかたち） 14. まとめのディスカッション 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストを必ず精読して予習し、背景となる歴史や社会状況についても調べ、問題点や質問事項を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、ポートフォリオ作成の準備をする。		
テキスト	杉原達『中国人強制連行』（岩波新書、2002）、伊藤智永『忘却された支配：日本のなかの植民地朝鮮』（岩波、2016）		
参考文献	NHK 取材班、『NHK スペシャル 幻の外務省報告書—中国人強制連行の記録』（NHK 出版、1994）ほか。		
評価方法	毎週の予習復習、課外授業の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（40%）、毎週のクラス・フェイスブックへの投稿（30%）、最終レポート（30%）。授業では毎週、積極的な発言が求められます。		

13 年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>開発とは何か。何のために、誰に対して開発支援をするのか。この問いについて、現代の地球社会を考える重要な視座であるグローバルとローカルなものとの対抗・交渉から考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、アジア、アフリカなどその他の国・地域の事例も交え、普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えます。とりわけ、構造的暴力に翻弄される存在（農民、先住民、マイノリティ）の対抗的开发として活発化する、ローカルな文化や環境を重視した現代の内発的發展を展望していきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 開発とは何か、貧困とは何か 教科書 1 章 2. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） 3. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 3 章 4. 教育・学び・文化 4 章、5 章 5. ジェンダーとフェミニズム 6 章 2（ビデオ『女の町ツチタン』） 6. 宗教と社会開発 NGO 7 章 2 7. ローカルメディアとアイデンティティ戦略 7 章 3 8. 開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 9. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 10. 新自由主義・構造調整と農民の自己防衛 8 章 2 11. 巨大開発計画と地域住民・NGO 8 章 3 12. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『S.サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』） 14. まとめ、試験対策 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読。		
テキスト	北野収『南部メキシコの内発的發展と NGO』勁草書房。※学内書店で各自購入してください。		
参考文献	北野収『国際協力の誕生 [改訂版]』創成社新書。		
評価方法	期末試験（60%）、学期中課題（ネパール村落開発、30%）、教室内ワークショップ貢献（10%）。		

13年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>食と農を題材にしたグローバリゼーション研究の授業です。食べ物は私達にもっとも身近で不可欠なものです。人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。このような現状を踏まえ、「食」を手がかりに、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 食の文化を見る眼：文化とは何か 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』 4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7. ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み 8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9. コーヒーのグローバルヒストリー 10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 11. シビック・アグリカルチャー 12. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消 13. ビデオ『未来の食卓』フランス映画（予定） 14. まとめと試験対策 ※ビデオ フランス映画『未来の食卓』 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。		
テキスト	特に定めない。		
参考文献	トーマス・ライソン『シビック・アグリカルチャー：食と農を地域にとりもどす』農林統計出版。		
評価方法	期末試験 80%、学期中レポート（シビック・アグリカルチャー） 20%		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル化と子ども））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界では約1億7000万人の子どもが児童労働に従事している。こうした子どもたちが抱える問題やその背景を理解すると同時に、グローバル化や私たちがどのようにかかわっているのかを理解する。また、問題を解決するために、国際機関やNGOの取り組みについて理解する。</p> <p>この授業を通じて、世界の子どもの問題について単に「かわいそう」というだけでなく、社会科学的に理解し説明できるようになります。また、「子どもの権利条約」を理解して、現状を分析し、解決方法について考えることができるようになります。また、国際社会の規範の変容における国連の役割、国家・社会の規範や政策の変容プロセスを理解し、説明することができるようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（概要と、予習・復習について） 2. アジアの児童労働 3. タイのストリート・チルドレン 4. 赤ちゃんの値段－国際養子縁組問題 5. ヒューマン・トラフィックの実態 6. ヒューマン・トラフィックの対応 7. 国際犯罪としてのヒューマン・トラフィック 8. 日本の子どもの貧困 9. 在日外国人の子どもの問題 10. アフリカの子ども兵士 11. イラク戦争と子どもたち 12. 国連の安全保障と子どもの保護 13. 子どもの権利の実現に向けての国連の役割 14. 今学期のまとめ（質疑応答など） 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと、授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組むこと。		
テキスト	テキスト 初瀬龍平・戸田真紀子・松田哲編『国際関係の中の子どもたち』（晃洋書房、2015年）		
参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	大福帳 15%、期末試験 85%		

13年度以降	交流文化論（フィールドワーク論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、東京の魅力やそれを支える文化的独自性について、実際に東京各所を歩き回ることを通じて考える実践的講義です。</p> <p>まず、文化人類学や社会学、地理学、歴史学、建築史など様々な視点から書かれた雑多な「東京論」を講義形式で紹介し、その上で、実際に東京各地を縦横無尽に歩きます。</p> <p>受講生には、担当教員が指定した6つのコースの中から1~2つ選択し、5月から6月の週末を使って、プチ・フィールドワークをしてもらいます（実費負担）。なお担当教員は、これらのプチ・フィールドワークにすべて同行し、基本的な解説を行いません。しかしただ解説を聞くのではなく、受講生自身が、想像力と五感をフルに使って東京の文化的独自性やその「味わい方」を発見することが求められます。</p> <p>街歩きにもとづく「発見」の成果については、学期末に班ごとに発表をし、レポートにまとめてもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明・グループ分け（1回） 2. 東京を「読む」ための方法論（講義） 3. コース解説1：山の手と下町（本郷・上野・浅草） 4. コース解説2：ウォーターフロント（深川、佃、月島） 5. コース解説3：「おばあちゃんの原宿」（巣鴨） 6. コース解説4：繁華街の過去・現在・未来（渋谷・原宿） 7. コース解説5：エスニック・タウン（新宿、新大久保） 8. コース解説6：ジブリ映画の舞台・ニュータウン（多摩） 9. 発表・議論1：山の手と下町（本郷・上野・浅草） 10. 発表・議論2：ウォーターフロント（深川、佃、月島） 11. 発表・議論3：「おばあちゃんの原宿」（巣鴨） 12. 発表・議論4：繁華街の過去・現在・未来（渋谷・原宿） 13. 発表・議論5：エスニック・タウン（新宿、新大久保） 14. 発表・議論6：ジブリ映画の舞台・ニュータウン（多摩） 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	雑誌『東京人』等、東京を紹介する各種メディアの記事などを参照すること。		
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	随時、プリントや文献リストを配布する。		
評価方法	平常点（30%）、プレゼンテーション（30%）、期末レポート（40%）。ただし、4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

13 年度以降	交流文化論（トランスナショナル・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。</p> <p>この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。</p> <p>メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：「トランスナショナル」と「メディア」とは？ 2. メディアの源流①：メディアとしての「本」 3. メディアの源流②：宗教戦争とナショナルな想像力 4. 近代とメディア①：オラリティとリテラシーの転換 5. 近代とメディア②：「個人」の誕生と「国家」の変容 6. 近代とメディア③：「新聞」以前・以後 7. 近代とメディア④：ニューヨーク・タイムズの時代 8. 近代日本のメディア：なぜ一万円札は福澤諭吉なのか？ 9. 20世紀とメディア①：広告、宣伝、プロパガンダ 10. 20世紀とメディア②：ヒッピーとニュー・ジャーナリズム 11. 20世紀とメディア③：“Media War”のリアリティ 12. 国際報道の現在形①：「ライブ」という問題 13. 国際報道の現在形②：ネット時代のメディア変容 14. まとめ：トランスナショナル・メディアとわたしたち 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト	各回講義で適宜提示します。		
参考文献	各回講義で適宜提示します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

13年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ツーリズムがそれを受け入れる社会にもたらす影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など多岐にわたっています。それゆえツーリズムを学術的に考察する際の方法論も多様です。</p> <p>本講義では、文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶことを目的としています。具体的には、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指します。同時に、ツーリズム研究に関連する現代人類学における主要な問題意識・諸概念についても理解を深めていきます。</p> <p>受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ありませんが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. 映画『海と大陸』 3. グローバル化の中の民族文化 4. マクドナルドの民族誌 5. 観光と異文化理解 6. 表象の政治学—情報資本主義と観光 7. メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史 8. 文化装置としてのホテル 9. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 10. ジェンダー論からみる客室乗務員の文化史 11. セックス・ツーリズム—タイの事例 12. エスニック・ツーリズム—タイの事例 13. 先住民文化の商品化と著作権—北欧サーミの事例 14. 「記憶の場」と観光—広島および西アフリカの事例 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』『観光人類学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
テキスト	特に定めない。		
参考文献	『観光学キーワード』（有斐閣）、『よくわかる観光社会学』（ミネルヴァ書房）、『観光人類学』（新曜社）		
評価方法	授業毎の小レポート（30%）、期末レポート（70%）。ただし、4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （東南アジアのナショナリズム、民主主義と平和））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2000年代に入り中国や東南アジアの成長はめざましい。中国はいまや世界第二位のGDPとなり、東アジアの平和のカギを握る存在となった。また、2015年に成立したASEAN共同体は6億人の巨大市場としても注目されている。また、インドもICT産業を牽引する国家である。みなさんは将来、出張先として、ビジネスパートナーとして中国、東南アジア、インドと向き合うことになる。したがって、この授業では、将来みなさんが向き合うことになるアジアの政治や社会—ナショナリズム、戦後の国民国家建設の歩み、そして紛争や平和の課題を理解し、日本との関係について、東南アジア地域研究の観点から考えることを目的とする。それはみなさんが将来、何らかの形でアジアと良い信頼関係を築き、東アジアの平和や安定を創り出す一端を担ってほしいからである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（予習・復習） 東南アジア地域の特徴 2. 近代以前の東南アジア 3. 帝国主義と植民地政策 4. 中国、ベトナム、インドのナショナリズム（民族運動） 5. 日本軍政と東南アジア 6. 冷戦と東南アジアの独立 7. 中国の文化大革命と改革開放 8. ベトナム戦争とアメリカ 9. ベトナム戦争とカンボジアのポルポト（大虐殺） 10. タイの国民国家—国王・軍・政治家・中間層 11. フィリピンの権威主義体制と民主化、NGO 12. インドネシアの権威主義体制とアジア通貨危機 13. マレーシア・シンガポールの国民統合と多文化主義 14. ASEANの地域統統合と今学期のまとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストを事前に熟読すること、復習については授業の最後で述べるポイントに従って、テキストを振り返ること。		
テキスト	中野亜里・遠藤聡ほか『入門 東南アジア現代史（改訂版）』福村出版、2016年。		
参考文献	授業で紹介します。		
評価方法	大福帳 15%、期末テスト 85%。		

13年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 2020年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントの歴史、現状などについて学習する。</p> <p>講義概要： オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議などについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか”などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. イベント・コンベンションの歴史 3. イベント・コンベンションの意義 4. 国際博覧会 5. 2020年東京オリンピック・パラリンピック 6. 障害者スポーツとパラリンピックについて 7. 国際会議・イベントについての「ディスカッション」 8. 古代オリンピック 9. オリンピック商業主義の歴史 10. 商業主義の発展 11. プレゼンテーション：「2020年オリパラの成功」グループA 12. プレゼンテーション：「2020年オリパラの成功」グループB 13. プレゼンテーション：「2020年オリパラの成功」グループC 14. プレゼンテーション：「2020年オリパラの成功」グループD 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞、関連文献などを事前に読むこと。配布した資料の復習。		
テキスト	適宜個別資料を配布する。		
参考文献	特に指定無し。		
評価方法	授業での発言、受講姿勢、講義参画 70%、プレゼンテーションとレポート 30%。		

13年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的としている。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、グローバル化が進展する今日その重要性がさらに高まっている。このような現状を踏まえながらマーケティングの視点も含め多様な視点からツーリズム政策を分析する。同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。</p> <p>講義概要： ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション等を通して受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ツーリズムの基本構造—定義など 3. ツーリズムの基本構造—経済の面からの分析 4. マーケティングとは何か？ 5. ツーリズム政策とマーケティング理論 6. ツーリズム政策の変遷 7. ツーリズム政策における我が国の課題 8. （ツーリズム政策に関する）ディスカッション 9. 世界のツーリズム政策（シンガポール） 10. 世界のツーリズム政策（北欧、ドイツ） 11. 世界のツーリズム政策（スイス） 12. 世界のツーリズム政策（フランス） 13. 日本各地のツーリズム政策（地域振興など） 14. ツーリズムとキャリアデザイン 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞などメディアを通して、ツーリズムに関する情報を事前に予習しておくこと。		
テキスト	適宜個別資料を配布する。		
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）		
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画 30%、最終試験 70%。		

13年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をともなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ考察する。おみやげという身近な存在を通じて、グローバルな人とモノの移動と文化をめぐる動態について考える視野を身につけることを目標とする。</p> <p>講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげもの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ツーリズムにおけるモノの文化的消費 3. おみやげとスーベニア 4. 観光みやげの近代 5. 「民芸品」をめぐるまなざし 6. 観光みやげと「ものがたり」 7. 観光みやげのギフト性 8. 観光みやげと真正性 9. 観光みやげの儀礼的倒錯性 10. こけしと木彫り熊 11. マトリョーシカのルーツ 12. マトリョーシカのルート 13. 民芸品としてのアジア雑貨 14. アジアン雑貨が創る旅 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加／講義内小課題 30% 期末試験 70%		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （移民・難民と日本社会））	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「日本は単一民族国家だ」という人がいますが、間違いです。どんな社会も例外なく多民族で構成されていますし、今後はもっと多民族・多文化・多言語化が進展するでしょう。この授業では、主に日本で、多様性が尊重され、誰もが暮らしやすい社会をどう作っていくか、受講生の皆さんと共に議論していきます。</p> <p>（テキスト）①西日本新聞社編『新 移民時代：外国人労働者と共に生きる社会へ』（明石書店、2017）②芹澤健介『コンビニ外国人』（新潮新書、2018）。その他、4月に改訂された「出入国管理および難民認定法」の問題など、新聞や雑誌の記事を使って幅広く考察していきます。毎回、授業への積極的参加が必須です。</p> <p>課外授業を数回予定しています。日程は初回授業で案内しますが、少なくとも2回の参加がないと単位が認定されません。</p> <p>評価では、レポートのほかに、毎週の授業について、何を調べ、何を考えたかを記録したポートフォリオの提出が大切になります。作成方法については授業中に説明します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 『新移民時代』出稼ぎ留学生 3. 『新移民時代』留学ビジネス（ネパールからの報告） 4. 『新移民時代』日本語学校の乱立 5. 『新移民時代』働けど実習生 6. 『新移民時代』変わる仕事場 7. 『新移民時代』交差する人々 8. 『新移民時代』ともに生きる 9. 『新移民時代』近未来を歩く 10. 『コンビニ外国人』彼らがそこで働く理由 11. 『コンビニ外国人』留学生と移民と難民 12. 『コンビニ外国人』技能実習生の光と影 13. 『コンビニ外国人』ジャパニーズ・ドリーム 14. まとめのディスカッション 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの予習復習、背景となる歴史や社会状況を調査、問題点や質問事項を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、ポートフォリオ作成の準備をする。課外授業への参加が必要。		
テキスト	『新 移民時代』『コンビニ外国人』とも売店（Duo）に発注済み。		
参考文献	プリント、ウェブ上の文献、図書館指定書の利用など、適宜紹介します。		
評価方法	毎週の予習復習および課外授業の成果を含めたポートフォリオを最終授業で提出（40%）、毎週のフェイスブックへの投稿（30%）、最終レポート（30%）*授業はディスカッション形式で、積極的な参加が求められます。		

13年度以降	交流文化論（地域開発論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地域や町が発展するということはどういうことでしょうか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、イベントにより集客を図り商店街を活性化させる等々いろいろな捉え方があります。本授業では、「地域づくり＝人々間のコミュニケーションの総和」として捉えます。草の根レベル、ミクロの視点から、地域づくりについて、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。行政と市民の協働、外部者（よそ者）の関わり方、地域リーダー／キーパーソン、住民の参加のあり方について、人々がコミュニケーションする場と空間という観点から考察していきます。取り上げる事例は、生ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、NYのドッグランと防犯、インドネシアでのNGO活動、ブラジルのスラム開発など多岐にわたります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の発展を理解するための視座（教科書1章） 2. 住民参加（participation）の意義と多義性（2章） 3. 生ごみリサイクルにみる町づくり制度構築：山形県（3章） 4. 地域づくり・環境教育におけるキーパーソン：兵庫県（4章） 5. つながりを育む仕組み（ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』） 6. 共益から公益の創出へ：NYと東京のドッグラン（10章） 7. スラムとコミュニティ開発：ブラジル（ビデオ） 8. 地域づくりと外部者のまなざし：島根県（7章） 9. 参加型開発：熊本の事例（教室内ワークショップ） 10. 開発とコミュニケーション：インドネシアNGO支援（11章） 11. 百年先を考えたまちづくり（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』『ドイツの持続可能な村づくり』） 12. アクセシブル観光・ユニバーサル交流：北海道、山梨、岩手等の事例（8章） 13. ソーシャルキャピタル・社会関係資本 14. まとめ、試験対策 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読。		
テキスト	北野収編『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※学内書店で各自購入のこと。		
参考文献	適宜、授業内で提示する。		
評価方法	期末試験（60%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（10%）。		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の<u>越境現象の実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」<u>概念の可能性を考える</u>こと、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った<u>複眼的な視点</u>から、文化・社会・政治における<u>諸現象を考えられるようになる</u>こと、の3点を目的とします。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 2. 社会学とは 3. 諸概念の概説：トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本帰帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12. 民際協力としての自治体国際協力 13. まとめと試験対策 14. 試験対策 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。		
テキスト	特に定めない。		
参考文献	定義、授業中に提示する。		
評価方法	期末試験 80%、学期中レポート（在日コリアン文献） 20%		

13年度以降	交流文化論（ツーリズム特殊講義 （ツーリズム地誌論））	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、野外民族博物館「リトルワールド」(愛知県犬山市)における1泊3日の研修旅行を通じて、世界各地の幅広い地誌学的・民族誌的知識を習得することを目指します。</p> <p>リトルワールドには、世界の30以上の地域・民族の家屋・生活道具が移築・復元されています。受講生は、複数のグループに分かれ、そのなかから1つの地域・民族を選び、それぞれの地域・民族の文化や習慣について、事前に文献資料収集を行ないます。その上で、研修旅行では各々が「ガイド」となって、各展示を案内してもらいます。さらに、これら一連の作業を踏まえた上で、期末レポートとしてミニ・エスノグラフィを作成します。</p> <p>本講義は、リトルワールドへの研修旅行を中心とした科目のため、研修旅行への参加が、履修の条件となります。研修旅行の日程は、12月中旬の週末を予定しています。詳細は、秋学期開始時まで教務課掲示板にてお知らせします。費用は、往路バス・復路新幹線利用、宿泊費込みで3万円程度です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明・グループ分け 2. 講義1：文化人類学の歴史 3. 講義2：民族誌展示の歴史 4. 映像資料：国立民族学博物館の取り組み 5. 発表・議論1：グループ1 6. 発表・議論2：グループ2 7. 発表・議論3：グループ3 8. 発表・議論4：グループ4 9. 発表・議論5：グループ5 10. 発表・議論6：グループ6 11. 発表・議論7：グループ7 12. 発表・議論8：グループ8 13. リトルワールド研修旅行総括 14. まとめ：他者を語ることの詩学と政治学 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	リトルワールドに展示されている諸地域・民族集団の民族誌を読むこと。		
テキスト	山下晋司・船曳建夫（編）『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣		
参考文献	随時、文献リストを配布する。		
評価方法	平常点（30%）、プレゼンテーション（30%）、期末レポート（40%）。ただし、4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

13年度以降	交流文化論（ツーリズム特殊講義 （交流文化の思想を読み解く））	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、交流文化の思想を理解するうえで役立つ「古典」の精読を通じて、3・4年次生の研究に資する高度な読解力と思考力を育てるための技法を学びます。</p> <p>「古典」は、授業や論文で言及されることが多い割に、学生が実際に読む機会は少ないと考えられます。しかし「古典」は「有名な学者が書いた本」ではなく、そこに時代の精神を捉える「問い」が活き活きと描かれているからこそ、多くの人々に読み継がれてきた良書であるといえます。そのため、筆者の「問い」を再現し、その思考を追体験することで、「古典」を精読する楽しみ（ワクワク感）を出席者とともに味わうことを目指します。</p> <p>この授業は「反転授業」の方法で行います。全員がテキストを精読して出席していることを前提に、教員やレジュメ担当者が一方的に話すのではなく、逆に出席者の「ここが読めなかった」「ここはこういう意味か」等の質問からスタートし、全員で討論して、「われわれの読解」を練り上げることを試みます。</p> <p>そのためこの授業は定員を30名に設定し、3・4年次での受講を推奨します。難解な文献を他の出席者と協力して積極的に読解し、その思想を深く理解する喜びを求める方の受講を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：読解の方法、各テキストの説明 2. ポストモダンとは何か：前半（J.F.リオタール） 3. ポストモダンとは何か：後半（J.F.リオタール） 4. 「社会」という思想：はじめに（見田宗介） 5. 「社会」という思想：第1章（見田宗介） 6. 「社会」という思想：第2章（見田宗介） 7. 「社会」という思想：第3章（見田宗介） 8. 「社会」という思想：第4章（見田宗介） 9. 「文化」という問題：前半（E. サイドほか） 10. 「文化」という問題：後半（E. サイドほか） 11. 「まなざし」と主体性：前半（M. フーコー） 12. 「まなざし」と主体性：後半（M. フーコー） 13. 「交流」は可能か（J. アーリほか） 14. 総括討論、まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストを毎回必ず複数回は精読して理解を深め、論点と疑問点を整理して授業に参加してください。また授業後に1回はテキストを読み返してください。		
テキスト	必要なテキスト（部分）を配布しますが、1～2冊の文庫・新書は購入してもらおう予定です。		
参考文献	各回講義で適宜提示します。		
評価方法	授業参加度 40%、発表 50%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル経済とジェンダー））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済のグローバル化が進展しているが、女性はどうのよ うな役割を果たし、影響を受けているのだろうか。それを知 るためには、現在経済成長が著しいアジアに着目するとよ いだろう。アジア開発銀行は『アジア2050ーアジアの世紀 の誕生』（2012）の中で、現在のアジアの成長が続けば、 その名目GDPは世界全体の50%を超えたとし、21世紀はま さしくアジアの世紀だと述べた。授業では、このアジア経 済の成長を牽引する中心に女性の労働があると位置づけ、 グローバル経済の実態ー古典的国際分業から今日のグロ ーバル経済を構成している3つの新国際分業を再解釈す る。</p> <p>日本女性の労働の問題もその観点から考える。女性の労 働の在り方を考えることは、男性の労働や家族との関係に についても考えるきっかけとなると考えている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスー授業の内容、進め方、予習復習について 2. 古典的国際分業とグローバル経済 3. 新植民地主義について『バナナの逆襲』から考える 4. 途上国はなぜ貧しいのかー従属論 5. 途上国はなぜ貧しいのかー世界システム論 6. でも、中国はなぜ成長したのかー新国際分業（1） 7. 『トゥルーコスト』から考える経済成長とジェンダー 8. 今日のグローバル経済（2）移住労働の女性化 9. フィリピン女性の移動と 家事・育児・介護 10. 香港で働くフィリピン女性とその家族 11. 資本主義の発展と再生産領域についてのまとめ 12. 今日のグローバル経済（3）サービス業の新国際分業 13. グローバル経済の結果としての、「グローバルシティ」 （N.Y、ロンドン、東京）の誕生と格差社会 14. 授業のまとめと質疑応答など 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後 学修の内容	授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組み、予習復習する。		
テキスト	授業でプリントを配布します。		
参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	大福帳 15%、期末テスト 85%。		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （「観る」ことの文化史））	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>旅するとき、人はなぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆にSNSへアップするためにフォトジェニックな場所へ旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています——いったい「撮る」という行為は、いかなる意味を持つのでしょうか？</p> <p>「じっさい、観光はたいていが、写真になりそうなところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アーリ&ラーソン、2011＝2014）。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なのが現状です。</p> <p>そのためこの講義では、(1) 海外の研究成果を日本の社会文脈に導入し、(2) 写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、(3) また「自撮り (Selfie)」や「絶景」や「SNSフォト」など最近のトランスナショナルな社会現象を考えること、を試みます。そうして「観る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探り、近代社会におけるイメージとイマジネーションの諸問題を考えることを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：「観る」ことと「まなざし」 2. 写真の歴史①：遠近法と写真術 3. 写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化 4. 写真の歴史③：写真が「写真」になるとき 5. 海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術 6. 海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」 7. 海外の「まなざし」③：天皇のイメージとイマジネーション 8. 「撮る」の政治学①：「動く画」の衝撃（映画の誕生） 9. 「撮る」の政治学②：映画が「映画」になるとき 10. 「撮る」の政治学③：ディズニー映画とdomestication 11. 「撮る」の政治学④：「まなざし」の政治と主体 12. 写真とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々 13. 写真とツーリズム②：「自撮り」とセルフ・ポートレイト 14. 写真とツーリズム③：SNS時代の「観る」体験 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト	各回講義で適宜提示します。		
参考文献	各回講義で適宜提示します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （パフォーマンス研究））	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、オリンピックに反対の立場から、オリンピックの開閉開式を分析する。</p> <p>20世紀に世界的なパフォーマンス・イベントに発展した近代オリンピックが、国民国家のイメージ戦略と密接な関係にあることは、メディアで毎日報道される国別のメダル獲得数や、表彰式で演奏・掲揚される国歌・国旗などに明らかである。</p> <p>近年、オリンピックはスペクタクル化の傾向を強め、特に開閉開式では、開催地国家の歴史や文化的な特徴を織り込んだパフォーマンスが人気になっている。しかし、オリンピックにおける国家とパフォーマンスの結びつきは、国家イデオロギーを聴衆に刷り込む危険性をはらむ。</p> <p>授業では主に1998年の長野大会、2012年のロンドン大会を分析し、2020年東京大会への準備を批判的に検証する。また、初回の授業ではヒトラーが主催した1936年ベルリン大会を紹介し、2000年シドニー大会、2008年北京大会の映像なども参照する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 1936ベルリン大会 2. 近代オリンピックの誕生 3. 近代オリンピックの歴史と理念 4. 1964東京大会 5. 1998長野大会 6. 1998長野大会 7. 2000シドニー大会 8. 2008北京大会 9. 2012ロンドン大会（開会式のパフォーマンス） 10. 2012ロンドン大会（パフォーマンスされる英国の歴史） 11. 2012ロンドン大会（オリンピックと都市） 12. 2020東京大会を批判する 13. オリンピックを批判する 14. まとめのディスカッション 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストを必ず精読して予習し、背景となる歴史や社会状況についても調べ、質問や自分の意見を整理して授業に臨むこと。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、レポート作成の準備をする。授業後は自分の意見をクラスのフェイスブック・グループに投稿し、レポート作成の準備をする。		
テキスト	ポータルサイトで配付、図書館指定書などを利用する。		
参考文献	ポータルサイトで配付、図書館指定書などを利用する。		
評価方法	授業での積極的な発言と毎週のクラス・フェイスブックへの投稿（50%）、中間レポート（20%）、最終レポート（30%）		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （シティズンシップ教育論））	担当者	花本 広志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>シティズンシップ教育とは、citizenship（市民性）、すなわち、市民社会の一員としての知識、技能、態度や価値観を育む教育のことです。「主権者教育」と呼ばれることもあります。もっとも、そもそも「市民性」とは何かについては議論のあるところですし、主権者教育と同じなのかについても議論があります。さらには、法教育との関係も問題となります。それらの点も含めて、この授業では、シティズンシップ教育とは何か、どうあるべきか、その教育方法などについて、協同学習の手法の1つである「LTD話し合い学習法」により学習していきます。そのうえで、最終的には、受講者が協同して、中学3年生～高校1年生程度向けのシティズンシップ教育用教材（2時限分）を作成することを目指します。</p> <p>第1回のオリエンテーションでは、授業の目的と概要、成績評価の方法などについて詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第1回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. グループ分け、LTDを支える教育理論と技法 3. 予習及びミーティングの解説と練習 4. LTDウォーミングアップ（練習用教材使用） 5. LTD（短縮型）：シティズンシップ教育論① 6. LTD（1）：シティズンシップ教育論② 7. LTD（2）：シティズンシップ教育の課題 8. LTD（3）：シティズンシップの授業 9. LTD（1）～（3）の振り返り 10. シティズンシップ教育用教材作成（その1）：授業計画の検討 11. シティズンシップ教育用教材作成（その2）：教材の検討 12. シティズンシップ教育用教材作成（その3）：模擬授業のリハーサルと最終調整 13. 教材発表会（受講者作成教材による模擬授業） 14. 授業全体のまとめと振り返り 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修では、LTDの方法に従って、教材となる文献につき予習ノートを作成します。事後学修では、授業でのLTDミーティングの結果を受けてノートを整理します。また、教材作成では、素材の選定や原案の作成、発表会の準備などを授業外で行うことがあります。		
テキスト	教材は、必要に応じてその都度配布します。		
参考文献	LTD話し合い学習法について予め知りたい人は、安永悟・須藤文『LTD話し合い学習法』（ナカニシヤ出版、2014年）を参照してください。		
評価方法	①正当な事由のない欠席2回以内、②正当な事由のあるものを含め欠席4回以内、③宿題提出率70%以上、④教材作成及び模擬授業の実施に平均以上の貢献をしていること、⑤ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）の自己採点70点以上、のすべてを満たしていることを単位認定（C以上）の必要条件とします。その他、AA～Cの基準を含む成績評価方法については詳細は、第1回のオリエンテーションで説明します。		

13年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など）、航空事業、クルーズ事業のビジネスの現状と課題について学習する。</p> <p>講義概要： 旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらにオンライン旅行市場について学習する。宿泊産業においては、ホテル、旅館のビジネスの概要及び課題、さらに将来について学習する。航空事業、及び大きく成長しているクルーズ事業においては、最近の動向を中心に学習する。最後の「プレゼンテーション」では、各産業への提案を各自パワーポイント使用によって行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 旅行産業-歴史と現状 3. オンライン旅行市場 4. 旅行産業-将来 5. ホテル、旅館等宿泊産業-歴史 6. ホテル、旅館等宿泊産業-現状、将来 7. ツーリズム産業におけるキャリアデザイン 8. ディスカッション（テーマ：各産業の課題等） 9. 航空事業の最近の動向 10. クルーズ事業の最近の動向 11. プレゼンテーション グループ A 12. プレゼンテーション グループ B 13. プレゼンテーション グループ C 14. プレゼンテーション グループ D 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞や関連文献から各産業の最近の動向を事前に調べておくこと。講義内容の復習。		
テキスト	適宜個別資料を配布する。		
参考文献	『急変する世界下のエンプロイアビリティ-豊富な事例から導くキャリア形成のヒント』（丸善プラネット）		
評価方法	受講姿勢、発言、講義参画 70%、プレゼンテーションとレポート 30%。		

13年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>オルタナティブ・ツーリズムとは、観光の大衆化（マス・ツーリズム）がもたらす様々な弊害（生活文化の形骸化や自然環境の破壊、新植民地主義等）を克服するために登場した新たな観光開発の理念です。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれた歴史的・社会的背景について概説します。その上で、エコツーリズムやコミュニティ・ベース・ツーリズム、場所性を取り入れたリゾートなど、オルタナティブな観光実践の諸事例を、文化人類学的・社会学的視点から検討し、その可能性について考えます。</p> <p>本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたいと思います。その際に扱う事例としては、東南アジアをはじめとする「第三世界」や、先住民族や少数民族などの「第四世界」的状況の事例が中心となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 趣旨説明 ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） 場所性の商品化—アマンリゾートの戦略 環境主義の商品化—エコリゾート 世界遺産と観光1—ラオス・ルアンパбанの事例 世界遺産と観光2—中国・麗江の事例 貧困の商品化—都市貧困とツーリズム バックパッカーの歴史と現状 先住民とアート—北米イヌイトの事例 先住民とミュージアム—アイヌの事例 エコツーリズムと先住民1—環境主義とは何か エコツーリズムと先住民2—持続可能な開発とは何か コミュニティ・ベース・ツーリズム—タイの事例 現代日本における農山村の再編と観光 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
テキスト	特に定めない。		
参考文献	『観光学キーワード』（有斐閣）、『よくわかる観光社会学』（ミネルヴァ書房）等。		
評価方法	授業毎の小レポート（30%）、期末レポート（70%）。ただし、4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

13年度以降	交流文化論（ツーリズム特殊講義 （ツーリズム・メディア論））	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光（ツーリズム）」という形での移動（モビリティ）を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。</p> <p>「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ（疑似イベント）には留まりません。ときに「観光まちづくり」や「観光くにつくり（観光立国）」のシンボルにもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的發展や地域再生などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を根本から造り替えたりすることがあります。</p> <p>ここでは担当者が研究しているグアム、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合（アーティキュレーション）から生じる「観光的現実」の特性とメカニズムを検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係 2. グアムから考える①：かつてグアムは日本の島だった 3. グアムから考える②：ツーリズムとメディアの「節合」 4. グアムから考える③：「日本人の楽園」が埋立てた記憶 5. 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする 6. ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック 7. ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化 8. ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者 9. 理論編②：真正性とアーティキュレーション 10. メディア・ツーリズム①：観光地とメディア 11. メディア・ツーリズム②：映画観光の特徴 12. メディア・ツーリズム③：「歴史」と「記憶」の観光資源化 13. 理論編③：複製技術時代の真正性と観光 14. 理論編④：メディア・ツーリズムのメカニズム 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト	各回講義で適宜提示します。		
参考文献	各回講義で適宜提示します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

外国語学部共通科目シラバス

13年度以降	総合講座	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>モビリティの世紀：文化、メディア、ツーリズム</p> <p>年間12億人もの人々が国境を超える今日、「移動」は重要なキーワードです。テレビや新聞では観光者をはじめ、移民や難民など、さまざまなツーリスト（移動者）たちのニュースを連日、目にします。そうしたヒトの移動に加え、モノや情報（コト）の移動を考慮すれば、21世紀は「移動（モビリティ）の世紀」といえます。</p> <p>この総合講座では、モビリティという切り口から、われわれの社会と文化の特徴を考えます。</p> <p>各回のテーマは21世紀の最新状況に限定せず、またモビリティと深い関わりをもつメディアや文化現象にも着目し、現代に至るまでの歴史や、さまざまな時代や地域の「モビリティ」を取り上げることで、多様な事例から「モビリティ」の世紀の課題と可能性を考えるための知見を学びます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 4/10 ガイダンス：モビリティとは何か？（山口誠） 4/17 モビリティが作り出す文化：タイ国プーケットを事例に（須永和博） 4/24 表象のモビリティ（柿田秀樹） 5/8 移動・観光からみる民俗芸能（鈴木涼太郎） 5/15 移民社会日本のチャレンジ（高橋雄一郎） 5/22 カレーのジャングルをめぐって（藤田朋久） 5/29 ことばの移動（田中善英） 6/5 留学しない留学：トランスナショナル教育の可能性と課題（工藤和宏） 6/12 18世紀のシェイクスピア・ツーリズム（前沢浩子） 6/19 アフリカにおけるヒトのモビリティ：ディアスポラの役割（佐野康子） 6/26 ドイツと移民：その歴史的展開（古田善文） 7/3 グローバル化・ツーリズムと異文化間コミュニケーション（マティアス・ピティヒ） 7/10 モビリティと環境（岡村りら） 7/17 まとめ（山口誠） 	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト	各回講義で適宜提示します。		
参考文献	各回講義で適宜提示します。		
評価方法	各講義後コメントペーパーを試験解答として提出するため、出席と講義の内容の復習が不可欠である。 75分の講義の後、担当の先生の各テーマについて15分ほどのテストを毎回行う。このテストをもとに成績を評価する。		

13年度以降	総合講座	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今期のテーマは「私たちの暮らしとジェンダー」とする。</p> <p>ジェンダーとは生物学的に分類された男性や女性ではなく、その国家や地域の歴史や社会、文化によって規定される「男らしさ」、「女らしさ」である（今日では生物学的に分類された男性・女性（セックス）もまた、文化によって構築されたという議論もあるが）。このジェンダー観やジェンダー規範は、政治や経済、そして私たちの暮らしにどのような影響を与えているのだろうか。今日ジェンダーに関する研究は、文学や社会学、人類学、政治学や経済学、国際関係論にまでおよんでいる。また、今年の#Me too運動のように、世界では様々なムーブメントも起こっている。そこで、本講義ではさまざまな分野の研究者だけでなく、国際協力の現場で活躍しているNGOスタッフからも引き、いろいろな角度からジェンダーについての講義を行うこととする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス 平成の日本経済、労働、結婚、家族の変容（堀芳枝） デートDVについて考えよう（狛潤一） 世界の難民問題とジェンダー（UNHCR協会・滝澤三郎） 東チモールのフェアトレードと女たち（NGO/野川未央） グローバルアジェンダとしての女性の権利の問題（水本義彦） ボーヴォワールの女性論 — 『第二の性』、サルトルとの関係から考える（根木昭英） 昔話とジェンダー（渡部重美） 妊娠中絶について考える：文学研究の立場から（片山亜紀） Family, Life, Work and Being a Woman: What Does It Take?（英語）（本橋エレン） ドイツ近代史とジェンダー（伊豆田俊輔） 19世紀フランスの女性像—経済史と美術史の観点から（廣田愛理・阿部明日香） ジェンダー福袋（上野直子） 男性ヌードの神話（青山愛香） 	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	配布プリントや授業内で紹介された参考文献をもとに、自分が関心をもった点について調べて理解を深める。		
テキスト	授業で指示します。		
参考文献	授業で指示します。		
評価方法	期末テストは行わず、毎回提出するコメントペーパー（1回10点）とし、最終的に14回分を100点に換算して評価することとする。		

13 年度以降	総合講座	担当者	永本 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の主な目的は、古代から中世までのキリスト教と社会の関係を概観することにあります。ユダヤ教の影響を受けて中東で生まれたキリスト教は、その後地中海地方全域へと広がっていきました。中世を通じてヨーロッパもまた、次第にキリスト教化されていきます。</p> <p>政教分離も信教の自由もまだ実現していなかった前近代社会において、宗教は、政治や文化など社会の全域に大きな影響を及ぼしていました。そのため、ヨーロッパの歴史、文化、社会を理解するためには、キリスト教に関する知識が必要不可欠だと言えるでしょう。</p> <p>本講義では、キリスト教が、いかに生まれ、広がり、変質し、地中海世界、そしてヨーロッパの社会を大きく変えていったかを学んでいきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. キリスト教とはどのような宗教か？ 3. ユダヤ教 4. 史的イエス 5. 使徒たちの宣教 6. 聖書 7. キリスト教の広がり 8. 古代末期のキリスト教と社会 9. 初期中世の教会と国家 10. カトリックと正教会の分裂 11. 修道院 12. 教会改革 13. 教会と生活 14. 中世のまとめ 	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	参考文献の該当箇所を事前に精読しておいてください。また、授業中に配付するプリントを用いて、復習を行ってください。凡そ4時間分の学修時間になります。		
テキスト	テキストは使用せず。		
参考文献	松本宣郎編『キリスト教の歴史1 初期キリスト教～宗教改革』山川出版社、2009年		
評価方法	定期試験 100%		

13 年度以降	総合講座	担当者	有信 真美菜
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ヨーロッパ」はどのようにして形成されたか</p> <p>現在のヨーロッパにあるもの（大学、言語、「ヨーロッパらしい」町並み、今のヨーロッパ諸国）の多くが、おそらく多くの人が学ぶ機会がなかった中世に作られています。この講義では、一般に「ヨーロッパ的なもの」として知られているものが、いつどのようにして出来たのかを、歴史をたどってテーマごとに話していきます。「歴史」と聞くと、中学・高校の退屈な歴史の授業を思い出すかもしれませんが、外国に旅行に行った際、ガイドブックに書いてあるその町や古い建物の歴史は興味を持って楽しく読むと思います。そのような話をする予定です。ここでは、簡単に読める概説書を参考文献で挙げておきます。各テーマに関する文献は、授業時に提示します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. EU以前のヨーロッパ「統合」—ヨーロッパ前史— 3. ヨーロッパ史のイメージ—ファッションの変遷— 4. ヨーロッパの街並みはいつできたのか 5. 流行先進国はどこか 6. 昔の題材にのっとって—ヴァーグナーのオペラー 7. 歴史と文学 8. どこで何語が話されたか1（古代～中近世） 9. どこで何語が話されたか2（近世～現代） 10. 中世の残滓—ギリシャ語とラテン語— 11. 食文化とテーブルマナー 12. 海外で働く—ハンザ都市と貿易— 13. まとめ 14. 質疑、授業内試験 	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の内容を復習し、必要に応じて参考文献を読んで下さい。		
テキスト	プリントを配布します。		
参考文献	服部良久（他）編『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』（ミネルヴァ書房、2006年）		
評価方法	授業内試験 70%、授業への参加 30%（最低3分の2以上要出席）		

13年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と目標、情報のデジタル化 2. オペレーティングシステムとは 3. データ構造入門 4. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 5. プログラミング言語入門 6. コンピュータ・ハードウェア 7. 言葉と言語処理の仕組み 8. 言語処理のための構文解析と言語資源 9. 言葉の意味解析と知識表現 10. 情報検索における言語処理 11. 質問応答システムと対話システム 12. 機械翻訳の原理 13. 講義のまとめ（前半部分の復習） 14. 講義のまとめ（後半部分の復習と演習課題の提出） 	
到達目標	コンピュータの基礎理論およびコンピュータ言語に関する知識を習得し、コンピュータの基本的操作ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	サーバー上に開示するテキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出します。		
テキスト	使用しません。		
参考文献	随時紹介します。		
評価方法	定期試験の成績 60%、課題の完成度 30%、授業への参加度 10%を併せて評価します。		

13年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [総合]	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	課題等の平常点：100%		

13年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [総合]	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	課題等の平常点：100%		

13年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [英語]	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	題等の平常点：100%		

13年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [英語]	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	課題等の平常点：100%		

13 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	課題等の平常点：100%		

13 年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用] 科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word：簡単な書式設定など 4. Word：応用的な書式設定など 5. Word：レイアウト関係の設定など 6. インターネットの活用法：情報検索方法など 7. インターネットの活用法：ネットのマナーなど 8. Excel：基本操作など 9. Excel：簡単な作表など 10. Excel：複雑な作表、計算など 11. PowerPoint：基本操作など 12. PowerPoint：資料の作成など 13. PowerPoint：発表 14. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	課題等の平常点：100%		

13年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数とは 6. 基本的な関数 7. 応用的な関数 8. マクロの基礎 9. マクロの利用 10. プレゼンテーション実習 (1) -作成 11. プレゼンテーション実習 (1) -発表 12. プレゼンテーション実習 (2) -作成 13. プレゼンテーション実習 (2) -発表 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	課題等の平常点：100%		

13年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数とは 6. 基本的な関数 7. 応用的な関数 8. マクロの基礎 9. マクロの利用 10. プレゼンテーション実習 (1) -作成 11. プレゼンテーション実習 (1) -発表 12. プレゼンテーション実習 (2) -作成 13. プレゼンテーション実習 (2) -発表 14. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	課題等の平常点：100%		

13年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際の発表（質疑応答も含む）を通じて、「わかりやすいプレゼンテーションとは何か」を考えていく半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>なお、課題（演習）が締め切り日までに提出されなかったり、また提出はあっても、発表の準備をしていない場合は、実際の発表ができません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、基本知識と操作の確認 2. プレゼンテーションとは 3. スライドの作成法－入力 4. スライドの作成法－実行、印刷 5. 演習 1：時間の意識 6. 発表－第 1 グループ 7. 発表－第 2 グループ 8. 演習 2：配布資料の利用 9. 発表－第 1 グループ 10. 発表－第 2 グループ 11. 演習 3：「言葉」の定義 12. 発表－第 1 グループ 13. 発表－第 2 グループ 14. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備（予習）等を行うこと。		
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。		
参考文献	随時紹介。		
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 演習（作成・発表・振り返り）90%、平常点（練習問題等）10%。		

13年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組など設定方法 3. 段落、段組、その他書式設定 4. アウトラインに沿った編集方法 5. アウトラインに沿った編集の実践 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用方法 9. 図形の利用の実践 10. 図形の利用および組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との基本的な連携 13. Excel との応用的な連携 14. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	課題等の平常点：100%		

13年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組など設定方法 3. 段落、段組、その他書式設定 4. アウトラインに沿った編集方法 5. アウトラインに沿った編集の実践 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用方法 9. 図形の利用の実践 10. 図形の利用および組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との基本的な連携 13. Excel との応用的な連携 14. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト	適宜指示する。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	課題等の平常点：100%		

13年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Office（Word、Excel、PowerPoint）の実践的・統合的な使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とする授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word オブジェクトを使った文書の作成 3. Word アウトラインを使った文書の作成 4. Word 長文の作成 (Word習熟度の確認) 5. Excel 相対・絶対参照での計算式 6. Excel シート間の作業。グラフの編集 7. Excel 基本関数の利用 8. Excel 応用関数の利用 9. Excel 関数・グラフの習熟度の確認 10. WordとExcel 統合的な使い方 11. PowerPoint 目的に合わせた表現方法 12. PowerPoint テーマに沿ったプレゼン作成 13. PowerPoint プレゼンの発表 14. まとめ Word、Excelの習熟度の復習 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の内容に合わせた事前・事後学修を指示する。欠席した学生も必ず提出すること。		
テキスト	「情報活用とアカデミック・スキル Office2016」 共立出版		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	3分の2以上の出席をした学生を対象に以下に従い評価を行う。 WordおよびExcelの習熟度、プレゼン発表 50%、授業内課題 20%、事前・事後課題 30%		

13年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級) (月 5)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際のWebページの作成を通じて、Webページの仕組みとインターネットにおける情報の発信、著作権等について学んでいく半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとネットワークの基本構成、ファイル・フォルダ・ドライブといったコンピュータに関する基本知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである「WWW (World Wide Web)」における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML (Hyper-Text Markup Language)」を学ぶ。更に自分自身のWebページ (ホームページ) も作成する。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>コンピュータの言語 (Language) を習得するには、外国語を習得するのと同様に、「繰り返し (復習)」が極めて重要です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、基本知識と操作の確認 2. Webページとは、情報倫理、著作権 3. 文字中心のページ、リンク 4. 画像 5. 表 6. FTP 7. 課題－表紙 (目次) 8. 課題－枠組み (リンク) 9. 小鑑賞会、企画書の作成 10. CSS 11. 総合課題－表紙 (目次) 12. 総合課題－枠組み (リンク) 13. 作品紹介のプレゼンテーション 14. 鑑賞会・まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備 (予習) 等を行うこと。		
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。		
参考文献	随時紹介。		
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題 (作品) 40%、平常点 (課題、著作権のレポート等) 60%。		

13 年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級) (木 4)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、実際のWebページの作成を通じて、Webページの仕組みとインターネットにおける情報の発信、著作権等について学んでいく半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとネットワークの基本構成、ファイル・フォルダ・ドライブといったコンピュータに関する基本知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである「WWW (World Wide Web)」における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML (Hyper-Text Markup Language)」を学ぶ。更に自分自身のWebページ (ホームページ) も作成する。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>コンピュータの言語 (Language) を習得するには、外国語を習得するのと同様に、「繰り返し (復習)」が極めて重要です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、基本知識と操作の確認 2. Webページとは、情報倫理、著作権 3. 文字中心のページ、リンク 4. 画像 5. 表 6. FTP 7. 課題－表紙 (目次) 8. 課題－枠組み (リンク) 9. 小鑑賞会、企画書の作成 10. CSS 11. 総合課題－表紙 (目次) 12. 総合課題－枠組み (リンク) 13. 作品紹介のプレゼンテーション 14. 鑑賞会・まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備 (予習) 等を行うこと。		
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。		
参考文献	随時紹介。		
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題 (作品) 40%、平常点 (課題、著作権のレポート等) 60%。		

13 年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、「情報科学各論 (HTML初級)」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「HTMLを用いたWebページ作成技術を習得した人 (FTPの理解を含む) を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページの作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>まず、コンピュータとネットワーク (インターネット) の基礎知識の確認、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意：授業内容や評価方法等を詳しく説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。原則として、HTML初級を履修済みであること。プログラミングの授業なので、特に欠席や遅刻はしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>抽象度が高いので、準備と復習をしっかりと行い、こまめにメモを取ることが必須です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. HTMLとFTPの復習 3. インタラクティブなページとは 4. プログラミングの基礎知識 5. JavaScript－順次 6. JavaScript－選択 7. JavaScript－繰り返し 8. JavaScript－イベントハンドラ 9. JavaScript－画像の切り替え 10. CGIの利用 11. 総合課題－表紙 (目次) 12. 総合課題－枠組み (リンク) 13. 総合課題－JSの活用 14. 鑑賞会・まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備 (予習) 等を行うこと。		
テキスト	授業用 Web にて情報の提示や資料等を配布。		
参考文献	随時紹介。		
評価方法	原則として、欠席数が規定回数以内であること。 総合課題 (作品) 70%、平常点 (課題等) 30%。		

シラバス 英語学科

2019年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	